

【人絹人機事業】

### 旭ベンベルグ絹絲株式會社

(本社) 大阪市北區宗是町一(電土佐堀 四三三三)

【上期成績】當社の去る四月末決算は前期に比し稍々低下した。即ち利益金は三百六十一萬四千圓で拂込資本に對する利益率は一割九分五厘となり、前期に比較すると利益金は三十九萬九千圓少なく、利益率は二分二厘の低下に當る。然し配當は一割を据置きとした。

【製品内容】當社はベンベルグ絹絲、人絹、人織との製造に要する諸藥品の製造を行つてをり、猶ほ藥品の一部を利用して『旭味』を造つてゐる。ベンベルグ、人絹及人織は共にかんりの操短を行つてゐるので藥品は相當額を外部に販賣してゐる。藥品の値上りは相當なものだからこの利益は仲々馬鹿にならぬやうだ。

【成績向上】當社の成績も人絹界の好轉によつて先行き好調に轉ずるものと期待される。殊にベンベルグ絹絲は最近著しく高級化されてゐるのでこの利益の増加が輕視出来ない。人絹と共に輸出値段の昂騰を全面的に受入れる筋合にある。但し爲替關係で米國より輸入してゐるリンターの値上りがあるから相場が騰つただけ丸々利益とはならない。が、何れにしても今年下期から利益が増加に轉ずることは疑ふ餘地がない。當社の一割配當は今年上期に於て著しく餘裕をなくしたが、今年下期から再び餘裕を取り戻すべく期待されることは心強い限りである。

|         |                                                                                                                |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】    | 大正十一年五月                                                                                                        |
| 【決算期】   | 四月、十月                                                                                                          |
| 【事業】    | ワイヤーストラスベンベルグ人絹                                                                                                |
| 【資本金】   | 公稱10,000,000 拂込10,000,000                                                                                      |
| 【株数】    | 新(50,000) 舊(25,000)                                                                                            |
| 【重役】    | 社長 野口達也 常務 堀内近太郎 取締役 柳屋佐祐 飯島山雄 立川正三 金田榮太郎 池松信夫 北村忠義 内海保三 本島ナタルド・モリアウ・クルト・フロワイン 監査 堀野次郎 藤生傳 水里高 雄 コントラクト・ヘルマン   |
| 【株主数】   | 土庫上 五五下 五五上 一〇〇〇                                                                                               |
| 【大株主】   | 日本興業(七七・三三) アルゲマ(一三・三三) クラウス(一三・三三) ユニオン(一三・三三) 野口達也(一三・三三) ゼー・ビー・ヘルマン(一三・三三) イングスター(一三・三三) イー・デー・ワアルマン(一三・三三) |
| 【工場所在地】 | 大津工場 滋賀縣大津市 延岡工場 宮崎縣延岡市                                                                                        |
| 【生産能力】  | レーヨン(日産) 一〇〇〇 絹(日産) 一〇〇〇 無水アンモニア(日産) 一〇〇〇 合成硝子(日産) 一〇〇〇 苛性苛性(日産) 一〇〇〇 合成硝子(日産) 一〇〇〇                            |
| 【生産高】   | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                                                                                               |
| 【投資会社】  | 旭染工、旭絹織                                                                                                        |
| 【資本異動】  | 十年九月二二回五拂込徴収                                                                                                   |

|         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| 【資産負債】  | 十二月 十二月 十二月                      |
| 株主資本    | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 積立金     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 外部負債    | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 借入金     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 使用總資本   | 12,000,000 12,000,000 12,000,000 |
| 固定資産    | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 流動資産    | 2,000,000 2,000,000 2,000,000    |
| 現金預金    | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 【收支積定】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【業績】    | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【株主資本】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【外部負債】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【借入金】   | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【使用總資本】 | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【固定資産】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【流動資産】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【現金預金】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【名義書換】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |

【人絹人機事業】

### 東京人造絹糸株式會社

(本社) 東京市日本橋區大傳馬町二ノ一(傳馬ビル内) (電話花 一五一一) (出張所) 大阪市東區備後町二ノ五六第六野村ビル (電本町 五〇〇)

【大戦の影響】當社はもと人絹一本格で經營を進めて來たのであつたが、日支事變に依るス・フ工業の勃興に刺戟されてス・フ部門をも兼營するに至つた。然し技術は不味く、従つて製品もレヴェル以下であつた。おまけに高度の減産を餘儀なくされたので、利益は少く最近の決算は極めて苦しいものであつた。此の苦難の打解策として當社は人絹輸出に大いに努力することゝなつた。既に本年上期の如きは全生産の三分の一に當る輸出をなしたのである。歐洲大戦勃發と共に世界人絹市場は需給状態に一變を來し市況は強調を呈してゐる。最近の海外からの注文は著しい高値となつて來た。輸出に努力しつゝあつた當社は此所で俄然大いに恵まれることゝなつたのである。

【今期業績】今期は六、七、八の三ヶ月は思はしくなかつた。輸出からは黒字は期待出來ぬ状態にあつた。ところが、後半の九、十、十一の三ヶ月は相當輸出から利益が出る。ス・フ輸出がどの位伸びるかには疑問であるが、人絹の輸出採算好化だけでも大したものだ。恐らく百五十萬圓程度の利益は充分期待出來よう。

【來期以降】來期には安値注文は一掃され好採算のものばかりとなるから、相當の増益が期待される。戦争が長く續けば増配必至。

|        |                                                                                                                                    |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 大正十五年四月                                                                                                                            |
| 【決算期】  | 五月、十一月                                                                                                                             |
| 【事業】   | 人造絹糸及絹織加工品の製造販賣                                                                                                                    |
| 【資本金】  | 公稱10,000,000 拂込10,000,000                                                                                                          |
| 【株数】   | 新(50,000) 舊(25,000)                                                                                                                |
| 【重役】   | 社長 町田徳之助 常務 下郷定彦 取締役 町田徳之助 小島喜六 大川龍平 伊藤竹之助 小西喜兵衛 相模 市橋保治郎 田中 榎川 今村 博平                                                              |
| 【株主数】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                                                                                                                   |
| 【大株主】  | 仁徳商會(二二・〇〇) 小島喜六(一三・三三) 町田徳之助(一三・三三) 鈴木藤三郎(一三・三三) 町田銀行(一三・三三) 町田商店(一三・三三)                                                          |
| 【工場】   | 吉原工場(東京市吉原町) 敷地(八千坪) 日産能力(人絹) 三五五(フ) 四五五(ス) 沼津工場(静岡市沼津区) 敷地(六千坪) 日産能力(人絹) 三五五(フ) 四五五(ス) 原工場(東京市原町) 敷地(一〇千坪) 日産能力(人絹) 三五五(フ) 四五五(ス) |
| 【生産高】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                                                                                                                   |
| 【資本異動】 | 十年十二月九日五拂込徴収、十五年五月三十一日五拂込徴収、十四年四月三十一日三回五拂込徴収、十四年四月三十一日三回五拂込徴収                                                                      |

|         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| 【資産負債】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 株主資本    | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 積立金     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 外部負債    | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 借入金     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 使用總資本   | 12,000,000 12,000,000 12,000,000 |
| 固定資産    | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 流動資産    | 2,000,000 2,000,000 2,000,000    |
| 現金預金    | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 【收支積定】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【業績】    | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【株主資本】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【外部負債】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【借入金】   | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【使用總資本】 | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【固定資産】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【流動資産】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【現金預金】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |
| 【名義書換】  | 五五上 五五下 五五上 一〇〇〇                 |

〔人絹人機事業〕

太陽レーヨン株式会社

(本社) 大阪市東區南久太郎町二ノ三阿部市ビル(電話場二七一一)

【重役陣強化】當社の欠點は重役陣に會社經營に手腕のある者がな... 周知の如く當社は所謂『船場商人』達が協力して設立した會社であるが、その經營振りは『商業人』的であり『工業家』的經營とは凡そ縁遠い状態であつた。そこで今回前日本毛織の塚脇常務を當社の常務重役として迎へ入れ、従来の經營方法を根本的に變革することになつた。

【當面の改革】塚脇常務の入社によつて經營方針がどう變るか、今後に待たなければならぬが、少くとも當面可及的改革を要する問題は、資本効率の向上と休眠資本の活動化である。當社は尙大な設備を持つてゐるが、その運用は極めて悪い。それと言ふのも工場が比較的速く完成した爲めである。運用率を向上させるのは統制外の製品を増産することである。之に力を注ぐことにならう。

【前途】當社はス・フ設備の方が非常に多く人絹は僅か日産十萬程度に過ぎない。従つて人絹界好轉によつて當社が利益する所は極めて僅少と云はざるをえない。殊に輸出品が少ないから猶更だ。尤もス・フ製品も輸出値段は昂騰しつゝあるからこれの値上り益が見込める譯だ。それにしても餘り期待は持たれない。が八分配當は漸次餘裕を加へる筋合にあることだけは確だ。

Table with columns for establishment date (昭和九年九月), capital (公稱100,000), shares, directors (田村治太郎, 伊藤義一, etc.), and company details like factory location and equipment.

Table of financial data for 1933, 1934, and 1935, including share value, assets, and income.

〔人絹人機事業〕

第二帝國人絹株式会社

(本社) 大阪市北區中之島二ノ五江蘇ビル内(電北濱三六一九)

【成績良好】當社の成績は既設大會社に比し何等見劣りしない。操業第二年度に早くも一割配當を断行し、次で第五期目の十二年上期から一割二分配當をつけ今日に及んでゐる。拂込資本に對する利益率をみるとずつと三割臺を維持してゐる。一割二分配當は極めて餘裕含みであることが判る。

【内容充實】創立後四ヶ年半を經過したが、内容の充實振りは素晴らしいものがある。例へば四月末の固定資産評價をみると一鎌當りが僅か三百圓餘りに過ぎない。人絹工場の建設費は當分少なくとも一鎌當り千圓はかかる。即ち三分の一の評価に切下げられてゐる。而も借金は一文もなく使用資本は株金と積立金で賄はれてゐる。かゝる充實せる内容を持つてゐる當社のことだから不況期に於いてもピクともせず裕々一割二分配當が續けられるのだ。

【前途好轉】人絹界の好況に惠れて當社の成績は早くも今期邊りから好轉する筋合となつた。輸出向の値上りと輸出増進によつて利益の増加が必至の情勢となつたからである。明年上期に至つて一段と好調を呈するだらう。然し配當は以上増せないから餘力はあげて内部に保留されることにならう。とすれば内容は更に一段と充實し愈々現行配當力は強化されるばかりである。

Table with columns for establishment date (昭和九年九月), capital (公稱100,000), shares, directors (清水三郎, 西園寺, etc.), and company details like factory location and equipment.

Table of financial data for 1933, 1934, and 1935, including share value, assets, and income.

【人絹人絹事業】

### 日東紡績株式會社

(本社) 福島縣郡山市麓山町(電部山七七一)  
(營業所) 東京市京橋區京橋片倉ビル内(電京橋三三)

【本業好調】九月末を以て締切る下期の業績は良好の様相だ。従つて一割二分の現行配當措置には勿論問題はない。當社に對する興味は、配當据置可能と言つにやうな消極的なものではない。歐洲大戰勃發に依つて輸出が著しく好調となる上に、ロツク・ウールの本格的生産化と蒙羅興業創立に依る發展性の飛躍的増大にある。

【ロツク・ウール】ロツク・ウール工場の建設は着々進められてゐる。既に日産三十題の福島縣富久山工場は完成し東京工場も近く五十題の能力を完成する。大阪工場も年末までには完成する筈である。斯くて當社のロツク・ウール生産能力は百題を數へることになる。十月一日から始まる今期にはこれ等が相當寄與することになる。石綿の代用として相當大きい需要があり、五十萬圓程度の利益は此所から出る筈だ。將來フル運轉を行ひ得るやうになれば八、九萬圓から、百萬圓近くの利益が此所から出て來よう。

【蒙羅興業創立】當社の蒙羅進出は具體化し、去る七月二十二日蒙羅興業を創立した。資本金は五百萬圓で、當社は三百萬圓を出資し、蒙羅聯合委員會及び蒙羅が残り二百萬圓を折半して出資した。機械、器具の製造、修理、採掘、金融等を行ふ。創立第一期から六分配當をつける筈。將來の發展が大いに期待される。

【人絹人絹事業】

### 新興人絹株式會社

(本社) 大阪市東區今橋四丁目一三番信託ビル(電北濱 三六六)

【事業内容】當社の社名をみると人絹會社の如く考へられるが、事業内容をみるとス・フ専門會社である。人絹設備は全然ないのだ。ス・フ生産設備は日産能力で五十三題あり、他にス・フ紡績設備として精紡機を五萬八千錠持つてゐる。ス・フ工場は大竹であり紡績工場は岐阜となつてゐる。

【内容】歴史の點からみると内容は整つてゐる方だ。上期末の固定資産は適當り十八萬圓となつてゐる。時價に比較して五、六十萬圓方低廉である。建設資材の昂貴前に手當したこと、償却に力を入れて來た結果である。借金は約六百六十萬圓あり、拂込資本金に對し六割六分に當る。借金を極度に利用してゐることが判る。

【前途】業績は仲々好調で十三年下期に二分増の一割を行つたが、今年上期は九分に改めた。之は成績如何によるものでなく、配當制限令の爲めである。下期は恐らく一割に復するだらう。その先の見透しは手放しに樂觀出來ないが、輸出向が値上りすればそれだけ利益が殖えるから成績は未だ伸びるだらう。殊に當社の原價はかなり安く、ス・フ絲の利益は仲々よいやうだ。當社は輸出向の増産によつて全體の原價引下げに努めつゝあるから、之が業績に反映せずにはゐないだらう。

|            |                                                                                                                  |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】       | 大正十二年四月                                                                                                          |
| 【決算期】      | 三月、九月                                                                                                            |
| 【事業】       | 相紡糸、神糸、人造纖維其他                                                                                                    |
| 【資本金】      | 公稱 3,000,000 拂込 3,000,000                                                                                        |
| 【株主数】      | 新(五〇) 200,000                                                                                                    |
| 【重役】       | 社長 片倉三平 常務 河部 利七郎 白井千尋 内藤國治 下出重喜 取締役 上川勘次郎 田中清一 島村芳三 鈴木周三郎 片倉武雄 林清夫 片倉直 八片倉方平 今井五六 監査 佐藤傳吉 廣川忠 相澤片倉兼太郎           |
| 【大株主】      | 片倉製絲 1,000,000 帝國生命 3,000,000 恒心會 100,000 十六銀行 2,000,000 松葉商店 80,000 日本生命 7,000,000 千代田生命 100,000 片倉三平 6,000,000 |
| 【事業規模】     | ス・フ生産設備 53,000錠 精紡機 58,000錠 熱絲機 5,000錠 織機 1,400,000錠 相紡機 5,000錠                                                  |
| 【生産高】      | 十三年上 1,000,000 十三年下 1,000,000 十三年上 1,000,000 十三年下 1,000,000                                                      |
| 【人絹(對色)】   | 100,000 200,000 300,000                                                                                          |
| 【相紡(對色)】   | 100,000 200,000 300,000                                                                                          |
| 【富士絹(對色)】  | 100,000 200,000 300,000                                                                                          |
| 【人絹織物(對色)】 | 100,000 200,000 300,000                                                                                          |
| 【投資會社】     | 鬼首興業 日東毛絲                                                                                                        |
| 【資本異動】     | 十三年九月名古屋紡績を合併し 月第二回二割増配當                                                                                         |

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十四年                   |
| 株主資本   | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 積立金    | 100,000 100,000 100,000       |
| 外部負債   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 社債     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 借入金    | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本  | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 固定資産   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動資産   | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 現金預金   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【收支勘定】 | 十三年上 十三年下 十四年上                |
| 収入     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支出     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【業績】   | 十三年上 十三年下 十四年上                |
| 利益     | 100,000 100,000 100,000       |
| 【株主配當】 | 十三年上 十三年下 十四年上                |
| 配當     | 100,000 100,000 100,000       |
| 【時價】   | 新 300 利 100                   |
| 【名義書換】 | 十 錢 新券交付 廿五錢                  |

|        |                                                                                                               |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 昭和八年九月                                                                                                        |
| 【決算期】  | 五月、十一月                                                                                                        |
| 【事業】   | ステイプル・ファイバー及フ                                                                                                 |
| 【資本金】  | アイバー・ヤーン 100,000                                                                                              |
| 【株主数】  | 100,000                                                                                                       |
| 【重役】   | 社長 河崎助太郎 取締役 青木信太郎 常務 加美好男 監査 橋本十五郎 取締役 藤井松四郎 橋本美之助 伊藤竹之助 河崎省三                                                |
| 【大株主】  | 河崎助太郎 6,000,000 日本化工業 2,000,000 木村 作助 2,000,000 加美好男 2,000,000 青木信太郎 2,000,000 河崎省三 2,000,000 平生松三郎 2,000,000 |
| 【事業規模】 | 工場別生産能力(ス・フ) 大竹第一工場(岐阜) 日産 200,000 大竹第二工場(岐阜) 日産 200,000 岐阜紡績工場(岐阜) 日産 200,000 精紡機 50,000錠 織機 1,000,000錠      |
| 【生産高】  | 十三年上 1,000,000 十三年下 1,000,000 十四年上 1,000,000 十四年下 1,000,000                                                   |
| 【資本異動】 | 十三年十一月五割増配當 十三年六月第四回三割五厘増配當 十三年四月三回五厘増配當 十三年四月三回五厘増配當                                                         |

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十四年             |
| 株主資本   | 100,000 100,000 100,000 |
| 積立金    | 100,000 100,000 100,000 |
| 外部負債   | 100,000 100,000 100,000 |
| 社債     | 100,000 100,000 100,000 |
| 借入金    | 100,000 100,000 100,000 |
| 使用總資本  | 100,000 100,000 100,000 |
| 固定資産   | 100,000 100,000 100,000 |
| 流動資産   | 100,000 100,000 100,000 |
| 現金預金   | 100,000 100,000 100,000 |
| 【收支勘定】 | 十三年上 十三年下 十四年上          |
| 収入     | 100,000 100,000 100,000 |
| 支出     | 100,000 100,000 100,000 |
| 【業績】   | 十三年上 十三年下 十四年上          |
| 利益     | 100,000 100,000 100,000 |
| 【株主配當】 | 十三年上 十三年下 十四年上          |
| 配當     | 100,000 100,000 100,000 |
| 【時價】   | 新 300 利 100             |
| 【名義書換】 | 十 錢 新券交付 五十錢            |

【人絹人絹事業】

### 東邦人造纖維株式會社

(本社) 東京市豊町區丸の内昭和ビル四階(電九ノ内三三三)  
(事務所) 大阪市東區伏見町五丁目日本後兵衛内(電北濱三三三)

【九月期据置か】九月三十日を以て終る當社の下期業績は大體三月期と同様と見てよい。生産高はス・フ五百萬封度、ス・フ絲九十萬封度で三月期に比較すると減つてゐる。採算關係は大して變化してゐないから減益は當然覺悟せねばなるまい。然し今後の業績は相當樂觀されるので當局者には減配の意志はない。

【織毛・蛋毛】普通のス・フは公定價格に縛られて儲けが薄いのので當社は特殊ス・フの生産に努力しつゝある。織毛と蛋毛が即ちそれである。織毛の方は去る五月廿四日に特殊ス・フとして商工省の指定を受けた。従つて公定最高價格の制約は受けず、自由に高値で以て販賣し得ることゝなつたのである。九月期には殆ど寄與しなかつたが、十月からは本格的な生産が開始されるから、此の方面からの利益を相當期待してよい。蛋毛は、ビスコース液と大豆カゼインとの結合に依つて造られる新纖維だが、これは目下工場建設中で、來年四月頃でなければ、完成しない。特殊ス・フとして之も公定價格の列外に立つ筈だ。業績に寄與するのは來年四月以降だ。

【敗戦と今後】大戦の直接的な好影響は多く期待出来ない。然し輸出が榮に出来ることになるのだから、悪い筈はない。特殊纖維の生産の利益もあり、一、二分の増配も期待出来ない事はない。

### 日本人造羊毛株式會社

(本社) 東京市豊町區内幸町大阪ビル内(電銀座五三三)  
(事務所) 大阪市東區北濱四丁目三八安田ビル内

【内容不頁】人絹設備から、ス・フに轉換したので、製品の品質に就ても相當問題がある。これが當社に採つての第一の難點であるが、その上に資産内容が著しく悪い。固定資産の評価の如きも著しく悪い。固定資産の評価の如きも著しく高く優良會社に比較すれば、二倍に近い評價をしてゐる。更に原料、製品積送品、貯蔵品と言つた商品勘定が每期膨脹して來てゐる。而も其の膨脹は急角度である。利益捻出の爲に苦しい決算を行つてゐるのであらう。

【今期業績】バルブ割當量は依然として少い。従つて前期以上の業績は期待出来そうもない。期待されてゐたバルブ製造工場は、今日に至るも完成を見ないで居るから。これは鐵鋼工作物製造許可規則に依つて、未だに鐵鋼の配給が受けられず、建物が出来なないからだ。此のため去る二月二十日に徴収した百萬圓の拂込金は丸々重荷となつて懸つて來る。七分配當維持がせいゝであらう。

【今後の見透】前述の如く當社の製品は良くない。最近又々商工省から提案された品質改良の爲の優良品生産會社への生産の集中案が懸念されるに至つた。勿論他社に生産を依託しても、利益の分前には與るから心配は不要とも言はれるが、會社の信用にかかはるし、發展の望みもなくなる譯だ。

【人絹人絹事業】

【設立】昭和九年六月  
【決算期】三月、九月  
【事業】ステープル・ファイバー製造  
並に紡織

【資本】公稱 1,000,000 円  
【株数】100,000 株

【重役】社長 後宮信太郎  
常務 大島 亮治  
取締役 佐々木 義彦  
取締役 赤司初太郎  
取締役 津田 信吾

【工場所在地】徳島市郊外北島村  
【生産能力】人絹日産 100,000 錠  
紡織機 10,000 錠

【生産高】上年上 1,000 錠  
人絹(人絹) 1,000 錠  
【資本】1,000,000 円

【設立】昭和九年二月  
【決算期】五月、十一月  
【事業】高級製人絹、空調人絹

【資本】公稱 1,000,000 円  
【株数】100,000 株

【重役】社長 金光 庸夫  
常務 青木 一葉  
取締役 井上 篤太郎  
取締役 井上 篤太郎  
取締役 伊十 伊十

【工場所在地】大分縣大分市大分置河原  
【生産能力】人絹日産 100,000 錠

【工場所在地】大分縣大分市大分置河原  
【生産能力】人絹日産 100,000 錠

【工場所在地】大分縣大分市大分置河原  
【生産能力】人絹日産 100,000 錠

【工場所在地】大分縣大分市大分置河原  
【生産能力】人絹日産 100,000 錠

【資産負債】十二年 九月 十四年 三月

【株主資本】1,000,000 円

【流動資産】1,000,000 円

【固定資産】1,000,000 円

【負債】1,000,000 円

【時價】100 円

【名義書換】十 銭

【時價】100 円

【名義書換】十 銭

【時價】100 円

【名義書換】十 銭

【時價】100 円

【名義書換】十 銭

【人絹人絹事業】

### 明正レイヨン

（本社）大阪府東淀川區三津屋町新野五〇（電北五三二一）

【設立】昭和九年三月  
【決算期】五月、十一月

【上期の成績】當社の去る五上期成績は五十二萬八千圓で拂込資本に對する利益率は二割一分一厘となり、配當は八分を据置いた。償却金は二十萬圓を計上し、之を期末固定資産に對比せしめると十一年償却となる。充分な償却と稱してよい。

【前途】輸出品の値上りで利益増が期待されるけれども、國內向は漸次減産の傾向にあるから成績の向上は餘り期待出来ないやうに考へられる。當分八分の配當で辛棒しなければなるまい。尙ほ明正紡との合併問題であるが、之は依然として可能性が濃厚である。早晩具體化されるものと想像される。

|                                                                              |                                    |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 【資本金】公稱 100,000 拂込済 100,000                                                  | 【事業成績】日産能力 人絹 八越 人絹 二越             |
| 【株数】(株) 10,000                                                               | 【生産高】十一年上 五、七〇〇、〇〇〇 十一年下 一、一五〇、〇〇〇 |
| 【重役】社長 堀 文平 監査 南 三郎 伊東 義人 坂口 兵衛                                              | 【業績】利益率 十一年上 三三・〇〇% 十一年下 三三・〇〇%    |
| 【大株主】十四年五上期 明正紡織 〇・〇〇〇 大同生命 〇・〇〇〇 山崎貿易 〇・〇〇〇 神戸 〇・〇〇〇 堀 文平 〇・〇〇〇 坂口 兵衛 〇・〇〇〇 | 【株價】(實物) 十一年上 三三・〇〇 十一年下 三三・〇〇     |
| 【事業規模】工場所在地 愛媛縣 壬生川 工場敷地及水源地 五、四三三坪                                          | 【理想配當】十四年十一月期 八分(八分)               |
| 【関係会社】明正紡織の姉妹会社                                                              | 【時價】高〇 利過 七分四厘                     |
| 【投資会社】國策パルプ工業、柳井工業                                                           |                                    |

### 東亞纖維工業

（本社）兵庫赤穂郡坂越町坂越三三一九（營業所）大阪府北濱二片會ビル（電北濱六〇一）

【設立】昭和十三年十月  
【決算期】五月、十一月

【初配八分】當社の去る五上期の第一回決算は八分配當を認可された。成績をみると利益金は六十二萬五千圓を計上し、拂込資本に對する利益率は二割二分九厘となる。八分配當はかなり餘裕を持つてゐることが判る。

【前途】當社は輸出向と特殊纖維の製造に力を注ぎ、斯くて統制の壓力を緩和することに努めてゐる。輸出向の採算好化で利益は増加するし、特殊纖維の増産で内地向の限産を補ふから成績は漸次向上するだらう。増配期待にあることは變りないが、その時期は多少延びるかも知れない。

|                                                                          |                                       |
|--------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 【資本金】公稱 100,000 拂込済 100,000                                              | 【事業】ス・フ製造及販賣                          |
| 【株数】(株) 10,000                                                           | 【東亞金屬工業の坂越のス・フ工場を分離して設立された】           |
| 【重役】社長 松尾忠三郎 監査 土居 樗巳 取締 古井 憲一 取締 今村 奇男 田代 重三 中根 一二 監査 廣戸 忠吉 黒田高三郎 大川 義雄 | 【主要製品】特殊ス・フ（スターローモ）                   |
| 【大株主】十四年五上期 東亞金屬工業 〇・〇〇〇 大日本紡織 〇・〇〇〇 中根 一二 三六〇松尾忠三郎 三三〇                  | 【事業規模】ス・フ生産設備 日産 三、〇〇〇 増設（完成）日産 一、〇〇〇 |
|                                                                          | 【株價】(實物) 十四年上 三三・〇〇 十四年下 三三・〇〇        |
|                                                                          | 【理想配當】十四年十一月期 八分(八分)                  |
|                                                                          | 【時價】高〇 利過 一                           |

### 富士纖維工業

（本社）東京市日本橋區本町二富士瓦斯紡織内（電日本橋二二五）

【設立】昭和十年三月  
【決算期】四月、十月

【業界好評】大戦の勃發に依つて業界の景況は一變した。昨日まで悲觀されてゐた人絹は一齊に見直されることとなつた。輸出の好調が豫想され、既に外國からのオツプアーは八月頃に比べると相當り十數圓高だと言ふ。

【今期業績】十月末を以て、締切る下期業績はあまり良好なものではない。大體上期並みのものと想像される。輸出向きが採算が良くないつたとは言へ九、十の二ヶ月に過ぎない。それに當社の輸出は僅少だから、今のところ輸出好轉の好影響はあまり大きくはない。

【今後】輸出に努力するやうになれば業績は相當見直す。

|                                                                        |                                    |
|------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 【資本金】公稱 100,000 拂込済 100,000                                            | 【事業成績】日産能力 人絹 八越 人絹 二越             |
| 【株数】(株) 10,000                                                         | 【生産高】十一年上 五、七〇〇、〇〇〇 十一年下 一、一五〇、〇〇〇 |
| 【重役】社長 日比野左衛門 取締 山川 幸夫 常務 玉木徳次郎 監査 各務 謙三 川崎 榮助 監査 谷 謙三 林 雅之助 監査 北谷 謙三  | 【業績】利益率 十一年上 三三・〇〇% 十一年下 三三・〇〇%    |
| 【大株主】十四年四上期 富士九紡織 〇・〇〇〇 大森 謙三 〇・〇〇〇 日比野左衛門 〇・〇〇〇 八幡紡織 〇・〇〇〇 堀 文平 〇・〇〇〇 | 【株價】(實物) 十一年上 三三・〇〇 十一年下 三三・〇〇     |
| 【事業規模】工場所在地 群馬 〇・〇〇〇 工場敷地及水源地 一〇萬坪                                     | 【理想配當】十四年十月期 五分(六分)                |
| 【関係会社】群馬縣富士郡                                                           | 【時價】高〇 利過 五分七厘                     |

### 新潟人絹工業

（本社）新潟市外大形村河渡新田

【設立】昭和九年八月  
【決算期】五月、十一月

【經濟單位に達す】新潟人絹は擴張過渡期を過ぎて本年初から本格的に一人前の活動を續けてゐる。生産能力が日産十四越と言ふ經濟單位に達したからである。今年上期には二十五萬九千圓の利益を挙げ、利益率は一割七分となり、六分配當を行つた。

【今期は稍良好】下期の業績は右より幾分良くなる筈である。生産高が十五、六萬封度増加するからである。大體二十七、八萬圓の利益となる筈だ。利益率は一割八分見當となるから、一分増配して七分配當位にはなし得るかも知れぬ。

【今後】輸出が出来るやうになれば更に良くなる。増配も期待される。

|                                                                                                        |                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 【資本金】公稱 100,000 拂込済 100,000                                                                            | 【事業規模】月産能力 一五越                      |
| 【株数】(株) 10,000                                                                                         | 【事業成績】十一年上 五、七〇〇、〇〇〇 十一年下 一、一五〇、〇〇〇 |
| 【重役】社長 中野四郎太 取締 宗像 善雄 常務 上原 繁次 監査 古澤 文作 取締 白野 恒吉 監査 高杉 徳重 新井 恒吉 監査 中野 欽治 小田 徳太郎 監査 藤 康藏 羽入 徳太郎 監査 藤 康藏 | 【業績】利益率 十一年上 三三・〇〇% 十一年下 三三・〇〇%     |
| 【大株主】十四年五上期 新潟人絹工業 〇・〇〇〇 中野 野組 〇・〇〇〇 新井 恒吉 〇・〇〇〇 宗像 善雄 〇・〇〇〇 中野四郎太 〇・〇〇〇                               | 【株價】(實物) 十四年上 三三・〇〇 十四年下 三三・〇〇      |
| 【事業規模】工場敷地 〇・〇〇〇 工場敷地及水源地 六八五坪                                                                         | 【理想配當】十四年十一月期 六分(六分)                |
| 【関係会社】新潟縣 〇・〇〇〇                                                                                        | 【時價】高〇 利過 七分                        |

【人絹人絹事業】

【人相人機事業】

### 新日本レイヨン

【設立】昭和十二年九月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】大阪市東區今橋三ノ五（電北番五二一九）  
【工場】島根縣那賀郡江津町

【操業向上】當社はス・フ専門會社であるが、操業開始期が極く最近であるため操業率はかなり低い。然し之は時日の経過と共に漸次高められる筋合にある。最近の操業率を生産高の推移から伺ふと約倍増になつてゐる。昨年末は三十六萬封度前後であつたが今年七月は六十萬封度となつてゐる。

【下期初配か】下期の生産高は概算三百七十萬封度と押へられる。封度十錢の利益とみて三十七萬圓だ。之に紡績利益を三十五萬圓とみれば合計七十二萬圓の利益になる。拂込資本に對し九分六厘の利益率になるから五、六分の配當ならやつてやれないことはない。

|                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 7,500,000                                                                                                                               |
| 【株数】(株) 100,000                                                                                                                                               |
| 【重役】社長 菊池 登三、常務 高野 源一、伊藤 萬助、岩田 宗次郎、小寺 奇男、下野 正三、今村 丁也、岡田 代重、森田 一也、宇野 賢一、上野 太郎、宇野 賢一、上野 太郎                                                                      |
| 【大株主】三十三年十一月期 大日本紡績 3,250,000、日本レイヨン 2,750,000、岩田宗次郎 2,000,000、高野源一 1,500,000、伊藤萬助 1,000,000、小寺奇男 500,000、岡田代重 500,000、森田一也 500,000、宇野賢一 500,000、上野太郎 500,000 |
| 【事業規模】工場所在地 島根縣那賀郡江津町                                                                                                                                         |
| 【事業規模】人相日産 10,000、自家發電 5,000、二條紡績 10,000                                                                                                                      |
| 【関係會社】日本レイヨンの子會社                                                                                                                                              |
| 【投資會社】關東パルプ、華泰興大小紡績                                                                                                                                           |
| 【業績】(株) 利益 100,000、配當 100,000                                                                                                                                 |
| 【株價】(實價) 高値 100、安値 100                                                                                                                                        |
| 【時價】新 100、【利息】七分二厘                                                                                                                                            |

### 酒伊織維工業

【設立】昭和九年十月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】福井市花堂町牛ノ返一

【今期復配か】當社は思はぬ蹉跌により遂に無配を餘儀なくされたが、その後當局者の努力で今期邊り多少の復配がみられるのではないかと期待されるに至つた。當局者の豫想によれば大體三十萬圓位の利益があると云ふ。利益率は一割臺となるから五、六分の配當なら問題なく斷行出来る成績だ。

【前途】小濱のス・フ紡績工場は愈々今秋頃に完成し來期から丸々成績に寄與する見込みとなつた。之れだけでかなりの増益が期待されるから配當も漸次引上げられることにならう。然し餘り大きな期待を持つことは控へた方がよいだらう。

|                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 5,100,000                                                                                                                                  |
| 【株数】(株) 100,000                                                                                                                                                  |
| 【重役】社長 酒井 伊四郎、常務 酒井 伊三郎、酒井 伊三郎、酒井 伊三郎、酒井 伊三郎、酒井 伊三郎、酒井 伊三郎、酒井 伊三郎、酒井 伊三郎、酒井 伊三郎、酒井 伊三郎                                                                           |
| 【大株主】三十四年五月期 酒井伊四郎 2,500,000、酒井伊三郎 2,000,000、酒井伊三郎 1,500,000、酒井伊三郎 1,000,000、酒井伊三郎 500,000、酒井伊三郎 500,000、酒井伊三郎 500,000、酒井伊三郎 500,000、酒井伊三郎 500,000、酒井伊三郎 500,000 |
| 【事業規模】(株) 10,000、(株) 10,000、(株) 10,000、(株) 10,000、(株) 10,000、(株) 10,000、(株) 10,000、(株) 10,000、(株) 10,000、(株) 10,000                                              |
| 【業績】(株) 利益 100,000、配當 100,000                                                                                                                                    |
| 【株價】(實價) 高値 100、安値 100                                                                                                                                           |
| 【時價】新 100、【利息】四分六厘                                                                                                                                               |

【人相人機事業】

### 壽織維工業

【設立】昭和十年十月  
【決算期】四月、十月  
【本社】大阪市北區根上二ノ四共同ビル（電北番三〇一三）

【成績豫想】設備に遊休部分が多いことは當社の弱點である。鳥飼工場、高岡工場共に將來の擴張を豫定して豫め建物を完成しておいた。それが統制の爲め當分中止の已むなきに及んでゐる。休眠資本の活動化として統制外の製品に主力を注いでゐる。パーチメントペーパー、セルロイド原紙、柞蠶絲の紡績等を行つてゐるのもその爲めだ。斯くて成績は緩慢ながらも向上するだらう。

【配當不變】されど五分配當は當分不變の他あるまい、増益すればそれだけ償却に向けて固定資産の割合を訂正しなければならぬからである。

|                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 3,300,000                                                                                          |
| 【株数】(株) 100,000                                                                                                          |
| 【重役】會長 菊本直次郎、社長 常田 隆次郎、副社長 林原實、常務 北 田三郎、河野金造、東門孝次郎、取 田文彦、田村大郎、遠山元一、小林 武野三郎、常盤 深地道雄、常田 大郎、兼全 大家七兵衛、寺田甚吉、相設 下野傳平、今村奇男、矢吹省三 |
| 【大株主】十四年四月期 三友七名、川島屋商店 2,000,000、仁壽生命 1,000,000、富田健太郎 1,000,000                                                          |
| 【事業規模】工場 高岡(紡績)、鳥飼(人相)小杉(人相)                                                                                             |
| 【業績】(株) 利益 100,000、配當 100,000                                                                                            |
| 【株價】(實價) 高値 100、安値 100                                                                                                   |
| 【時價】新 100、【利息】六分                                                                                                         |

### 日本織維工業

【設立】昭和十二年六月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】新潟縣長岡市王町五八〇

【初配當豫問】當初の豫定によれば今年下期邊りには少くとも五分位の配當が出来る筈であつたが、實際に及んで伸々困難であることが判つて來た。即ち工場は完成したけれども機械設備は遅れ、加ふるに操業状態が甚だ不利で生産高は思ふやうに上らないのだ。この調子では下期の初配當はかなり疑問と云はねばならない。

【前途】明年上期ともなれば従業員の数も向上するだらうし、原料の割合も殖えて來るから生産高は増加するものと思はれる。とすれば利益の増加は必至だから配當も可能となる見込みだ。先づ五分に押へておけば大過なからう。

|                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 3,000,000                                                     |
| 【株数】(株) 100,000                                                                     |
| 【重役】會長 寺田甚吉、社長 岸本 彦衛、常務 井上相如、原邦彦、下 高橋保、坂井新次、佐藤行雄、林 山崎二、兼全 岩田宗次郎、小林 町田徳之助、豊田喜一郎、尾徳之助 |
| 【大株主】十四年五月期 三友七名、仁壽生命 2,000,000、昭和紡績 1,000,000、小杉 1,000,000、豊田式織機 1,000,000         |
| 【事業規模】工場 新潟縣長岡                                                                      |
| 【業績】(株) 利益 100,000、配當 100,000                                                       |
| 【株價】(實價) 高値 100、安値 100                                                              |
| 【時價】新 100、【利息】四分八厘                                                                  |



日本毛織株式會社

(本社)神戸市神戶區南區石町四七(電三寄番)一七  
(支社)東京市東區淺草橋二ノ二九ビル(電九ノ内七七)  
(出張所)大阪市東區淡路町四二

【今期も順調】五期は昨年同期に比し七十萬圓に近い増益を示したが、今期も別段の不安はない。七月度出来高を上半期月平均と比較すると次の如く稍々減少してゐる(括弧内は上半期月平均)。即ち梳毛純毛糸は四十七萬三千封度(四十四萬七千封度)、梳毛混紡糸は五十萬七千封度(五十八萬九千封度)、紡毛の純毛糸は六萬六千封度(四萬三千封度)、紡毛の混紡糸七十萬封度(八十四萬三千封度)で總計に於ては七萬二千封度の減少となつて居り、これ位ならば大した心配はない。全體を通じて純毛糸の生産が増加し、混紡糸の生産が減少してゐるが、輸出が良かった反面、混紡用のス・フ其他の原料の喰延ばしを行はねばならなくなつた結果とみられる。八月以降最高価格は引下げられたから今期の利益は前期以上には行かないが、配當の心配などは勿論ない。

【前途】輸出の情勢は相當よくなつて來た。歐洲動亂が永びけば第三國向の輸出は一段と伸びる筋合だ。羊毛の輸出管理が續行されれば思ふやうには行かぬが、それとても全然禁止される譯でもないだらうから、アルゼンチン、ウルグアイの原毛を多く用ひて何とかやつて行けるだらう。もう少し時日を經過して見なければ何とも言へぬが一應樂觀しておいてよからう。

Table with financial data for 1920-1921, including items like '設立' (Incorporation), '決算期' (Fiscal Year End), '資本' (Capital), '役員' (Officers), '株主' (Shareholders), and '投資' (Investment).

Table with financial data for 1922-1923, including '負債' (Liabilities), '株主資本' (Shareholder Capital), '外部負債' (External Liabilities), '流動資産' (Current Assets), and '固定資産' (Fixed Assets).

東洋紡織工業株式會社

(本社)東京市東區區戸町七ノ五〇(電豊田五)  
(営業所)東京市東區區銀座三丁目三間ビル内(電京橋七五五)  
(出張所)大阪市東區淡路町三ノ二淡路町ビル

【歐戰争好影響】當社の製品は、極めて多種多様である。毛糸、サード、モスリン、綿糸、綿布、人織布と言つた多方面に亘つてゐる。其所で第二次歐州大戰の影響も各部門別に違ふ譯だが、大觀すれば勿論好影響を受ける方が壓倒的に強い。淡洲羊毛は輸出禁止となつたが、商工當局の接衝で何とか暫く解決するからこの方はさして心配はない。綿糸、綿布が、今後非常な好採算に恵まれることは否定すべくもない。八月以前の赤字採算に比較すれば正に雲泥の差だ。人織布にしても努力次第に依つては或程度輸出をなし得るから、これも少い乍らも好影響を受ける部類にはいるだらう。

【今期業績】當社が最近最も力を入れてゐたのは毛糸及び毛織物の輸出である。綿關係のものは、あまり積極的には出してゐず、何れも赤字を出し程には到つてゐなかつた。従つて、期の前半は前期よりも悪かつた。それに八月からの毛製品の公定価格引下げも、手助け、業績は芳しくなかつたのである。輸出の好轉は安値の既契約もあることだから、急激には業績を動かさないが、今期は一百十五、六萬圓と言つた利益を計上するのではなからうか。

【今後】來期は相當良くなる。大戰が長期化し、而も羊毛が潤澤に輸入出来ることにでもなれば、増配が期待される。

Table with financial data for 1920-1921, including '設立' (Incorporation), '決算期' (Fiscal Year End), '資本' (Capital), '役員' (Officers), '株主' (Shareholders), and '投資' (Investment).

Table with financial data for 1922-1923, including '負債' (Liabilities), '株主資本' (Shareholder Capital), '外部負債' (External Liabilities), '流動資産' (Current Assets), and '固定資産' (Fixed Assets).



### 大東紡織株式会社

(本社) 東京市日本橋區横濱町二ノ一六(電氣場町二二三丁)  
(工場) 東京市向島區吾妻町三ノ一(電機田 三〇)

【債整理】大東紡は昭和七年の大整理以來無配に轉入し、九年上期にやつと三分配當を開始したが、其後づつと三分配當を續けてゐる。舊債の整理約款に依れば、八百三十六萬六千圓の債務を十七ヶ年の年賦償還として返済し、配當を行ふ場合には、其の配當金と同額の債務の辨濟を行ふことを必要とすることになつてゐた結果である。ところが、今度此の債務の未償還分四百四十七萬七千圓は半額に切捨てられ、元本に對する積立引子も拂引きとなり、二百二十三萬五千圓を現金で即時拂すればよいこととなつた。當社としては非常に助かる譯で、即時支拂の爲に有力六生保會社から三百二十六萬圓の借入を行つた。

【今期五分配當か】當社の業績は從來から相當良く、實際は五、六分の配當も出來たのである。今期は五十萬圓程度の利益を計上し、一分配當程度の利益率とならう。五分配當位は樂に出來る。六分配當をすれば、半期十萬圓宛(但五期間で打切り)拂はねばならぬことになつてゐるから、六分配當は少し裕りが出來てからだ。

【大戦と今後】大戦の影響は非常に良い。當社の如く毛と綿と兩方をやつてゐる會社に對しては特にいふ。戦争が長期化すれば、當社の六分配當も安外早く實現するかも知れぬ。

### 昭和毛絲紡績株式会社

(本社) 名古屋市中區小橋路六丁目三(電本局 三三三)

【大體順調】八月十二日以降最高價格が引下げられたので、今期の利益は或る程度減少するかも知れないが減配せねばならない程の成績にはなるまい。輸出採算は一杯一杯で依然内地ものが利益の大部分を占めてゐる。工場の状態は最近彌富が五〇%、一官が一〇〇%で、一官の紡毛、加工工場の状態は高いのは心強い。彌富では特殊の織絲を生産してゐるが機業家よりの注文も随分多い。

【今期据置きか】七月度の出來高は梳毛絲二十一萬五千封度、紡毛絲三十三萬三千封度、合計五十四萬八千封度となつてゐる。七月の月産高が今期の月平均出來高だと假定すれば、今期の豫想出來高は約三百二十八萬封度で、今年上期に比較すれば約七十萬封度の減産となり、率にすれば一七・六%減だ。利益減の程度もこの程度とすれば今期の業績は昨年同期程度に落着くこととなる勘定だ。然し實際には雑織維の利益が相當附加されるだらうから、成績は昨年同期より勝るものとならう。一割配當据置きと見て間違ひあるまい。

【前途】目先には悲觀する必要はないが、今後の原料問題は相當重大化するだらう。歐洲戦争の結果輸出がうまく行つても内地向の原料は當然窮屈化する。雑織維といつても原料は自ら制約されてゐるからだ。結局は増益しようが、多くは望めまい。

【設立】明治二十九年三月  
【決算期】五月、十一月  
【事業】モスリン、毛織、綿紗、綿絲布  
【資本金】公稱 二〇,〇〇〇 拂込 二七,七〇〇  
【株主名】新(五〇名)  
色、〇〇〇

【重役】社長 鶴見左吉雄 取締役 杉村友二郎  
常務 楠本吉次郎 監査 深井三男  
取締役 白石三郎 小松恒太郎  
取締役 木村雄次 原治郎  
名取 義一

【株主名】十五年上 十五年下 古年上 古年下  
色、〇〇〇

【大株主】  
請戸精文 八、八〇〇 楠本吉次郎 六、二〇〇  
堀越治五 五、〇〇〇 三井物産 四、〇〇〇  
杉村合名 四、〇〇〇 東洋棉花 三、〇〇〇  
白石其兵衛 二、八〇〇 三愛商事 二、〇〇〇

【事業規模】  
綿紡績(毛織) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
綿紡績(綿紗) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
紡毛機(毛) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
紡毛機(綿) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
モスリン(毛) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
モスリン(綿) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
工場(吾妻、津津、金町、名古屋)

【生産高】  
毛織(封度) 一〇,〇〇〇  
綿紗(封度) 一〇,〇〇〇  
毛織(封度) 一〇,〇〇〇  
綿紗(封度) 一〇,〇〇〇  
人織布(千碼) 一〇,〇〇〇

【設立】昭和三年六月  
【決算期】四月、十月  
【事業】毛織物染色整理  
【資本金】公稱 一〇,〇〇〇 拂込 一〇,〇〇〇  
【株主名】(五〇名)  
色、〇〇〇

【重役】社長 川西清兵衛 取締役 神野金之助  
常務 阿部 輝吉 川西 龍三  
取締役 小曾根貞松 林 牛一郎  
取締役 田村 市郎 監査 富田 重助  
三輪喜兵衛 富田 重助  
伊藤太郎 竹村 信一

【株主名】十五年上 十五年下 古年上 古年下  
色、〇〇〇

【大株主】  
日本毛織 一〇,〇〇〇 本小曾根 六,〇〇〇  
川西清兵衛 八,〇〇〇 波山 孝三 六,〇〇〇  
田村 市郎 三,〇〇〇 大城 貞次 三,〇〇〇  
川西 清 三,〇〇〇 澤田清兵衛 三,〇〇〇  
田村 市郎 三,〇〇〇 富田 重助 三,〇〇〇

【事業規模】  
モスリン(毛) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
モスリン(綿) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
生産高(封度) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
綿紗(封度) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
織絲(封度) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

【事業成績】  
生産高(封度) 十五年上 十五年下 十五年上  
織絲 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
綿紗 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
人織布 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

【資本異動】  
資本加入 一〇,〇〇〇  
販賣加工益 一〇,〇〇〇  
【資本異動】  
十五年二月五回拂込徴收

【資産負債】  
十五 十六 十七  
株主資本 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
積立金 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
外部負債 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
社務手形 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

【収支勘定】  
十五年上 十五年下 古年上 古年下  
支拂手形 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
流動資産 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
現金預金 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

【業績】  
十五年上 十五年下 古年上 古年下  
利益 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
消却年率 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

【株主】(東京) 株主  
十五年上 十五年下 古年上 古年下  
高値 安値 高値 安値  
一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

【基礎配當】  
十五年上 十五年下 古年上 古年下  
配當 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
【時價】  
新 五〇 五分  
【名義書換】  
十 一 三十

【資産負債】  
十四 十五 十六  
株主資本 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
積立金 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
外部負債 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
社務手形 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

【収支勘定】  
十四 十五 十六  
支拂手形 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
流動資産 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
現金預金 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

【業績】  
十四 十五 十六  
利益 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
消却年率 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

【株主】(東京) 株主  
十四 十五 十六  
高値 安値 高値 安値  
一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

【基礎配當】  
十四 十五 十六  
配當 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
【時價】  
新 五〇 五分  
【名義書換】  
十 一 三十

【設立】昭和三年六月  
【決算期】四月、十月  
【事業】毛織物染色整理  
【資本金】公稱 一〇,〇〇〇 拂込 一〇,〇〇〇  
【株主名】(五〇名)  
色、〇〇〇

【重役】社長 川西清兵衛 取締役 神野金之助  
常務 阿部 輝吉 川西 龍三  
取締役 小曾根貞松 林 牛一郎  
取締役 田村 市郎 監査 富田 重助  
三輪喜兵衛 富田 重助  
伊藤太郎 竹村 信一

【株主名】十五年上 十五年下 古年上 古年下  
色、〇〇〇

【大株主】  
日本毛織 一〇,〇〇〇 本小曾根 六,〇〇〇  
川西清兵衛 八,〇〇〇 波山 孝三 六,〇〇〇  
田村 市郎 三,〇〇〇 大城 貞次 三,〇〇〇  
川西 清 三,〇〇〇 澤田清兵衛 三,〇〇〇  
田村 市郎 三,〇〇〇 富田 重助 三,〇〇〇

【事業規模】  
モスリン(毛) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
モスリン(綿) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
生産高(封度) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
綿紗(封度) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
織絲(封度) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

【事業成績】  
生産高(封度) 十五年上 十五年下 十五年上  
織絲 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
綿紗 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
人織布 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

【資本異動】  
資本加入 一〇,〇〇〇  
販賣加工益 一〇,〇〇〇  
【資本異動】  
十五年二月五回拂込徴收

### 滿蒙毛織株式會社

(本社) 奉天皇姑屯(電春日三三)  
(事務所) 東京市麹町區内幸町一ノ二東洋ビル(電銀座五五)

【大戦影響無し】 當社は滿蒙産の羊毛を使用して同地で毛織物を製織するのを目的として創立された會社である。この爲最近の羊毛の民需用制限から、内地の羊毛工業會社が原毛不足に四苦八苦ししてゐるにもかかわらず、豊富に滿蒙産の羊毛を入手して工場をフルに運轉させてゐる。尤も滿洲事變以來軍需が急増し、最近では全生産量の九九%が軍需だと言はれるから、原毛を豊富に供給されるのは當然だとも言へる。斯くの如く軍と密接な關係を持つてゐるから輸出餘力はない。當社としては大戦の結果として生ずる輸出からの好影響もなければ、濠毛輸出禁止と聞いて原料獲得に心配する必要もないのだ。要するに今までも同じ調子で進んで行くのだ。

【今期増配か】 上期には八十二萬七千圓の利益を挙げ、利益率は二割五分に達した。一分増の九分配當を行つたのは無難なものと言つてよい。今期は奉天第二工場の第二期建設分が運轉を開始してゐるし、依託經營となつてゐる北京製呢所及び厚和毛織廠の寄與もあることだから、九十萬圓程度の利益は期待出来るのではないかと思ふ。利益率は二割七分だ。一分増の一割配當は可能だ。

【今後】 軍の需要は依然として旺盛で近くこれが減少しようと思はれぬ。當社の好調は今後も續く。

### 伊丹製絨所

(設立) 大正十一年六月  
(決算期) 四月、十月  
(本社) 兵庫縣川邊郡伊丹町古城下(電大阪福馬天一二)

【紡毛絲増産】 當社もともと紡毛絲を得意としてゐる。上期の好成绩も紡毛絲によるところが多いが、今期に入つても紡毛絲の増産傾向は強化された。七月の出來高は、梳毛絲三十八萬六千封度(内純毛絲十七萬封度)、紡毛絲十七萬封度(内純毛絲二萬二千封度)となつて居り、期初の五月に比し前者は約四萬封度の減産であるに反し後者は約一萬封度の増産で、梳毛絲、紡毛絲の比率は六對四だ。

【原毛対策】 濠毛の賣止めが續けば原毛不足は加重されようが、紡毛絲の原料は濠毛ではないから梳毛絲一本の會社に比し打撃は少なからう。一割二分は据置とみてよい。

### 東洋毛織工業

(本社) 大阪市北區會場崎上二丁目四八共同ビル(電北三三三)

【今期据置】 漸減傾向は通りつゝも今期の出來高は上期と大差なきものとなるだらう。輸出向を除いた今期の出來高は總計七十萬封度位に達する見込だが、それで月平均七萬圓近い利益は期待してよい。半期四十萬圓内外の利益として、利益率は一割四分五厘強だから六分配當据置可能だ。八月の最高値引下の打撃も輕視出來ぬが、雜織機の方で何とか補へば心配ない。

【前途】 濠毛の輸入が不可能となれば只さへ原毛が不足してゐるところだから相當の打撃に違ひない。が然し全然買へぬこともなからうし目先は一應樂觀してよい。

### 東洋毛織工業

(設立) 昭和九年十一月  
(決算期) 五月、十一月  
(本社) 大阪市北區會場崎上二丁目四八共同ビル(電北三三三)

【今期据置】 漸減傾向は通りつゝも今期の出來高は上期と大差なきものとなるだらう。輸出向を除いた今期の出來高は總計七十萬封度位に達する見込だが、それで月平均七萬圓近い利益は期待してよい。半期四十萬圓内外の利益として、利益率は一割四分五厘強だから六分配當据置可能だ。八月の最高値引下の打撃も輕視出來ぬが、雜織機の方で何とか補へば心配ない。

【前途】 濠毛の輸入が不可能となれば只さへ原毛が不足してゐるところだから相當の打撃に違ひない。が然し全然買へぬこともなからうし目先は一應樂觀してよい。

【資本金】 公稱 10,000,000 拂込 6,000,000  
【株數】 新 200,000 (10:0) 舊 200,000

【重役】 社長 谷江長 取締役 坂本 曾雄  
取締役 小倉根貞松 監査 近藤 泰藏  
有馬 市藏 澤田清兵衛

【大株主】 十四年五月初 三二名  
本會會費 3,110,000 谷江 長 1,250,000  
谷江 長男 700,000 澤田清兵衛 600,000  
有馬 市藏 500,000 川西清兵衛 400,000  
【事業規模】 十四年上 7,000,000 十四年下 8,000,000  
【精紡機】 110 110

【業績】 11年上 110 110  
12年上 110 110  
13年上 110 110  
14年上 110 110

【配當】 14年上 110 110

【投資銀行】 三和銀行、三井銀行、住友銀行、正金

【豫想配當】 14年上 110 110

【資本金】 公稱 10,000,000 拂込 8,000,000  
【株數】 新 200,000 (10:0) 舊 200,000

【重役】 社長 河野助太郎 取締役 藤井松四郎  
取締役 伊藤竹之助 監査 大神 正秋  
高橋 幸三 廣澤 耕作  
平松徳三郎 石井豊太郎

【大株主】 十四年五月初 三二名  
日本毛織株式會社 3,110,000 新興産業 1,000,000  
河野助太郎 800,000 田村合名 600,000  
【事業規模】 十三年上期 7,000,000  
【精紡機】 110 110

【業績】 11年上 110 110  
12年上 110 110  
13年上 110 110  
14年上 110 110

【配當】 14年上 110 110

【投資銀行】 三和銀行、三井銀行、住友銀行、正金

【豫想配當】 14年上 110 110

【羊毛工業】

### 東洋毛絲紡績

【設立】昭和七年三月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 大阪市東區伏見町五ノ四二(電北濱二二二七)

【好轉せん】減産不可避と最高價格引下げで當社の今期も一應不安視されてゐるが、多少の減産は止むを得ないにしても、配當不安はない筈だ。平均して月十萬圓の利益は豫想されるから手堅く押へても今期は六十萬圓以下の利益とはならぬ筈だ。利益率は二割だから八分配當は据置かれると考へてよい。

【前途も順調か】前期以降懸念された原毛不足は、歐洲動亂で別な方面から不安視される。然し輸出が伸びる目安は充分あるから、何とかして買ふこととならう。梳毛専門だけに濠毛に對する依存は非常に強いが一概に悲觀するのは間違ひだ。

|        |                                                                                                       |                                                                                                         |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資本金】  | 公稱 10,000,000                                                                                         | 拂込 5,000,000                                                                                            |
| 【株数】   | 100,000                                                                                               | 50,000                                                                                                  |
| 【重役】   | 社長 河崎助太郎<br>取締役 伊藤竹之助、田村政次郎、竹中源助、田村政次郎、高橋幸三郎、平生三郎                                                     | 竹村清次郎、高橋幸三郎、伊藤竹之助、田村政次郎、高橋幸三郎、平生三郎                                                                      |
| 【大株主】  | 十四年五月份<br>田村合名 1,500,000、新興産業 1,500,000、竹中源助 1,500,000、岡田幸次郎 1,500,000、竹中源助 1,500,000、岡田幸次郎 1,500,000 |                                                                                                         |
| 【工場】   | 四日市、工場敷地 25,000坪                                                                                      |                                                                                                         |
| 【事業規模】 | 機械設備費 1,000,000                                                                                       |                                                                                                         |
| 【事業成績】 | 十七年上 十七年下 十八年上                                                                                        | 毛糸生産(千封) 1,200 1,100 1,300<br>売上高(千圓) 1,800 1,700 1,900<br>原料費(千圓) 1,200 1,100 1,300<br>利益率 20% 22% 25% |
| 【配當】   | 十四年十一月期 八分(八分)                                                                                        |                                                                                                         |
| 【時價】   | 300円                                                                                                  |                                                                                                         |
| 【利息】   | 七分(五分)                                                                                                |                                                                                                         |

### 錦華毛糸

【設立】昭和九年一月  
【決算期】三月、九月  
(營業所) 大阪市東區瓦町二丁目三和ビル(電北濱二二七)

【混紡綿著増】一分増配した前期に接して九月份の成績も大體順調に進んでゐる様だ。目立つのは混紡綿の増産傾向で、七月の梳毛混紡綿出来高は十四萬封度に近い。前期末の三月に比べると二萬封度内外の増産だ。輸出向純毛糸の方は右と同月の比較に於て約一萬八千封度程減じて七月は約三千封度となつてゐる。輸出向生産の増減は別としても、混紡綿の生産高を増加したことは増産を結果することとならう。コストは可なり高まつてゐるが、この分で行けば九月份も前期並な決算が出来さうだ。

【前途】世界大戰の結果輸出が伸びるから、業績は良くなる。

|        |                                                                       |                                                                                                         |
|--------|-----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資本金】  | 公稱 10,000,000                                                         | 拂込 5,000,000                                                                                            |
| 【株数】   | 100,000                                                               | 50,000                                                                                                  |
| 【重役】   | 社長 加藤 正人<br>取締役 野井宗吉、川野七郎、川野七郎、川野七郎、川野七郎、川野七郎                         | 竹村信一、川野七郎、川野七郎、川野七郎、川野七郎、川野七郎                                                                           |
| 【大株主】  | 十四年三月份<br>錦華紡績 1,000,000、竹中源助 1,000,000、野井宗吉 1,000,000、川野七郎 1,000,000 |                                                                                                         |
| 【工場】   | 津市、工場敷地 25,000坪                                                       |                                                                                                         |
| 【事業規模】 | 機械設備費 1,000,000                                                       |                                                                                                         |
| 【事業成績】 | 十七年上 十七年下 十八年上                                                        | 毛糸生産(千封) 1,200 1,100 1,300<br>売上高(千圓) 1,800 1,700 1,900<br>原料費(千圓) 1,200 1,100 1,300<br>利益率 20% 22% 25% |
| 【配當】   | 十四年九月份 七分(五分)                                                         |                                                                                                         |
| 【時價】   | 300円                                                                  |                                                                                                         |
| 【利息】   | 七分(五分)                                                                |                                                                                                         |

【羊毛工業】

### 東海毛糸紡績

【設立】昭和八年二月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 岐阜縣海津郡城山村大字駒野字柳ノ木七七七八

【難産に期待】創業以來の好成績を収めつゝも配當制限の關係から前期は一分減配したが、今期は豫定通り一分増の八分配當が出来さうだ。原毛の使用量は現に減つてゐる。七月度の生産高を見ると梳毛糸は純毛糸約二萬七千三百封度、混紡糸八萬四千九百封度、紡毛糸は混紡糸が一十封度であった。前期末の五月份に比し、梳毛糸は純毛糸で二萬封度、混紡で七千封度の減少となつてゐる。問題は結局難産糸の状態如何に懸るが、其心配は少い。殊に前期末からはじめた絹織維入りの混紡糸は相當成果を擧げて居る。資産内容も極めて良いから當面の不安はあまりない様だ。

|        |                                                                           |                                                                                                         |
|--------|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資本金】  | 公稱 10,000,000                                                             | 拂込 5,000,000                                                                                            |
| 【株数】   | 100,000                                                                   | 50,000                                                                                                  |
| 【重役】   | 社長 小島 逸平<br>取締役 小島 逸平、小島 逸平、小島 逸平、小島 逸平、小島 逸平                             | 岩田宗太郎、井川利七、山本則古、小島 逸平、小島 逸平                                                                             |
| 【大株主】  | 十四年五月份<br>豊島 半七 1,000,000、小島 逸平 1,000,000、豊島 半七 1,000,000、小島 逸平 1,000,000 |                                                                                                         |
| 【工場】   | 海津、工場敷地 25,000坪                                                           |                                                                                                         |
| 【事業規模】 | 機械設備費 1,000,000                                                           |                                                                                                         |
| 【事業成績】 | 十七年上 十七年下 十八年上                                                            | 毛糸生産(千封) 1,200 1,100 1,300<br>売上高(千圓) 1,800 1,700 1,900<br>原料費(千圓) 1,200 1,100 1,300<br>利益率 20% 22% 25% |
| 【配當】   | 十四年十一月期 八分(八分)                                                            |                                                                                                         |
| 【時價】   | 300円                                                                      |                                                                                                         |
| 【利息】   | 七分(五分)                                                                    |                                                                                                         |

### 第一毛糸紡績

【設立】昭和九年三月  
【決算期】三月、九月  
(本社) 愛知縣東春日井郡藤川町大字柏井字中裏七八九

【減産程度】七月度の生産高をみると、梳毛糸二千二百封度(内純毛糸五千四百封度)、紡毛糸七萬九千封度(内純毛糸七千二百封度)となつてゐる。前期末、即ち三月份の生産高は梳毛糸三萬一千封度(内純毛糸五千二百封度)、紡毛糸八萬九千封度(内純毛糸二千六百封度)だったから總計で七月は三月よりも約二萬封度(一六%)の減産となつた譯だ。が、難産糸の生産は相當の數量に上るから九月份の業績は三月份のそれと大差あるまい。

【前途】元々當社は手の込んだ紡毛糸生産を目標とする会社だからその優れた技術を難産維方面に生かして成果を収めるだらう。

|        |                                                                          |                                                                                                         |
|--------|--------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資本金】  | 公稱 10,000,000                                                            | 拂込 5,000,000                                                                                            |
| 【株数】   | 100,000                                                                  | 50,000                                                                                                  |
| 【重役】   | 社長 安藤 俊三<br>取締役 安藤 俊三、安藤 俊三、安藤 俊三、安藤 俊三、安藤 俊三                            | 竹中源一、安藤 俊三、安藤 俊三、安藤 俊三、安藤 俊三                                                                            |
| 【大株主】  | 十四年三月份<br>岡田 澤一 1,000,000、長谷川合名 1,000,000、竹中源一 1,000,000、安藤 俊三 1,000,000 |                                                                                                         |
| 【工場】   | 藤川、工場敷地 25,000坪                                                          |                                                                                                         |
| 【事業規模】 | 機械設備費 1,000,000                                                          |                                                                                                         |
| 【事業成績】 | 十七年上 十七年下 十八年上                                                           | 毛糸生産(千封) 1,200 1,100 1,300<br>売上高(千圓) 1,800 1,700 1,900<br>原料費(千圓) 1,200 1,100 1,300<br>利益率 20% 22% 25% |
| 【配當】   | 十四年九月份 一分(一分)                                                            |                                                                                                         |
| 【時價】   | 300円                                                                     |                                                                                                         |
| 【利息】   | 七分(五分)                                                                   |                                                                                                         |

### 帝國製麻株式會社

(本社) 東京市日本橋區區室町一ノ一 (電日本橋二二一) 三  
(支社) 大阪市北區宗室町 (大阪ビル内)

【擴張活潑】帝麻は漸次原料不足から脱せんとして居る。北海道の原料亞麻増産と共に滿洲及朝鮮の増産が順調に進行して居るから、特に滿洲に於て然りだが、朝鮮の耕作面積も相當擴大され、製麻工場三ヶ所に加へて現在新一ヶ所建設中である。右滿洲と朝鮮の亞麻原料増産から原料自給の確信がつき、今回製麻工場を朝鮮に設けることに決定した。敷地は仁川に四萬七千坪程買入済で、近々建設に着手する。これが資金約四百五十萬圓と豫定され、操業開始は來年六七月頃と稱されて居る。

【拂込と増資】此の外鹿沼製麻工場を増、改築が引續き行はれ、これに約三百萬圓の資金が掛る筈であるから、前記擴張資金と併せて大約八百萬圓近い資金が必要とされて居る。この資金を調達する目的を以て來る十月一日に一株二十圓、總額三百四十四萬圓の最終拂込金が徴収されることになつてゐる。最終拂込徴収後には當然増資が期待される、記者は其の實現は只時期の問題と思ふ。

【經營の積極化】而して、増資の時期は決して遠くないと想像される。最近當社の經營態度が從來の堅實一本槍を一擲して目立つて積極化して來たからだ。例へば大陸への進出計畫をみても積極的に進められて居るし、機械工業への進出計畫もある程だ。

### 日滿亞麻紡織株式會社

(本社) 東京市麹町區内幸町大阪ビル新館 (電銀座五元)

【進行する亞麻増産】當社は滿洲の亞麻増産に大意である。例へば、十三年度には二萬八千町歩の耕作面積に播種したが、十四年度には三萬七千町歩に播種してゐる。十五年度は更に約一萬町歩擴大されると思像されるから、製麻工場もまた三、四箇所は増設される。

【製品工場も擴張】右原料増産に應ずる製品工場の擴張もまた當然必要だ。所謂富山第三期擴張が要求される譯だが、現富山工場に残された敷地は極めて狭まい。恐らく新に敷地を選定して新設されるであらうが、工事は急いで着手される。原料關係から來年の秋迄には操業開始の運びにする必要があるからだ。

【拂込徴収決定】これ等の原料増産及工場擴張の爲め來る十月中旬一株十二圓半、總額百五十萬圓の拂込を徴収する。だが、勿論これだけの拂込金では足りず、今後相當活潑に拂込徴収が行はれると想像される。次の如き進出計畫もあるからだ。即ち其の第一は帝麻との提携による上海ラミー會社並びに中支帝麻産業會社の新設がある。この外北支に洋麻の試作を行ひ、上海に建築材料たるテックス工場の建設を目論んで居る。就中、特筆すべき擴張計畫は滿洲に線麻を原料とする製品工場を相當大規模に新設せんとしてゐる事である。

【設立】 明治四十年七月

【決算期】 六月、十二月

【事業】 帆布、ダック、ホース、薄地、リネン、服地、シヤツ地、飛行機翼布、軟帳用絲、織物絲其他

【資本金】 公稱一〇、〇〇〇、〇〇〇 拂込一〇、〇〇〇、〇〇〇

【株主】 新(五〇) 〇〇〇、〇〇〇

【役員】 社長 安田善五郎 取締役 納富喜雄、河野寅三、取崎 増田外十郎、下河邊行一、監査 飯田藤二郎、大橋新太郎、松本 榮治、土木誠太郎、藤畑直太郎

【大株主】 安田保壽社、安田生命、安田銀行、富國銀行、四國銀行、日本實業銀行、大橋本店、事業規模、十四年上期現在

【事業規模】 製麻工場(豊田、北野) 亞麻工場(五原、豊山、甲山、北野) 亞麻工場(五原、豊田、北野) 亞麻工場(五原、豊田、北野)

【投資會社】 大正製麻、東洋製麻、日本製麻、滿洲製麻

【資本異動】 十三年十二月一七圓半拂込徴収

【資産負債】

|       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 株主資本  | 六十二   | 六十二   | 六十四   |
| 積立金   | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 外部負債  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 支拂手形  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 流動資産  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 固定資産  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 現金預金  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 流動負債  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 固定負債  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 消却年率  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |

【業績】

|      |       |
|------|-------|
| 十一年上 | 一、〇〇〇 |
| 十一年下 | 一、〇〇〇 |
| 十二年上 | 一、〇〇〇 |
| 十二年下 | 一、〇〇〇 |
| 十三年上 | 一、〇〇〇 |
| 十三年下 | 一、〇〇〇 |
| 十四年上 | 一、〇〇〇 |
| 十四年下 | 一、〇〇〇 |

【時價】 新九〇 五分二厘

【名義書換】 五 錢 【新券交付】 二十錢

【設立】 昭和九年四月

【決算期】 二月、八月

【事業】 厚地物(帆布、ダック、天幕地、織物) 薄地物(織物) 亞麻糸

【資本金】 公稱一〇、〇〇〇、〇〇〇 拂込一〇、〇〇〇、〇〇〇

【株主】 新(五〇) 〇〇〇、〇〇〇

【役員】 社長 坂内 取締役 長谷川敬平、木村 治助、中川 正左、佐々木久二、伊地知虎彦、近藤 貞一

【大株主】 三井物産、日本製麻、滿洲製麻、安田信託、坂内 長尾良一

【事業規模】 原料工場(原料栽培は滿洲亞麻が經營) 製麻工場(富山縣堀川町) 精紡機 織機

【事業成績】 事業収入(十三年上) 一、〇〇〇、〇〇〇 (十三年下) 一、〇〇〇、〇〇〇 (十四年上) 一、〇〇〇、〇〇〇 (十四年下) 一、〇〇〇、〇〇〇

【投資會社】 滿洲亞麻紡織株式會社

【資本異動】 十三年五月七圓半拂込徴収、十三年七月一七圓半拂込徴収、十月七圓半増資第一回三圓半拂込徴収

【資産負債】

|       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 株主資本  | 十三    | 十三    | 十四    |
| 積立金   | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 外部負債  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 支拂手形  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 流動資産  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 固定資産  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 現金預金  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 流動負債  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 固定負債  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 消却年率  | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |

【業績】

|      |       |
|------|-------|
| 十一年上 | 一、〇〇〇 |
| 十一年下 | 一、〇〇〇 |
| 十二年上 | 一、〇〇〇 |
| 十二年下 | 一、〇〇〇 |
| 十三年上 | 一、〇〇〇 |
| 十三年下 | 一、〇〇〇 |
| 十四年上 | 一、〇〇〇 |
| 十四年下 | 一、〇〇〇 |

【時價】 新八〇 五分八厘

【名義書換】 十 錢 【新券交付】 五十錢

【製糖事業】

### 東京麻絲紡績株式會社

(本社) 東京市日本橋區本町一ノ二(電日本橋天)

【下期豫想】下期が殊に上期に優る業績を示すとは考へられぬ。事業は原料供給付のものが多く、僅かに工賃を得るに過ぎないからである。それに最近では此の工賃も引下げられてゐるから、經營は以前の如く容易なものではない。尤も此の不利を補ふため民需品の増産を圖り、之に對處してゐるから實際の成績は少しも低下しないであらう。當社は各縣より府麻を買入れ、之を精製して民需に振向けてゐる。此の利益は侮り難い実績を示してをり、一割配當はこれある故に安全とみてよい。下期の一割配當措置は別して問題なく行はれるであらう。

【前途】軍需關係品の單價切下は今後も行はれると見ねばならぬ。然しこれまで通り民需品増産にも意を注ぐ筈で、當社が府麻蒐集に逸早く手を染めてゐたのは強味である。他に原料獲得の方法もあるらしく、一割配當を賄ふには十分の利益は擧げ得るとみてよい。餘程情勢が悪化しない以上減配など考へられぬ。

【増資するか】現在僅か三百萬圓の小型會社である。軍需關係品生産で事業は繁忙だから増資もやりたい所だ。現社長石崎氏が此の時局に安閑としてゐる譯がない。將來の雄飛について恐らく目論んでゐるのであらうし、必ず實現せしめるであらう。増資は其の時だ。

|         |                                                                  |
|---------|------------------------------------------------------------------|
| 【設立】    | 大正五年十二月                                                          |
| 【決算期】   | 五月、十一月                                                           |
| 【事業】    | 織絲、繅絲、澆湖絲、織布                                                     |
| 【資本金】   | 500,000                                                          |
| 【株數】    | 10,000                                                           |
| 【重役】    | 社長 石崎 石三<br>取締役 大橋 常太郎、中島 孝夫、安藤 竹太郎、新間 五兵衛、寺尾 芳男、新間 五兵衛、聖堂 寺尾 芳男 |
| 【大株主】   | 三井物産、三井物産、三井物産、三井物産、三井物産、三井物産、三井物産、三井物産、三井物産、三井物産                |
| 【工場所在地】 | 沼津市外大岡村下石田、新島縣村松町                                                |
| 【事業成績】  | 十一年上 1,200,000、十二年上 1,300,000、十三年上 1,400,000、十三年下 1,500,000      |
| 【投資會社】  | 日本輸出織物物産興業、日本興業、十一年四月三股、十三年六月二五股(最終) 拂込後                         |

|        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十三年                         |
| 株主資本   | 500,000 500,000 500,000             |
| 積立金    | 100,000 100,000 100,000             |
| 外部負債   | 100,000 100,000 100,000             |
| 支拂手形   | 100,000 100,000 100,000             |
| 使用總資本  | 1,000,000 1,000,000 1,000,000       |
| 固定資産   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000       |
| 流動資産   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000       |
| 現金預金   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000       |
| 【配當】   | 十一年上 10%、十二年上 10%、十三年上 10%、十三年下 10% |
| 【時價】   | 六〇〇                                 |
| 【名義書換】 | 五 錢                                 |
| 【新券交付】 | 二十 錢                                |

【製糖事業】

### 臺灣製糖株式會社

(本社) 臺灣高雄州屏東市瑞泰八七三  
(事務所) 東京市麹町區丸ノ内三ノ四有樂館(電丸ノ内三三二)

【興味が無い】日本一の製糖會社であり、優良會社中の優良會社ではあるが、併し、書くべき事柄もなく株式的の興味に至つては全く無い。糖界の最高峯に位するが、地味で消極的で、守る一方の立場を取ることが餘りにも長すぎる。それだけに、業績に發展性が無く、株式的に興味を引く餘地が少ないのである。

【王座は揺ぐ】糖界の王座を占める事既に久しいが、併し、近年後身會社はメキ／＼と出世して當社を王座から追ひ落さんとする氣配が見える。先づ、産糖高に於ては昭和十三年期までは第一位を獨り占めに來たが、來期(十四—十五年期)からは日糖の次位に下る事を餘儀なくされる。而も、臺灣以外の産糖を加へた全産糖高の上からでは既に明糖の産糖高に及ばない。また、資本金の上でも日糖に第一位をゆづる事となつた。かくして糖界の王座は消極的の濁糖から積極的の日糖に移らんとするるのである。

【強味は何か】當社の強味は南部臺灣の蔗作適地に廣大な耕地を所有してゐる事だつた。この強味は永久的に光るものではあるが、併し、これだけで安心してゐると、この強味に優越するものが明糖、日糖にも培はれつゝある。一割二分はどこまでも安泰な配當ではあるが、それに満足せず、企業の積極化を望むこと切だ。

|        |                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 明治三十三年十二月                                                                                                                                                                                                                                   |
| 【決算期】  | 三月、九月                                                                                                                                                                                                                                       |
| 【事業】   | 根糖、糖地白糖、精糖、酒精                                                                                                                                                                                                                               |
| 【資本金】  | 100,000,000                                                                                                                                                                                                                                 |
| 【株數】   | 1,000,000                                                                                                                                                                                                                                   |
| 【重役】   | 社長 武田 直道、取締役 王井 義助、常務 笠原 大郎、監査 九田 治太郎、取締役 朝吹 常吉、城島 廣三、伊藤 東三、島崎 信平、十三年上 10,000,000、十三年下 10,000,000                                                                                                                                           |
| 【大株主】  | 省元、三井物産、三井物産、三井物産、三井物産、三井物産、三井物産、三井物産、三井物産、三井物産                                                                                                                                                                                             |
| 【工場】   | 分廠(一)日原(精糖能力) 10,000石、分廠(二)日原(酒精能力) 10,000石、分廠(三)日原(糖地白糖能力) 10,000石、分廠(四)日原(糖地白糖能力) 10,000石、分廠(五)日原(糖地白糖能力) 10,000石、分廠(六)日原(糖地白糖能力) 10,000石、分廠(七)日原(糖地白糖能力) 10,000石、分廠(八)日原(糖地白糖能力) 10,000石、分廠(九)日原(糖地白糖能力) 10,000石、分廠(十)日原(糖地白糖能力) 10,000石 |
| 【投資會社】 | 森水製菓、南國産業                                                                                                                                                                                                                                   |

|        |                                           |
|--------|-------------------------------------------|
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十三年                               |
| 株主資本   | 100,000,000 100,000,000 100,000,000       |
| 積立金    | 10,000,000 10,000,000 10,000,000          |
| 外部負債   | 10,000,000 10,000,000 10,000,000          |
| 支拂手形   | 10,000,000 10,000,000 10,000,000          |
| 使用總資本  | 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 固定資産   | 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 流動資産   | 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 現金預金   | 1,000,000,000 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 【配當】   | 十一年上 10%、十二年上 10%、十三年上 10%、十三年下 10%       |
| 【時價】   | 新九〇                                       |
| 【名義書換】 | 五 錢                                       |
| 【新券交付】 | 三十 錢                                      |

### 明治製糖株式会社

(本社) 臺灣臺南州曾文郡麻豆街麻豆四二九九(電話第一)  
(事務所) 東京市京橋區京橋二ノ八明治製糖ビル(電話二四三三)

【明糖の興味】砂糖事業は毎期居ながらにして良成績が持續され、一割二分の配當特報は安泰だ。自然、主業の砂糖事業には興味薄い。寧ろ、興味の中心は當社が特に力を入れてゐる傍系事業の方面にある。この傍系事業は明糖、昭和護謨を初め大小十餘社に及び其の何れもが、膨脹發展を遂げつゝある。而も、これらの事業は大部分が明糖の餘剰利益を以て育成せられて來たのである。その甲斐あつて、近年其の全部が着々と親明糖を潤す事になつた。分けても、製茶、乳製品、食品罐詰業等に砂糖系統の事業は今や、當面の國策に沿つて對外進出に顯著なる展開振りをを見せてゐる。將來、大明糖の膨脹發展に貢獻するものは此の投資部門である。

【糖業も擴張】然し、主業の製糖部門も之を閉却してをる譯では素よりない。本年度製糖が過去の三百萬擔臺から一躍五百萬擔臺への新記録を作り、來年度以後も五百萬擔臺支持の方針である事は、經營積極的化を物語つて餘りがある。この臺灣産糖に北海道と樺太との甜菜糖三十六萬擔を加算すると灣糖の産糖を凌駕し、日糖の地位にある譯だ。産糖増加の對策として既に南端工場の壓搾能力は倍加され、實に七工場の全面的擴張も行はれたのだ。明糖は地味な經營振りが、その半面焦らず怠らず偉大な底力で押し進む會社だ。

|        |                                                                                                                     |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 明治三十九年十二月                                                                                                           |
| 【決算期】  | 三月、九月                                                                                                               |
| 【事業】   | 粗糖、精糖、酒糖、糖菓糖                                                                                                        |
| 【資本金】  | 公稱一〇〇,〇〇〇 拂込一〇〇,〇〇〇                                                                                                 |
| 【株主】   | (單位千株) 新(一〇〇,〇〇〇) 舊(〇,〇〇〇)                                                                                          |
| 【重役】   | 社長 相馬 牛治<br>専務 山田 貞雄 植垣 一郎<br>常務 中川 善 今村 藤市<br>取締役 久保田 三 監査 藤村 吉郎<br>佐々木 定雄 大橋 新太郎<br>大日方 金太郎 江口 定雄                 |
| 【株主】   | 總數(名) 一、〇〇〇 五、〇〇〇<br>大株主 一、〇〇〇 六、〇〇〇                                                                                |
| 【大株主】  | 第一生命 三〇,〇〇〇 内國貯蓄銀行 三〇,〇〇〇<br>帝國生命 三〇,〇〇〇 日本信託 三〇,〇〇〇<br>明治商店 三〇,〇〇〇 富岡製糖 三〇,〇〇〇<br>千代田生命 三〇,〇〇〇 大正海上火災 三〇,〇〇〇       |
| 【生産能力】 | 粗糖 一、〇〇〇,〇〇〇 米糖 一、〇〇〇,〇〇〇                                                                                           |
| 【事業成績】 | 糖業 一、〇〇〇,〇〇〇<br>糖業(千圓) 一、〇〇〇,〇〇〇<br>甲富收穫(千圓) 一、〇〇〇,〇〇〇<br>産糖(千圓) 一、〇〇〇,〇〇〇<br>製糖歩留(%) 一、〇〇〇,〇〇〇<br>精糖(千圓) 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 【投資】   | 明治商店、明治製糖、昭和護謨、糖菓糖、朝日牛乳、河西鐵道                                                                                        |
| 【資本】   | 昭和十年四月新高製糖を合併、一〇五五萬圓を増資                                                                                             |
| 【資産負債】 | 三十三年 九十三年 三十四年                                                                                                      |
| 株主資本   | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇                                                                                             |
| 外部負債   | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                |
| 流動資産   | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                |
| 固定資産   | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                |
| 現金預金   | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                |
| 【收支】   | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                |
| 【株主】   | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                |
| 【時價】   | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                |
| 【名義書換】 | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                |

### 大日本製糖株式会社

(本社) 東京市城東區北砂町三ノ四七九  
(川俣所) 東京市葛飾區九ノ内昭和ビル内(電九ノ内三三三〇)

【昭和糖を合併】赤司系の昭和製糖を吸収合併する。これは九月八日の假契約調印に依つて決定したが、合併實行期は十二月五日である。兩社は九月三十日に夫々總會を開催して株主の承諾を求め、合併比率は昭和株一〇〇に對し日糖株八三である。

【産糖第一位實現】この合併に依つて、日糖は念願の産糖第一位主義が實現され、名實共に日本に於る第一位に座する事になる。試みに本年度産糖の實績から見ても、日糖五百三十七萬六千擔、これに昭和の九十九萬七千擔を加算すると(赤糖除外)六百三十七萬三千擔の大産糖會社となる。明糖の産糖を抜くこと九十餘萬擔である。また、合併後の資本金は七千四百四十二萬圓となり、これもまた糖業會社第一位である。かくて、日糖は一舉に糖界の王座へとノシ上げて來た。

【合併の齎らす利益】合併の齎らす利益は直接間接的に多々ある。今後の利益が産糖高に比例して増大する事は明だし、このために對滿進出の足掛りが得られ、またバガス・パルプ(臺灣パルプ工業)工業を自社の傘下に收め得る等々枚舉に限り無い程だ。過去の歴史に徴しても東洋新高の合併は確かに大日糖の基礎を築くに奏效したが、今また昭和を吸収する事に依つて社業は一段と伸展される。昭和の併合は日糖に若さを注入し興味を加へたものと云へる。

【製糖事業】

|        |                                                                                                                        |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 明治二十八年十二月                                                                                                              |
| 【決算期】  | 四月、十月                                                                                                                  |
| 【事業】   | 粗糖、精糖、酒糖、糖菓糖                                                                                                           |
| 【資本金】  | 公稱一〇〇,〇〇〇 拂込一〇〇,〇〇〇                                                                                                    |
| 【株主】   | (單位千株) 新(一〇〇,〇〇〇) 舊(〇,〇〇〇)                                                                                             |
| 【重役】   | 社長 藤山 愛一郎 取締役 衣笠 三郎<br>常務 金澤 冬三郎 取締役 藤澤 秀雄<br>秋山 九一 監査 名取 和作<br>藤山 孝之輔 二宮 貞<br>取締役 月岡 一郎 藤見 五郎<br>水井 清次 土井 昌逸<br>内山 虎雄 |
| 【株主】   | 總數(名) 一、〇〇〇 五、〇〇〇<br>大株主 一、〇〇〇 六、〇〇〇                                                                                   |
| 【大株主】  | 藤山 同族 三〇,〇〇〇 明治生命 三〇,〇〇〇<br>藤山 同族 三〇,〇〇〇 日本生命 三〇,〇〇〇<br>安田 貯蓄 三〇,〇〇〇 帝國生命 三〇,〇〇〇<br>藤山 同族 三〇,〇〇〇 赤司製糖 三〇,〇〇〇           |
| 【生産能力】 | 粗糖 一、〇〇〇,〇〇〇 米糖 一、〇〇〇,〇〇〇                                                                                              |
| 【事業成績】 | 糖業 一、〇〇〇,〇〇〇<br>糖業(千圓) 一、〇〇〇,〇〇〇<br>甲富收穫(千圓) 一、〇〇〇,〇〇〇<br>産糖(千圓) 一、〇〇〇,〇〇〇<br>製糖歩留(%) 一、〇〇〇,〇〇〇<br>精糖(千圓) 一、〇〇〇,〇〇〇    |
| 【投資】   | 明治商店、明治製糖、昭和護謨、糖菓糖、朝日牛乳、河西鐵道                                                                                           |
| 【資本】   | 昭和十年四月新高製糖を合併、一〇五五萬圓を増資                                                                                                |
| 【資産負債】 | 三十三年 九十三年 三十四年                                                                                                         |
| 株主資本   | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇                                                                                                |
| 外部負債   | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                   |
| 流動資産   | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                   |
| 固定資産   | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                   |
| 現金預金   | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                   |
| 【收支】   | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                   |
| 【株主】   | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                   |
| 【時價】   | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                   |
| 【名義書換】 | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇                                                                                                   |

【製糖事業】

### 塩水港製糖株式会社

(本社) 臺灣臺南州新營郡新營街新營六五(電新營一五)  
(事務所) 東京市日本橋區通リ一ノ六(電日本橋二八一五)

【北滿進出進む】大陸乗出計畫に具體化の事情にある。豫ねて滿洲國産業部に認可申請中の甜菜糖栽培計畫は八月一日に許可となつた。この許可は砂糖増産奨励の建前から既設の滿洲製糖、北滿製糖と栽培地域の重複せざる事を條件とするもので、未だ栽培適地の確定を見るに至らない。併し、何れは適地を物色して愈々甜菜糖業乗り出しとならう。これが鹽糖經營積極化の一ツである。

【バルブ完成近し】子會社新日本砂糖工業の營むバガス・バルブ工業は昨年四月來工場建設中の處、愈々この十月中には竣工し、直ちに試験的製造作業に着手する。順調に行けば來春一月からは本格的運営に入り製品の販賣となる事情にある。この點、當社の前途を明瞭たらしめる材料の一ツである。

【社債發行成る】豫ねて計畫中の社債一千萬圓の發行は三井、臺灣の兩銀行受託を以て九月上旬に發行された。額面百圓に付九十九圓五十錢、利率年四分三厘である。これは鹽糖の借金整理を意味するので、着々と豫定計畫の遂行を裏書する一事である。

【増配期待さる】一分の増配を期待せしめるが、其の實現が九月期の決算であるか、バルブ事業の操業開始となる來期まで自重するかは經營當局者の肚一ツである。業績は無論良好の連続だ。

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 明治四十年三月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 【決算期】  | 三月、九月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 【事業】   | 粗糖、耕地白糖、精糖、酒精                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 【資本】   | 公稱100,000,000 實收100,000,000                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 【株主】   | 新(三三) 天(三三) 天(三三) 天(三三)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 【役員】   | 常務 岡田幸三郎 取締役 淺野 武雄<br>黒田 秀博 橋本 正雄<br>内ヶ崎良平 監査 長谷川貞成<br>沖 光太郎 松 原 徹                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 【大株主】  | 新榮産業(株) 三三,三三〇<br>明治生命(株) 三三,三三〇 富國債兵六,三三〇<br>實業正金庫(株) 一〇,〇〇〇 岡田幸三郎(株) 三三,三三〇<br>百三九銀行(株) 一〇,〇〇〇 林 兼八,八八〇                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 【事業規模】 | 日産能力(單位) 糖 100,000<br>粗糖耕地白糖(單位) 糖 100,000<br>工場 新營、岸内、淡州、海、大和                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 【事業成績】 | 十三年上 十三年下 十三年上<br>粗糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>甲糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>乙糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>丙糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>丁糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>戊糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>己糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>庚糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>辛糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>壬糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>癸糖(噸) 11,111 11,111 11,111                              |
| 【投資】   | 滿洲製糖、花港港木村、鹽糖製品販賣、臺灣生業、臺灣倉庫其他                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 【資本】   | 十三年三月三十一日現在 實收100,000,000<br>十月三十一日現在 實收100,000,000<br>十月三十一日現在 實收100,000,000                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十三年<br>株主資本 三三,三三〇 三三,三三〇 三三,三三〇<br>積立金 三三,三三〇 三三,三三〇 三三,三三〇<br>外部負債 六六,六六〇 六六,六六〇 六六,六六〇<br>社債 三三,三三〇 三三,三三〇 三三,三三〇<br>借入金 三三,三三〇 三三,三三〇 三三,三三〇<br>使用總資本 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇<br>固定資産 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇<br>流動資産 〇 〇 〇<br>現金預金 〇 〇 〇<br>【收支】 十三年上 十三年下 十三年上<br>收入 〇 〇 〇<br>支出 〇 〇 〇<br>【名義書換】 十 十 十<br>【時價】 新(三三) 一〇 一〇 一〇<br>【利息】 五分六厘 五分六厘 五分六厘<br>【新券交付】 五十 五十 五十 |

【製糖事業】

### 帝國製糖株式会社

(本社) 臺中州臺中市高砂町一八(電 七五)  
(支店) 東京市豊町區丸ノ内海上ビル内(電丸ノ内 二一〇)

【着々と伸びる】伸びる一方の會社であるが、近年取り分け、躍進の跡は顯著である。不斷の努力が實を結び、また幸にも天候關係に恵まれてをからだ。現に今年度産糖が一躍七割増加の百九十八萬三千擔と云ふ創業以來の新記録を樹したのほこれだ。このために、産糖は激増し、保留利益の増大と相俟つて内容は非常な充實振りをして來た。同業會社と立場を異にし、終始米作と競争しながらも發展して來た會社であるだけに注目される。

【來期産糖豫想】來期産糖等は植付面積の増加に拘らず、天候不良の影響を入れて減産する。これは糖界一般の共通事であるが、當社の場合、その減り方は今期産糖より十八萬三千擔減の百八十萬擔が見込まれてゐる。併し、この程度の産糖をつゞける限り尙ほ良成績の持續と見てよからう。無論、一割配當に不安はない。

【来る十月期】来る十月期の成績は四月期以上であらう。元來今年期産糖よりすれば、豫想利益は六百七十八萬圓に達する筋合にあるのに、この内四月期への計上利益は二百四十二萬九千圓で利益の半にも達せぬからだ。この關係からしても下期には四百萬圓以上の利益を残すが、多分は一割配當を賄ふ程度に計上に控へ二百五六十萬圓の計上とならう。

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 明治四十三年十一月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 【決算期】  | 四月、十月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 【事業】   | 粗糖、酒精                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 【資本】   | 公稱100,000,000 實收100,000,000                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 【株主】   | 新(三三) 天(三三) 天(三三) 天(三三)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 【役員】   | 専務 田原野太郎 取締役 山本 精策<br>取締役 小畑 勇吉 監査 廣瀬徳太郎<br>小栗 良三 林原徳太郎<br>總主 十三年上 十三年下 十三年上<br>總主(名) 三三,三三〇 三三,三三〇 三三,三三〇<br>【大株主】 山口謙太郎 三三,三三〇 日本生命(株) 三三,三三〇<br>富國債兵 三三,三三〇 明治生命(株) 三三,三三〇<br>日清生命 三三,三三〇 安田野村銀行(株) 三三,三三〇<br>伊地知一清 三三,三三〇 小曾根藤子(株) 三三,三三〇<br>【事業規模】(新白) 糖 100,000<br>設備能力(粗糖) 糖 100,000<br>工場別能力(米糖) 糖 100,000<br>第一工場 糖 100,000 第二工場 糖 100,000<br>第三工場 糖 100,000 第四工場 糖 100,000<br>【事業成績】 十三年上 十三年下 十三年上<br>粗糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>甲糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>乙糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>丙糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>丁糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>戊糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>己糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>庚糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>辛糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>壬糖(噸) 11,111 11,111 11,111<br>癸糖(噸) 11,111 11,111 11,111 |
| 【投資】   | 北海製糖、中央製糖                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 【資本】   | 十三年七月九日現在 實收100,000,000<br>三月三十一日現在 實收100,000,000                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十三年<br>株主資本 三三,三三〇 三三,三三〇 三三,三三〇<br>積立金 三三,三三〇 三三,三三〇 三三,三三〇<br>外部負債 六六,六六〇 六六,六六〇 六六,六六〇<br>社債 三三,三三〇 三三,三三〇 三三,三三〇<br>借入金 三三,三三〇 三三,三三〇 三三,三三〇<br>使用總資本 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇<br>固定資産 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇<br>流動資産 〇 〇 〇<br>現金預金 〇 〇 〇<br>【收支】 十三年上 十三年下 十三年上<br>收入 〇 〇 〇<br>支出 〇 〇 〇<br>【名義書換】 十 十 十<br>【時價】 新(三三) 一〇 一〇 一〇<br>【利息】 五分六厘 五分六厘 五分六厘<br>【新券交付】 三十 三十 三十                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

【製糖事業】

### 南洋興發株式會社

(本社) 南洋サイパン島チャランカノア  
(事務所) 東京市麹町區内山下町東拓ビル内(電報座三九二)

【前途樂觀材料多し】本年三月末を以て締切つた上期成績は利益金三百七萬八千圓で、利益率は二割四分六厘であつた。前期に比し一分三厘の低下だ。収入、支出、利益金等が何れも前期より減少したのは耕作耕地の整理の結果産糖高の減少した事、及び雨量の過少による一部工場休止に原因するものであつた。内地砂糖には公定價格が設定されたが、猶ほ採算上有利であり、且又、滿洲、北支方面からの高値需要が依然多く、先行悲觀材料は少く、當社は年産百八十萬擔を目標に増産計畫を進めてゐる。燐礦石は爲替關係から外國からの輸入は制限されてゐるが、農業生産力擴充には缺く可からざる重要肥料の原料だから、當社は目下年産十七萬噸目標に、既開發採礦所の増産と比律資、新南群島の新開發に着手、何れも今年中に出荷の見込みである。その他、蘭領ニューギニアに於ける棉花、樹脂の収益も漸次増加しつつあり、關係投資會社も建設期から發展期に轉入して來たものがある。

【國策の擔當者】南方政策の重要性の高まりつつある今日、國策を全面に擔ふ當社の外南洋方面への發展は矚目すべきものがある。歐洲大戰勃發による當社生産品全般への好影響も期待される。一割二分配當は安泰だ。

|        |                                                                               |        |                                                                                           |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 大正八年十一月                                                                       | 【決算期】  | 三月、九月                                                                                     |
| 【事業】   | 砂糖、澱粉製造、燐礦採取其他                                                                | 【資本金】  | 公稱 1,000,000 實收 1,000,000                                                                 |
| 【株主数】  | 新 111 (株) 舊 1,000 (株)                                                         | 【役員】   | 社長 松江春次 取締役 水野恒路 松田誠一 常務 色部米作 松田誠一 監査 小坂長吉                                                |
| 【大株主】  | 東洋拓殖 1,000 株 松江春次 1,000 株 水野恒路 1,000 株 松田誠一 1,000 株 色部米作 1,000 株 小坂長吉 1,000 株 | 【事業概況】 | 十二年上 十萬九千九百九十九 十二年下 十萬九千九百九十九 十三年上 十萬九千九百九十九 十三年下 十萬九千九百九十九 十四年上 十萬九千九百九十九 十四年下 十萬九千九百九十九 |
| 【投資會社】 | 南洋興發 南洋興發 南洋興發                                                                | 【資産負債】 | 十二年 九三三 十三年 九三三 十四年 九三三                                                                   |
| 【名義書換】 | 十 號                                                                           | 【新券交付】 | 三十 號                                                                                      |

### 昭和製糖株式會社

(本社) 臺灣新竹州苗栗郡苗栗街糖祥字内廠四〇八  
(出張社) 東京市麹町區丸の内二ノ一八昭和ビル内(電九ノ内三三〇)

【日糖へ合併】遂に大日本製糖へ吸収併合せらるゝ運命となつた。昭和二年九月舊臺灣製糖の整理に際し、沖繩の事業地を分離し、臺灣の事業地を基礎に創立せられた會社であるが、爾來十二年間の存立だつた。赤司コンツェルンの一環として發育膨脹を遂げて來たが、この合併を機會に赤司社長は糖界からの引退が傳へられる。

【合併は有利】合併條件は日糖株八三に對し昭和株一〇〇の比率であるから悪くない。而も、日糖は昭和の役員及従業員に對して二百萬圓の解散手當を交付するから、時節柄これに潤ふところ少くない筈だ。株主は本年十月一日より起算して、日糖と同率即ち一割二分の配當金を交付される。立ち寄らば大木の蔭とか、昭和の株主は一轉して大日糖の株主となるから前途は安泰だ。

【日糖第三新株】合併に依り現在の廿五圓拂込の昭和株には、廿五圓拂込の日糖第三新株が發行され、合併比率に依つて割當てられる。即ち、日糖第三新株となるのである。

【日糖に入る重役】日糖への併合期日は来る十二月五日である。即ちこれを期日に昭和の存在は消滅するが、昭和は現業重役中から二名の取締役と一名の監査役を送り込む。現事務の山瀬肇は無論臺灣銀を代表として入社する。臺灣は依然と大株主として残るからだ。

|        |                                                                                             |        |                                                                                           |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 昭和二年九月                                                                                      | 【決算期】  | 三月、九月                                                                                     |
| 【事業】   | 砂糖、澱粉製造、燐礦採取其他                                                                              | 【資本金】  | 公稱 1,000,000 實收 1,000,000                                                                 |
| 【株主数】  | 新 111 (株) 舊 1,000 (株)                                                                       | 【役員】   | 社長 赤司初太郎 取締役 山瀬肇 古賀武徳 常務 山口誠太郎 監査 中川義治 松田誠一 小坂長吉                                          |
| 【大株主】  | 赤司初太郎 1,000 株 山瀬肇 1,000 株 山口誠太郎 1,000 株 古賀武徳 1,000 株 中川義治 1,000 株 松田誠一 1,000 株 小坂長吉 1,000 株 | 【事業概況】 | 十二年上 十萬九千九百九十九 十二年下 十萬九千九百九十九 十三年上 十萬九千九百九十九 十三年下 十萬九千九百九十九 十四年上 十萬九千九百九十九 十四年下 十萬九千九百九十九 |
| 【投資會社】 | 昭和製糖 昭和製糖 昭和製糖                                                                              | 【資産負債】 | 十二年 九三三 十三年 九三三 十四年 九三三                                                                   |
| 【名義書換】 | 十 號                                                                                         | 【新券交付】 | 三十 號                                                                                      |

【製糖事業】



### 北海道製糖

【設立】大正八年六月  
【決算期】六月、十二月  
【事務所】北海道帯廣市東三條十丁目十一  
（東京市麹町区丸の内海上ビル）（電丸之内二）

【前期業績】前期の産糖高は帯廣、磯内兩工場を合せて三十八萬二千四百餘俵に上り、副産物バルブは出来高十八萬二千五百七十俵であった。利益金は三十七萬七千圓で、八分配當を据置いた。  
【今來期業績】今期は前期よりも決算面には幾分よい數字を計上しよう。それは十四年度の甜菜作が増産を豫想されるからだ。播種面積は減少したが、それにも拘らず、天候が順調で、成育極めて良く、三億二、三千萬斤の收量が豫想されるからである。内輪に歩留を二三%と見ても四十一萬五、六千擔の産糖が見込まれる。増益は至である。

|        |           |                  |
|--------|-----------|------------------|
| 【資本金】  | 拂込済       | 100,000,000      |
| 【株数】   | 普通        | 1,000,000        |
| 【重役】   | 社長 松方 正雄  | 取締役 菊池 武三        |
|        | 常務 佐藤 太郎  | 監査 丸山 勇吉         |
|        | 取寄 藤田 徳太郎 | 山本 精吉            |
|        | 森川 利長     | 山本 精吉            |
| 【大株主】  | 十四年六月期    | 山口 誠太郎 1,400,000 |
|        | 十四年六月期    | 山口 誠太郎 1,400,000 |
|        | 十四年六月期    | 山口 誠太郎 1,400,000 |
| 【事業規模】 | 生産能力      | 高 500萬噸          |
| 【事業成績】 | 十七年度      | 十八年度             |
| 【時價】   | 新 100     | 100              |

### 沖繩製糖

【設立】大正二年二月  
【決算期】六月（年一回）  
【事務所】那覇市西新町二ノ一六（電二）  
（東京市麹町区丸の内ノ八條ビル）（電丸之内西）

【無配の繼續】去る六月に決算された本年度成績は記録的の増産に幸されて業績は好轉した。産糖高は四十二萬一千擔に達し、前年度より三割七分の増産が示されたが、併し、コストの昂騰に反して糖價は公定せられた關係から採算は良好でなく計上利益は二十一萬圓に過ぎず、利益率二分八厘だった。これでは問題の復配説が駄目になつたのは致し方ない。併し内容整理に努めた跡が見える。  
【來年度は如何】生産条件の不利の立場にあることは争へない。それを思へば、尙ほ俄に復配は期待されない。來年度の産糖が如何になるか、その見据へがつかぬ内は豫断の時期でないから。

|        |          |                  |
|--------|----------|------------------|
| 【資本金】  | 拂込済      | 75,000,000       |
| 【株数】   | 普通       | 750,000          |
| 【重役】   | 社長 加勢 清雄 | 取締役 高野 三郎        |
|        | 常務 安井 三郎 | 監査 牧山 二郎         |
|        | 取寄 早野 三郎 | 重田 益夫            |
|        | 赤司 初太郎   | 重田 益夫            |
| 【大株主】  | 十四年六月期   | 山本 徳太郎 1,000,000 |
|        | 十四年六月期   | 山本 徳太郎 1,000,000 |
|        | 十四年六月期   | 山本 徳太郎 1,000,000 |
| 【事業規模】 | 生産能力     | 高 500萬噸          |
| 【事業成績】 | 十七年度     | 十八年度             |
| 【時價】   | 新 100    | 100              |

### 大日本麥酒株式會社

【本社】東京市目黒區三田二四七  
【事務所】東京市京橋區京橋三ノ一（相互館）（電京橋六三）

【歐亂と麥酒】麥酒事業は歐亂に依つて躍進を期待せしむる。既に戰亂勃發後幾何もなくして業界は全く情勢を一變した。カルカッタ、埃及、ブラジル等々から大戦見込の注文が旺盛を極め、大日本社だけでもカルカッタへ六千噸、埃及へ一千噸の商談を取り極めた。これが戰亂開始後僅か七日までの出来事である。戰亂の長期化は一段と斯うした傾向を助長するものとして好望視される。  
【問題は原料資材】けれども、其の反面麥酒界には原料ホップ、製糖等の原料補給難がある。製糖補給難は既に上半期來の事だが、未だ、著しい緩和がない。折柄、歐亂の勃發はホップの輸入杜絶を不安視せしめ、折角の躍進期待に懸念を抱かせる。ホップは主として従來獨逸とチエツコに依存したからだ。然し、當社は夙に國産ホップの栽培に注力して來たお蔭を以て今や需要の大半を自給する強味がある。勞々他社に比して好運に乗じ得る餘力がある。  
【下期も夏成績】下期の成績悪化見越には訂正の要がある。減る可く見込まれた數量は却つて増加し、ために原價高はカバーされる。即ち依然たる好採算である。既に需要期を過ぎても賣行の良好状態は續き結局今年度の販賣高は一割五分見當の増大を思はせる。下期の實績は良好で一割二分の配當に不安はない。

【麥酒製造業】

|        |                |                 |
|--------|----------------|-----------------|
| 【設立】   | 明治三十九年三月       |                 |
| 【決算期】  | 六月、十二月         |                 |
| 【事業】   | 麥酒、清涼飲料、藥品     |                 |
| 【資本金】  | 公稱 100,000,000 |                 |
| 【株数】   | 新 1,000,000    |                 |
| 【重役】   | 社長 大橋 新太郎      | 取締役 柴田 清        |
|        | 常務 高橋 龍太郎      | 監査 鈴木 忠治        |
|        | 取寄 渡邊 得男       | 植村 徳二           |
|        | 山本 爲三郎         | 植村 徳二           |
|        | 松丸 新吉          | 植村 徳二           |
|        | 大倉 榮馬          | 植村 徳二           |
|        | 根津 啓吉          | 植村 徳二           |
| 【大株主】  | 十一年上           | 馬場 同族 1,000,000 |
|        | 十一年上           | 馬場 同族 1,000,000 |
|        | 十一年上           | 馬場 同族 1,000,000 |
| 【事業規模】 | 生産能力           | 高 1,000萬噸       |
| 【事業成績】 | 十七年度           | 十八年度            |
| 【時價】   | 新 100          | 100             |

### 麒麟麥酒株式會社

(本社) 横浜市鶴見區生麥町字明神前一七(電報掛川三三)  
(出張所) 東京市京橋區京橋明治屋ビル(電報掛六三三)

【情勢は一變す】 麥酒界の情勢一變は當社を潤すこと間違ひない。下期の採算悪化見越も、業績低下見越も總ては一片の杞憂でしかなく、かつたのである。歐洲戰爭の齎らす好影響は尙ほ今後の楽しみとし、別にしても、既に、内地需要の増加には著しいものがあり、若しも實需そのまゝに順應し得るものとしたら、今年度の各社賣上高は或は二割五分見當への激増を示すかも知れない。然し、これを制約するものに製糧があり、ホップがあり、王冠コルクがある。このために結局のところ一年を通じての賣上増加は、一割五分内外であらう。それにしても、賣上函數の増加は原價高をカバーして餘りあるから業績の良好状態は依然として続く。下期の一割配當は安定的だ。

【歐亂の影響】 歐洲戰爭の齎らす影響は好悪両面がある。輸出の増加を期待せしむることは我が麥酒業を殷盛に導く一大原動力であるが、併し、ホップの輸入杜絶の懸案は看過されない。製糧の供給力も満足ではない。従つて、假にホップは何かの工作に依つて間に合ふとしても結局は内地消費を制限して輸出に振り向ける外はない。何れの場合に於ても醸造會社は好影響をつかみ得るから、今後の成績見越は樂觀に傾くことにならう。當社は國產ホップの自給力が未だ少なく、明後年以後でないかと充分でないことが悩みの一點だ。

【設立】 明治四十年二月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒、清涼飲料、酵母類の製造

【資本金】 株式 10,000

【役員】 社長 伊丹二郎 取締役 伊藤啓之助

専務 磯野長藏 取締役 淺見實一

取替 平沼亮三 江連廣吉

大野原太郎 山岸慶之助

折田清 磯野義雄

【株主数】 十三年上 十三年下 十三年上

【大株主】 明治 三三、八〇 岩崎久彌 二、三三〇

磯野合資 二、三三〇 大日本麥酒 二、三三〇

米井合名 二、三三〇 近藤滋 九、〇〇〇

【事業成績】 十三年上 十三年下 十三年上

【投資】 昭和和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販賣

【資本異動】 十二年十二月至圓(最終) 振込

【資産負債】 十三年 十三年 十三年

株主資本 三、六三三

積立金 一、四六三

外部負債 一、八六一

支拂手形 三、〇〇〇

使用總資本 八、〇〇〇

固定資産 三、〇〇〇

流動資産 五、〇〇〇

現金預金 三、〇〇〇

【收支】 十三年上 十三年下 十三年上

【清算】 十三年上 十三年下 十三年上

【株主】 十三年上 十三年下 十三年上

【基礎】 十三年上 十三年下 十三年上

【時間】 十三年上 十三年下 十三年上

【名義書換】 十三年上 十三年下 十三年上

【設立】 明治四十五年五月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒、清涼飲料、酵母類の製造

【資本金】 株式 10,000

【役員】 社長 伊藤啓之助

専務 磯野長藏 取締役 淺見實一

取替 平沼亮三 江連廣吉

大野原太郎 山岸慶之助

折田清 磯野義雄

【株主数】 十三年上 十三年下 十三年上

【大株主】 明治 三三、八〇 岩崎久彌 二、三三〇

磯野合資 二、三三〇 大日本麥酒 二、三三〇

米井合名 二、三三〇 近藤滋 九、〇〇〇

【事業成績】 十三年上 十三年下 十三年上

【投資】 昭和和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販賣

【資本異動】 十二年十二月至圓(最終) 振込

### 櫻麥酒

### 櫻

### 麥

### 酒

(本社) 仙臺縣門司市大里二八〇五(電門司各一八)  
(支社) 東京市麹町區丸の内丸ビル(電丸之内六三)

【今期業績】 生産能力の最大限度まで發揮してゐる事は喜ばしいが、原料、材料、勞賃、運賃の値上りに依る打撃がある。五月末締切りの上期決算は前年同期に比較して實際上約十萬圓の減益であつた。今期収益は大體十三萬二千圓程度と見積られる。それでも利益率は一割であるから五分配當は窮屈ながら維持しよう。

【打開策要望】 大戰勃發による獨逸からのホップ輸入困難も傳へられる今日、當社は積極的に副業經營に乗り出すか、工場設備の工夫改良によつて生産數量の増加を計るか、なんとか打開策が要望される。上海の佛人經營工場(年産三萬圓)の買収談は目下進行中だ。

|        |                      |
|--------|----------------------|
| 【資本金】  | 株式 10,000            |
| 【役員】   | 社長 木村 尚一 取締役 重高 英一   |
|        | 専務 林 大空 取締役 高橋 仁作    |
|        | 取替 大空 尚一 監査 高橋 仁作    |
|        | 松本 時藏 野田 卯三郎         |
|        | 林 大空 木村 尚一 八八三       |
|        | 中島 徳松 二〇〇 竹中 イク一 八八三 |
| 【事業規模】 | 十三年上 十三年下 十三年上       |
| 【生産能力】 | 年産(單位千圓) 三、〇〇〇       |
| 【時間】   | 十三年上 十三年下 十三年上       |
| 【利息】   | 五分七厘                 |

### 滿洲麥酒

### 滿

### 洲

### 麥

(本社) 滿洲國奉天市大連街二二(電報掛二二)  
(出張所) 東京市京橋區京橋二ノ三米井ビル(電報掛二二)

【躍進した業績】 十三年上、下と二期續けて増配した當社は本年上期よりもや一分増配を斷行した。勿論業績が向上したからで、計上利益は二十一萬八千圓に上つたのである。完成した製糖工場も今期後半から稼働してゐるから嚙の自給による生産費の節減が期待される。造石税は内地と異り据置かれるし、麥酒の需要は増加してゐる。

【増配増産】 如何に好調とはいへ、三期續けて増配したのだから今期は自重するだらう。それに當社は借金が非常に多く資本構成が悪い、増資して借金を返す他手はない。此の爲にも配當力は相當餘裕を持たねばならぬから、増配は自重すべきだ。

|        |                        |
|--------|------------------------|
| 【資本金】  | 株式 10,000              |
| 【役員】   | 社長 磯野長藏 取締役 淺見實一       |
|        | 専務 高橋 仁作 監査 高橋 仁作      |
|        | 取替 水井 尚一 渡邊 得男         |
|        | 毛見 信治 渡邊 得男            |
| 【大株主】  | 康徳六年五月份 眞男 八、〇〇〇       |
|        | 野村信二 三、〇〇〇 山二 株式 〇、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 工場 奉天西區、工業地帯           |
| 【生産能力】 | 年産(單位千圓) 三、〇〇〇         |
| 【時間】   | 十三年上 十三年下 十三年上         |
| 【利息】   | 八分七厘                   |

【製粉事業】

### 日清製粉株式會社

(本社) 東京市日本橋區小網町一ノ二 (電報掛 五九一七)  
(支社) 名古屋市中區廣小路通三ノ三

【最近の製粉界】本年度の原料小麦生産高は一千萬石以上を突破し大豊作であつたにも拘らず、滿洲及北支の特殊事情のため日滿支を一體とするに於ては尙ほ自給自足の域に到らぬと豫想され、小麦相場は却つて異常な暴騰を演ずることゝなつた。此の小麦界暴變を移して製粉界も動搖し、小會社は勿論乍ら、從來自肅して、値段を据置いてゐた日清、日本の兩社も俄然大幅引上の已むなきに至つた。而して斯様な混亂は小麦及び製粉の公定價格制の實施から、輸出統制にまで進むことを豫想せしめるに充分であらう。若し之が實行に移されるならば製粉技術の優秀な大會社、例へば日清製粉の如きは弱小會社に比して頗る有利となる。

【好成績期待】原料小麦の買付は比較的安値物を得て成功した。また輸出値段は引續き高値を告げてをり、好採算に下期の成績はこれまで良好状態に在つた。今後も輸出増に恵まれるものと思ふ。豫想される輸出向出荷高は下期のみで二百萬袋である。即ち前期の約倍額に當る。一割配當繼續に不安は見られない。

【小會社吸収】内地の小麦増産計畫に並行して内地工場を擴充し、更に小製粉會社を吸収合併する方策を採つてゐる。昨年には愛國、常盤を、今年には敷島屋、結城を吸収した。之が日清の行き方だ。

|        |           |        |                                                                                                                                                       |
|--------|-----------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 明治四十年三月   | 【資本】   | 公稱 1,000,000 實收 700,000                                                                                                                               |
| 【決算期】  | 五月、十一月    | 【役員】   | 正社長 正田貞一郎 取締役 加藤 徳雄 常務 星野 唯三 取締役 加藤 徳雄 正田英三郎 取締役 恩買 太一郎 石島爲三郎 取締役 恩買 太一郎 丸山良太郎 相談 根津 高一郎                                                              |
| 【事業】   | 小麦粉製造     | 【株主】   | 大株主 明治生命、石島爲三、日本製粉、帝國生命、正田英三郎、千代田、三井物産、三井生命、中島、中島、西村、久留米、高崎、小川、仁川、山崎、川崎、佐野、坂田、合計、生野、合計、内地製粉、輸出製粉、投資會社、日本製粉、朝鮮製粉、日本製粉、康徳製粉、資本、六月第一回三個月配當、四月常盤製粉合併、萬四増資 |
| 【資産負債】 | 五十二年 五十四年 | 【株主資本】 | 五十二年 五十四年                                                                                                                                             |
| 株主資本   | 1,000,000 | 株主資本   | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 外部負債   | 1,000,000 | 外部負債   | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 支拂手形   | 1,000,000 | 支拂手形   | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 流動資産   | 1,000,000 | 流動資産   | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 固定資産   | 1,000,000 | 固定資産   | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 現金預金   | 1,000,000 | 現金預金   | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 収入     | 1,000,000 | 収入     | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 支出     | 1,000,000 | 支出     | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 消却年率   | 1,000,000 | 消却年率   | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 【時價】   | 新券 100    | 【時價】   | 新券 100                                                                                                                                                |
| 【名義書換】 | 十 錢       | 【名義書換】 | 十 錢                                                                                                                                                   |

### 日本製粉株式會社

(本社) 東京市日本橋區京橋三ノ二 (電報掛 五九一七)  
(支社) 名古屋市中區廣小路通三ノ三 (電報掛 五九一七)

【實値大幅引上】昨春秋以來當社製粉竹印一袋五圓十七錢の自肅値段を續けて來たが、原料小麦が十一圓内外より十三圓臺を示現するといふ暴騰には堪へかねて、八月下旬一袋三十錢の値上を斷行した。然し此の値上にも拘らず表面計算からすれば採算はよいとはいへず若し相當高値の原料を仕入れたものありとせば、内地向製品は大し利益を擧げることが出来ない筈だ。

【輸出依然旺盛】本年上期の輸出向總出荷高は約百萬袋に上つた。今下期も順調で二百萬袋にも達する模様である。之が内地の採算悪化を補つて、下期も亦一割配當を約束するであらう。當社は同業日清、日東に比し業績は良好で利益の蓄積も多いから、採算が多少悪化したとて今直ちに減配することはないとみるべきだ。

【拂込追徴か】一千二百萬圓より二千萬圓への増資は前輯にも報道した如くであり、其の第一回拂込一株十二圓半總額二百萬圓は十月二日徴收される。北支に經營する工場の擴充費に充當するのであるが、主として投資會社東亞製粉を通じて行はれる筈だ。然しこれまでの擴張整備資金は借入金によつて賄つて來たから、今回の拂込金は之に對する返済金にも充てられる譯で、従つて今後の擴充にはまた新に資金を要する。矢張り拂込が豫想される所以である。

【製粉事業】

|        |           |        |                                                                                                                                                       |
|--------|-----------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 明治二十九年十二月 | 【資本】   | 公稱 1,000,000 實收 700,000                                                                                                                               |
| 【決算期】  | 五月、十一月    | 【役員】   | 正社長 正田貞一郎 取締役 加藤 徳雄 常務 星野 唯三 取締役 加藤 徳雄 正田英三郎 取締役 恩買 太一郎 石島爲三郎 取締役 恩買 太一郎 丸山良太郎 相談 根津 高一郎                                                              |
| 【事業】   | 小麦粉製造     | 【株主】   | 大株主 明治生命、石島爲三、日本製粉、帝國生命、正田英三郎、千代田、三井物産、三井生命、中島、中島、西村、久留米、高崎、小川、仁川、山崎、川崎、佐野、坂田、合計、生野、合計、内地製粉、輸出製粉、投資會社、日本製粉、朝鮮製粉、日本製粉、康徳製粉、資本、六月第一回三個月配當、四月常盤製粉合併、萬四増資 |
| 【資産負債】 | 五十二年 五十四年 | 【株主資本】 | 五十二年 五十四年                                                                                                                                             |
| 株主資本   | 1,000,000 | 株主資本   | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 外部負債   | 1,000,000 | 外部負債   | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 支拂手形   | 1,000,000 | 支拂手形   | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 流動資産   | 1,000,000 | 流動資産   | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 固定資産   | 1,000,000 | 固定資産   | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 現金預金   | 1,000,000 | 現金預金   | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 収入     | 1,000,000 | 収入     | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 支出     | 1,000,000 | 支出     | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 消却年率   | 1,000,000 | 消却年率   | 1,000,000                                                                                                                                             |
| 【時價】   | 新券 100    | 【時價】   | 新券 100                                                                                                                                                |
| 【名義書換】 | 十 錢       | 【名義書換】 | 十 錢                                                                                                                                                   |

### 日東製粉株式會社

(本社) 東京市豊町區丸の内八重洲ビル(電九ノ内電話一七)

【配當窮屈化】原料小麦の昂騰は製粉會社にとつて容易ならぬ問題となつた。原料高に伴れて製品の値上を断行し得るならぬに、食料品の値上抑制を必ずしも之に追隨し得ないからである。殊に製造規模の比較的大ならざる當社にとつては採算の悪化は免れない。輸出を有利に行ふ所は此の方面の利益で好成绩を挙げ得るが、當社は素々輸出に成功してゐない會社だ。所謂山の工場で地の理を得てゐないことに基因する。最近の成績は寧ろ下り坂である。資本負擔の壓迫で一割配當は窮屈である。製粉界が餘程好轉しない以上、先行減配懸念がある。

【北支進出に期待】當社の有力な支柱をなしてゐた滿洲日東製粉は、同國に於ける統制強化でとかく操短され勝ちであり、前期は二分減配した程で今後は之に餘り大きな期待を持ち得なくなつた。將來への希望は寧ろ北支の日支合辦事業に望みが繋がる。現在某取締役が渡支して其の整備充實に當つてをり、次第に所期の目的を達成しつゝある如くだ。中支方面に於ても福新、金龍兩工場を足場として事業擴張が豫想される。尤も之等は經營が一應當社と切離されるから、其のまゝ當社に好収益を賣すものと速断してはならない。況や事業そのものに幾多の困難が伴ふに於てをやだ。

### 日滿製粉株式會社

(本社) 滿洲國哈爾濱特別市道里區警察街第五十一號(事務所) 東京市豊町區内幸町大坂ビル(電銀座二、〇七二)

【經營者更迭】中澤専務の東拓理事就任で經營者の一部が更迭する模様である。既に前東京出張所長佐々木氏が常務に就任してゐるが十月開催される定時株主總會で他の重役がどう動くか遽かに豫断を許さない。然し東拓の有力投資會社であり、滿洲國に於ける製粉事業の重要性に鑑みても、有力人物が入るのには確實であらうし、更に内地製粉會社より重役陣に加つてゐる者が漸次退場をみるのではなにかとも想像される。唯だ此の問題が當社の業績に影響するとは思はれない。

【下期豫想】前年度の原料小麦不作で操業率は低下したが、此の不利を補ふため高粱米の製造に意を注ぎ切抜け策をとつた。製粉總出荷高は八月末までに百七十萬袋を超えたらしく、一袋當り十七錢平均の利益とみて總利益二十九萬圓に達する。之に包米粉、高粱米、藥品ホンダミン其の他の利益を十三萬圓見當と推定すれば四十二萬圓となる。利益率は一割五分に當り七分配當は据置ける。

【前途】滿洲國に於ける本年度の小麦收穫高は前年度より増收となること確實で、従つて今後の操業率は向上する筋合にある。然し食料品に對する統制は一層強化されんとする傾向にあり、依然企業的妙味に乏しいといはねばならぬ。

|        |                                                                                                                                                                                     |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 昭和五年十二月                                                                                                                                                                             |
| 【決算期】  | 五月、十一月                                                                                                                                                                              |
| 【事業】   | 小麦粉製造販賣                                                                                                                                                                             |
| 【資本金】  | 公稱 1,000,000 円                                                                                                                                                                      |
| 【株主】   | 新 1,000 名                                                                                                                                                                           |
| 【重役】   | 社長 本真 眞平<br>取締役 日向 謙三、大川 鐵三、松本 眞一、高野 計二、御園 謙三、相澤 謙三、大倉 眞一、大川 鐵三、相澤 謙三、若崎 清七                                                                                                         |
| 【大株主】  | 川島屋商店 1,000,000 円、松本 眞一 1,000,000 円、田中 眞一 1,000,000 円、竹内 眞一 1,000,000 円、松本 眞一 1,000,000 円、正巳 眞一 1,000,000 円、大川 鐵三 1,000,000 円、合名 眞一 1,000,000 円、相澤 謙三 1,000,000 円、松本 眞一 1,000,000 円 |
| 【事業規模】 | 工場別能力(パーセント)<br>深谷工場 100%<br>木崎工場 100%<br>名古屋工場 100%<br>千代田工場 100%<br>滿洲日東製粉(新京工場) 100%<br>滿洲日東製粉(奉天工場) 100%<br>生高(奉天) 100%<br>在荷高(奉天) 100%                                         |
| 【投資會社】 | 日滿製粉、滿洲日東製粉                                                                                                                                                                         |
| 【資本異動】 | 十年十月第二日東製粉(資本 5,000,000 圓)併合、日滿製粉(資本 5,000,000 圓)併合                                                                                                                                 |

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 【資産負債】 | 十二年 五月          |
| 株主資本   | 5,000,000       |
| 積立金    | 7,000,000       |
| 外部負債   | 7,000,000       |
| 社債     | 7,000,000       |
| 支拂手形   | 7,000,000       |
| 使用總資本  | 10,000,000      |
| 固定資産   | 10,000,000      |
| 流動資産   | 10,000,000      |
| 現金預金   | 10,000,000      |
| 【收支勘定】 | 十二年上 10,000,000 |
| 収入     | 10,000,000      |
| 支出     | 10,000,000      |
| 【業績】   | 十二年上 10,000,000 |
| 株主資本   | 10,000,000      |
| 積立金    | 10,000,000      |
| 外部負債   | 10,000,000      |
| 社債     | 10,000,000      |
| 支拂手形   | 10,000,000      |
| 使用總資本  | 10,000,000      |
| 固定資産   | 10,000,000      |
| 流動資産   | 10,000,000      |
| 現金預金   | 10,000,000      |
| 【標準配當】 | 十二年上 10,000,000 |
| 配當率    | 10,000,000      |
| 【時價】   | 新 10,000,000    |
| 【名義書換】 | 十 10,000,000    |

|        |                                                                                                                                                                                     |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 昭和九年六月                                                                                                                                                                              |
| 【決算期】  | 二月、八月                                                                                                                                                                               |
| 【事業】   | 製粉製造及販賣、穀物の賣買                                                                                                                                                                       |
| 【資本金】  | 公稱 1,000,000 円                                                                                                                                                                      |
| 【株主】   | 新 1,000 名                                                                                                                                                                           |
| 【重役】   | 社長 中澤 眞一、取締役 加藤 謙三、大川 鐵三、松本 眞一、高野 計二、御園 謙三、相澤 謙三、大倉 眞一、大川 鐵三、相澤 謙三、若崎 清七                                                                                                            |
| 【大株主】  | 川島屋商店 1,000,000 円、松本 眞一 1,000,000 円、田中 眞一 1,000,000 円、竹内 眞一 1,000,000 円、松本 眞一 1,000,000 円、正巳 眞一 1,000,000 円、大川 鐵三 1,000,000 円、合名 眞一 1,000,000 円、相澤 謙三 1,000,000 円、松本 眞一 1,000,000 円 |
| 【事業規模】 | 工場別能力(パーセント)<br>深谷工場 100%<br>木崎工場 100%<br>名古屋工場 100%<br>千代田工場 100%<br>滿洲日東製粉(新京工場) 100%<br>滿洲日東製粉(奉天工場) 100%<br>生高(奉天) 100%<br>在荷高(奉天) 100%                                         |
| 【投資會社】 | 日滿製粉、滿洲日東製粉                                                                                                                                                                         |
| 【資本異動】 | 十年十月第二日東製粉(資本 5,000,000 圓)併合、日滿製粉(資本 5,000,000 圓)併合                                                                                                                                 |

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 【資産負債】 | 十二年 五月          |
| 株主資本   | 5,000,000       |
| 積立金    | 7,000,000       |
| 外部負債   | 7,000,000       |
| 社債     | 7,000,000       |
| 支拂手形   | 7,000,000       |
| 使用總資本  | 10,000,000      |
| 固定資産   | 10,000,000      |
| 流動資産   | 10,000,000      |
| 現金預金   | 10,000,000      |
| 【收支勘定】 | 十二年上 10,000,000 |
| 収入     | 10,000,000      |
| 支出     | 10,000,000      |
| 【業績】   | 十二年上 10,000,000 |
| 株主資本   | 10,000,000      |
| 積立金    | 10,000,000      |
| 外部負債   | 10,000,000      |
| 社債     | 10,000,000      |
| 支拂手形   | 10,000,000      |
| 使用總資本  | 10,000,000      |
| 固定資産   | 10,000,000      |
| 流動資産   | 10,000,000      |
| 現金預金   | 10,000,000      |
| 【標準配當】 | 十二年上 10,000,000 |
| 配當率    | 10,000,000      |
| 【時價】   | 新 10,000,000    |
| 【名義書換】 | 十 10,000,000    |

### 森永製菓株式会社

(本社) 東京市芝区田町一ノ二(電三田三三三)

【實行良好】上期(本年三月末締切)は近年の最高成績であつたが下期も前期に劣らぬ賣行を示した模様である。最近の如く景氣が都會は勿論地方にまで浸潤して來た上に、朝鮮や滿洲方面からの需要が激増してゐる爲め、當社は其の註文に應じきれない程である。従つて今日では以前の如く販賣方面に頭を悩ます必要もなく、また廣告その他の経費も賣行増加の割にかけなくて済むやうになつた。この點は當社の如き宣傳に力を用ひなければならぬ事業にとつては經費の上からも大助りである。

【コスト増高】併し他方に於て製造や仕入の方面に力を注ぐ要が起つて來た。と言ふのは、周知の如く砂糖を始め小麥その他の原料やプリキ、木材等の材料の品不足が非度となつてゐるので、その手當に骨が折れる。またそれ等原料、材料代の昂騰、賃銀高によつてコスト高の影響は免れない。従つて賣行の増加の割に利益は殖えない。併し乍ら、本年下半年も前期並の成績は擧げ得たことと思ふ。尙ほまた子會社の成績も順調で、食品工業もこの下期から五分程度の初配當を行ふであらう。

【増配期待】配當を何うするかは不明だが、業績から行けば現行八分配當は樂で増配は可能である。結局増配は時期の問題であらう。

### 明治製菓株式会社

(本社) 東京市京橋區京橋二ノ八(電京橋三三三)

【賣上は更新記録】菓子事業には漸く受難期の到來を思はずものがあるが、未だ、當社の今年九月份は順調である。當社の菓子は菓子と乳製品と市乳と食品罐詰と云ふ如くに複雑だ。これらの四九月份間に於ける總賣上高は、大約千八百萬圓に達するものと見られてゐる。月三十萬圓平均の賣上である。この限り本年前半の記録は更新されて創業以來の新記録がまた作られる。内需向には著しい變化がないのに輸出と軍需向とが依然旺盛な關係から利益割合は良く

【八分配當維持】輸出と軍需向の旺盛な關係から利益割合は良くて賣上高の六分見當、先づ安全な處は五分五厘見當だ。内輪に五分五厘の利潤と見れば大約百萬圓の利益である。上期並に前年同期に比較して十六萬乃至七萬圓の増益がある。併し、當期も子會社の合併に依つて拂込金の上には百萬圓の増加があるので利益率には著しい向上はないが、八分の配當維持に問題ない。

【來期以降が問題】砂糖の強制節約には影響を蒙らざるを得まい。菓子も、乳製品も罐詰もすべて砂糖を加工原料品とするからだ。併し、菓子は製品内容の轉換に依り、また乳製品、食品罐詰等は極力輸出の増進に依つて賣上の増加に努め、成績維持の工作が進められよう。來るべき受難期を如何に克服すかは重大關心事である。

|         |                                                                                                                                                                                |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】    | 明治四十三年二月                                                                                                                                                                       |
| 【決算期】   | 三月、九月                                                                                                                                                                          |
| 【事業】    | キャラメル、チョコレート其他菓子類                                                                                                                                                              |
| 【資本金】   | 公稱10,000,000 換込人、高西(500)、西(500)、西(500) 新(10,000,000) 西(500)                                                                                                                    |
| 【役員】    | 社長 松崎牛三郎<br>常務 大串 松次、取崎 中村 芳三、白川 昭一、監査 武智直道、取崎 益田 太郎、櫻井 小一                                                                                                                     |
| 【株主数】   | 五十一、五五七名(五十一、五五七名)                                                                                                                                                             |
| 【大株主】   | 森永製菓(株) 4,900,000、丸三三(株) 4,000,000、森永太平 4,600,000、松崎牛三郎 4,000,000、帝國生命 4,000,000、森永製菓 3,000,000、味の素本舖 3,000,000、三興證券 3,000,000                                                 |
| 【事業成績】  | 十一年上 十一年下 十三年上 十三年下 賣上高各百圓 8,000,000、10,000,000                                                                                                                                |
| 【直接子會社】 | ナシ(十一年上) 一、一五五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇<br>乳(一、一五五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇)<br>牛(一、一五五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇)<br>食品工業(一、一五五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇)<br>總計(一、一五五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇) |
| 【投資會社】  | 森永キャンディー・ストア、森永煉乳、森永牛乳、食品工業其他                                                                                                                                                  |
| 【資本異動】  | 十二年十二月二十五日高價増資第一回(300,000)換込換收                                                                                                                                                 |

|        |                                                                                         |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資産負債】 | 十二年 九十二年 十四年                                                                            |
| 株主資本   | 33,770,000 33,770,000 33,770,000                                                        |
| 借入金    | 10,000,000 10,000,000 10,000,000                                                        |
| 外部負債   | 23,770,000 23,770,000 23,770,000                                                        |
| 支拂手形   | 2,000,000 2,000,000 2,000,000                                                           |
| 流動資産   | 6,800,000 6,800,000 6,800,000                                                           |
| 固定資産   | 26,970,000 26,970,000 26,970,000                                                        |
| 現金預金   | 6,800,000 6,800,000 6,800,000                                                           |
| 【收支約定】 | 十二年上 十一年上 十一年下 十二年上 十二年下 十三年上 十三年下 十四年上                                                 |
| 收入     | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 支出     | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 【業績】   | 十二年上 十二年下 十三年上 十三年下 十四年上                                                                |
| 純利益    | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000                                  |
| 【株】    | 高値 安値 高値 安値 高値 安値 高値 安値 高値 安値                                                           |
| 【配當】   | 十二年上 十二年下 十三年上 十三年下 十四年上                                                                |
| 配當率    | 8% 8% 8% 8% 8%                                                                          |
| 【時價】   | 新330 利割 五分八厘                                                                            |
| 【名義書換】 | 十 新發交付 五十                                                                               |

|                          |                                                                                                                                                                  |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】                     | 大正五年十月                                                                                                                                                           |
| 【決算期】                    | 三月、九月                                                                                                                                                            |
| 【事業】                     | 各種菓子及乳製品                                                                                                                                                         |
| 【資本金】                    | 各種菓子及乳製品 10,000,000                                                                                                                                              |
| 【役員】                     | 会長 相馬 半治、取締役 藤野 幹、社長 有馬 健助、佐々木 清吉、本務 植根 一郎、監査 山本 留次、常務 植根 一郎、古谷 辰四郎、字號 藤野 三木富貴子、小出 謙明、山成 善六、田上 謙一、大塚 寛                                                           |
| 【株主数】                    | 十一年上 十一年下 十三年上 十三年下 十四年上                                                                                                                                         |
| 【大株主】                    | 明治製菓 10,000,000、古谷辰四郎 5,000,000、相馬 半治 5,000,000、有馬 健助 5,000,000、藤野 幹 5,000,000、今井 龍二 5,000,000、藤野 三木富貴子 5,000,000、山成 善六 5,000,000、田上 謙一 5,000,000、大塚 寛 5,000,000 |
| 【事業規模】                   | 工場所在地並製品<br>菓子 山崎、戸畑、奉天、羽扇、諷山、乳製品 旭川、木古内、八雲、札幌、名寄、豊平、登別、上ノ山、牛乳 函館、札幌、大塚                                                                                          |
| 【事業成績】                   | 十一年上 十一年下 十三年上 十三年下 十四年上                                                                                                                                         |
| 賣上高(各百圓)                 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000                                                                                                           |
| 製造費(一〇〇、六三三、六三三、六三三、六三三) | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000                                                                                                           |
| 【關係會社】                   | 明治製菓の子會社                                                                                                                                                         |
| 【資本異動】                   | 十一年四月明治製菓、函館菓子、山崎煉乳合併(300萬圓増資、十二年十月二回五割換込換收)                                                                                                                     |

|        |                                                                                         |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資産負債】 | 十二年 九十二年 十四年                                                                            |
| 株主資本   | 11,200,000 11,200,000 11,200,000                                                        |
| 借入金    | 11,200,000 11,200,000 11,200,000                                                        |
| 外部負債   | 22,400,000 22,400,000 22,400,000                                                        |
| 支拂手形   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000                                                           |
| 流動資産   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000                                                           |
| 固定資産   | 21,400,000 21,400,000 21,400,000                                                        |
| 現金預金   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000                                                           |
| 【收支約定】 | 十二年上 十一年上 十一年下 十二年上 十二年下 十三年上 十三年下 十四年上                                                 |
| 收入     | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 支出     | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 【業績】   | 十二年上 十二年下 十三年上 十三年下 十四年上                                                                |
| 純利益    | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000                                  |
| 【株】    | 高値 安値 高値 安値 高値 安値 高値 安値 高値 安値                                                           |
| 【配當】   | 十二年上 十二年下 十三年上 十三年下 十四年上                                                                |
| 配當率    | 8% 8% 8% 8% 8%                                                                          |
| 【時價】   | 新330 利割 五分三厘                                                                            |
| 【名義書換】 | 十 新發交付 二十五                                                                              |

### 日本發送電株式會社

(創立事務所) 東京市町田區大手町二ノ四 (電九ノ内五ノ一)

【客觀狀勢は不利】當社は電力國家管理の實現によつて、本年四月一日から全國主要送電線と火力設備をもつて營業を開始した會社だ。既設電力會社から水力電氣を買入れ、これに自社の火力發電を補給して小賣(配電)會社に賣るのである。この電力一手卸賣をやる傍ら、並行的に水力資源の大規模開發を行ふのだ。處が今日のやうな狀況になつて來ると、資材、勞働力の拂底から建設工事は計畫通り行きさうになく、就中石炭の騰貴、品不足は、日發の中心事業たる火力發電に致命的影響を與へることゝなつた。

【大湯水の影響】かゝる客觀情勢にあつた中で、七、九月の西日本に於ける大湯水に見舞はれたのだ。水力發電の急低下のため、當社はその有する一萬キロ以上の火力發電を總動員したのは周知の通りである。處が石炭の手當難の上に更に कोरोリ の大低下に災され、頼みとする火力發電も充分の効力を發揮出來なかつた。そこで中國、近畿から始まり名古屋、東京へと供電制限の問題が大きく擴がつて來たのである。然し當社としては結局火力をフル運轉したので、石炭消費量は急増し、豫算の大狂はせとなつた。問題はこれで豫算以外の支出がどれ程増大したかだが、本稿執筆までには尙ほ正確な數字は判らぬ。然し六分配當は餘程の無理をせぬと實現困難だ。

### 東京電燈株式會社

(本社) 東京市芝區田村町一ノ一 (電燈座三三)

【地域の優秀性】電力國家管理の實現で、既設電力會社に興味がなくなつたのは事實だが、然し配電部門の残された會社は、これを擴充することによつて發展の餘地が見いだせた。殊に日本一の優秀供給地盤を有する當社の如きは、此の點に於て同業他社より著しく恵まれた。その證據には下表に見る通り、五ヶ月の増収は記録的で、利益率に於ても二割四厘と云ふ今迄にない好成绩を擧げてゐる。軍需産業のお蔭で、電力収入が對前年毎月二百萬圓も増したからだ。

【供電制限の打撃】この傾向は極く最近まで續いたが、こゝに突如電力供給制限問題がもち上つた。當社の制限量は全關東の約八割で、八月三十一日より八萬キロ、九月十日より十六萬キロの制限である。一日當キロワット時に換算して、従来の販賣電力量の約二割五分減に當る模様だ。すると之が當社業績の上にどう響くかが、差當り十一月期に於て約四百萬圓の減益となる。

【悪材料重なる】一方發送電が九月末決算で減配するやうなことになる、當社の配當収入はそれだけ減少する。又大戰の勃發で對米爲替が急落したが、これによる米貨債利拂増は相當なものである。悪材料山積の形だが、このため八分配當は崩れはしない。然し供電制限が永びくならば、収益の伸力を釘付けするので打撃は大きい。

|               |                                                                                                                                                                                              |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】          | 昭和十四年三月                                                                                                                                                                                      |
| 【決算期】         | 三月、九月                                                                                                                                                                                        |
| 【事業】          | 電力設備及其附屬設備を爲し政府管理に關する發送電                                                                                                                                                                     |
| 【資本金】         | 公稱 六、〇〇〇、〇〇〇                                                                                                                                                                                 |
| 【株数】          | 現物出資(50,000株) 30,000株<br>公債株式(10,000株) 10,000株<br>増田大郎 10,000株<br>池尾芳藏 10,000株<br>林安太郎 10,000株<br>竹内久治 10,000株<br>磯村正太郎 10,000株<br>小倉正太郎 10,000株<br>鈴木忠治 10,000株                             |
| 【重役】          | 社長 増田大郎<br>副社長 池尾芳藏<br>理事 小野竹馬、新井榮一、藤野實一、岸田幸雄、常野、水松利雄、寶來一松、小林一三                                                                                                                              |
| 【附屬四十條に依り出資者】 | 東京電燈 10,000株<br>京濱電力 10,000株<br>大田電力 10,000株<br>中央電力 10,000株<br>日本電力 10,000株<br>矢作電力 10,000株<br>東邦電力 10,000株<br>昭和電力 10,000株<br>宇治川電力 10,000株<br>南海電力 10,000株<br>大阪市 10,000株<br>阪神電氣 10,000株 |
| 【附屬株式数】       | 東京電燈 10,000株<br>京濱電力 10,000株<br>大田電力 10,000株<br>中央電力 10,000株<br>日本電力 10,000株<br>矢作電力 10,000株<br>東邦電力 10,000株<br>昭和電力 10,000株<br>宇治川電力 10,000株<br>南海電力 10,000株<br>大阪市 10,000株<br>阪神電氣 10,000株 |
| 【時價】          | 十四年九月期四分<br>【利息】 三分八厘                                                                                                                                                                        |

|         |                                                                                                                                                                                              |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】    | 明治十六年二月                                                                                                                                                                                      |
| 【決算期】   | 五月、十一月                                                                                                                                                                                       |
| 【事業】    | 電燈、電力供給                                                                                                                                                                                      |
| 【資本金】   | 公稱 一、〇〇〇、〇〇〇                                                                                                                                                                                 |
| 【株数】    | 東京電燈 10,000株<br>京濱電力 10,000株<br>大田電力 10,000株<br>中央電力 10,000株<br>日本電力 10,000株<br>矢作電力 10,000株<br>東邦電力 10,000株<br>昭和電力 10,000株<br>宇治川電力 10,000株<br>南海電力 10,000株<br>大阪市 10,000株<br>阪神電氣 10,000株 |
| 【重役】    | 社長 小林一三<br>副社長 新井榮一<br>理事 藤野實一、岸田幸雄、常野、水松利雄、寶來一松、小林一三                                                                                                                                        |
| 【附屬株式数】 | 東京電燈 10,000株<br>京濱電力 10,000株<br>大田電力 10,000株<br>中央電力 10,000株<br>日本電力 10,000株<br>矢作電力 10,000株<br>東邦電力 10,000株<br>昭和電力 10,000株<br>宇治川電力 10,000株<br>南海電力 10,000株<br>大阪市 10,000株<br>阪神電氣 10,000株 |
| 【時價】    | 十四年九月期四分<br>【利息】 三分八厘                                                                                                                                                                        |

|        |                       |
|--------|-----------------------|
| 【資産負債】 | 廿三年 十三月 五十四年          |
| 株主資本   | 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 積立金    | 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 外部負債   | 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 借入金    | 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 使用總資本  | 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 固定資産   | 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 投資資産   | 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 流動資産   | 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 現金預金   | 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 【收支勘定】 | 廿三年上 廿三年下 廿四年上        |
| 収入     | 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 支出     | 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 【業績】   | 廿三年上 廿三年下 廿四年上        |
| 売上     | 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 費用     | 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 【株主配當】 | 廿三年上 廿三年下 廿四年上        |
| 配當     | 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 【時價】   | 十四年九月期四分<br>【利息】 三分八厘 |

### 東邦電力株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内海上ビル内(電九ノ内 西三ノ七)

【四子會社創立】毎回報道の如く、當社は豫てから、その投資部面を通じて時局産業への乗り出しを企圖してゐたが、今春四つの子會社を設立し、愈々本格的に多角經營に乗り出した。東邦重工業、西樺太鑛業、東亞精糖、東洋電化、がそれだ。東邦重工業、東亞精糖は共に時局の先頭に立つ特殊鋼、合金用スポンジ鐵の製造をなすものだから期待は大きい。西樺太鑛業は西樺太の優秀炭礦から採炭するものだが、石炭不足の折から、計畫目標年産三十萬噸の採炭を急いでゐる。東洋電化は臺灣の花蓮港の工場で、低度燐礦石を原料として各種の燐酸肥料及化成肥料を製造するものである。

農産物増産に伴つて燐酸肥料の不足が叫ばれてゐる今日、當社への期待も尠くない。以上四社は何れも創立早々で、事業を始めるに至つてゐないが、何れも時局向産業なので前途に樂みがある。

【本業も業績順調】一方本業の電氣供給事業も、生産擴充で電力需要は増大し増収が著しい。供給區域が本邦礦工業の中心部だから、今後の需要は増大する一方だ。今期も業績順調八分配は安泰。

【減資】六月一日東邦證券保有を、證券株十株對當社株七株半の割合で吸収合併した。これで當社資本金は五百萬圓減の二億六千百萬圓となり、之によつて資産内容は一段と良化したわけだ。

### 日本電力株式會社

(本社) 大阪市北區宗室町一番地(電土佐堀 六六〇一八)

【供給制限】電力供給逼迫の關係から、當社も亦六萬キロ餘の供給制限を實施して居る。當社の販賣電力(日發への買却分を除く)は五十萬キロを突破して居ると推定されるが、さうとすれば一割餘の供給制限を行つて居る勘定だ。

【影響】此の様に供電の大制限を行ふと云ふことは未曾有のことであつて、それ自體重大問題に相違ないが、これは暫く措き、此の制限の結果、業績にどうした影響を及ぼすかと云ふに、今後更に大幅の制限を行はねばならぬとすれば兎に角、今のところではさほど大きな悪影響は蒙らぬと想像される。殊に九月締切の本年下期は制限を始めたばかりだから、これと云ふ打撃はない。

【問題】只、發送電が豫定の六分配當を實施せず、一分乃至はそれ以上の減配を行へば當社も尠からぬ不利益を蒙る。當社の日發株保有数は二百二十萬株で、此の拂込額は一億八百五十萬圓に當るが、これの配當が後期に五分とすれば、六分配當の時よりも半期五十餘萬圓の配當収入減となり、四分五厘と押えれば八十餘萬圓の減収となるのだ。これは大問題と云はねばなるまい。

【七分維持】然し、當社は資産に大きな含みを有するから、現行七分の配當に縛の入る様なことはないと思ふ。

|        |                                                                   |        |                                                                              |
|--------|-------------------------------------------------------------------|--------|------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 明治三十八年十一月                                                         | 【設立】   | 大正八年十二月                                                                      |
| 【決算期】  | 四月、十月                                                             | 【決算期】  | 三月、九月                                                                        |
| 【事業】   | 電燈、電力供給                                                           | 【事業】   | 電力卸賣、電燈、電力供給                                                                 |
| 【資本金】  | 三六〇,〇〇〇                                                           | 【資本金】  | 三六〇,〇〇〇                                                                      |
| 【株主】   | 松永安左衛門、相三太郎、小坂、高橋、大島、田中、三浦、西川、和田、豊田、丸山、名取、春吉、豊田、丸山、三浦、西川、和田、名取、春吉 | 【株主】   | 千代田生命、明治生命、第一生命、東京生命、日本生命、安田生命、日電證券、千代田生命、明治生命、第一生命、東京生命、日本生命、安田生命           |
| 【役員】   | 社長 松永安左衛門、副社長 相三太郎、常務 高橋、大島、田中、三浦、西川、和田、名取、春吉                     | 【役員】   | 社長 池尾芳雄、副社長 内藤嘉喜、専務 高津啓一、大石直次郎、取締役 石野正太郎、藤野門、木原政三、上野善造、齋藤孝二、三木國太郎、寺村富次、六角宇太郎 |
| 【事業成績】 | 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                               | 【事業成績】 | 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                                          |
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十三年 十三年                                                   | 【資産負債】 | 十三年 十三年 十三年 十三年                                                              |
| 【時價】   | 五錢                                                                | 【時價】   | 五錢                                                                           |
| 【名義書換】 | 五錢                                                                | 【名義書換】 | 五錢                                                                           |

|        |                                                                              |        |                                                                              |
|--------|------------------------------------------------------------------------------|--------|------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 大正八年十二月                                                                      | 【設立】   | 大正八年十二月                                                                      |
| 【決算期】  | 三月、九月                                                                        | 【決算期】  | 三月、九月                                                                        |
| 【事業】   | 電力卸賣、電燈、電力供給                                                                 | 【事業】   | 電力卸賣、電燈、電力供給                                                                 |
| 【資本金】  | 三六〇,〇〇〇                                                                      | 【資本金】  | 三六〇,〇〇〇                                                                      |
| 【株主】   | 千代田生命、明治生命、第一生命、東京生命、日本生命、安田生命、日電證券、千代田生命、明治生命、第一生命、東京生命、日本生命、安田生命           | 【株主】   | 千代田生命、明治生命、第一生命、東京生命、日本生命、安田生命、日電證券、千代田生命、明治生命、第一生命、東京生命、日本生命、安田生命           |
| 【役員】   | 社長 池尾芳雄、副社長 内藤嘉喜、専務 高津啓一、大石直次郎、取締役 石野正太郎、藤野門、木原政三、上野善造、齋藤孝二、三木國太郎、寺村富次、六角宇太郎 | 【役員】   | 社長 池尾芳雄、副社長 内藤嘉喜、専務 高津啓一、大石直次郎、取締役 石野正太郎、藤野門、木原政三、上野善造、齋藤孝二、三木國太郎、寺村富次、六角宇太郎 |
| 【事業成績】 | 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                                          | 【事業成績】 | 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                                          |
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十三年 十三年                                                              | 【資産負債】 | 十三年 十三年 十三年 十三年                                                              |
| 【時價】   | 五錢                                                                           | 【時價】   | 五錢                                                                           |
| 【名義書換】 | 五錢                                                                           | 【名義書換】 | 五錢                                                                           |

### 宇治川電氣株式會社

(本社) 大阪市北區梅ヶ枝町一丁目(電北三三三一)  
(出張所) 京都市東區大津町大板ビル内(電東三三三)

【制限量】 當社は目下約五萬キロの供給制限を實施して居る。その全販賣電力は約二十五萬キロだから、二割餘の制限と云ふことになる。未嘗有の供給制限と云ふべきだ。

【向上阻止】 これは何と云つても痛手に相違ない。供給電力が減じたゞけ日發からの買電も少く済むとは云ふものの、營業の範圍が狭まればそれに從つて収益が低下するからだ。尤も、右の程度の制限であれば、まだ業績上兎や角云ふ程の打撃はない。けれども、それが今後強化される様なことがあれば問題だ。何れにしても此の供給制限は業績の向上を阻止するものである。一方、當社は日發株を相當所有して居るが、日發はどうかや減配の模様だから、これ亦當社には不利なわけだ。

【配當措置】 かうした關係で、當社は目下伸び悩みの状況にあるけれども、それかと云ふて現行六分の配當は別段懸念する程のことではないと思ふ。差當つて九月締切の本年下期は右の供給制限を開始して間も無くのことだから、これの影響は殆んどない。従つて業績も大體良好と押えて間違なく、六分配當は無論據置だ。これを要するに當面業績は不済えながら、何とか切り抜けて極力現配當を維持すると思像される。

### 九州水力電氣株式會社

(本社) 福岡縣福岡市大字庄三五(電西三五)  
(出張所) 京都市東區大津町之内三ノ二(電東六九ノ内三九)

【五月期良好】 當社の五月期業績は、電燈、電力料の増収で、良好であつた。利益金五百六十八萬八千圓、利益率一割一分七厘で七分配當を据置いた。前年同期に比して利益金は三十萬三千圓、利益率は六分の増加である。このために前報報道の如く、去る五月期は、銷却金を百七十萬圓に増加した。期末に於ける契約電力は、大口、小口、合計で十七萬五千三百七十七キロで前期に比して、三千七百六十キロの増加である。電燈、電力共に、一般供給區域の擴大と、炭坑、重工業方面の大口需要が増加してゐるのだから、増益は當然である。又最近九軌の電燈電力部門が九水に譲渡される事に九軌の重役會で決定したから、本年中にはこの譲渡は實現しよう。電力部門がそれだけ擴大されたわけだ。

【傍系會社増配】 九軌は運輸關係に空前の活況を呈し、前期は三十週年記念として一分の記念配當をつけ合計七分の配當を行つた。又九州保全も去る六月締切の決算に於て、一分増の三分配をなし、九州送電も亦一分増配を行つてゐる。

【今後の業績】 右の如く傍系會社からの配當収入は、増加する上に、供給區域の工業的躍進に依つて電燈、電力料は増加の一方だ。發送電からの供給電力は今後三ヶ年契約済だから七分配當に懸念はない。

|          |                                                                          |
|----------|--------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】     | 明治三十九年十月                                                                 |
| 【決算期】    | 三月、九月                                                                    |
| 【事業】     | 電燈、電力供給                                                                  |
| 【資本金】    | 公稱 1,000,000 拂込 1,000,000                                                |
| 【株数】     | 新(50,000) 1,000,000                                                      |
| 【役員】     | 社長 安藤 取締役 野口 副社長 山田 常務 石澤 小池 五嶋 中村                                       |
| 【株主】     | 大株主 宇治電氣 山陽電氣 大倉組 第一相互 帝國生命 阪神生命 日本生命 大阪生命 三井物産 住友物産 三井物産 住友物産 三井物産 住友物産 |
| 【事業規模】   | 発電所出力(水力) 13,500kw                                                       |
| 【購入電力】   | 12,500kw                                                                 |
| 【供給區域】   | 大阪府、京都府、滋賀縣、岐阜縣、奈良縣、和歌山縣、兵庫縣、三重縣                                         |
| 【電燈収入】   | 1,500,000                                                                |
| 【電力供給収入】 | 8,000,000                                                                |
| 【投資會社】   | 宇治電氣、宇治電氣、西共同火力、朝倉電氣、北支電力                                                |
| 【資本異動】   | 十一年七月 2,000,000 増加                                                       |

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 【資産負債】 | 十二年 二十三年 二十四年                    |
| 株主資本   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 積立金    | 9,000,000 9,000,000 9,000,000    |
| 外部負債   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 社債     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 借入金    | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 使用資本   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 固定資産   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 流動資産   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 現金預金   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 【收支動向】 | 十二年 二十三年 二十四年                    |
| 収入     | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 支出     | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 【利率】   | 十年八厘 十一年八厘 十二年八厘                 |
| 【時價】   | 新二五 新二五 新二五                      |
| 【名義書換】 | 十 十 十                            |

|          |                                          |
|----------|------------------------------------------|
| 【設立】     | 明治十四年四月                                  |
| 【決算期】    | 五月、十一月                                   |
| 【事業】     | 電燈、電力供給                                  |
| 【資本金】    | 公稱 1,000,000 拂込 1,000,000                |
| 【株数】     | 新(50,000) 1,000,000                      |
| 【役員】     | 社長 松本 取締役 大塚 副社長 八木 常務 八木 村田 池田 大塚 大塚 大塚 |
| 【株主】     | 九州保全 第一生命 第一生命 第一生命 第一生命 第一生命 第一生命       |
| 【事業規模】   | 発電所出力(水力) 3,000kw                        |
| 【購入電力】   | 2,000kw                                  |
| 【供給區域】   | 九州、福岡、佐賀、大分、熊本、鹿兒島                       |
| 【電燈収入】   | 1,000,000                                |
| 【電力供給収入】 | 2,000,000                                |
| 【投資會社】   | 九州電氣、福岡電氣、九州送電、小倉電氣、別府大分電氣               |
| 【資本異動】   | 十一年七月 2,000,000 増加                       |

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 【資産負債】 | 十二年 二十三年 二十四年                    |
| 株主資本   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 積立金    | 9,000,000 9,000,000 9,000,000    |
| 外部負債   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 社債     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 借入金    | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 使用資本   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 固定資産   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 流動資産   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 現金預金   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000    |
| 【收支動向】 | 十二年 二十三年 二十四年                    |
| 収入     | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 支出     | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 【利率】   | 十年八厘 十一年八厘 十二年八厘                 |
| 【時價】   | 新二五 新二五 新二五                      |
| 【名義書換】 | 十 十 十                            |



# 満洲電業株式会社

(本社) 新京特別市大同街三〇一(電二一一一)  
(出張所) 東州市野町九之内海上ビル(電丸之内五〇七二)

**【六月期増配】**六月期は豫想通り一分増の七分増配を行つた。償却前の利益金は八百八十六萬四千圓、前年同期に比し百四十七萬圓の増加で、この利益率は一割五分五厘に向上したのである。従つて一分増配したとは云へ、尙ほ餘裕なつふりの決算であつた。

**【増益の特異性】**増益の原因は電燈電力収入とも普遍的に増加したためである。内地の電氣會社の場合であれば、最近の増益は専ら軍需産業用大口電力料の増加に限定されるのだが、満洲は周知の如くまだ電燈の普及率が著しく低いので、この點電燈収入の自然増のテンポも極めて急速且つ大であるやうだ。今後の成績を豫想する場合この事は見逃せない重要ポイントであらう。

**【資金調達方法】**當社は七月一日、千七百五十萬圓の拂込を徴收し同時に社債千三百萬圓を發行した。阜新火力(十萬四千キロ)の建設を始め、全滿大送電網を建設してゐるから、將來も尙ほ多額の擴充資金を必要とする。從來の當社資金調達方法は、拂込を除き微らず、先づ社債前借りをしその後で逐次社債を發行して、先の前借りを埋めて行くやり方であつた。然し向ふ數年間に大約二億圓の資金が要るし、更に増配も行つたので、今後は拂込が相繼いで行はれることにならう。成績次第で配當も八分は可能だ。

**【設立】** 昭和九年十一月  
**【決算期】** 六月、十二月  
**【資本】** 電燈及電力供給  
公積金 11,000,000  
株主預託金 1,000,000  
株主債 1,000,000  
計 13,000,000

**【役員】**  
社長 岡 雄一郎  
副社長 山崎 元幹  
取締役 常務 大津 留徳、石橋 一、高橋 芳一、大磯 義男、大石 啓一、高橋 一、高橋 芳一  
監査 高橋 一、高橋 芳一  
社主 岡 雄一郎、山崎 元幹、大津 留徳、石橋 一、高橋 芳一、大磯 義男、大石 啓一、高橋 一、高橋 芳一

Table with financial data: 資産負債 (Assets and Liabilities), 株主資本 (Shareholder's Equity), 外部負債 (External Liabilities), 流動負債 (Current Liabilities), 流動資産 (Current Assets), 現金預金 (Cash and Deposits), 貸出 (Loans), 利息 (Interest), 時価 (Market Value), 名義書換 (Nominal Exchange).

# 臺灣電力株式会社

(本社) 臺北市書院町一ノ一(電臺北三一一)  
(支社) 東州市野町九之内海上ビル(電丸之内五〇七二)

**【六月期業績向上】**去る六月期決算では、利益金四百二十一萬八千圓、利益率一割八分四厘を挙げ、前年同期に比して、利益金に於て七十四萬圓、利益率に於て、二分二厘の向上を示し、七分増配を餘裕裡に据置いた。そして銷却金を前々期に比して二十四萬二千圓増加し、又社債差金及發行費銷却金を、此の期は十八萬五千圓に増加した。此の期の増収の原因は、電燈、電力収入の増大に在るが、就中、電力料の増収が著しい。前期は電力料四百五十七萬一千圓で、前年同期に比して八十三萬三千圓の増収を見た。これは主として日本アルミへの大量供給に因つたものである。

**【新事業と大陸進出】**當社は本年四月より松山に製鐵試験工場を建設して新事業に乗り出した。佛領印度支那から臺拓の手を経て鐵礦石を輸入して、低橋鉄の製造をなすものだ。未だ試験的なのだが、近く高周波爐を建設して本格的に企業化に乗り出すはずだ。年産六千噸の豫定である。又當社は大陸建設に参加する爲に、廣東への進出を計畫してゐる。結局日支合辦の電力會社を設立する事にならう。**【建設工事進捗と今後】**建設中の圓山、新龜山及霧社貯水池並同第一發電所の工事も着々進捗中だ。南進政策の波に乗つて當社の發展には大きな期待が持てる。七分増配に餘裕加はらん。

**【設立】** 大正八年八月  
**【決算期】** 六月、十二月  
**【資本】** 電燈電力、カハイド  
公積金 20,000,000  
株主預託金 2,000,000  
株主債 2,000,000  
計 24,000,000

**【役員】** 社長 加藤 恭平  
副社長 後藤 謙二  
取締役 常務 野口 敬治、野口 敬治、野口 敬治  
監査 野口 敬治、野口 敬治  
社主 加藤 恭平、野口 敬治、野口 敬治、野口 敬治

Table with financial data: 資産負債 (Assets and Liabilities), 株主資本 (Shareholder's Equity), 外部負債 (External Liabilities), 流動負債 (Current Liabilities), 流動資産 (Current Assets), 現金預金 (Cash and Deposits), 貸出 (Loans), 利息 (Interest), 時価 (Market Value), 名義書換 (Nominal Exchange).

【電業電力巻】

### 揖斐川電気株式會社

(本社) 東京市豊町區丸の内海上ビル(電丸ノ内三六五一)  
(出張所) 岐阜縣大垣市切石町(電大垣五五・五六七)

【兼業の優位】 毎度云ふ如く當社はその發生電力の原料化を土臺に、各種の電氣化學工業を營んでゐる綜合電化工業會社だ。従つて普通一般の電氣會社のやうに、供給區域とか供給料金如何が當社分析上大した問題とはならぬ。それは五ヶ月の考課状を見ても判る通り、電燈電力収入の百十五萬圓に對し、兼業其他収入が百七十六萬圓に上つてをり、収入の上からは既に電化工業の方が遙に優位をかち得てゐる。而もこの傾向は將來益々強められること必定だ。

【炭礦の經營】 電化工業と云ふのは、當社直營部門としてはカーボン、カーバイド、石灰窒素肥料、合金鐵の製造、子會社の形式によるものでは特殊輕合金の經營である。何れも時局的色彩の濃いものである。順調なる發展を遂げてゐる。このほか最近では更にカーバイド用原料コークス炭自給の目的から、樺太の諸津炭業(四百五十萬圓)に過半投資し、自ら經營の採配を振つてゐる。

【八分維持】 兼業の發展と共にその使用電力は増加するので、豫て當社は西平水力一萬二千キロを開發中であつたが、これが例のダム決潰に見舞はれ、完成は今年末に延びた。水力工事遲延のため兼業の増産計畫は一時支障を來したが、年末に完成すれば新に活況を加へよう。今來期成績は尙窮屈だが、八分配當は維持出來よう。

### 大日本電力

(設立) 大正八年十月  
(決算期) 五月、十一月  
(本社) 東京市京橋區銀座四ノ三(電京橋三〇〇一三)

【化學工業へ進出】 前報報道の如く當社は電力管理の範圍外に置かれたが、電力會社の最近の一般的傾向に應じて、當社も化學工業部門へ進出することになつた。昨年八月に創立した、愛國化學工業(資本金百萬圓二分の一拂込)がそれだ。特殊合成液に依る防火木材の製造をなすものだ。未だ大きな業績は擧げてゐないが、前途は防火建築が問題になつてゐる折から仲々有望視される。

【供給區域と發展性】 當社の供給區域は、北海道を中心として、秋田、山形、福島、茨城である。北海道及東北地方の開発が、鑛工業を中心として促進されてゐるから、發展性に恵まれてゐる。

|        |                |                   |
|--------|----------------|-------------------|
| 【資本金】  | 公稱 〇,〇〇〇,〇〇〇   | 拂込 〇,〇〇〇,〇〇〇      |
| 【株數】   | 單位 一十株         | 新 〇,〇〇〇,〇〇〇       |
| 【重役】   | 社長 穴水 龍雄       | 副社長 正太郎 取締役 矢島 高造 |
| 【大株主】  | 北電興業 〇,〇〇〇,〇〇〇 | 三早川電力 〇,〇〇〇,〇〇〇   |
| 【事業成績】 | 十三年上           | 十三年下              |
| 【電力収入】 | 六,〇〇〇,〇〇〇      | 六,〇〇〇,〇〇〇         |
| 【利益】   | 六分二厘           | 六分二厘              |

【電業電力巻】

【電業電力巻】

### 京都電燈

(設立) 明治二十年十一月  
(決算期) 四月、十月  
(本社) 京都市下京區鹽小路島大西入(電下京二一三)

【凡調】 當社は電力國家管理の實施に伴ふ出資財産は殆んど云ふ程のものでは無く、これらの影響を受けること最も少い會社である。従つて今後の業績も従前と餘り大差なく、依然凡調を續けるものと見て差支へない。去る四月計上利益は四百二十萬圓、利益率一割三分三厘であつたが、十月期も殆んど變りない成績と見て間違ひあるまい。従つて八分配當も依然續行される見込だ。

【問題】 只、今度の電力供給制限が更に強化され、長期に亘つて持續される様なことになれば問題だ。が、これも大きな懸念を要しないと思はれるから、當面八分配當は續けられよう。

|        |               |                |
|--------|---------------|----------------|
| 【資本金】  | 公稱 〇,〇〇〇,〇〇〇  | 拂込 〇,〇〇〇,〇〇〇   |
| 【株數】   | 單位 一十株        | 新 〇,〇〇〇,〇〇〇    |
| 【重役】   | 社長 田中 博       | 副社長 石川 芳太郎     |
| 【大株主】  | 京都市 〇,〇〇〇,〇〇〇 | 日本生命 〇,〇〇〇,〇〇〇 |
| 【事業成績】 | 十三年上          | 十三年下           |
| 【電力収入】 | 六,〇〇〇,〇〇〇     | 六,〇〇〇,〇〇〇      |
| 【利益】   | 六分二厘          | 六分二厘           |

|        |               |                |
|--------|---------------|----------------|
| 【資本金】  | 公稱 〇,〇〇〇,〇〇〇  | 拂込 〇,〇〇〇,〇〇〇   |
| 【株數】   | 單位 一十株        | 新 〇,〇〇〇,〇〇〇    |
| 【重役】   | 社長 田中 博       | 副社長 石川 芳太郎     |
| 【大株主】  | 京都市 〇,〇〇〇,〇〇〇 | 日本生命 〇,〇〇〇,〇〇〇 |
| 【事業成績】 | 十三年上          | 十三年下           |
| 【電力収入】 | 六,〇〇〇,〇〇〇     | 六,〇〇〇,〇〇〇      |
| 【利益】   | 六分二厘          | 六分二厘           |

【電燈電力業】

### 鬼怒川水力電気

【設立】明治四十三年十月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】東京市渋谷区千駄谷五ノ八六二(電九之内四三三)

【上期一分減配】當社は本年上期に一分減配し、六分配當を行つた。本年上期決算に於ける利益金が従來に比して半減に近かつたから。之は電力料の減収と、各期湖水に依る購入電力が卅一萬七千圓の巨額に上つた爲である。發送電への出資に赤字が出て、之を準備積立金を崩して償却した。

【増配は困難】當社の發送電への出資額は九百廿八萬九千圓で、全固定資産に對して三割近い。必然發送電の配當が大きな影響をもつわけだ。發送電は減配必至の状況だから収益には相當大きく響く。當社の投資部面は稍活況を呈して來てゐるが、現在のところ増配は困難視される。

|                              |                                      |
|------------------------------|--------------------------------------|
| 【資本金】公稱 1,000,000 拂込 700,000 | 【事業成績】十三年上 十三年下 十四年上                 |
| 【株数】(株) 10,000               | 供給電力(千キロワット) 1,133.1 1,095.1 1,095.1 |
| 【重役】                         | 電力料(千円) 21,325.0 21,325.0 21,325.0   |
| 社長 利光 鶴松                     | 【業績】                                 |
| 常務 利光 鶴松                     | 十三年上 1,133.1                         |
| 常務 上杉 太郎                     | 十三年下 1,095.1                         |
| 常務 利光 鶴松                     | 十四年上 1,095.1                         |
| 常務 利光 鶴松                     | 十四年下 1,095.1                         |
| 常務 利光 鶴松                     | 【株價】(高値) 株 100.00                    |
| 常務 利光 鶴松                     | 【時價】(新三六)                            |
| 常務 利光 鶴松                     | 【利息】(六分)                             |
| 常務 利光 鶴松                     | 【時價】(新三六)                            |
| 常務 利光 鶴松                     | 【利息】(六分)                             |

### 關東水力電気

【設立】大正八年十月  
【決算期】六月、十二月  
【本社】東京市町區丸ノ内海上ビル(電九之内四三三)

【六月期業績】當社は、去る六月期決算に於て、利益金百廿八萬四千圓、利益率一割二分七厘を挙げ七分配當を据置いた。業績は前年同期に比して殆ど變化ない。尤も重役退職手當等の臨時的支出の増嵩で、利益率は若干低下を免れなかつた。この爲銷却金を僅に減じて配當は据置きとした。

【關係会社の事業と今後】雇報の如く、當社は早くから時局關係の會社を設立して、多角經營をしてゐる。關東製鋼、淺野カーリット、關東電化がそれで共に發展性がある。電力國家管理後の當社は、電力部内だけでは窮屈だが、副業の發展で、九分配は維持されよう。

|                              |                                  |
|------------------------------|----------------------------------|
| 【資本金】公稱 1,000,000 拂込 700,000 | 【事業成績】十三年上 十三年下 十四年上             |
| 【株数】(株) 10,000               | 電力収入(千円) 1,133.1 1,095.1 1,095.1 |
| 【重役】                         | 【業績】                             |
| 社長 淺野 一郎                     | 十三年上 1,133.1                     |
| 常務 野村 太郎                     | 十三年下 1,095.1                     |
| 常務 野村 太郎                     | 十四年上 1,095.1                     |
| 常務 野村 太郎                     | 十四年下 1,095.1                     |
| 常務 野村 太郎                     | 【株價】(高値) 株 100.00                |
| 常務 野村 太郎                     | 【時價】(新三六)                        |
| 常務 野村 太郎                     | 【利息】(六分)                         |
| 常務 野村 太郎                     | 【時價】(新三六)                        |
| 常務 野村 太郎                     | 【利息】(六分)                         |

### 矢作水力

【設立】大正八年三月  
【決算期】三月、九月

【九月期業績】日本發送電の營業開始によつて、他の電力會社と同様に、經營の妙味はない。この九月末締切の本年下期決算は電力國家管理の影響をうけた實績を見せるものだが、まだその内容は發表されぬ。前報にも述べた如く、供給電力も増加の一途を辿つてをり優先株の一分二分配當、普通株の八分配當據置に問題ない。即ち當社の供電區域が名古屋市中心で重工業化の過程に膨脹を續けてをり、この時局的好影響を満喫してゐるからに他ならぬ。

【子會社注目】矢作工業、矢作製鐵等一連の子會社は時局に恵まれ漸次に發展してゐる。前途の興味は蓋しこれらの活動如何に在る。

|                              |                                      |
|------------------------------|--------------------------------------|
| 【資本金】公稱 1,000,000 拂込 700,000 | 【事業成績】十三年上 十三年下 十四年上                 |
| 【株数】(株) 10,000               | 供給電力(千キロワット) 1,133.1 1,095.1 1,095.1 |
| 【重役】                         | 電力収入(千円) 21,325.0 21,325.0 21,325.0  |
| 社長 利光 鶴松                     | 【業績】                                 |
| 常務 利光 鶴松                     | 十三年上 1,133.1                         |
| 常務 利光 鶴松                     | 十三年下 1,095.1                         |
| 常務 利光 鶴松                     | 十四年上 1,095.1                         |
| 常務 利光 鶴松                     | 十四年下 1,095.1                         |
| 常務 利光 鶴松                     | 【株價】(高値) 株 100.00                    |
| 常務 利光 鶴松                     | 【時價】(新三六)                            |
| 常務 利光 鶴松                     | 【利息】(六分)                             |
| 常務 利光 鶴松                     | 【時價】(新三六)                            |
| 常務 利光 鶴松                     | 【利息】(六分)                             |

### 東信電気

【設立】大正六年八月  
【決算期】三月、九月

【新發電所完成】豫て、建設中の新發電所(現在出力二萬五千八百キロ)が先月末に完成して、送電を開始した。裏に本年二月に常磐發電所一萬キロが完成し、現在は山形發電所三萬三千六百キロを建設中である。揚川の電源開發は目下計畫中である。

【業績は向上】新發電所の發送電への供給料金は未だ決定されてゐないが建設費は低廉だから酷く下げられることはない。假に四十圓に下げられても償却控除後の利益金は三十六七萬圓に上るわけだ。來期は増資に依る資本負擔の増加があるが充分カバー出来る。發電所完成と共に業績は向上するから。今期も九分配に懸念はない。

|                              |                                    |
|------------------------------|------------------------------------|
| 【資本金】公稱 1,000,000 拂込 700,000 | 【發電所出力】水力                          |
| 【株数】(株) 10,000               | 出力(千キロワット) 1,133.1 1,095.1 1,095.1 |
| 【重役】                         | 【業績】                               |
| 社長 鈴木 忠治                     | 十三年上 1,133.1                       |
| 常務 鈴木 忠治                     | 十三年下 1,095.1                       |
| 常務 鈴木 忠治                     | 十四年上 1,095.1                       |
| 常務 鈴木 忠治                     | 十四年下 1,095.1                       |
| 常務 鈴木 忠治                     | 【株價】(高値) 株 100.00                  |
| 常務 鈴木 忠治                     | 【時價】(新三六)                          |
| 常務 鈴木 忠治                     | 【利息】(六分)                           |
| 常務 鈴木 忠治                     | 【時價】(新三六)                          |
| 常務 鈴木 忠治                     | 【利息】(六分)                           |

【電燈電力業】

【電業電力】

日立電力

【設立】昭和二年九月  
【決算期】三月、九月  
【本社】東京市芝罘田村町一ノ二日産館（電報局交野）  
【事務所】茨城縣多賀郡日立町（電日立線山三）

【業績内容良好】當社は小型電力會社だが、業績、内容とも相當優秀である。それは供給先の主なるものが、日産の日立山、日立製作所、磐城炭礦、入山採炭等、時局第一線の事業であり、而もこれらの大口契約だけで全需要の六、七割を占めてゐるからだ。従つて下表に見る通り、電力會社としては高率の部に属する一割配當を、毎期充分の餘裕をもちながら繼續して何等不安はない。  
【拂込期待】當社は發送電の統制圏外に立つので、需要が増加すれば水火力共建設を許可される筋合にある。目下建設中の補給用火力はその例だが、このため近く拂込徴収が行はれよう。

Table with financial data for Hitachi Electric Power Co., Ltd. including columns for '資本金' (Capital), '公稱' (Nominal), '株式' (Shares), and '事業成績' (Business Results) with sub-columns for '電力収入' (Electricity Revenue) and '電力支出' (Electricity Expenses) for various years.

上毛電力

【設立】大正十四年十二月  
【決算期】四月、十月  
【本社】東京市麹町區丸ノ内一丁目武州銀行ビル（電丸三線下）

【料金の更改】當社の伏田、幡谷、千鳥の三發電所の電力は、去る四月以來發送電へ賣つてゐる。從來東電へ卸賣りしてゐたので、當然料金が更改されたわけだ。發送電の買上げ値段は、年百十九萬五千圓で、東電の場合に比して年五萬五千圓の減収となる。しかし、之は拂込資本に對して、八厘弱に過ぎない。それに丸沼發電所が本年二月初めに送電を開始したので之に依つて減収はカバー出来る。  
【八分配當安泰】前期は一ノ瀬發電所の發生水力が本契約に引き上げられたのと、新設丸沼水力の送電開始で著しい増益となり、一分増配を行つた。一年間豫想利益率が一分四分だから、八分配は安泰。

Table with financial data for Utsunomiya Electric Power Co., Ltd. including columns for '資本金' (Capital), '公稱' (Nominal), '株式' (Shares), and '事業成績' (Business Results) with sub-columns for '電力収入' (Electricity Revenue) and '電力支出' (Electricity Expenses) for various years.

群馬水電

【設立】昭和元年十二月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】東京市日本橋區吳服橋東京建物ビル（電日天夫一）

【前期業績】當社の去る五月期に於ける利益金は、四萬五千圓、利益率二割三厘だ。利益金は、前年同期に比し八萬圓の増加である。利益率は昨年七月の拂込徴収に依つて、幾分低下してゐるが、前期の一分八厘九厘に比して漸次向上を辿つてゐる。從來東電へ卸してゐた電力は、本年四月より料金もそのまゝ、發送電に繼承される事となつた。前期中、松谷及原町兩發電所は、渴水期に於ても、水量豊富で順調な運轉を持續し、需要増に對處することが出来た。  
【今後の業績】そこで電力収入も、増加の傾向にある。建設中の川中發電所も本年一杯には完成する。一割配當は安泰だ。

Table with financial data for Gunma Water Electric Co., Ltd. including columns for '資本金' (Capital), '公稱' (Nominal), '株式' (Shares), and '事業成績' (Business Results) with sub-columns for '電力収入' (Electricity Revenue) and '電力支出' (Electricity Expenses) for various years.

京濱電力

【設立】大正十四年五月  
【決算期】四月、十月  
【本社】東京市芝罘田村町一ノ一（電銀座二天二）

【業績順調】當社は電力國家管理實施後は、發送電へ霞澤、奈川波兩發電線及霞澤發電所を現物出資し、之に依つて出資益が二十三萬一千圓を得たが、今期更に發送電への出資差益が五萬五千圓程出る事になつた。出資に依る減収は、昨春運轉開始した島々谷、釜無兩發電所と發送電からの配當収入で補はれる。今期の渴水も當社に大きな影響はない。電力料も前年同期なみのものが見込まれる。  
【八分配當安泰】渴水の影響はない上に電力需要は増大する一方だ。料金更改にも間があるから當分、電力料は漸増の傾向を辿る。今期は前記兩發電所が丸々寄與するから八分配に餘裕は加はる。

Table with financial data for Keihin Electric Power Co., Ltd. including columns for '資本金' (Capital), '公稱' (Nominal), '株式' (Shares), and '事業成績' (Business Results) with sub-columns for '電力収入' (Electricity Revenue) and '電力支出' (Electricity Expenses) for various years.

【電業電力】

【電燈電力業】

### 富士電力

【設立】昭和二年五月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 東京市豊町區丸の内海上ビル(電丸ノ内九六一七)

【内容の堅實化】當社は、毎回報道する如く、富士紡から受け継いだ水ぶくれ資産があるが、鋭意売却に努め、現在ではそれは興業費として六十八萬圓残つてゐる。毎年二十萬圓の売却を行つてゐるから、三年後には売却済みとなる。内容は堅實化するわけだ。  
【發電所完成】本年始めに、待望の湯山發電所一萬六千キロが、完成して、前期業績にも寄與した。電力需要増に伴つて、電力料は増収の傾向にある。今期は新發電所が、先々寄與するから増収が見込まれる。供給區域たる静岡、平塚方面は、最近工業化に依つて急激に需要が増大してゐる。七分配當に懸念はない。

|            |                                                                                                                    |                |           |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-----------|
| 【資本金】      | 公稱 1,000,000                                                                                                       | 拂込 1,000,000   |           |
| 【株数】       | 新(100,000)                                                                                                         | 旧(100,000)     |           |
| 【役員】       | 社長 山田昌作<br>専務 谷田 隆<br>常務 新田 隆<br>取締役 山田 昌作、谷田 隆、新田 隆、中田 清兵衛、青木 善四郎、馬場 正治                                           |                |           |
| 【大株主】      | 十四年五月期<br>九州生命 1,000,000<br>日清生命 1,000,000<br>日商生命 1,000,000<br>三井生命 1,000,000<br>東京生命 1,000,000<br>三井生命 1,000,000 |                |           |
| 【事業成績】     | 十三年上 十三年下 十四年上                                                                                                     | 十三年上 十三年下 十四年上 |           |
| 電力収入(千圓)   | 1,100,000                                                                                                          | 1,100,000      | 1,100,000 |
| 経常収入(千圓)   | 1,100,000                                                                                                          | 1,100,000      | 1,100,000 |
| 経常支出(千圓)   | 1,100,000                                                                                                          | 1,100,000      | 1,100,000 |
| 経常利益(千圓)   | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 特別利益(千圓)   | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 利益総額(千圓)   | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 配當率        | 0%                                                                                                                 | 0%             | 0%        |
| 配當金(千圓)    | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 時價(新) 100円 | 時價(旧) 100円                                                                                                         | 時價(新) 100円     |           |
| 【利息】       | 七分(七分)                                                                                                             | 六分(六分)         |           |

### 日本海電気

【設立】明治三十一年二月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 富山市櫻橋通一(電富山二二一九)  
(出張所) 東京市豊町區丸の内帝國生命館(電丸九六一七)

【大口契約は優秀】當社の電燈電力供給區域は、富山市を中心とする富山縣一帯及び石川に及んでをり、このうち収入の大半を占むるものは大口電力供給である。従つて業績の伸力は懸つて大口契約先の如何にあるが、此の點當社の供給先は日本曹達、日滿アルミ、日滿亞麻等の時局工場を控へてゐるので心配ない。  
【湯水と配當】開發中であつた片見川第三、第四兩水力は、既に建設も大分進んだので、順調に行けば十二月末には完成、運轉を開始しよう。さうなれば収入は相當増加する。今期は湯水の打撃は可成りあつたが、八分配當は安泰だ。五千萬圓増資も考慮中。

|            |                                                                                                                    |                |           |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-----------|
| 【資本金】      | 公稱 1,000,000                                                                                                       | 拂込 1,000,000   |           |
| 【株数】       | 新(100,000)                                                                                                         | 旧(100,000)     |           |
| 【役員】       | 社長 山田昌作<br>専務 谷田 隆<br>常務 新田 隆<br>取締役 山田 昌作、谷田 隆、新田 隆、中田 清兵衛、青木 善四郎、馬場 正治                                           |                |           |
| 【大株主】      | 十四年五月期<br>九州生命 1,000,000<br>日清生命 1,000,000<br>日商生命 1,000,000<br>三井生命 1,000,000<br>東京生命 1,000,000<br>三井生命 1,000,000 |                |           |
| 【事業成績】     | 十三年上 十三年下 十四年上                                                                                                     | 十三年上 十三年下 十四年上 |           |
| 電力収入(千圓)   | 1,100,000                                                                                                          | 1,100,000      | 1,100,000 |
| 経常収入(千圓)   | 1,100,000                                                                                                          | 1,100,000      | 1,100,000 |
| 経常支出(千圓)   | 1,100,000                                                                                                          | 1,100,000      | 1,100,000 |
| 経常利益(千圓)   | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 特別利益(千圓)   | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 利益総額(千圓)   | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 配當率        | 0%                                                                                                                 | 0%             | 0%        |
| 配當金(千圓)    | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 時價(新) 100円 | 時價(旧) 100円                                                                                                         | 時價(新) 100円     |           |
| 【利息】       | 八分                                                                                                                 | 六分(三分)         |           |

### 大井川電力

【設立】大正十三年六月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 東京市豊町區丸の内海上ビル(電丸九六一七)

【今期業績】今夏の未曾有の渇水で、當社電力も出力が低下し、従つて電力料も若干減少する様様だが、決算期は十一月だから、これから降雨があれば収益に大きな変化はないかも知れぬ。  
【料金更改後の問題】當社の電力は東電の送電線を通して鐵道省に賣電してゐるが、本年十一月に鐵道省の信濃川發電所が完成するので、來期からは、東電、東邦へ半々に供電することになる。既に新規料金契約も出來てゐるが、これによると従來と大なる変化はない、むしろ年契約で電力料が一定するからかへつて有利だ。今期も前期並の収益が見込める。九分配當に懸念はない。

|            |                                                                                                                    |                |           |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-----------|
| 【資本金】      | 公稱 1,000,000                                                                                                       | 拂込 1,000,000   |           |
| 【株数】       | 新(100,000)                                                                                                         | 旧(100,000)     |           |
| 【役員】       | 社長 山田昌作<br>専務 谷田 隆<br>常務 新田 隆<br>取締役 山田 昌作、谷田 隆、新田 隆、中田 清兵衛、青木 善四郎、馬場 正治                                           |                |           |
| 【大株主】      | 十四年五月期<br>九州生命 1,000,000<br>日清生命 1,000,000<br>日商生命 1,000,000<br>三井生命 1,000,000<br>東京生命 1,000,000<br>三井生命 1,000,000 |                |           |
| 【事業成績】     | 十三年上 十三年下 十四年上                                                                                                     | 十三年上 十三年下 十四年上 |           |
| 電力収入(千圓)   | 1,100,000                                                                                                          | 1,100,000      | 1,100,000 |
| 経常収入(千圓)   | 1,100,000                                                                                                          | 1,100,000      | 1,100,000 |
| 経常支出(千圓)   | 1,100,000                                                                                                          | 1,100,000      | 1,100,000 |
| 経常利益(千圓)   | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 特別利益(千圓)   | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 利益総額(千圓)   | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 配當率        | 0%                                                                                                                 | 0%             | 0%        |
| 配當金(千圓)    | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 時價(新) 100円 | 時價(旧) 100円                                                                                                         | 時價(新) 100円     |           |
| 【利息】       | 九分(八厘)                                                                                                             | 九分(八厘)         |           |

### 多摩川水力電気

【設立】大正十二年七月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 東京市京橋區東岸四ノ五(電京橋六三)

【決算は窮屈】當社の本年上期の業績は、昨年同期の業績と殆ど變化はない。利益は前年同期同様十三萬圓、平均拂込資本五百六十二萬五千圓に對して、利益率四分六厘だ。之で三分配當をやつてゐるのだから、決算は窮屈だ。それに當社は出力の割合に資本金が大きい。換言すれば建設費が高つてゐる。供給區域は、奥多摩の三箇村に過ぎず而も急激な需要増も望まれないといふ状態にある。  
【今期業績】最近、小河内貯水工事が進捗してゐるので、電力の需要が、漸次増えてゐる。此所への送電のため四月に、氷川發電所と西大久保の東京市受電所の送電線路との連結を行つた。

|            |                                                                                                                    |                |           |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-----------|
| 【資本金】      | 公稱 1,000,000                                                                                                       | 拂込 1,000,000   |           |
| 【株数】       | 新(100,000)                                                                                                         | 旧(100,000)     |           |
| 【役員】       | 社長 山田昌作<br>専務 谷田 隆<br>常務 新田 隆<br>取締役 山田 昌作、谷田 隆、新田 隆、中田 清兵衛、青木 善四郎、馬場 正治                                           |                |           |
| 【大株主】      | 十四年五月期<br>九州生命 1,000,000<br>日清生命 1,000,000<br>日商生命 1,000,000<br>三井生命 1,000,000<br>東京生命 1,000,000<br>三井生命 1,000,000 |                |           |
| 【事業成績】     | 十三年上 十三年下 十四年上                                                                                                     | 十三年上 十三年下 十四年上 |           |
| 電力収入(千圓)   | 1,100,000                                                                                                          | 1,100,000      | 1,100,000 |
| 経常収入(千圓)   | 1,100,000                                                                                                          | 1,100,000      | 1,100,000 |
| 経常支出(千圓)   | 1,100,000                                                                                                          | 1,100,000      | 1,100,000 |
| 経常利益(千圓)   | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 特別利益(千圓)   | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 利益総額(千圓)   | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 配當率        | 0%                                                                                                                 | 0%             | 0%        |
| 配當金(千圓)    | 0                                                                                                                  | 0              | 0         |
| 時價(新) 100円 | 時價(旧) 100円                                                                                                         | 時價(新) 100円     |           |
| 【利息】       | 八分(三分)                                                                                                             | 八分(三分)         |           |

【電燈電力業】

【電燈電力業】

### 帝國電力

【設立】明治三十九年十月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】東京市京橋區銀座四ノ三(電京橋2000-1)  
【営業所】函館市東雲町一ノ二八(電函館元00)

【業績好調に向ふ】當社の業績は、引續いて順調に推移してゐる。電力需要増と、昨年から始めたバス事業で、収益は増大の傾向にある。供給區域たる北海道南部重工業地帯の活動が旺盛になり、特に最近諸業が急激に勃興し始めて電力需要は加速度に増加する筋合にある。

【今期も業績向上か】右の傾向は今後も續くし特に今期は内地の稀有の湯水にも拘らず、北海道は豊水に恵まれ、當社の如きも全然火力を焚かずにすんだ程だ。前期湯水期の取りかへしがつく見込であるから、今期増益が望まれる。八分配は安定性を増す。

|                                                        |                                                        |
|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 7,723,000                        | 【事業規模】十三年上 十三年下 十四年上                                   |
| 【株数】新 1,000,000 舊 1,000,000                            | 【電燈収入(千圓)】十三年上 1,100,000 十三年下 1,100,000 十四年上 1,100,000 |
| 【重役】社長 穴水 龍雄 監査 杉浦 逸藏                                  | 【配当】十三年上 1.00 十三年下 1.00 十四年上 1.00                      |
| 専務 石津 龍雄 常務 田中 治朝                                      | 【時價】新 1.00 舊 1.00                                      |
| 取締役 岡田伊太郎 岡野 善夫                                        | 【利息】六分八厘                                               |
| 田波 芳三 穴水 嘉三郎                                           |                                                        |
| 【大株主】十四年五月期 1,000名                                     |                                                        |
| 早川電力(六三)北電興業(三三)北電                                     |                                                        |
| 北海電力(六三)道南電氣(三三)道南                                     |                                                        |
| 【事業成績】十三年上 十三年下 十四年上                                   |                                                        |
| 【電燈収入(千圓)】十三年上 1,100,000 十三年下 1,100,000 十四年上 1,100,000 |                                                        |
| 【電力収入(千圓)】十三年上 1,100,000 十三年下 1,100,000 十四年上 1,100,000 |                                                        |
| 【電車収入(千圓)】十三年上 1,100,000 十三年下 1,100,000 十四年上 1,100,000 |                                                        |

### 北海水力電氣

【設立】大正十五年十一月  
【決算期】四月、十月  
【本社】札幌市大通一ノ二(電三三)  
【出張所】東京市豊島區有樂町三三(電三三)

【電力部門の増収】當社は、札幌、小樽を中心に附近四十ヶ町村に電燈、電力の供給を行つてゐる。従來電燈料が収入の大部分を占めてゐたが近來、電力部門が急激に増収を見る様になつた。北海道の工業勃興、就中、重要礦山(金山)の開発に依つて電力需要が増大したためだ。今期も電力料は増収の筋合にある。

【發電所建設】そこで當社は、昆布發電所(九千キロ)を建設してこの需要増に對處したが、今回亦比羅夫第二發電所一萬キロ(建設費約五百萬圓)の建設に着手した。資材、勞力の不足で工事も仲々困難だが本年一杯には完成の見込だ。八分配に懸念はない。

|                                         |                                         |
|-----------------------------------------|-----------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 3,120,000         | 【事業規模】十三年上 十四年上                         |
| 【株数】新 1,000,000 舊 1,000,000             | 【電燈収入(千圓)】十三年上 1,100,000 十四年上 1,100,000 |
| 【重役】社長 藤原 健次郎 田中 治朝                     | 【配当】十三年上 1.00 十四年上 1.00                 |
| 専務 濱田 東三郎 常務 渡邊 道太郎                     | 【時價】新 1.00 舊 1.00                       |
| 後藤 國吉 取締役 大橋 新太郎 寺田 省                   | 【利息】六分七厘                                |
| 藤田 久次郎 大橋 善太郎 村田 三三                     |                                         |
| 高島 菊次郎 村田 久 我治 野野 修藏 水島 左道 監査 建         |                                         |
| 藤石 太郎 足立 正一 柳 貞吉 高田 良作                  |                                         |
| 【大株主】十四年四月期 1,000名                      |                                         |
| 王子 證券(三三)道南石(六三)道南                      |                                         |
| 第一生命(二二)三井生命(二二)三井生命                    |                                         |
| 【事業成績】十三年上 十四年上                         |                                         |
| 【電燈収入(千圓)】十三年上 1,100,000 十四年上 1,100,000 |                                         |
| 【電力収入(千圓)】十三年上 1,100,000 十四年上 1,100,000 |                                         |
| 【時價】新 1.00 舊 1.00                       |                                         |
| 【利息】六分七厘                                |                                         |

### 福島電燈

【設立】明治二十八年十月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】福島縣福島市置賜町七〇(電二七)  
【出張所】郡山縣郡山町大田原(電二七)

【業績改善に向ふ】當社は従來借金過多で、業績はあまりばつとしなかつた。しかし、鋭意借金の返済に勉めて、資本構成は漸次更新されて來た。然し、なほ株主資本千四百餘萬圓に對して、負債總額は千六百萬圓近くに達する。去る五月期の利益金は、八十九萬二千圓、利益率一割二分四厘で五分配當を据置いた。前年同期に比して業績は幾分の低下を見せたが、今後は東北地方の工業化で電力収入は増大するから業績は向上する筋合にある。

【増配期待】電力収入の増大が續けば、従來の利益配當にも餘裕があつたのだから、一分位の増配は望める。

|                                                        |                                                        |
|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 7,723,000                        | 【事業規模】十三年上 十三年下 十四年上                                   |
| 【株数】新 1,000,000 舊 1,000,000                            | 【電燈収入(千圓)】十三年上 1,100,000 十三年下 1,100,000 十四年上 1,100,000 |
| 【重役】社長 西形 吉次郎 監査 木村 重三郎                                | 【配当】十三年上 1.00 十三年下 1.00 十四年上 1.00                      |
| 専務 山本 文七 取締役 金 成通                                      | 【時價】新 1.00 舊 1.00                                      |
| 取締役 山本 文七 岩澤 岩次郎                                       | 【利息】六分四厘                                               |
| 岩田 忠喜 白井 千壽                                            |                                                        |
| 大田 秋之助 三九 西名                                           |                                                        |
| 【大株主】十四年五月期 1,000名                                     |                                                        |
| 東北電氣(三三)北電興業(三三)北電                                     |                                                        |
| 共同電氣(三三)北電興業(三三)北電                                     |                                                        |
| 【事業規模】十三年上 十三年下 十四年上                                   |                                                        |
| 【電燈収入(千圓)】十三年上 1,100,000 十三年下 1,100,000 十四年上 1,100,000 |                                                        |
| 【電力収入(千圓)】十三年上 1,100,000 十三年下 1,100,000 十四年上 1,100,000 |                                                        |
| 【時價】新 1.00 舊 1.00                                      |                                                        |
| 【利息】六分四厘                                               |                                                        |

### 中國合同電氣

【設立】大正五年六月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】岡山縣岡山市上西川町一ノ一五(電六三)  
【出張所】兵庫縣野路市大藏前町一三

【合併】政府の配電統制の主旨に沿ふ意味から、來る十一月一日を期し鳥取電燈(資本金五百萬圓、内三百八十六萬圓拂込)を對等條件で吸収合併することとなつた。鳥取電燈は去る五月期に三十萬二千圓(利益率一割五分六厘)を擧げて九分配當を行つて居り、先づ順調に推移して居る會社だから、これを對等合併しても負擔にはならぬと考へられる。

【据置か】十一月締切の本年下期は、湯水と供電制限の影響で業績の向上は期待薄と云ふ他ないが、現行九分の配當は維持可能と目される。

|                                                        |                                                        |
|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 7,723,000                        | 【事業規模】十三年上 十三年下 十四年上                                   |
| 【株数】新 1,000,000 舊 1,000,000                            | 【電燈収入(千圓)】十三年上 1,100,000 十三年下 1,100,000 十四年上 1,100,000 |
| 【重役】社長 尾形 十郎 監査 土井 清                                   | 【配当】十三年上 1.00 十三年下 1.00 十四年上 1.00                      |
| 専務 岡田 次郎 取締役 梅田 井村                                     | 【時價】新 1.00 舊 1.00                                      |
| 取締役 岡田 次郎 梅田 井村                                        | 【利息】六分五厘                                               |
| 山本 文七 監査 三 三                                           |                                                        |
| 【大株主】十四年五月期 1,000名                                     |                                                        |
| 山本 文七(三三)北電興業(三三)北電                                    |                                                        |
| 共同電氣(三三)北電興業(三三)北電                                     |                                                        |
| 【事業規模】十三年上 十三年下 十四年上                                   |                                                        |
| 【電燈収入(千圓)】十三年上 1,100,000 十三年下 1,100,000 十四年上 1,100,000 |                                                        |
| 【電力収入(千圓)】十三年上 1,100,000 十三年下 1,100,000 十四年上 1,100,000 |                                                        |
| 【時價】新 1.00 舊 1.00                                      |                                                        |
| 【利息】六分五厘                                               |                                                        |

【電燈電力業】

### 山陽中央水電

【設立】大正八年七月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】大阪府南區末吉橋通二ノ三日橋ビル（電燈場西側）  
【支社】岡山市内山下四四

【減益】去る五月締切の本年上期計上利益は百八十三萬六千圓、此の利益率は九分四厘だ。業績は頗る悪化した貌だが、これは日發への出資財産評價損百二十餘萬圓が祟つたため、肝腎の業績が悪化したのに依るものではない。これでは七分配當は頗る窮乏だが、將來に期待を懸けて据置の方針に出た。  
【配當堅持か】ところで十一月締切の下期は稀有の湯水と電力供給制限の實施でまた、向上は期待されなくなつた。かくて欲を云へば此の際一分位の減配が望ましいわけだが、果してどうか。當局者は七分堅持の肚である様だ。

|         |              |                |
|---------|--------------|----------------|
| 【資本金】   | 公稱 1,000,000 | 拂込 1,000,000   |
| 【株数】    | 新 10,000     | 舊 10,000       |
| 【重役】    | 社長 井上 周      | 専務 土居 幹治       |
| 【取締役】   | 梅田 隆三        | 南水 榮次郎         |
| 【監査】    | 木原 通三        | 志津野 直文         |
| 【大株主】   | 十四年五月期       | 山陽中央水電 300,000 |
| 【事業規模】  | 期水電燈 200,000 | 電力収入 1,000,000 |
| 【発電所出力】 | 水力 200,000   | 火力 200,000     |

### 廣島電氣

【設立】大正十年八月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】廣島縣廣島市小町三三（電燈局）

【湯水】中國方面に於ける未曾有の湯水は當社にも大きな影響を與へたと云つてよい。能見發電所（最大出力一萬餘キロ）が一時零に近い點に迄出力が降つたのを見ても、これは想像がつく筈だ。かうした湯水の祟りから最近では相當の供電制限を行つて居るが、これが業績に響くところは尠くあるまい。  
【据置か】かうした關係から十一月締切の下期業績は到底向上を期待されない。去る上期の四百五十二萬六千圓（利益率一割二分八厘）程度の利益を擧げることが、下期は一寸困難だ。然し現行八分の配當は假令窮乏ではあるにしても、尙ほ据置くと考へられる。

|         |              |                |
|---------|--------------|----------------|
| 【資本金】   | 公稱 1,000,000 | 拂込 1,000,000   |
| 【株数】    | 新 10,000     | 舊 10,000       |
| 【重役】    | 社長 井上 周      | 専務 土居 幹治       |
| 【取締役】   | 梅田 隆三        | 南水 榮次郎         |
| 【監査】    | 木原 通三        | 志津野 直文         |
| 【大株主】   | 十四年五月期       | 山陽中央水電 300,000 |
| 【事業規模】  | 期水電燈 200,000 | 電力収入 1,000,000 |
| 【発電所出力】 | 水力 200,000   | 火力 200,000     |

【電燈電力業】

### 四國水力電氣

【設立】明治三十一年九月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】香川縣仲多度津町大字多度津甲四八四（電燈局）

【業績低下】去る五月締切の本年上期計上利益は百三十八萬三千圓、此の利益率は一割七分五厘に當る。これを前年同期と比較するに利益金では四萬三千圓を減じ、利益率では五厘の低下を示す。業績低下の主因は發電費の増嵩にある。配當は依然一割据置としたが、此の限り利益感分は若干見劣りがすると云ひ得よう。  
【凡調か】十一月締切の下期業績も大體右と大差なき数字に終ると想像されるが、さうとすれば現行配當は引き續き維持されよう。當社の一割配當は當面不動と見て置いて、さまで間違ひはないと考へられる。

|         |              |                |
|---------|--------------|----------------|
| 【資本金】   | 公稱 1,000,000 | 拂込 1,000,000   |
| 【株数】    | 新 10,000     | 舊 10,000       |
| 【重役】    | 社長 井上 周      | 専務 土居 幹治       |
| 【取締役】   | 梅田 隆三        | 南水 榮次郎         |
| 【監査】    | 木原 通三        | 志津野 直文         |
| 【大株主】   | 十四年五月期       | 山陽中央水電 300,000 |
| 【事業規模】  | 期水電燈 200,000 | 電力収入 1,000,000 |
| 【発電所出力】 | 水力 200,000   | 火力 200,000     |

### 出雲電氣

【設立】明治十四年十一月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】島根縣松江市母衣町一五一（電燈局）

【上期業績】本年上期の計上利益は九十九萬九千圓で、此の利益率は一割四分二厘に當る。これをその前期と比較するに、利益金では七萬圓を増し、利益率に於ては一分の向上を示す。此の限り業績は好轉したものと云ふべく、八分配當も亦不安なく維持し得て居る。  
【下期凡調】十一月締切の下期は、なにしろ湯水の影響もあることだから、上期の如き好成績を収め得るか否か、些か疑問であつて、或は若干の減益を來す憂がないでもない。が、それにしても大したことはない見込であつて、現行八分の配當は依然續行し得ると見て間違ひあるまい。

|         |              |                |
|---------|--------------|----------------|
| 【資本金】   | 公稱 1,000,000 | 拂込 1,000,000   |
| 【株数】    | 新 10,000     | 舊 10,000       |
| 【重役】    | 社長 井上 周      | 専務 土居 幹治       |
| 【取締役】   | 梅田 隆三        | 南水 榮次郎         |
| 【監査】    | 木原 通三        | 志津野 直文         |
| 【大株主】   | 十四年五月期       | 山陽中央水電 300,000 |
| 【事業規模】  | 期水電燈 200,000 | 電力収入 1,000,000 |
| 【発電所出力】 | 水力 200,000   | 火力 200,000     |

### 熊本電氣

〔設立〕明治四十二年六月  
〔決算期〕三月、九月  
〔本社〕熊本市紺屋町四六(番三番一四)

【上期順調】 當社の供給區域は熊本縣一圓及び島原半島で、地盤關係は餘り恵まれて居るとは云ひ得ないけれども、それでも堅實な歩調で向上を辿つて居る。試みに去る上期を見ても計上利益二百五十七萬九千圓は一割四分九厘の利益率に當り、前年同期に比し二十萬圓の増益、利益率で一分二厘の向上を見せて居るのである。これで八分配當は先づ無難と云つてよい。

【配當據置か】 九月末締切の下期も大體右と變りない業績を収める見込だから、配當も依然八分維持の方針に出るだらう。これは當面不動と目される。

|        |              |              |
|--------|--------------|--------------|
| 【資本金】  | 公稱 1,000,000 | 拂込 1,000,000 |
| 【株数】   | 10,000       | 10,000       |
| 【重役】   | 社長 林 市藏      | 取締役 中島 爲喜    |
| 【業務成績】 | 電氣料千圓        | 1,112        |
| 【業績】   | 利益率          | 14.9%        |
| 【株主名】  | 大橋 新太郎       | 福岡 甲子三       |
| 【大株主】  | 大橋 新太郎       | 福岡 甲子三       |
| 【事業規模】 | 14年上期        | 13年上期        |
| 【時價】   | 新 100        | 舊 100        |
| 【利率】   | 五分八厘         | 五分八厘         |

### 京城電氣

〔設立〕明治四十一年九月  
〔決算期〕五月、十一月  
〔本社〕朝鮮京城府南大門通二丁目(電本三〇)

【五月期業績向上】 當社は依然好調を辿つてゐる。朝鮮の工業化で電燈、電力、電線、バス、瓦斯事業共に収益は増大の傾向にある。去る五月期は、利益金百九十六萬三千圓、利益率二割二分二厘で、前年同期に比して利益金に於て十五萬九千圓、利益率に於て、一分の夫々増加である。最近は産金五箇年計畫に伴ふ金山の開発で、この方面の需要が増大する筋合にある。

【拂込必至】 最近の需要増に對處して、各部門の事業擴張を行つてゐる。今期末あたりには拂込徵收が行はれる筋合にある。今後の増收確實だから、利益率も二割を保持すべく、現行配當に懸念はない。

|        |              |              |
|--------|--------------|--------------|
| 【資本金】  | 公稱 1,000,000 | 拂込 1,000,000 |
| 【株数】   | 10,000       | 10,000       |
| 【重役】   | 社長 大橋 新太郎    | 取締役 福岡 甲子三   |
| 【業務成績】 | 電氣料千圓        | 1,112        |
| 【業績】   | 利益率          | 22.2%        |
| 【株主名】  | 大橋 新太郎       | 福岡 甲子三       |
| 【大株主】  | 大橋 新太郎       | 福岡 甲子三       |
| 【事業規模】 | 14年上期        | 13年上期        |
| 【時價】   | 新 100        | 舊 100        |
| 【利率】   | 三分五厘         | 三分五厘         |

### 東京瓦斯株式會社

(本社) 東京市町區丸之内海上ビル(電丸之内四〇一〇)

【成績益々順調】 電力、石炭の不足同様、瓦斯も激増する需要に對して供給が行へず、ために自治的供給制限を行ふやうになつたが、會社の業績の方から見ると、すばらしく良好である。當社の六月期決算によると利益金は九百六十五萬九千圓と、前年同期に比し約二百十萬圓の躍進に當る。此の間八分配當に要する資金は何等の變化を見なかつたから、増益分はその儘社内に保留されたわけだ。

【原材料は響かぬ】 増益の原因は軍需産業面に於ける需要の増大と重油の瓦斯轉換により、設備能力をフル運轉し得たからだ。現に瓦斯の販売高は、前年同期に比し一割八分一厘の増加を示してゐるに對し、メートル取付數に於ては僅々四分二厘の増加に過ぎない。尤も、一面に於て炭價高、人件費増による支出増があり、更に基本的に瓦斯料金の引上げ不可能の問題はある。然し現状からする限り、これらの壓迫は販賣量の増加で完全に補はれてゐる。

【次回拂込は】 瓦斯増産計畫の一つとして鶴見製造所に八百瓩擴建設を進めてをり、更に子會社東京瓦斯化學工業を通して副生物の増産計畫に乗出してゐる。九月に徵收した第二回拂込はこの一部に充當するためだが、今後も資金はまだ多額に上るので、遠からず次回拂込も徵收されよう。その場合でも八分配當に心配ない。

【瓦斯事業】

|        |               |
|--------|---------------|
| 【設立】   | 明治十八年十月       |
| 【決算期】  | 六月、十二月        |
| 【事業】   | 瓦斯製造及供給、瓦斯副生物 |
| 【資本金】  | 公稱 1,000,000  |
| 【株数】   | 10,000        |
| 【重役】   | 社長 井 井 孝      |
| 【業務成績】 | 電氣料千圓         |
| 【業績】   | 利益率           |
| 【株主名】  | 大橋 新太郎        |
| 【大株主】  | 大橋 新太郎        |
| 【事業規模】 | 14年上期         |
| 【時價】   | 新 100         |
| 【利率】   | 五分八厘          |





【瓦斯事業】

### 東邦瓦斯

【設立】大正十一年六月  
【決算期】三月、九月  
【本社】名古屋市熱田區御器所町字高橋手三〇（電話三三三）  
【営業所】名古屋市中區南大津町二ノ一（電話二二二）

【時局性著し】東邦瓦斯の事業區域の中心は言ふまでもなく名古屋市である。事變勃發以來、名古屋市は飛行機工業を樞軸に發展、膨脹を遂げ、所謂重工業化の過程にあるが、爲に工業用瓦斯需要の旺盛なる増加を見てをる。かくて、當社の瓦斯供給分野は大體家庭用三五%、工業用六五%の割合となつてゐるが、昭和十六年度には家庭用二〇%、工業用八〇%と、工業用瓦斯需要の比率が高まる見込だ。生産力擴充の國策線に沿つて時局産業が活況を呈するからだ。【見越し】現行一割配當に不安はない。設備擴張は曲りなりにも進行してをり、副生物の產出増に恵まれるからである。

|                                                                                                         |                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000                                                                        | 【事業規模】十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                 |
| 【株数】新 (株) 100,000 旧 (株) 100,000                                                                         | 【業務】新 (株) 100,000 旧 (株) 100,000                           |
| 【重役】社長 谷川善太郎 取締役 前田寛伍<br>常務 青木勲七 監査 石橋東洋雄<br>取締役 深水壽 監査 白濱多太郎<br>南洲鐵道 三〇〇 七壽生命 七〇〇<br>南洲鐵道 三〇〇 七壽生命 七〇〇 | 【大株主】十四年三月期 九三三<br>南洲鐵道 三〇〇 七壽生命 七〇〇<br>南洲鐵道 三〇〇 七壽生命 七〇〇 |
| 【事業成績】十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                                                               | 【時價】新 (株) 100,000 旧 (株) 100,000                           |
| 【設備】十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                                                                 | 【利息】五分八厘                                                  |

### 北海道瓦斯

【設立】明治四十四年七月  
【決算期】六月、十二月  
【本社】東京市麹町區丸の内海上ビル（電話九四四）

【六月期据置】當社の供給地城は札幌、小樽、函館の三市に亘り、このうち小樽市の供給高が最も多い。六月期は順調な成績で、利率は一割七分を示し八分配當を据置いた。瓦斯以外の燃料の價格騰貴と重油使用制限で、相變らず需要増加を迫つてゐるからだ。尤も供給量で見ると、前年同期に比し僅か四分増に過ぎない。【一部新設工事】これは北海道が京濱地方などと異り、工場が少なく軍需景氣に大きく恵まれることがないからだ。それでも目下一部の導管新設、鹽谷製造所新設等に乗り出してゐる様だから、依然小市の成績向上は期待されるので、配當維持可能。

|                                                                                                                                                           |                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000                                                                                                                          | 【事業規模】十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                                                 |
| 【株数】新 (株) 100,000 旧 (株) 100,000                                                                                                                           | 【業務】新 (株) 100,000 旧 (株) 100,000                                                           |
| 【重役】社長 太田牛六 取締役 藤井七郎<br>常務 鈴木寅彦 監査 佐々木健介<br>取締役 藤部英一郎 監査 關谷兵助<br>大株主 十四年六月期 帝國生命 八〇〇〇<br>太田合名 三〇〇〇 帝國生命 八〇〇〇<br>中島伊平 八〇〇〇 武州銀行 五〇〇〇<br>明治生命 五〇〇〇 東京株 五〇〇〇 | 【大株主】十四年六月期 帝國生命 八〇〇〇<br>太田合名 三〇〇〇 帝國生命 八〇〇〇<br>中島伊平 八〇〇〇 武州銀行 五〇〇〇<br>明治生命 五〇〇〇 東京株 五〇〇〇 |
| 【事業成績】十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                                                                                                                 | 【時價】新 (株) 100,000 旧 (株) 100,000                                                           |
| 【設備】十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                                                                                                                   | 【利息】六分七厘                                                                                  |

【瓦斯事業】

### 南滿洲瓦斯

【設立】大正十四年七月  
【決算期】三月、九月  
【本社】大連市西通二一七（電話八八一）

【子會社】前料で豫想しておいた様に、子會社滿洲瓦斯は六月末拂込殘額二百萬圓を徵收、一千萬圓全額拂込済となつた。當社は同社株式を全部保有してをるが、その拂込は借入金で充當した。滿洲瓦斯は之により新京、奉天、鞍山、錦州方面の瓦斯供給擴張費を賄ひ、需要増に對處しつゝある。【八分持積】當社自身の事業地大連の六月末の瓦斯使用戸數三萬三千七百六十七戸、子會社のそれは四萬五千五百六十戸で、共に三ヶ月末より相當増へた。計量器の供給不充分の憾みはあるが、兩社とも八分配當の踏襲に懸念はない。尙當社は何れ増資を見よう。

|                                                                                                         |                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000                                                                        | 【事業規模】十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                 |
| 【株数】新 (株) 100,000 旧 (株) 100,000                                                                         | 【業務】新 (株) 100,000 旧 (株) 100,000                           |
| 【重役】社長 谷川善太郎 取締役 前田寛伍<br>常務 青木勲七 監査 石橋東洋雄<br>取締役 深水壽 監査 白濱多太郎<br>南洲鐵道 三〇〇 七壽生命 七〇〇<br>南洲鐵道 三〇〇 七壽生命 七〇〇 | 【大株主】十四年三月期 九三三<br>南洲鐵道 三〇〇 七壽生命 七〇〇<br>南洲鐵道 三〇〇 七壽生命 七〇〇 |
| 【事業成績】十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                                                               | 【時價】新 (株) 100,000 旧 (株) 100,000                           |
| 【設備】十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                                                                 | 【利息】五分八厘                                                  |

### 關東瓦斯

【設立】昭和三年六月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】東京市芝區田村町一ノ一（電話九四二）

【需要は旺盛】當社の供給區域は横須賀、横浜、高崎、前橋、浦和、熊谷の多方面に亘るが、この横須賀の供給は全體の八割近くを占めてゐる。従つて成績の推移は専ら横須賀區域の需要に如何にある。處が富岡を中心に湘南方面は最近頗る工場地帯化し、例へば石川島、大日本兵器、日本製鋼等の大口消費者が續々新設擴張を行つてをり、そのために當社自然増収は著しく伸びてゐる。【増配は困難】かやうなわけで最近では利益率二割を挙げ、九分配當に餘裕を生じてをるが、瓦斯事業の性質から利益があればそれを料引下げの方へ向けねばならぬので、これ以上の増配は難しい。

|                                                                                                |                                                                 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000                                                               | 【事業規模】十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                       |
| 【株数】新 (株) 100,000 旧 (株) 100,000                                                                | 【業務】新 (株) 100,000 旧 (株) 100,000                                 |
| 【重役】社長 河野西太郎 取締役 藤田政道<br>常務 藤田政道 監査 藤田政道<br>取締役 小丸 監査 藤田政道<br>取締役 小丸 監査 藤田政道<br>取締役 小丸 監査 藤田政道 | 【大株主】十四年五月期 三〇〇<br>富岡合名 三〇〇 三〇〇<br>富岡合名 三〇〇 三〇〇<br>富岡合名 三〇〇 三〇〇 |
| 【事業成績】十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                                                      | 【時價】新 (株) 100,000 旧 (株) 100,000                                 |
| 【設備】十三年上 十三年下 十三年上 十三年下                                                                        | 【利息】六厘                                                          |

【鐵道軌道業】

### 東武鐵道

【設立】明治二十九年十月  
【決算期】三月、九月  
(本社) 東京市本所區小梅一ノ二(電碼田三三〇一)

【業績は向上】九月末締切の下期も業績は著しい好調を示してゐる。鐵道運輸収入は大體六百四十萬圓に達しよう。雜収入八十萬圓を合計した鐵道収入は七百二十萬圓となり、支出を四百四十萬圓と見れば、差引二百八十萬圓の益金だ。軌道は依然香しくないが前年同期の倍額十七、八萬圓の収入を挙げ得よう。自動車業は東武自動車株式會社に譲渡されたので、下期よりは會計より除外される。  
【今後の問題】右の如く業績は向上してゐるが、尙ほ七分配當は安泰とは見られぬ。目下當社は過去の不良資産の消却に努めてゐるが、更に根本的な内容の充實を計らねば、現配當は依然窮乏だらう。

|                                  |                                      |
|----------------------------------|--------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000 | 【事業成績】十三年上 十三年下 十四年上                 |
| 【株数】新 100,000 舊 100,000          | 電車収入(千圓) 1,999 1,999 1,999           |
| 【重役】社長 根津嘉一郎 取締役 長津 啓吉           | 自動車収入(千圓) 1,199 1,199 1,199          |
| 専務 吉野 博治 須田 正左                   | 【業績】十三年上 1,199 十三年下 1,199 十四年上 1,199 |
| 常務 中野 四郎 常務 須田 正左                | 【株價】(高値) 株 100 株 100 株 100           |
| 取締役 前田 邦定 監査 宇都宮 政市              | 【時價】新 100 舊 100                      |
| 【大株主】十四年三月期 二、五五名                | 【利息】五分一厘                             |
| 東京興業(八、三三) 日本興業(八、三三)            |                                      |
| 根津合名(八、三三) 富國(八、三三)              |                                      |
| 【事業規模】營業方針 同上                    |                                      |

### 京成電氣軌道

【設立】明治四十二年七月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 東京市本所區向島押上町二〇三(電碼田三〇一三)

【成績好調】當社の今期業績は依然として好調を續けてゐる。前年同期に比べると、鐵道は四割、バスは三割、電灯電力は一割の増収を収めるであらう。この調子だと事業部も含めた今期の總収入は約五百五十萬圓となり、總支出を三百七十六萬圓と見れば、差引益金は約百七十四萬圓。前年同期に比し四十萬圓の増益だ。  
【今期一分増配か】去る八月一日、短期借入金返済のため總額三百三萬七千五百圓の拂込を徴収した。かくて平均拂込資本は膨脹したが、今期の利益率は一割三分に當らう。上期には増配力を持ちながら自重したのだから、今期の一増配断行は確實だ。

|                                  |                                      |
|----------------------------------|--------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000 | 【事業成績】十三年上 十三年下 十四年上                 |
| 【株数】新 100,000 舊 100,000          | 電車収入(千圓) 1,999 1,999 1,999           |
| 【重役】社長 後藤 國彦 取締役 板谷 官吉           | 自動車収入(千圓) 1,199 1,199 1,199          |
| 専務 高橋 秀雄 須田 正左                   | 【業績】十三年上 1,199 十三年下 1,199 十四年上 1,199 |
| 常務 津田 博司 監査 大木 定一                | 【株價】(高値) 株 100 株 100 株 100           |
| 取締役 津田 博司 監査 大木 定一               | 【時價】新 100 舊 100                      |
| 【大株主】十四年五月期 三、七五名                | 【利息】五分一厘                             |
| 成田 道合(八、三三) 後藤 國彦(八、三三)          |                                      |
| 野村生命(八、三三) 千代田(八、三三)             |                                      |
| 【事業規模】營業方針 同上                    |                                      |

【鐵道軌道業】

### 王子電氣軌道

【設立】明治四十三年四月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 東京市豊島區西巢鴨三ノ九六五(電碼田三〇一六)

【業績良好】當社全収益の七割五分を占める電燈電力の供給區域は時局産業工場の新設擴張により電力需要は旺盛だ。前年同期に比べると、今期は電燈電力一割、電車二割五分、自動車五分の増収傾向を示してゐる。中でも電車業の増収率が著しいが、沿線の工場地帯化に依る定期客が増加したためである。  
【割配當揺盪】右の業績が續けば、今期の利益率は一割七分となるが、電力制限の問題もあり直ちに樂觀は許されぬ。社債返還と變電所、送電線の増設のため速からず一株五圓、總額百萬圓程度の拂込後收があるだらうが、資本負擔の壓迫が加つても現配當は安泰だ。

|                                  |                                      |
|----------------------------------|--------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000 | 【事業成績】十三年上 十三年下 十四年上                 |
| 【株数】新 100,000 舊 100,000          | 電車収入(千圓) 1,999 1,999 1,999           |
| 【重役】社長 本間 利雄 取締役 金光 榮邦           | 自動車収入(千圓) 1,199 1,199 1,199          |
| 専務 村井 二郎 監査 梅原 忠治                | 【業績】十三年上 1,199 十三年下 1,199 十四年上 1,199 |
| 常務 佐々木 憲 監査 宇都宮 政市               | 【株價】(高値) 株 100 株 100 株 100           |
| 取締役 河野 豊太郎 今泉 健二                 | 【時價】新 100 舊 100                      |
| 【大株主】十四年五月期 一、二三名                | 【利息】五分一厘                             |
| 東電(八、三三) 日本興業(八、三三)              |                                      |
| 帝國生命(八、三三) 日本教育(八、三三)            |                                      |
| 【事業規模】營業方針 同上                    |                                      |

### 京王電氣軌道

【設立】明治四十三年九月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 東京市四谷區新橋三ノ四八(電碼田三三〇一)

【軍事景氣】當社の最重要部門たる電氣供給事業は、軍需工場の激増によつて夏枯れ期にも拘らず目覚まし好調である。供給先が軍需工場であるから電力節約の打撃も少い。最近沿線にも工場が殖えたので電車収入も増加する。今期に入つて六月、七月の運輸収入は前年に比し各々三割二分、二割の増加であり、六月の電力収入の如き前年同期に比し五割五分の増収である。  
【今後の見透し】五月一日新株の第一回拂込を徴収したので資本負擔が増大したが、右の如く好調だから増配さへ可能である。前期には五割の社内留保を行ひ決算は極めて裕りのあるものであつた。

|                                  |                                      |
|----------------------------------|--------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000 | 【事業成績】十三年上 十三年下 十四年上                 |
| 【株数】新 100,000 舊 100,000          | 電車収入(千圓) 1,999 1,999 1,999           |
| 【重役】社長 大木 熊雄 取締役 永山 止米郎          | 自動車収入(千圓) 1,199 1,199 1,199          |
| 専務 大木 熊雄 監査 永山 止米郎               | 【業績】十三年上 1,199 十三年下 1,199 十四年上 1,199 |
| 常務 大木 熊雄 監査 永山 止米郎               | 【株價】(高値) 株 100 株 100 株 100           |
| 取締役 山下 榮三郎 相談 木村 篤太郎             | 【時價】新 100 舊 100                      |
| 【大株主】十四年五月期 一、二三名                | 【利息】五分一厘                             |
| 北電(八、三三) 帝國生命(八、三三)              |                                      |
| 【事業規模】營業方針 同上                    |                                      |

小田原急行鐵道

〔設立〕大正十二年六月  
〔決算期〕四月、十月  
〔本社〕東京市渋谷區千駄谷五ノ八六一（電四谷七二）

【株式の移動】九月二十日當社の株式約十三萬株が移動した。鬼怒川興業が持株二十六萬のうち、十萬を東電に、五島慶太氏及び關東水力へ約一萬づつ分譲し、五島氏及び關水は市場で更にそれ〳〵四萬乃至六萬株を買収した。かくて十月七日の臨時株主總會で、新重役が四名選舉される事となつた。小林一三の積極經營が加はることは、當社が發展の新段階に入つたと見てよい。

【今期は三分配當】上期の記録的な好調に次いで、下期の業績も引續き三割増收の傾向だ。今期は約七十萬圓の利益を得よう。増收の根據は根強い。今期の三分配當は確實だ。

|                                                  |                                    |
|--------------------------------------------------|------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000                 | 【事業成績】 去年上 去年下 今年上                 |
| 【株数】 100,000                                     | 旅客人員 1,018,824 1,113,255 1,215,237 |
| 【重役】 社長 利光 副社長 池邊 取締役 高野 常務 三浦 廣野 小川 西野 守藏 益田 元光 | 客車収入 1,121,255 1,215,237 1,315,237 |
| 【大株主】 十四年四月期 3,200名                              | 貨車収入 1,000 1,000 1,000             |
| 鬼怒川興業 3,500 八興利光 3,000                           | 【業績】 利益率 配當率 配當額                   |
| 小川市太郎 9,000 廣瀬 健吉 8,100                          | 十三年上 101.0 無配 100.00               |
| 【事業規模】 營業方針                                      | 十三年下 100.0 〇.〇〇 〇.〇〇               |
| 自動車収入 (千人) 1,101,111                             | 十四年上 100.0 〇.〇〇 〇.〇〇               |
| 乗客収入 (円) 1,113,111                               | 【株数】 (實数) 高値 安値                    |
| 【時價】 32.2                                        | 十三年 102.2 26.2                     |
| 【利益】 三分二厘                                        | 十四年 101.1 25.8                     |

京濱電氣鐵道

〔設立〕明治三十一年三月  
〔決算期〕五月、十一月  
〔本社〕神奈川県川崎市川崎町二九（電川崎三〇七）

【業績は依然良好】當社の増收傾向は引續き顯著だ。六、七の二箇月の成績を前年同月に比べると、電車は三割五分、自動車は三割四分の増收を示してゐる。前期に比し自動車は著しい増收を収めてゐるのは、バスの短距離利用客の増加に依る。この分でゆくと電車七十萬圓、自動車十五萬圓の増收が豫想される。無論経費も増加するが、今期の利益金は百二十五、六萬圓に達しよう。

【一分増配か】去る九月一日、最終拂込百九十八萬圓を徴收したのて、利益率は一割八分に止まる。前途好轉は確實だし、而も今期は配當制限令にも抵触しないから、一分増の九分配當が期待される。

|                                           |                                    |
|-------------------------------------------|------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000          | 【事業規模】 營業方針                        |
| 【株数】 100,000                              | 【事業成績】 去年上 去年下 今年上                 |
| 【重役】 社長 生野 取締役 利光 常務 山田 廣野 小川 西野 守藏 益田 元光 | 旅客人員 1,018,824 1,113,255 1,215,237 |
| 【大株主】 十四年五月期 3,200名                       | 客車収入 1,121,255 1,215,237 1,315,237 |
| 東京高速六九六 東島交通九六六                           | 貨車収入 1,000 1,000 1,000             |
| 東京高速六九六 東島交通九六六                           | 【業績】 利益率 配當率 配當額                   |
| 【事業規模】 營業方針                               | 十三年上 101.0 無配 100.00               |
| 自動車収入 (千人) 1,101,111                      | 十三年下 100.0 〇.〇〇 〇.〇〇               |
| 乗客収入 (円) 1,113,111                        | 十四年上 100.0 〇.〇〇 〇.〇〇               |
| 【時價】 32.2                                 | 【株数】 (實数) 高値 安値                    |
| 【利益】 三分二厘                                 | 十三年 102.2 26.2                     |

湘南電氣鐵道

〔設立〕大正十四年十二月  
〔決算期〕五月、十一月  
〔本社〕横浜市神奈川區金町三ノ一四（電長巻町三三三）

【下期業績順調】来る十一月末締切の本年下期業績は一段と好調である。上期の増配に續いて、今期も更に一分増の六分五厘配當を實現しよう。言ふまでもなく沿線が時局工場地帯化するにつれて、運輸収入は増加の一途を辿つてゐるからだ。對前年同期比較で、電車収入は四割見當、自動車収入は二割方の増加だ。自動車はガソリン消費規正による經營の不便はあるが、爲に却つて経費は合理化され、支出の増嵩を抑へる結果となつてゐる。

【前途觀】親會社、京濱電鐵同様、時局に惠まれてゐる。經營權は東横系に移つたが、當社の業績の前途は樂觀される。

|                                                                       |                          |
|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000                                      | 【事業成績】 去年上 去年下 今年上       |
| 【株数】 100,000                                                          | 電車収入 (円) 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇  |
| 【重役】 會長 湯道 取締役 谷口 守雄 常務 五島 慶太 取締役 大坪 弘 取締役 野村龍太郎 監査 大倉 榮馬 近藤 賢一 門野重九郎 | 自動車収入 (円) 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 |
| 【大株主】 十四年五月期 1,000名                                                   | 【業績】 利益率 配當率 配當額         |
| 京濱電鐵 10,000 東横電鐵 1,000                                                | 十三年上 101.0 〇.〇〇 〇.〇〇     |
| 【事業規模】 營業方針                                                           | 十三年下 100.0 〇.〇〇 〇.〇〇     |
| 乗客収入 (千人) 1,101,111                                                   | 十四年上 100.0 〇.〇〇 〇.〇〇     |
| 貨物収入 (円) 1,113,111                                                    | 【株数】 (實数) 高値 安値          |
| 【時價】 32.2                                                             | 十三年 102.2 26.2           |
| 【利益】 四分三厘                                                             | 十四年 101.1 25.8           |

目黒蒲田電鐵

〔設立〕大正十一年九月  
〔決算期〕五月、十一月  
〔本社〕東京市渋谷區大和田町二（電渋谷三二一九）

【業績好調】五月末締切の本年上期は利益率一割七分三厘を擧げ、前期に比し、一割五分の増收で一割配當を据置いた。六月以降の今期成績は客車収入の如き前年同月に比較して六月は三十六萬七千圓、七月は三十九萬二千圓比率にして前者二割九分、後者二割一分の増收である。乗合自動車収入も一割程度の増收を示してゐる。

【東横合併後】前述の如く好調であるから、九分配當の子會社東横を合併しても現行一割配當に不安はない。それに東横自體に一割配當の實力があるのだから、尙更だ。今後の決算は裕りあるものとなる。

|                                                                          |                                    |
|--------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000                                         | 【事業規模】 營業方針                        |
| 【株数】 100,000                                                             | 【事業成績】 去年上 去年下 今年上                 |
| 【重役】 社長 五島 慶太 取締役 谷口 守雄 常務 五島 慶太 取締役 大坪 弘 取締役 野村龍太郎 監査 大倉 榮馬 近藤 賢一 門野重九郎 | 旅客人員 1,018,824 1,113,255 1,215,237 |
| 【大株主】 十四年五月期 1,000名                                                      | 客車収入 1,121,255 1,215,237 1,315,237 |
| 京濱電鐵 10,000 東横電鐵 1,000                                                   | 貨車収入 1,000 1,000 1,000             |
| 【事業規模】 營業方針                                                              | 【業績】 利益率 配當率 配當額                   |
| 乗客収入 (千人) 1,101,111                                                      | 十三年上 101.0 無配 100.00               |
| 貨物収入 (円) 1,113,111                                                       | 十三年下 100.0 〇.〇〇 〇.〇〇               |
| 【時價】 32.2                                                                | 十四年上 100.0 〇.〇〇 〇.〇〇               |
| 【利益】 四分三厘                                                                | 【株数】 (實数) 高値 安値                    |
|                                                                          | 十三年 102.2 26.2                     |

【鐵道軌道業】

### 東京横濱電鐵

【設立】明治四十三年六月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】東京市渋谷区大和田町一(電話三三二一九)

【本期依然順調】上期は利率率一割七分一厘を計上し、配當は依然九分を据置いた。今期に入つても成績は向上し、客車収入は六月、七月を前年同期と比較すると各々一割八分、二割三分の増収である。副業の電燈電力、百貨店、自動車業等何れも増収を示してゐる。此等副業は時局柄統制の壓力を受けるが、差詰め減収することもあるまい。七月一日新株未拂込百五十萬圓を徴収した。

【目滿と合併】来る十月一日親會社目滿電鐵に合併される。合併條件は一対一だ。最近の業績は極めて良好だから、合併後は豫定通り一割配當が實現されるものと思はれる。

|                                |                    |
|--------------------------------|--------------------|
| 【資本金】公稱 5,000,000 拂込 5,000,000 | 【事業成績】             |
| 【株数】(株) 100,000                | 客車収入(千圓) 1,101.1   |
| 【重役】社長 五島 隆太                   | 電氣収入(千圓) 1,111.1   |
| 常務 井野 武郎 取締役 武 鶴太郎             | 利息 1,000.0         |
| 小宮 次郎 常務 佐 卓雄                  | 配當 1,000.0         |
| 山本 知太郎 常務 藤澤 秀雄                | 【業績】               |
| 中川 正左 監査 渡邊 利二郎                | 十三年上 1,000.0       |
| 清川 太郎 監査 守 啓一                  | 十三年下 1,000.0       |
| 【大株主】十四年五月期 2,000名             | 十四年上 1,000.0       |
| 日本興業(株) 1,000名                 | 十四年下 1,000.0       |
| 第一信託(株) 1,000名                 | 【株價】(東色) 株 1,000.0 |
| 第一生命(株) 1,000名                 | 【時價】(東色) 株 1,000.0 |
| 東京電氣(株) 1,000名                 | 【利息】 六分三厘          |
| 収付電燈(株) 1,000名                 | 【時價】(新) 株 1,000.0  |

### 東京地下鐵道

【設立】大正九年十月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】東京市渋谷区千駄谷五ノ八六二(電話三三三二)

【業績は向上】本年下期の業績も亦順調に向上を續け、六、七の二箇月の収入は前年同期に比べ、鐵道三割、軌道二割餘の増加を示した。たゞ自動車の方は、ガソリン使用制限の加重で増収力が鈍つて来た。それでも全體の増収には見るべきものあり、特に東京高速との直通連絡後の期待は相當大きい。この結果、一割五分程度の増収となり今期は百六十萬圓程度の利益金を擧げ得よう。

【前途觀】かくて業績は向上する一方だが、當社としては未だ内容の整理が重要だから、現行六分配當は据置かれよう。過般の東京高速の當社株式肩代り(約三分の一)により、近く重役陣も變るだらう。

|                                |                    |
|--------------------------------|--------------------|
| 【資本金】公稱 5,000,000 拂込 5,000,000 | 【事業成績】             |
| 【株数】(株) 100,000                | 客車収入(千圓) 1,101.1   |
| 【重役】社長 五島 隆太                   | 電氣収入(千圓) 1,111.1   |
| 常務 井野 武郎 取締役 武 鶴太郎             | 利息 1,000.0         |
| 小宮 次郎 常務 佐 卓雄                  | 配當 1,000.0         |
| 山本 知太郎 常務 藤澤 秀雄                | 【業績】               |
| 中川 正左 監査 渡邊 利二郎                | 十三年上 1,000.0       |
| 清川 太郎 監査 守 啓一                  | 十三年下 1,000.0       |
| 【大株主】十四年五月期 2,000名             | 十四年上 1,000.0       |
| 日本興業(株) 1,000名                 | 十四年下 1,000.0       |
| 第一信託(株) 1,000名                 | 【株價】(東色) 株 1,000.0 |
| 第一生命(株) 1,000名                 | 【時價】(東色) 株 1,000.0 |
| 東京電氣(株) 1,000名                 | 【利息】 六分三厘          |
| 収付電燈(株) 1,000名                 | 【時價】(新) 株 1,000.0  |

### 東京高速鐵道

【設立】昭和九年九月  
【決算期】三月、九月  
【本社】東京市赤坂區表町二ノ一五(電赤坂三六〇)

【地下鐵を支配】今春京濱電鐵を支配下に置いた當社は、東京地下鐵の株式二十餘萬株の大量肩代りに成功して、その支配網を更に伸張した。近く行はれる地下鐵との合併には有利な條件を獲得するであらうし、大東京交通統制の具體的進展と共に、此の當社の支配力は必ずや物を言ふべく、その將來は注目されよう。

【業績は向上】八月迄の一日平均収入は二千五百圓で、前期に較べ一千圓の向上した。九月十六日の地下鐵との直通連絡實現後は一日四五千圓の収入となるだらう。従つて假令建設利息配當を維持するに、今後は營業益で賄ふ部分が殖える譯だ。

|                                |                    |
|--------------------------------|--------------------|
| 【資本金】公稱 5,000,000 拂込 5,000,000 | 【事業成績】             |
| 【株数】(株) 100,000                | 客車収入(千圓) 1,101.1   |
| 【重役】社長 門野 重九郎                  | 電氣収入(千圓) 1,111.1   |
| 常務 藤 康太郎 取締役 黒河内 四郎            | 利息 1,000.0         |
| 常務 五島 隆太 取締役 穴水 熊雄             | 配當 1,000.0         |
| 取締役 根津 嘉一郎 池邊 桐生               | 【業績】               |
| 井上 嘉太郎 監査 利 光                  | 十三年上 1,000.0       |
| 金 光 監査 松本 泰治                   | 十三年下 1,000.0       |
| 和田 隆 監査 河西 賢太郎                 | 十四年上 1,000.0       |
| 【大株主】十四年三月期 2,000名             | 十四年下 1,000.0       |
| 大倉 組(株) 1,000名                 | 【株價】(東色) 株 1,000.0 |
| 東京電氣(株) 1,000名                 | 【時價】(東色) 株 1,000.0 |
| 東京電氣(株) 1,000名                 | 【利息】 四分三厘          |
| 東京電氣(株) 1,000名                 | 【時價】(新) 株 1,000.0  |

### 帝都電鐵

【設立】昭和三年九月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】東京市渋谷区千駄谷五ノ八六二(電話三三三二)

【減資問題】山手循環線建設の放棄と共に、當社の建設利息配當も本年十一月で期限が切れる。該線建設費として計上してある資産勘定六十三萬六千圓は、二割の減資によつて償却し、その代り現在の五分配當を七分に引上げる意圖だ。一気に二分増配は出来ぬが、来々上期と下期に一分づつ引上げられよう。減資で腐れがなくなる上に、渋谷線は非常に割安に建設されてゐるから、良化の強味がものを言ふ譯だ。

【業績は順調】沿線地帯の股賑化に伴ふて、今期も昨年同期に比し約三割程度の増収だ。税負擔の問題もあるが前途は樂觀される。

|                                |                    |
|--------------------------------|--------------------|
| 【資本金】公稱 5,000,000 拂込 5,000,000 | 【事業成績】             |
| 【株数】(株) 100,000                | 客車収入(千圓) 1,101.1   |
| 【重役】社長 利 光 取締役 利 光             | 電氣収入(千圓) 1,111.1   |
| 常務 安東 庸五 監査 宇 孝三               | 利息 1,000.0         |
| 常務 川又 貞次郎 監査 池邊 桐生             | 配當 1,000.0         |
| 取締役 中川 小十郎 監査 結城 大郎            | 【業績】               |
| 【大株主】十四年五月期 2,000名             | 十三年上 1,000.0       |
| 利 光 監査 久 三三三                   | 十三年下 1,000.0       |
| 【事業成績】電車營業行程 1,000.0           | 十四年上 1,000.0       |
| 【大株主】十四年三月期 2,000名             | 十四年下 1,000.0       |
| 利 光 監査 久 三三三                   | 【株價】(東色) 株 1,000.0 |
| 【事業成績】電車營業行程 1,000.0           | 【時價】(東色) 株 1,000.0 |
| 【大株主】十四年三月期 2,000名             | 【利息】 四分五厘          |
| 利 光 監査 久 三三三                   | 【時價】(新) 株 1,000.0  |

【鐵道軌道業】



【鐵道軌道業】

### 相模鐵道

【設立】大正六年十二月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】神奈川県高座郡茅ヶ崎町(電茅ヶ崎) (出張所) 東京市麹町區飯田町五ノ二五(電九段三三六)

【支配の移動】本年五月より當社の株式は昭和産業に買収され始め六月にはその過半数が肩代りされた。同月末の株主總會では重役陣も全部更迭し、かくて當社は昭和により支配經營されるに至つた。八月一日借金返済と沿線開發の爲四十萬圓の拂込を徴つた。  
【今後に期待】本年下期の業績は意外に好調で、前年六、七月に比べて鐵道五割、砂利業九割、自動車業八割の増收だ。尤も昨年は水害による減收があつたが、それにしる今期の自然増收には著しいものがある。二分増配も可能な業績だが、政府補助金の關係から配當は五分弱に止め、銳意内容の充實を計る筈。期待は一年後だ。

|                                   |                       |                   |
|-----------------------------------|-----------------------|-------------------|
| 【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,180,000    | 【事業成績】                | 【株主】              |
| 【株数】新 100,000 舊 18,000            | 客車収入(電) 1,000,000     | 正次 常務 西村清隆 取締役 飯田 |
| 【重役】社長 南波清吉                       | 貨車収入(電) 1,000,000     | 正次 常務 西村清隆 取締役 飯田 |
| 【大株主】四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月 | 【時價】新 100.00 舊 110.00 | 【利息】五分二厘          |

### 富士山麓電氣鐵道

【設立】大正十五年十月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】東京市麹町區丸之内二ノ二(電丸ノ内三三六)

【松田自動車合併】當社は昭和十二年十一月富士自動車を買収したが、これによつて富士山麓一帯のバス網を統制する態勢となつた。来る十一月一日松田自動車(資本金廿萬圓、内十四萬六千圓拂込)を對等合併するもの、かゝる方向の一端である。去る七月末には忍野自動車を一萬圓で買収した。業績が好調の一途を辿りつつある折柄、その先行きには注目に値するものがあらう。  
【業績向上】左表に示す如く、累期業績は向上し、現行配當(普通株一株に付半期八十六錢)は安定してゐる。十一月末締切の下期は近來にない好成績を擧げてゐる。前途の妙味は愈々深まる。

|                                                                                   |                       |                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-------------------|
| 【資本金】公稱 1,500,000 拂込 1,500,000                                                    | 【事業成績】                | 【株主】              |
| 【株数】新 150,000 舊 0                                                                 | 客車収入(電) 1,000,000     | 正次 常務 西村清隆 取締役 飯田 |
| 【重役】社長 堀内良平 専務 飯田                                                                 | 貨車収入(電) 1,000,000     | 正次 常務 西村清隆 取締役 飯田 |
| 【大株主】十四年五月 十五年五月 十六年五月 十七年五月 十八年五月 十九年五月 二十年五月 二十一年五月 二十二年五月 二十三年五月 二十四年五月 二十五年五月 | 【時價】新 100.00 舊 110.00 | 【利息】五分二厘          |

【鐵道軌道業】

### 伊那電氣鐵道

【設立】明治四十年九月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】東京市町區丸ノ内海上ビル(丸之内八八五) (出張所) 長野縣上伊那郡赤穂村(電赤穂)

【五月期一分増配】前報所報の如く、五月末締切の本年上期決算は好成績を以て一分増の六分増配を附した。左表に示すやうに業績は累期向上してゐる。既に業績は安定状態に置かれてゐるから、先行き些かの不安もない。  
【十一月期業績】續々下期も亦好調を進んでゐる。沿線の農村が養蠶、山林地帯だけに、生糸、木材の好況に恵まれ、當社線を潤はす結果となつてゐる。もちろん、前期以上の好成績を示すことは確實である。更に一分増配しようとするれば、その實現も可能だ。經營當局は堅實經營方針から下期据置に自重するも、前途は更に好望だ。

|                                                                                   |                       |                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-------------------|
| 【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,180,000                                                    | 【事業成績】                | 【株主】              |
| 【株数】新 100,000 舊 18,000                                                            | 客車収入(電) 1,000,000     | 正次 常務 西村清隆 取締役 飯田 |
| 【重役】社長 南波清吉                                                                       | 貨車収入(電) 1,000,000     | 正次 常務 西村清隆 取締役 飯田 |
| 【大株主】十四年五月 十五年五月 十六年五月 十七年五月 十八年五月 十九年五月 二十年五月 二十一年五月 二十二年五月 二十三年五月 二十四年五月 二十五年五月 | 【時價】新 100.00 舊 110.00 | 【利息】五分二厘          |

### 阪神電氣鐵道

【設立】明治三十二年六月  
【決算期】三月、九月  
【本社】兵庫県尼崎市北城内一六(電尼崎) (出張所) 大阪市北區梅田一四(電大阪北)

【地下鐵完成の影響】地下鐵の梅田乗入れで初期以來當社線の利用度は急増したが、乗客収入も相當の増加を示し八月末迄の今期累計で収入は四百六十六萬圓と前年同期に比し五十三萬三千圓(一割三分弱)増の好成績をあげてゐる。始發驛梅田の阪神ビルが完成すれば更に利用度は増さう。  
【來期以降】兎も角今期の業績は心配ない。九分据置は確實で、來期以降は建設費の低廉化も漸次實現する見込だから内容の堅實さも加はる筋合だ。電氣供給収入もさう大して増加率は減じないだらう。九分増配は漸次餘裕含みとなる譯だ。

|                                                                                   |                       |                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-------------------|
| 【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,180,000                                                    | 【事業成績】                | 【株主】              |
| 【株数】新 100,000 舊 18,000                                                            | 客車収入(電) 1,000,000     | 正次 常務 西村清隆 取締役 飯田 |
| 【重役】社長 堀内良平 専務 飯田                                                                 | 貨車収入(電) 1,000,000     | 正次 常務 西村清隆 取締役 飯田 |
| 【大株主】十四年五月 十五年五月 十六年五月 十七年五月 十八年五月 十九年五月 二十年五月 二十一年五月 二十二年五月 二十三年五月 二十四年五月 二十五年五月 | 【時價】新 100.00 舊 110.00 | 【利息】五分二厘          |

【鐵道軌道業】

### 阪神急行電鐵

【設立】明治四十年十月  
【決算期】三月、九月  
【本社】大阪市豊能郡池田町八九六（電池田二〇五五）  
【出張所】大阪市北區梅田町四一（電北區三〇一四）

【運輸順調】當社の業況も順調の一語につきる。乗客収入も八月末迄の累計で今期は四百六十五萬三千圓に上り、前年同期の四百四十四萬四千圓に比し五十一萬三千圓（一割二分四厘）の増加となつてゐる。経費増を見込んで三百六、七十萬圓の利益を計上することは容易で配當も勿論据置ける。

【前途】電力不足でも當社の如き小賣を行ふ會社への影響は少ないかも知れないが、運轉車輛の減少、供給電力のコスト増等打撃は多少とも受けよう。然し肝腎の交通量は減少しないのだからさう心配することはあるまい。

|                                |                                               |
|--------------------------------|-----------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000 | 【事業成績】                                        |
| 【株数】(單位千株)                     | 【電氣收入】(千圓)                                    |
| 【重役】                           | 【電氣收入(1)】(2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) |
| 【大株主】                          | 【株主】                                          |
| 【事業規模】                         | 【時價】                                          |
| 【乗客人員】                         | 【利息】                                          |

### 京阪電氣鐵道

【設立】明治三十九年十一月  
【決算期】三月、九月  
【本社】大阪府北河内郡枚方町大字岡  
【事務所】大阪市北區天神橋筋六ノ五（電報川二二一—八）

【増配實現せん】待望の増配も今期實現しさうだ。乗客収入は八月末迄に既に對前年同期一割一分四厘の増収を示し、電燈電力収入は前途は問題としても今期は四十萬圓位の増収とならう。彼是れ考慮して結局今期は二百九十五萬圓内外の利益となり利益率は一割強となる見込だ。一分増配するとしてそれに要する配當所要金は半期三十萬圓足らずだから、増配は實現するものと思はれる。

【大同電力株を手放す】同社は舊大同の株を約十三萬二千株もつてゐるが、そのうち二萬株を賣つた。今後も漸次賣つて行くことだらうが、當にならない日發の配當に期待するより賢明だ。

|                                |                                               |
|--------------------------------|-----------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000 | 【事業成績】                                        |
| 【株数】(單位千株)                     | 【電氣收入】(千圓)                                    |
| 【重役】                           | 【電氣收入(1)】(2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) |
| 【大株主】                          | 【株主】                                          |
| 【事業規模】                         | 【時價】                                          |
| 【乗客人員】                         | 【利息】                                          |

【鐵道軌道業】

### 南海鐵道

【設立】明治二十八年八月  
【決算期】三月、九月  
【本社】大阪市南區難波新地六（電戎四一八）

【増収率二割】當社の増収率は相當顯著で近來の沈滞傾向を脱したかの感がある。八月末迄の今期累計で客車収入は五百七十七萬六千圓と前年同期に比し八十六萬五千圓、率にして二割強の増加だ。昨年夏の沿線海水浴客が比較的少なかつたのが今年は著しく増えたため、關西主要八社の平均増収率一割七分七厘を超えるものだ。

【據置】この分で行けば今期も二百八、九十萬圓の利益金を計上することは容易だ。配當も勿論据置とみてよい。たゞ電力不足で、電氣供給収入の減少は或程度止むを得ないが、當社の如く小賣専門の會社には影響するところ少なからう。

|                                |                                               |
|--------------------------------|-----------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000 | 【事業成績】                                        |
| 【株数】(單位千株)                     | 【電氣收入】(千圓)                                    |
| 【重役】                           | 【電氣收入(1)】(2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) |
| 【大株主】                          | 【株主】                                          |
| 【事業規模】                         | 【時價】                                          |
| 【乗客人員】                         | 【利息】                                          |

### 大阪電氣軌道

【設立】明治四十三年九月  
【決算期】三月、九月  
【本社】大阪市天王寺區本町六丁目（電天王寺三三三）

【運轉好調】八月末迄の今期累計で、當社の乗客収入は四百六十二萬二千圓で、前年同期の三百九十九萬一千圓に比し、七十二萬一千圓の増収だ。率にすると一割八分五厘の増加に當る。關急開通以來滿一ヶ年目の状態が斯の如き活況に恵まれてゐる以上、當社の前途も安泰と押へて差支へない。

【餘給加はる】電燈電力収入は時節柄さう大した利益はもたらさぬかもしれないが、子會社は一齊に好轉してゐる。それに七月の拂込徴収で借金が軽減されたから金利負擔も少なくなり、内容の強味は一段と加はるだらう。八分据置に問題はない。

|                                |                                               |
|--------------------------------|-----------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000 | 【事業成績】                                        |
| 【株数】(單位千株)                     | 【電氣收入】(千圓)                                    |
| 【重役】                           | 【電氣收入(1)】(2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) |
| 【大株主】                          | 【株主】                                          |
| 【事業規模】                         | 【時價】                                          |
| 【乗客人員】                         | 【利息】                                          |



【鐵道軌道業】

### 参宮急行電鐵

【設立】昭和二年九月  
【決算期】三月、九月  
(本社) 大阪市天王寺區上本町六ノ一(電天王寺三三三)

【増収率四割に近し】九月份の増収率も依然顯著だ。八月上旬迄の累計で見ると客車収入は二百二十六萬二千圓で、前年同期に比し六十四萬一千圓、率にして三割九分六厘の増加である。増収率の高いことは關西主要電鐵會社中首位に位する。この調子で進めば今期の利益は九十萬圓内外とならう。九十萬圓としても利益率は五分八厘強で、この限り三、四分の配當は充分可能だ。

【配當開始期】來期以降の見透しも悪くないから、これに重點を置いて今年に初配をつけよう。飽く迄も堅實に進むなら今一期自重して内容充實を計るだらうが、いづれにせよ配當開始期は目前に來た。

|                                                              |                                                                         |                                                           |                                                         |
|--------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 1,200,000 拂込 1,100,000                               | 【株數】(單位) 10,000                                                         | 【事業成績】(十一年上) 客車収入 1,100,000 貨物収入 1,200,000 營業利潤 1,300,000 | 【時價】(單位) 100.00                                         |
| 【役員】社長 藤田 虎雄 取締役 武井 四郎 片岡 直方 藤田 忠次郎 森 平藏 五高 平藏 九鬼 龍一郎 小池 一太郎 | 【大株主】十四年三月期 大阪電氣軌道 三六〇,〇〇〇 京阪電氣軌道 三〇〇,〇〇〇 阪神電氣軌道 三〇〇,〇〇〇 大阪市電氣局 三〇〇,〇〇〇 | 【配當】(十一年上) 客車収入 1,100,000 貨物収入 1,200,000 營業利潤 1,300,000   | 【利息】(十一年上) 客車収入 1,100,000 貨物収入 1,200,000 營業利潤 1,300,000 |

### 大阪鐵道

【設立】明治三十二年五月  
【決算期】三月、九月  
(本社) 大阪府南河内郡富田林町大字毛人谷  
(事務所) 大阪府住吉區河部野路一丁目(電天王寺三三三)

【子會社は増配】當社の子會社大鐵百貨店及び大鐵映畫はいづれも最近増配した。即ち前者は去る八月期に五分から六分へ、後者は七月期五分から六分へ一分宛増配したのだ。これによる當社の配當收入は知れたものだが、子會社の活況は取りも直さず當社の好調を示すものだ。事實八月末迄の累計で今期の乗客収入は前年同期に比し一割七分二厘増の百二十三萬三千圓となつてゐる。

|                                                              |                                                                         |                                                           |                                                         |
|--------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 1,200,000 拂込 1,100,000                               | 【株數】(單位) 10,000                                                         | 【事業成績】(十二年上) 客車収入 1,100,000 貨物収入 1,200,000 營業利潤 1,300,000 | 【時價】(單位) 100.00                                         |
| 【役員】社長 藤田 虎雄 取締役 武井 四郎 片岡 直方 藤田 忠次郎 森 平藏 五高 平藏 九鬼 龍一郎 小池 一太郎 | 【大株主】十四年三月期 大阪電氣軌道 三六〇,〇〇〇 京阪電氣軌道 三〇〇,〇〇〇 阪神電氣軌道 三〇〇,〇〇〇 大阪市電氣局 三〇〇,〇〇〇 | 【配當】(十二年上) 客車収入 1,100,000 貨物収入 1,200,000 營業利潤 1,300,000   | 【利息】(十二年上) 客車収入 1,100,000 貨物収入 1,200,000 營業利潤 1,300,000 |

【鐵道軌道業】

### 阪和電氣鐵道

【設立】大正十五年四月  
【決算期】三月、九月  
(本社) 大阪市天王寺區慈惠院町九三(電天王寺二五二)

【増収二割九分強】當社の運轉狀況も活況を呈してゐる。南海電鐵と同様の理由で海水浴客の増加は著しく八月末迄の累計で今期の乗客収入は對前年同期二割九分一厘の増加となつてゐる。恐らく今期の利益は六十萬圓を下る様なきはあまい。とすれば利益率は六分一分増配は可能だ。

【前途も好調】果して増配が實現するかどうか判らないが、目前に迫つた紀勢線の全通に伴ふ乗客収入の増加を考へると増配期は著しく接近したとだけには確かだ。たとへ今期増配がのびたとしても來期は間違なく實現するとみてよい。

|                                                              |                                                                         |                                                           |                                                         |
|--------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 1,200,000 拂込 1,100,000                               | 【株數】(單位) 10,000                                                         | 【事業成績】(十一年上) 客車収入 1,100,000 貨物収入 1,200,000 營業利潤 1,300,000 | 【時價】(單位) 100.00                                         |
| 【役員】社長 藤田 虎雄 取締役 武井 四郎 片岡 直方 藤田 忠次郎 森 平藏 五高 平藏 九鬼 龍一郎 小池 一太郎 | 【大株主】十四年三月期 大阪電氣軌道 三六〇,〇〇〇 京阪電氣軌道 三〇〇,〇〇〇 阪神電氣軌道 三〇〇,〇〇〇 大阪市電氣局 三〇〇,〇〇〇 | 【配當】(十一年上) 客車収入 1,100,000 貨物収入 1,200,000 營業利潤 1,300,000   | 【利息】(十一年上) 客車収入 1,100,000 貨物収入 1,200,000 營業利潤 1,300,000 |

### 九州電氣軌道

【設立】明治四十二年十二月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 小倉市京町三五八ノ二(電小倉三三三)

【順調】五月份は創立三十周年を記念して、記念配當一分をつけたが、利益金は二百七十三萬五千圓、利益率一割二分と相當の好成績であつた。一分増配も樂に出來たわけだが、引續き今期の成績もよい。當社の沿線に於ける軍需景氣は非常なもので乗客収入も増加の一途を辿つてゐるからだ。

【子會社】去る二月に創立した子會社九州特殊製鋼も最近操業を開始し、豐州電氣鐵道(資本金五百萬圓)の方も順調に進む様だ。北九州の重工業化は一段と進むものと思はれるから今後の業績も不安はない。差當つて今期記念配當を普通配當に直す事も可能な位だ。

|                                                              |                                                                         |                                                           |                                                         |
|--------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 1,200,000 拂込 1,100,000                               | 【株數】(單位) 10,000                                                         | 【事業成績】(十二年上) 客車収入 1,100,000 貨物収入 1,200,000 營業利潤 1,300,000 | 【時價】(單位) 100.00                                         |
| 【役員】社長 藤田 虎雄 取締役 武井 四郎 片岡 直方 藤田 忠次郎 森 平藏 五高 平藏 九鬼 龍一郎 小池 一太郎 | 【大株主】十四年三月期 大阪電氣軌道 三六〇,〇〇〇 京阪電氣軌道 三〇〇,〇〇〇 阪神電氣軌道 三〇〇,〇〇〇 大阪市電氣局 三〇〇,〇〇〇 | 【配當】(十二年上) 客車収入 1,100,000 貨物収入 1,200,000 營業利潤 1,300,000   | 【利息】(十二年上) 客車収入 1,100,000 貨物収入 1,200,000 營業利潤 1,300,000 |

【鐵道軌道業】

### 名古屋鐵道

【設立】大正十年七月  
【決算期】四月、十月  
(本社) 名古屋市南區熱田東町字新宮坂三四(電報掛三六七一)

【収益期を迎ふ】當社は元來名岐線と愛電線を連絡せしめ、その經營を合理化することを目的として生れたものだ。そして、この實現の爲に昨年三月倍額増資を斷行したが、支那事變の進展によつて所期の目的は仲々達成されな。未働資本の壓迫が懸念されて、當局者もその切掛けに腐心せざるを得なかつた。そこで、中京一帯の既設鐵道軌道、バス網等の買収により、所謂自主的交通統制の役割を演じつつあつたが、業界好調の波に乗つて運輸収入の増加は著しい。  
【増配見込】かくて、現行六分配當は漸次餘裕含みとなり、増配氣運は濃厚だ。今期實現を見なくとも、來期が樂める譯だ。

|        |                    |                               |
|--------|--------------------|-------------------------------|
| 【資本金】  | 公稱 二、三、五〇〇、〇〇〇     | 拂込 二、三、五〇〇、〇〇〇                |
| 【株数】   | 新 一、〇〇〇、〇〇〇        | 舊 一、〇〇〇、〇〇〇                   |
| 【役員】   | 社長 愛川清成            | 取締役 神野金之助、田代榮三、上野野三、後藤孝三、高橋正彦 |
| 【業務成績】 | 客車収入(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 | 貨物運賃(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇            |
| 【株價】   | 十四年八月 一、〇〇〇        | 十四年九月 一、〇〇〇                   |

### 三河鐵道

【設立】明治四十五年六月  
【決算期】三月、九月  
(本社) 愛知縣碧海郡刈谷町(電刈谷三)

【九月期業況】九月末締切の本年下期業況は良好である。未だ決算の發表を見ないが、左掲表示の前期決算より餘裕は増大する。言ふまでもなく、戦時下輸送貨客の増加に基因するが、刈谷の北方路線がトヨタ自動車工場(學母)等の時局工場の活況に恵まれてゐる。東海道線に沿つた海岸線は蒲郡を中心に矢張り乗客は増加の趨勢を辿つてをり、寧ろ輸送機關の不足に悩む程である。  
【増配未だし】然し、内容に幾多の缺點を有つ當社とて、増配を見込む譯には行かぬ。諸償却に勉め、内容の充實を圖る一方、借金の整理をも或る程度斷行せねばならぬ。但し將來は期待されよう。

|        |                    |                           |
|--------|--------------------|---------------------------|
| 【資本金】  | 公稱 一、〇〇〇、〇〇〇       | 拂込 一、〇〇〇、〇〇〇              |
| 【株数】   | 新 一、〇〇〇、〇〇〇        | 舊 一、〇〇〇、〇〇〇               |
| 【役員】   | 社長 米山辰夫            | 取締役 大野庄太郎、大財日出徳、横井徳平、野村清臣 |
| 【業務成績】 | 客車収入(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 | 貨物運賃(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇        |
| 【株價】   | 十四年八月 一、〇〇〇        | 十四年九月 一、〇〇〇               |

### 金剛山電氣鐵道

【設立】大正八年十二月  
【決算期】三月、九月  
(本社) 朝鮮江原道鐵原郡鐵原邑外村里六五五(電鐵原〇一)  
(出張所) 東京市町田區丸ノ内三三三(電丸之内九二)

【合併問題進行中】京城電氣との合併交渉が總督府の斡旋で進行中だが、當社は對等合併を希望し、京城電氣側は電燈電力部門の水力發電所だけを切離し買収せんとしてゐる。當社の収益は電燈電力部門と政府補助金とから擧げられ、電鐵部門自體は毎期赤字続きである。京城電氣の意向は餘りに自己本位のものだから、當局も兩者の妥協を求め、今年中には決定の見込みである。  
【株價暴騰】今期初三箇月間の成績は良好であるから、九分配當は益々安泰だし、政府補助金も向ふ五箇年間延長された。合併後の一割配當を見越して株價は六月以降二十圓奔騰した。

|        |                    |                          |
|--------|--------------------|--------------------------|
| 【資本金】  | 公稱 一、〇〇〇、〇〇〇       | 拂込 一、〇〇〇、〇〇〇             |
| 【株数】   | 新 一、〇〇〇、〇〇〇        | 舊 一、〇〇〇、〇〇〇              |
| 【役員】   | 社長 古川飯次郎           | 取締役 久米平八郎、杉村貞雄、山崎善吉、鈴木相雄 |
| 【業務成績】 | 客車収入(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 | 貨物運賃(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇       |
| 【株價】   | 十四年八月 一、〇〇〇        | 十四年九月 一、〇〇〇              |

### 朝鮮鐵道

【設立】大正五年五月  
【決算期】八月、二月  
(本社) 京城府古市町一四番地(電本局三三)  
(支社) 東京市町田區丸ノ内二二(電丸之内八〇)

【鮮内景氣好影響】國鐵代行機關としての當社の威北、黃海、忠北慶北各線は何れも最近の兵站基地朝鮮の好景氣に影響され、期初以來七月末までに一割九分の増収に恵まれてゐる。十七會社に對する投資から生れる一割以上の利潤も當社の業績を向上せしめ現行八分配當を安泰ならしめる。  
【今後の動き】本年中で打切られる筈の政府補助金は向ふ五ヶ年間建設費に對し五分の割合で繼續せられることに決定した。慶北線が來年三月政府に買収されるが、その代金は今年中完成豫定の威北線廣軌改造の爲の借金を完済して餘りがある。内容は良くなる。

|        |                    |                     |
|--------|--------------------|---------------------|
| 【資本金】  | 公稱 一、〇〇〇、〇〇〇       | 拂込 一、〇〇〇、〇〇〇        |
| 【株数】   | 新 一、〇〇〇、〇〇〇        | 舊 一、〇〇〇、〇〇〇         |
| 【役員】   | 社長 新田留次郎           | 取締役 井上直治、野田正吉、鈴木春之助 |
| 【業務成績】 | 客車収入(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 | 貨物運賃(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇  |
| 【株價】   | 十四年八月 一、〇〇〇        | 十四年九月 一、〇〇〇         |

【鐵道軌道業】

日本郵船株式會社

(本社) 東京市豊町區丸の内郵船ビル(電九ノ内 五二一三)

【歐洲大戰と海運界】歐洲大戰の突發は漸く行間え状態に落ち入りつゝあつた我海運界に、大轉換を齎した。これによつて從來惠まれなかつた遠洋配船會社は一轉して好況を迎え、好調を満喫してゐた近海配船の中小業者は近海市況抑制から前者程の好影響は受けぬ。【統制機構の整備】事變以來問題化してゐた市況抑制は次第にその必要を増し、他方船舶鐵道の深刻化は配船統制を必要とするに至つた。その爲從來の自治統制委員會を改組擴充して「海運統制委員會」を組織し、九月初から市況、配船の統制を實施した。一方歐洲大戰勃發の爲生ずる影響は右機構にて調整される。

【成績好轉】右の如き状態だから當社の成績は勿論好轉する。その上八月十六日に近海郵船を吸收合併したから、今期は一ヶ月半しか營業成績に寄與しないが、それでも總收入は千二、三百萬圓には達する。利益率は二割六―八分見當にはならぬ。かくして來期は遠洋の好轉と近海部の依然たる好調で素晴らしい好轉が期待される。

【増資増配】近郵の合併によつて當社造船計畫は東亞海運への出資分を差引いても二十萬噸以上である。この爲是大な資金を要するが之を賄ふため今年末か明春最終拂込を徴収し増資に進む筈だ。従つて一分増の八分増が期待される。

Table with financial data for Nippon Yusen Kaisha (Japan Mail Ship Co.). Columns include: 設立 (Established), 決算期 (Fiscal Year End), 事業 (Business), 資本 (Capital), 役員 (Officers), 株主数 (Shareholder Count), 大株主 (Major Shareholders), 貸借 (Loans), 資産負債 (Assets and Liabilities), 株主資本 (Shareholder Capital), 外部負債 (External Liabilities), 使用總資本 (Total Capital Used), 流動資産 (Liquid Assets), 現金預金 (Cash and Savings), 支出入 (Income and Expenses), 船泊消却 (Ship Disposal), 利益 (Profit), and 時價 (Market Price). Data points are provided for various years from 1917 to 1924.

Table with financial data for Nippon Yusen Kaisha. Columns include: 貸借 (Loans), 資産負債 (Assets and Liabilities), 株主資本 (Shareholder Capital), 外部負債 (External Liabilities), 使用總資本 (Total Capital Used), 流動資産 (Liquid Assets), 現金預金 (Cash and Savings), 支出入 (Income and Expenses), 船泊消却 (Ship Disposal), 利益 (Profit), and 時價 (Market Price). Data points are provided for various years from 1917 to 1924.

大阪商船株式會社

(本社) 大阪市北區宗廟町一丁目大阪ビル(電土佐堀 六〇七) (支社) 東京市豊町區内幸町二ノ一 大阪ビル新館(電銀形三三二)

【大戦勃發の好影響】當社配船は、近海と遠海と略々半々位になつて居る。郵船に比べれば、遠洋航路への配船は少ないが、それにしても大戦が本格的に發展してくれば、好影響は相當大きい。近海市場は、統制は極めて嚴重で、運賃なども、假りに遠洋が暴騰して、さう騰げられまい。

【遠洋市場躍騰】が、遠洋は早くも躍騰して居る。我國の分はまだ二割乃至二割五分程度だが、外國の方は五割乃至七割の昂騰だ。輸出貿易も、海外からの引合は活潑になつて來て居るが、目先の假需要が大部分だから、こゝ當分、海運界も本格的な好況は望めない。然し、戦争の發展に伴つて漸次素晴らしい好況がやつて來ることは今から期待して間違ひない。と云つても、當社の遠洋配船は定期船だから、不定期船ほどには運賃も大幅な騰貴は望めない。尙ほ海運収入のうち二割内外は弗建だが、一志二片ペーシスが動かぬとすれば、クロス安で對米爲替が下つたに、弗建運賃の圓換算収入は増すからだ。

【増配問題】上期の業績は下表の如く益々好調だ。今後一層業績が向上するとしても、高い新船原價を切り下げるためにも、充分な償却が大切だ。さう簡單に増配もすまい。

Table with financial data for Osaka Steamship Co. Columns include: 設立 (Established), 決算期 (Fiscal Year End), 事業 (Business), 資本 (Capital), 役員 (Officers), 株主数 (Shareholder Count), 大株主 (Major Shareholders), 貸借 (Loans), 資産負債 (Assets and Liabilities), 株主資本 (Shareholder Capital), 外部負債 (External Liabilities), 使用總資本 (Total Capital Used), 流動資産 (Liquid Assets), 現金預金 (Cash and Savings), 支出入 (Income and Expenses), 船泊消却 (Ship Disposal), 利益 (Profit), and 時價 (Market Price). Data points are provided for various years from 1917 to 1924.

Table with financial data for Osaka Steamship Co. Columns include: 貸借 (Loans), 資産負債 (Assets and Liabilities), 株主資本 (Shareholder Capital), 外部負債 (External Liabilities), 使用總資本 (Total Capital Used), 流動資産 (Liquid Assets), 現金預金 (Cash and Savings), 支出入 (Income and Expenses), 船泊消却 (Ship Disposal), 利益 (Profit), and 時價 (Market Price). Data points are provided for various years from 1917 to 1924.

### 東洋汽船株式會社

(本社) 東京市豊町區丸の内海上ビル(電九ノ内 三三三)

【近海好調繼續】近海市況は依然好調で運賃市況は若松—京濱石炭四圓八十錢と統制標準率より二十錢方上廻り、大連横濱豆粕も三十八錢と前年同期より強調を示してゐる。備船料も小型船は上げ過ぎの反動で標準率より若干下廻つてゐるが、大型船は強含みである。

【今期成績】然らば當社の今期成績は如何。去る六月份成績は百七十五萬一千圓と昨年同期より二十八萬五千圓の利益減を示した。云ふ迄もなく當社は最近自營主義に轉向しつゝあるが、なほ貨船か主で三井、山下等がその得意先である。この關係から戦局の收縮による某方面よりの返船、従つて備船料の先安見越しで運賃備船料収入が昨年同期より一割減の四百八萬三千圓と低下した爲である。而も當社の貸船契約は長期契約が多いから、歐洲大戰の好材料はあつても今期成績は恐らく前期程度を出まい。

【來期は向上】而し、大戰が長期に亘る場合は當社もその好況を滿喫出来る。所有船腹の九割迄が八、九千噸型の大型船だからだ。而も戦局は長期戦に轉入する模様だから來期以降の成績は向上しよう。

【拂込徴收】當社は現在四千三百噸の標準型三隻を建造中である。この所要資金は四百五十萬圓以上と見られるから、好況に乘じ第三回拂込を近く徴收しよう。一割配當の安全なことは云ふ迄もない。

|        |                                                                                                                     |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 明治二十九年六月                                                                                                            |
| 【決算期】  | 六月、十二月                                                                                                              |
| 【事業】   | 貨物船運                                                                                                                |
| 【資本金】  | 公稱 10,000,000 拂込 11,000,000                                                                                         |
| 【株数】   | 新 100,000 100,000                                                                                                   |
| 【役員】   | 社長 高橋 勇 取締役 中野 秀雄<br>専務 吉原 政智 監査 安念 精一<br>常務 井尻 芳郎 相模 川角 一<br>水田 米三郎 相模 浅野 良三<br>飯田 彌一郎 白石 元治郎                      |
| 【株主数】  | 十一年上 十一年上 十一年上                                                                                                      |
| 【大株主】  | (十四年七月三十一日現在)<br>丸之内商事 三、二〇〇 安田銀行 三、二〇〇<br>大洋興業 三、二〇〇 安田保壽社 三、二〇〇<br>浅野同族 一、八〇〇 日本郵船 一、八〇〇<br>山二株式 一、八〇〇 鋼路土地 一、八〇〇 |
| 【事業規模】 | 所有船隻(隻) 六、七六<br>船隻原價(千圓) 六、七六<br>船隻原價(千圓) 三、〇〇〇                                                                     |
| 【事業成績】 | 備船料(千圓) 十一年上 五、五〇〇 十一年上<br>政府助成(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇                                                                     |
| 【資本興動】 | 十一年十月三十一日公債徴收十三年<br>三月八日公債増資一四、〇〇〇圓公債徴收<br>十一年一月第一回三厘公債徴收                                                           |

|        |                      |
|--------|----------------------|
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十四年          |
| 株主資本   | 六三、三三三 六三、三三三 六三、三三三 |
| 外部負債   | 七、二二二 七、二二二 七、二二二    |
| 借入金    | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇    |
| 支拂手形   | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇    |
| 流動資産   | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇    |
| 固定資産   | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇    |
| 現金預金   | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇    |
| 【収支】   | 十一年上 十一年上 十一年上       |
| 収入     | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇    |
| 支出     | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇    |
| 【利益】   | 十一年上 十一年上 十一年上       |
| 【時價】   | 十一年上 十一年上 十一年上       |
| 【名義書換】 | 十一年上 十一年上 十一年上       |

### 日産汽船株式會社

(本社) 東京市芝區田村町日産館内(電報掛 三三三)

【造船着々進捗】大造船計畫は着々と豫定の進捗を示してゐる。今年五月の倍額増資に伴ふ造船計畫は明十五年迄に三段階に分けて合計十七隻、十三萬噸の新船建造を行ふことにあるが、この内第一次建造は既に終り、目下第二次建造に主力が注がれてゐる。この計畫に屬する日威丸、日朝丸、日張丸、日笠丸の四隻は各重量一萬噸のタービン貨物船で、日威は十月央、日朝は十一月央、日張は明年一月に各引渡を受ける。この第二次建造四隻四萬噸に要する建造費は千二百四十萬圓だが、これを賄ふためには拂込が徴收せられ、また一部は低利資金の融通を受ける。第二次建造に次で九隻五萬五千噸の建造を進めてゐるが、これは次輯の問題として残す。

【十月份的成績】来る十月末締切りの本年下期は依然良成績をつけ未だ配船統制の影響はない。この期の就航船は第一次建造に屬する日立丸(一萬噸)の引渡が六月十五日に取行はれたために十三隻、十二萬噸に達するので、それだけ運航収入は増加する。無論、日立丸はツングシ織織の積取船として自營された。このため今期は他方に石炭、石油等々燃料費の騰貴があつたにも拘らず、豫想利益は約二千萬圓が見込まれ、平均拂込の増加を克服して二割七分餘の利益率を期待せしめる。一割二分配當は無論安泰である。

|        |                                                                                                               |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 昭和九年二月                                                                                                        |
| 【決算期】  | 四月、十月                                                                                                         |
| 【事業】   | 貨物船運                                                                                                          |
| 【資本金】  | 公稱 10,000,000 拂込 11,000,000                                                                                   |
| 【株数】   | 新 100,000 100,000                                                                                             |
| 【役員】   | 社長 伊藤 文吉 取締役 川上 正一郎<br>専務 小田 忠治 監査 中込 謙一<br>常務 吉川 三郎 監査 山崎 謙一<br>取立 田中 二部 監査 山口 謙一<br>推名 芳風 監査 片山 謙一<br>末松 謙一 |
| 【大株主】  | 十一年上 十一年上 十一年上                                                                                                |
| 【事業規模】 | 所有船隻(隻) 六、七六<br>船隻原價(千圓) 六、七六<br>船隻原價(千圓) 三、〇〇〇                                                               |
| 【事業成績】 | 備船料(千圓) 十一年上 五、五〇〇 十一年上<br>政府助成(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇                                                               |
| 【資本興動】 | 十一年十月三十一日公債徴收十三年<br>三月八日公債増資一四、〇〇〇圓公債徴收<br>十一年一月第一回三厘公債徴收                                                     |

|        |                      |
|--------|----------------------|
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十四年          |
| 株主資本   | 六三、三三三 六三、三三三 六三、三三三 |
| 外部負債   | 七、二二二 七、二二二 七、二二二    |
| 借入金    | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇    |
| 支拂手形   | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇    |
| 流動資産   | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇    |
| 固定資産   | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇    |
| 現金預金   | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇    |
| 【収支】   | 十一年上 十一年上 十一年上       |
| 収入     | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇    |
| 支出     | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇    |
| 【利益】   | 十一年上 十一年上 十一年上       |
| 【時價】   | 十一年上 十一年上 十一年上       |
| 【名義書換】 | 十一年上 十一年上 十一年上       |

### 東京灣汽船

〔設立〕明治二十二年十一月

〔決算期〕五月、十一月

(本社) 東京市芝罘浦現立地八號 (電三三四一號)

【二分増配か】前期二分増配して五分増配をつけた當社は、今期また二分増配を断行する模様だ。夏期旅行客が前年同期に比して増加し、橋丸は引き続き日清汽船(八月から東亞海運へ引次ぐ)へ貸船、菊丸も八月末から同社へ貸船してゐるからだ。かくて成績は大體前期程度と見られ、増配しても十八萬圓位の償却は可能である。

【社債繰上げ償還】前期末九十八萬圓に達してゐた社債は、一部を手許資金で、残る七十萬圓を某方面からの借入金で繰上げ償還する。【拂込徴收せず】從來社債償還の爲年々一株五圓程度の拂込を徴收して来た當社は、これで今後當分拂込徴收の必要はなくなる。

|         |                                                  |
|---------|--------------------------------------------------|
| 【資本金】   | 公稱 10,000,000 拂込 10,000,000                      |
| 【株数】    | (單位 1,000 株) (株) 10,000                          |
| 【重役】    | 社長 吉野 重光 取締役 鈴木 傳次郎 吉野 重光 田中 榮 吉野 重光 吉野 重光 吉野 重光 |
| 【大株主】   | 十四年五月初期 藤野 三郎 松本 正治 吉野 重光 吉野 重光 吉野 重光            |
| 【所有船舶】  | 元岩船六隻、六、三〇〇噸                                     |
| 【公稱馬力】  | 七、七七馬力                                           |
| 【事業成績】  | 上年上 比上年下 比上年上 比上年下                               |
| 【運輸収入】  | 1,300,000 1,200,000 1,200,000 1,200,000          |
| 【客貨運賃】  | 1,000,000 900,000 900,000 900,000                |
| 【燃料費】   | 150,000 150,000 150,000 150,000                  |
| 【賃料】    | 50,000 50,000 50,000 50,000                      |
| 【利息】    | 20,000 20,000 20,000 20,000                      |
| 【減価償却費】 | 50,000 50,000 50,000 50,000                      |
| 【時價】    | 新 50,000 旧 50,000                                |
| 【配当】    | 14年十一月期 五分五分                                     |

### 日清汽船

〔設立〕明治四十年三月

〔決算期〕三月、九月

(本社) 東京市神田區内幸町大坂ビル新館 (電三三三三)

【東亞海運設立】八月五日懸案の東亞海運の設立を見た。資本金は七千三百萬圓、全額拂込済である。日支間、支那沿岸、支那外國間船路の經營に當る。同社への出資會社は郵船(總出資額中の四割六分) 商船(約三割) 其他で、日清汽船の出資額は現物出資一千三百三十萬三千圓、現金出資百萬圓で、全體の二割弱に當つてゐる。東亞海運の決算期は三月と九月で、この九月は創立早々だから當然無配だが、來期は二、三分の初配當を開始しよう。

【日清汽船存続】東亞海運に吸収合併される當社は、事變損害整理のため、同社の持株會社として存続する事となつた。無配發行。

|         |                                         |
|---------|-----------------------------------------|
| 【資本金】   | 公稱 10,000,000 拂込 10,000,000             |
| 【株数】    | (單位 1,000 株) (株) 10,000                 |
| 【重役】    | 社長 村田 省藏 取締役 長瀬 喜伴 長瀬 喜伴 長瀬 喜伴          |
| 【大株主】   | 十四年三月初期 藤野 三郎 松本 正治 吉野 重光 吉野 重光 吉野 重光   |
| 【所有船舶】  | 汽船三隻、總噸數六、三〇〇噸                          |
| 【事業成績】  | 上年上 比上年下 比上年上 比上年下                      |
| 【運輸収入】  | 1,300,000 1,200,000 1,200,000 1,200,000 |
| 【客貨運賃】  | 1,000,000 900,000 900,000 900,000       |
| 【燃料費】   | 150,000 150,000 150,000 150,000         |
| 【賃料】    | 50,000 50,000 50,000 50,000             |
| 【利息】    | 20,000 20,000 20,000 20,000             |
| 【減価償却費】 | 50,000 50,000 50,000 50,000             |
| 【時價】    | 新 50,000 旧 50,000                       |
| 【配当】    | 14年九月初期 無配(六分)                          |

### 大日本航空株式會社

(本社) 東京市芝罘田村町一ノ三飛行館 (電銀南 五七五)

【改組成る】舊日本航空輸送(去る四日から現社名に改稱)の資本に政府出資を加へて、八月から愈々新會社の名實を備へた。前者の資本金二千二百五十萬圓に七千七百五十萬圓を増額したが、その増資は政府民間折半出資である。そして民間引受増資株七十四萬五千株の内廿三萬株は去る七月中旬市場公募に附された。増資新株第一回拂込は政府側千二百四十九萬七千七百圓(内現物出資五百五十萬圓)、民間側一株五圓宛一三百七十二萬五千圓だから、現在の總拂込資本は三千三百八十四萬七千七百圓だ。

【東亞航空制覇】かくて新たなスタートを切つた當社は、國內幹線と主たるローカル線を經營する外、對外航空路擴充に意を注ぐ。即ち滿洲航空及中華航空と密接に連絡を保つことは素より、現在の對支、對南洋線以外に對東亞亞細亞、更に遠くへ航空路を延ばす大目的を有する。今後の航空路整備、飛行機の増加、其他なすべき仕事が多く、資金亦多額を要すること勿論だ。

【當分六分増配】當社は十四年度及爾後十ヶ年間には六分増配を政府から保證される事となつてゐる、實際の營業况が假令赤字になつても、六分増配に相當する金額の補給を受けるのだ。大戦で機體輸入に困難が生じたのが、當面の悩みだが國産補充に努める。

〔運輸通信〕

|         |                                         |
|---------|-----------------------------------------|
| 【設立】    | 昭和十三年十一月                                |
| 【資本金】   | 公稱 22,500,000 拂込 22,500,000             |
| 【株数】    | (單位 1,000 株) (株) 22,500                 |
| 【重役】    | 社長 長瀬 喜伴 取締役 長瀬 喜伴 長瀬 喜伴                |
| 【大株主】   | 十四年三月初期 藤野 三郎 松本 正治 吉野 重光 吉野 重光 吉野 重光   |
| 【事業成績】  | 上年上 比上年下 比上年上 比上年下                      |
| 【運輸収入】  | 1,300,000 1,200,000 1,200,000 1,200,000 |
| 【客貨運賃】  | 1,000,000 900,000 900,000 900,000       |
| 【燃料費】   | 150,000 150,000 150,000 150,000         |
| 【賃料】    | 50,000 50,000 50,000 50,000             |
| 【利息】    | 20,000 20,000 20,000 20,000             |
| 【減価償却費】 | 50,000 50,000 50,000 50,000             |
| 【時價】    | 新 50,000 旧 50,000                       |
| 【配当】    | 14年九月初期 六分                              |

### 日本通運株式會社

(本社) 東京市町田區丸ノ内郵便ビル内(電九ノ内 三六二七)

【九月期業績】 九月末締切の本年下期業績は良好の如くである。まだ決算の發表に至らないが、現行七分配當は據置だ。周知の如く、當社は小運送業法並に當會社法に基いて舊國際通運を母體とし所謂群小計算會社をこれに合併して、一昨年十月より營業を開始した。下掲表に示す如く、營業開始以來、舊國際通運の七分配當を踏襲して來た。決算は漸次餘裕を加へつゝある。言ふまでもなく、戦時貨物並に生産力擴充資材の荷動きが時局柄旺盛を極めてゐるからである。戦時インフレの浸潤で今後は益々繁忙とならう。

【臺灣の活況】 なほ、こゝに特筆すべきは臺灣經濟の活況に伴つて該地方の小運送業務が好調にあることだ。臺灣は南支那海を環ぐる經濟圏域に對して本邦經濟力の進出基地とも言へるのであるが、今次の第二次世界大戰勃發により、その重要性は益々増大する。わが南方經營の積極化必然の勢にあるのだから、一層該地小運送業務も繁忙を呈するだらう。前途は注目し値しよう。

【前途觀】 前途は益々好望視される。もちろん、國策的使命を有する會社として、増配による樂みは先づないであらう。しかし、現行七分配當の維持力は増大する。しかも、諸種の國策的業務も漸次整備されてゐるが、収益の見透しが立てば、民間資本を増大しよう。

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 【設立】  | 明治五年六月                                    |
| 【決算期】 | 三月、九月                                     |
| 【事業】  | 運送取扱                                      |
| 【資本】  | 公稱1,000,000 拂込1,000,000                   |
| 【役員】  | 社長 國澤新兵衛                                  |
| 理事    | 村上 義一、安藤 政三、山下 雅實、早川 慎一、兒玉 豐紀             |
| 監事    | 村田 省藏、大谷 登、酒井 清兵衛、高水 龍吉、原 龍吉、五十嵐 龍吉、佐藤 龍吉 |

|        |                                           |
|--------|-------------------------------------------|
| 【株主名】  | 五十五上 五十五下 五十四上 五十四下                       |
| 【大株主】  | 八〇〇〇 八〇〇〇 八〇〇〇                            |
| 【事業成績】 | 昭和十三年三月 昭和十三年九月                           |
| 【決算】   | 三月、九月                                     |
| 【事業】   | 運送取扱                                      |
| 【資本】   | 公稱1,000,000 拂込1,000,000                   |
| 【役員】   | 社長 國澤新兵衛                                  |
| 理事     | 村上 義一、安藤 政三、山下 雅實、早川 慎一、兒玉 豐紀             |
| 監事     | 村田 省藏、大谷 登、酒井 清兵衛、高水 龍吉、原 龍吉、五十嵐 龍吉、佐藤 龍吉 |

|        |                                           |
|--------|-------------------------------------------|
| 【資産負債】 | 三十三年 九十三 三十四年                             |
| 株主資本   | 三三三 三三三                                   |
| 積立金    | 三三三 三三三                                   |
| 外部負債   | 三三三 三三三                                   |
| 支拂手形   | 三三三 三三三                                   |
| 流動資産   | 三三三 三三三                                   |
| 流動負債   | 三三三 三三三                                   |
| 固定資産   | 三三三 三三三                                   |
| 固定負債   | 三三三 三三三                                   |
| 現金預金   | 三三三 三三三                                   |
| 支出入    | 三三三 三三三                                   |
| 消却年率   | 三三三 三三三                                   |
| 【業績】   | 三三三 三三三                                   |
| 【株主名】  | 五十五上 五十五下 五十四上 五十四下                       |
| 【大株主】  | 八〇〇〇 八〇〇〇 八〇〇〇                            |
| 【事業成績】 | 昭和十三年三月 昭和十三年九月                           |
| 【決算】   | 三月、九月                                     |
| 【事業】   | 運送取扱                                      |
| 【資本】   | 公稱1,000,000 拂込1,000,000                   |
| 【役員】   | 社長 國澤新兵衛                                  |
| 理事     | 村上 義一、安藤 政三、山下 雅實、早川 慎一、兒玉 豐紀             |
| 監事     | 村田 省藏、大谷 登、酒井 清兵衛、高水 龍吉、原 龍吉、五十嵐 龍吉、佐藤 龍吉 |

### 國際電氣通信株式會社

(本社) 東京市町田區大手町日清生命館(電九之内 三三一)

【歐洲大戰の影響】 歐洲大戰突發以來新聞電報を始め一般通信の増加で、當社は繁忙を極めてゐる。無線電話は歐洲諸國とは杜絶し、たゞ伊太利を中繼としてのみ可能であるが、其他は變りない。尤も貿易關係は混亂し停頓する故この部面の通信は減少するであらう。歐洲方面とは右の如くであるが、比較的正確なニュースが集る關係から米國との通信は増加しつゝある。従つて當社収益の比重も歐洲から米國に轉換するであらう。

【今期成績】 當社の今期(九月期)成績は前期より向上する。外國電報が増加の傾向を辿り、殊に支那方面との通信が増加しつゝあつた際であり、九月一箇月間ではあるが歐洲大戰の好影響が加はるからだ。然し、現行配當は据え置きの見込。

【來期向上】 この九月期に引續く來期の成績は勿論今期より向上するであらう。然し、一方に大阪送信所(電話)等の建設工事が進捗しつゝあるから、増配は望めない。

【増資は明年中】 第七十四議會を通過した當會社法の改正法律によれば、通信ケーブル建設の爲一億圓迄の増資が認められることになつてゐる。これには政府の現物出資が行はれる關係上明年にならなければ具態化するに至るまい。

|                  |                               |
|------------------|-------------------------------|
| 【設立】             | 昭和十三年三月                       |
| 【決算期】            | 三月、九月                         |
| 【事業】             | 電氣通信設備を政府の用に供す。於外國電氣通信事業の經營其他 |
| 【資本】             | 公稱1,000,000 拂込1,000,000       |
| 【役員】             | 社長 大橋 八郎 取締役 香西 俊雄            |
| 常務               | 吉野 圭三 取締役 藤田 義吉               |
| 安部 十二造 取締役 小森 七郎 |                               |
| 中上 豊吉 取締役 小森 七郎  |                               |
| 井坂 孝 監査 小森 七郎    |                               |
| 門野 重九郎 監査 小森 七郎  |                               |
| 串田 萬藏 監査 小森 七郎   |                               |
| 小倉 正伍 監査 小森 七郎   |                               |
| 【株主名】            | 五十五上 五十五下 五十四上 五十四下           |
| 【大株主】            | 八〇〇〇 八〇〇〇 八〇〇〇                |
| 【事業成績】           | 昭和十三年三月 昭和十三年九月               |
| 【決算】             | 三月、九月                         |
| 【事業】             | 電氣通信設備を政府の用に供す。於外國電氣通信事業の經營其他 |
| 【資本】             | 公稱1,000,000 拂込1,000,000       |
| 【役員】             | 社長 大橋 八郎 取締役 香西 俊雄            |
| 常務               | 吉野 圭三 取締役 藤田 義吉               |
| 安部 十二造 取締役 小森 七郎 |                               |
| 中上 豊吉 取締役 小森 七郎  |                               |
| 井坂 孝 監査 小森 七郎    |                               |
| 門野 重九郎 監査 小森 七郎  |                               |
| 串田 萬藏 監査 小森 七郎   |                               |
| 小倉 正伍 監査 小森 七郎   |                               |

|                  |                               |
|------------------|-------------------------------|
| 【資産負債】           | 三十三年 九十三 三十四年                 |
| 株主資本             | 三三三 三三三                       |
| 積立金              | 三三三 三三三                       |
| 外部負債             | 三三三 三三三                       |
| 支拂手形             | 三三三 三三三                       |
| 流動資産             | 三三三 三三三                       |
| 流動負債             | 三三三 三三三                       |
| 固定資産             | 三三三 三三三                       |
| 固定負債             | 三三三 三三三                       |
| 現金預金             | 三三三 三三三                       |
| 支出入              | 三三三 三三三                       |
| 消却年率             | 三三三 三三三                       |
| 【業績】             | 三三三 三三三                       |
| 【株主名】            | 五十五上 五十五下 五十四上 五十四下           |
| 【大株主】            | 八〇〇〇 八〇〇〇 八〇〇〇                |
| 【事業成績】           | 昭和十三年三月 昭和十三年九月               |
| 【決算】             | 三月、九月                         |
| 【事業】             | 電氣通信設備を政府の用に供す。於外國電氣通信事業の經營其他 |
| 【資本】             | 公稱1,000,000 拂込1,000,000       |
| 【役員】             | 社長 大橋 八郎 取締役 香西 俊雄            |
| 常務               | 吉野 圭三 取締役 藤田 義吉               |
| 安部 十二造 取締役 小森 七郎 |                               |
| 中上 豊吉 取締役 小森 七郎  |                               |
| 井坂 孝 監査 小森 七郎    |                               |
| 門野 重九郎 監査 小森 七郎  |                               |
| 串田 萬藏 監査 小森 七郎   |                               |
| 小倉 正伍 監査 小森 七郎   |                               |

【運輸通信業】

### 滿洲電信電話株式會社

(本社) 新京特別市大岡大馬路六〇一  
(出張所) 東京市麹町區丸の内(電九ノ内)五二二

【十四年度は増配か】大陸の建設が漸く本格的となり、東亞通信は愈々繁忙を極めつつある。下表に示す如く、昨年度は収入二千八百三十四萬七千圓、支出二千四百四十四萬圓で、差引利益金は七百九十萬七千圓である。利益率は二割一分八厘に上昇したから、過去の成績に比し素晴らしい向上である。續く本年度の業績も亦、依然として良好である。事變勃發當初は前途見透し難から、幾分不安視されたが、全然杞憂に過ぎない。前年度は當局者側に於て一分増配断行の意向であつた處、監督官廳が配當制限令の實施過渡期の故を以て許可しなかつた。本年度こそは成績良好で一分増配も實現するであらう。監督官廳とても七分程度の配當を抑壓する理由はも早ないであらう。

【擴張は續く】前報所報の如く、前年度より滿洲國產業五箇年計畫の一環として、通信事業擴充五箇年計畫を實施しつゝある。本年度はその第二年度であるが、拂込徴収、社債の發行、社内保留金で擴充資金を賄ふ筈である。所要資金は約千六百五十萬圓だ。

【前途觀】獨ソ協定、第二次大戰勃發によつて、世界政治情勢は著しく變化した。事變處理が順調に進めば、大陸の經濟建設は急を告げよう。當社の前途も悪からう筈はない。

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 昭和八年八月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 【決算期】  | 十二月(年一回)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 【事業】   | 有線、無線電信電話、ラヂオ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 【資本金】  | 株式 5,000,000<br>公債 5,000,000<br>新(三)五〇〇,〇〇〇<br>新(三)七五〇,〇〇〇                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 【株主】   | 新(三)五〇〇,〇〇〇<br>新(三)七五〇,〇〇〇                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 【役員】   | <ul style="list-style-type: none"> <li>總裁 廣瀬 壽助</li> <li>取締役 廣瀬 壽助</li> <li>副 廣瀬 壽助</li> <li>理事 中田 末廣</li> <li>前田 直造</li> <li>監事 白 錫</li> <li>西田 猪之輔</li> <li>片山 義勝</li> <li>中川 増蔵</li> </ul>                                                                                                                                                                                               |
| 【大株主】  | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本政府 1,000,000</li> <li>滿洲國 1,000,000</li> <li>南滿洲鐵道 800,000</li> <li>日本銀行 500,000</li> <li>朝鮮銀行 500,000</li> <li>華南銀行 400,000</li> <li>朝鮮生命 300,000</li> <li>千代田生命 300,000</li> <li>電報取扱局 100,000</li> <li>取換局 100,000</li> <li>電話交換局 100,000</li> <li>加入者(人) 100,000</li> <li>市外通話 100,000</li> <li>放送局 100,000</li> <li>ラヂオ放送局 100,000</li> </ul> |
| 【事業成績】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>營業收入(千圓) 193,154,988</li> <li>營業支出(千圓) 114,263,288</li> <li>營業利益(千圓) 78,891,700</li> <li>増益(千圓) 78,891,700</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                |
| 【資本員數】 | 十四年五月三十一日現在                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

|        |                                                                                                                             |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資産負債】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>十二年 十二月</li> <li>十三年 十二月</li> <li>十四年 十二月</li> </ul>                                 |
| 【流動資産】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>現金預金</li> <li>受取手形</li> <li>貸付金</li> <li>固定資産</li> <li>流動負債</li> <li>流動負債</li> </ul> |
| 【固定資産】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>土地</li> <li>建物</li> <li>器具什物</li> <li>長期貸付</li> <li>長期債権</li> <li>長期負債</li> </ul>    |
| 【負債】   | <ul style="list-style-type: none"> <li>流動負債</li> <li>固定負債</li> <li>流動負債</li> <li>固定負債</li> </ul>                            |
| 【名義書換】 | 二十錢                                                                                                                         |
| 【新券交換】 | 五十錢                                                                                                                         |

【百貨店業】

### 株式 越

(本社) 東京市日本橋區室町一ノ七(電日本橋三三三)

【八月期決算】當社の八月締切決算が内定した。それに依ると利益金二百八十萬九千圓、同利益率二割六分八厘を擧げて居る。これを前年同期と比較すると利益金で三十四萬三千圓、利益率では三分三厘の各向上である。前期と比較しても利益金で十一萬七千圓、利益率で一分二厘の増加を示して居るのであるから、如何に八月期の業績が良好であつたか、容易に首肯出来るであらう。勿論、配當は一割据置きである。

【今期豫想】勿論、斯様な業績向上は購買力の増大に基く賣上増加に依るものだが、購買力の増進は今後も續くと想像されるが、他方戦時統制制の掣肘が更に強化されると言ふ事も忘れてはならぬ。過日、商工省から中元賣出の自肅が要望された如きそれだ。斯様な見地から百貨店の経営もこれからは仲々難しく、最近の決算に現れた如き好収益を収めることは樂でないが、一般の購買力は増進するのだから、業者は極力新購買層に呼び掛けて賣上の増加を計るだらうし、取扱商店の不足に對しては代用品等の新興商品の普及に努めるだらう。また経費にも出来る限り合理的支出に變へると思ふから業績の低下は目先心配せずともよさそうだ。

【進出計畫】上海と爪哇への進出計畫が具體化されんとして居る。

|        |                                                                                                                                                                                             |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 明治三十七年十二月                                                                                                                                                                                   |
| 【決算期】  | 二月、八月                                                                                                                                                                                       |
| 【事業】   | 百貨店                                                                                                                                                                                         |
| 【資本金】  | 公債 500,000<br>株式 500,000<br>新 100,000                                                                                                                                                       |
| 【株主】   | 北田内蔵 取締役                                                                                                                                                                                    |
| 【役員】   | <ul style="list-style-type: none"> <li>北田内蔵 取締役</li> <li>櫻井信四郎 取締役</li> <li>常務 櫻井信四郎</li> <li>能勢 昌雄</li> <li>取替 野崎 廣太</li> <li>野崎 廣太</li> <li>中村利四郎</li> <li>中村利四郎</li> <li>林 市藏</li> </ul> |
| 【事業規模】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>東京本店 七階建</li> <li>新宿支店 八階建</li> <li>銀座支店 七階建</li> <li>神戶支店 六階建</li> <li>高松支店 六階建</li> <li>札幌支店 六階建</li> <li>京橋支店 五階建</li> <li>大連支店 五階建</li> </ul>    |
| 【事業成績】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>十二年下 1,500,000</li> <li>十三年上 1,500,000</li> <li>十三年下 1,500,000</li> <li>十四年上 1,500,000</li> <li>十四年下 1,500,000</li> </ul>                            |
| 【資本員數】 | 十二年九月七日現在                                                                                                                                                                                   |

|        |                                                                                                                             |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資産負債】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>十二年 八月</li> <li>十三年 二月</li> <li>十四年 二月</li> </ul>                                    |
| 【流動資産】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>現金預金</li> <li>受取手形</li> <li>貸付金</li> <li>固定資産</li> <li>流動負債</li> <li>流動負債</li> </ul> |
| 【固定資産】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>土地</li> <li>建物</li> <li>器具什物</li> <li>長期貸付</li> <li>長期債権</li> <li>長期負債</li> </ul>    |
| 【負債】   | <ul style="list-style-type: none"> <li>流動負債</li> <li>固定負債</li> <li>流動負債</li> <li>固定負債</li> </ul>                            |
| 【名義書換】 | 十五錢                                                                                                                         |
| 【新券交換】 | 五十錢                                                                                                                         |

【百貨店業】

### 株式松屋呉服店

(本社) 東京市京橋區銀座三ノ一(電報掛三二二五)

【八月期業績】當社の八月末締切決算は目下精算中である。だが、成績は悪くないと想像される。購買力の増進から百貨店の売上高は増加し、就中高級品よりも中流品の売上が激増して居るからだ。店舗別に云ふならば、銀座本店と浅草支店の賣行きが良好なのだ。先づ前年同期の成績よりは向上する筈だ。即ち、前年同期の成績は利益金七十七萬一千圓、同利益率三割八厘を擧げて一割配當を据置いたが、八月期決算はこれよりは稍や増益の見込である。

【今後の見越し】來期以降の成績に就いて考へるに、戰時統制に依る掣肘を受け乍らも、當社に限らず、百貨店の売上は順調を辿るものと思ふ。購買力の増大が戰時統制の掣肘を補つて尙ほ餘りあると想像されるからだ。然し乍ら、賣上高は増加を續けるものとしても利益の面から見た百貨店の好況はそろ／＼時に近いとも見られる。更に、今回の歐洲戰亂の百貨店に與へる影響を見るに、直接的には何も考へられないが、歐洲戰亂の結果漸次國內の景氣が上昇するとすれば、それだけ百貨店の賣上は殖へるわけだ。

【一割配當は安泰】要するに、百貨店の見越しは少くとも、此處二期は順調だ。と考へてよい。特に當社の場合は資産内容が充實して居るのだから、一割配當の基礎は固いと見做される。

|        |                                                                                                             |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 大正八年三月                                                                                                      |
| 【決算期】  | 二月、八月                                                                                                       |
| 【事業】   | 百貨店                                                                                                         |
| 【資本金】  | 100,000                                                                                                     |
| 【株主数】  | 100                                                                                                         |
| 【役員】   | 社長 古屋徳兵衛 取締役 太田清藏 常務 古屋徳太郎 山本龍造 若尾鐵之助 監査 小松武雄 大濱喜一郎                                                         |
| 【大株主】  | 古屋 合名八、五五 古屋徳兵衛一〇、四〇 古屋徳太郎五、〇〇 徳榮會三、〇〇 坂谷 良助一、〇〇 市田 商店一、〇〇 古屋富一郎一、〇〇                                        |
| 【事業規模】 | 銀座本店 建坪三、六六六(平方米) 地上八階、地下二階 横濱支店 建坪五、〇〇〇(平方米) 地上七階、地下二階 浅草支店 建坪三、六六六(平方米) 地上七階、地下二階 今川橋支店 建坪一、六六六(平方米) 地上二階 |
| 【事業成績】 | 十三年下 十三年上 十三年下 推定売上(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 商品四轉率(%) 一、二六 一、二〇 一、二〇                                           |
| 【資本異動】 | 十二年六月二日五萬圓込徴収                                                                                               |

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十三年 十三年             |
| 株主資本   | 八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇     |
| 積立金    | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇     |
| 外部負債   | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇     |
| 社債     | 〇 〇 〇 〇                     |
| 借入金    | 〇 〇 〇 〇                     |
| 使用總資本  | 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 |
| 流動資産   | 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇     |
| 手携品    | 〇 〇 〇 〇                     |
| 現金預金   | 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇     |
| 【收支勘定】 | 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下         |
| 収入     | 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇     |
| 支出     | 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇     |
| 固定資産   | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇     |
| 流動負債   | 〇 〇 〇 〇                     |
| 【業績】   | 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下         |
| 利益     | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇     |
| 【株主配當】 | 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下         |
| 配當率    | 一〇% 一〇% 一〇% 一〇%             |
| 【時價】   | 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下         |
| 時價     | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇             |
| 【名義書換】 | 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下         |
| 名義書換   | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇             |

【百貨店業】

### 株式大丸

(本社) 大阪市南區心齋橋筋二丁目一八番屋敷(電南三)

【成績良好】事變以來の成績は頗る良好である。取扱商品の不足、貯蓄の奨励、當局の自衛要望等相當壓迫材料があるにも拘はらず業績は却つて良好である。一般民衆の購買力の増加が然らしめてゐるものと想像される。去る八月期の成績も好調であつた。利益金は百八十四萬八千圓をあげ前期に比し二十一萬七千圓の増益である。拂込資本に對する利益率は三割八厘を示し、前期より三分六厘の向上に當る。一分程度の増配は問題なかつたのであるが當局者は時局柄自重して八分を据置いた。決算は著しく餘裕を持つて來たこと云ふ迄もあるまい。

【大陸進出】今年十月頃に愈々天津に建物を建築する運びとなつた所、今度の出水で一時中止の状態となつた。明年に入つてから本格的建築に着手する豫定である。

【前途】取扱商品の不足と云ふ決定的悲觀材料があるから手放しに樂觀は出来ないが、現實の情勢は益々好調を示してゐる。代用品の補給によつて取扱商品の不足を補ふてゐるし、顧客の購買力は想像以上に高まつてゐることは大きな好材料と言つてよからう。彼れ是れ考へてみるに結局業績はまだ向上するものと想像される。八分配當は勿論持続可能であるし或は増配が問題になるかも知れない。

|        |                                                                                                         |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 大正九年四月                                                                                                  |
| 【決算期】  | 二月、八月                                                                                                   |
| 【事業】   | 百貨店                                                                                                     |
| 【資本金】  | 1,000,000                                                                                               |
| 【株主数】  | 1,000                                                                                                   |
| 【役員】   | 社長 下村正太郎 小野 雄作 常務 里見 純吉 取締役 津村甚之助 常務 石本 晋彦 東條久壽馬 取締役 下村昇之助 監査 市田文次郎 西村清次郎 西村清次郎 開板松太郎 竹村清次郎 安田孝次郎       |
| 【大株主】  | 下村正太郎六、二〇〇 下村昇之助三、〇〇〇 下村トシ子三、〇〇〇 里見純吉三、〇〇〇 市田商店三、〇〇〇 竹村清次郎三、〇〇〇 森八郎助三、〇〇〇 丸紅商店三、〇〇〇 森八郎助三、〇〇〇 相西合名三、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 大阪本店 延坪三、三三三 地上七階、地下三階 京都支店 延坪六、八六八 地上七階、地下二階 神戸支店 延坪六、八六八 地上八階、地下二階                                    |
| 【事業成績】 | 十三年下 十三年上 十三年下 推定売上(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 商品四轉率(%) 一、二〇 一、二〇 一、二〇                                       |
| 【投資会社】 | 大丸興業                                                                                                    |
| 【資本異動】 | 十二年四月七圓五萬圓込徴収                                                                                           |

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十三年 十三年         |
| 株主資本   | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 積立金    | 〇 〇 〇 〇                 |
| 外部負債   | 〇 〇 〇 〇                 |
| 社債     | 〇 〇 〇 〇                 |
| 借入金    | 〇 〇 〇 〇                 |
| 使用總資本  | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 流動資産   | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 手携品    | 〇 〇 〇 〇                 |
| 現金預金   | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下     |
| 収入     | 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 |
| 支出     | 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 |
| 固定資産   | 〇 〇 〇 〇                 |
| 流動負債   | 〇 〇 〇 〇                 |
| 【業績】   | 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下     |
| 利益     | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【株主配當】 | 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下     |
| 配當率    | 一〇% 一〇% 一〇% 一〇%         |
| 【時價】   | 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下     |
| 時價     | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇         |
| 【名義書換】 | 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下     |
| 名義書換   | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇         |



【百貨店業】

株式 高島屋

（本社）京都市下京區島丸高比下丸因幡堂町（電下 一〇）
（事務所）大阪市南區難波（電戎五三）
（支店）京都市日本橋區通二ノ五（電日本橋三二一〇）

【増配す】去る七月末締切の決算に於いて一分増の九分増を断行した。成績が頗る良好であったから。当期の成績をみると利益金は百四十六萬四千圓で前期に比し十八萬六千圓の増益に當る。利益率は一割九分三厘から二割二分二厘に向上した。斯る成績故一分増配は極めて穩當なところであつた。

【好轉原因】右の如き好成績が收められたのは購買力の増進と云ふ百貨店通有の原因によること勿論であるが、當店独自の原因として長堀店の整理があげられる。長堀店は地理的條件が惡く従來收支トシ／＼か多少の赤字を出してゐた状態であつた。之を整理することによつて六十餘萬圓の損失を出したが之は前期に於いて一舉に償却して了つた。斯くて經營を合理化させその効果が環境の好化に拍車せられて当期の成績向上となつた譯である。

【前途】取扱商品の不足と云ふ悲觀材料は百貨店共通のもので、當店に限つた譯ではないが、之に對しては各店共代用品の補給によつて埋合せをつけつゝある。當店の前途も矢張り手放しに樂觀することとは許されない。がと云つて現實に顧客の購買力増進と云ふ強力な材料があるのだから、結局成績はまだ向上するものと想像される。以上の増配は兎も角九分増配當は當分問題なからう。

【設立】大正八年八月
【決算期】一月、七月
【事業】百貨店列販賣業
【資本金】百萬元
【株数】新(400) 100,000
舊(500) 120,000
【役員】社長 飯田新七
専務 飯田直次郎
取締役 飯田直次郎 飯田直次郎
飯田直次郎 飯田直次郎
飯田直次郎 飯田直次郎
飯田直次郎 飯田直次郎

【資産負債】
株主資本 七十四年 七十四年
外債 七十四年 七十四年
固定資産 七十四年 七十四年
流動資産 七十四年 七十四年
現金預金 七十四年 七十四年
使用總資本 七十四年 七十四年
負債 七十四年 七十四年
借入金 七十四年 七十四年
借入金 七十四年 七十四年

【事業規模】本店 京都市島丸通
支店 京都市丸太町 大阪難波
出張所 六ヶ所
【事業成績】十三年上 十三年下 十四年上
推定売上千圓 三七七・七 三三〇・三 三三〇・三
商品回轉率 二・八 三・三 三・三
【資本異動】十年五月開張後拾壹年
四月、七月三回拂込徴收

【設立】大正八年二月
【決算期】一月、七月
【事業】百貨店列販賣業、代理及輸出
入業、海運及飲食物營業、醫藥及工業
用品の製造販賣、賣場計器及興行
【資本金】百萬元
【株数】新(400) 100,000
舊(500) 120,000
【役員】社長 山田 忍三
常務 岡 清藏 取締役 片岡 隆起
飯田 俊季 飯田 虎雄
飯田 三三 飯田 東一
飯田 共會 飯田 平松 飯田 莊一

【資産負債】
株主資本 七十四年 七十四年
外債 七十四年 七十四年
固定資産 七十四年 七十四年
流動資産 七十四年 七十四年
現金預金 七十四年 七十四年
使用總資本 七十四年 七十四年
負債 七十四年 七十四年
借入金 七十四年 七十四年
借入金 七十四年 七十四年

【百貨店業】

株式 白木屋

（本社）京都市日本橋區通一丁目（電日本橋三二一〇）

【一分増配】當社は去る七月決算に於て六分増配を一分増の七分とした。別稿高島屋も八分から九分とし、一期前だが大丸も昨年同期七分から八分に引上げる等、此の處一割配當未滿の百貨店の増配が注意を惹く。當社七ヶ月の利益は九十一萬六千圓、利益率一割七分九厘で、豫想以上の好成績だった。三月に新株最終拂込七十五萬圓を徴収して尙且つ、右の實績なのだから、増配亦無理からぬ。而も資産内容亦グツト見直し、一項の當社に比べ面目を一新した。

【積極經營】總じて百貨店の賣上は、先般の物品税とか、消費節約運動とか、夜間營業廢止とか、色々悪影響を及ぼす材料あるに拘らず、概して良好であつて就中所謂股販工業地帯に店舗を有する向はその方面の購買力増に惠まれてゐる。當社の分店中にはそれが尠なくない。それに當局者は大陸進出に積極的で、經營も伸々周到活潑だ。子會社白木商事（資本金七十萬圓、配當六分）の全株投資會社實業百貨店（同百萬圓、一割二分）の上海其他に於ける活躍は、今後一層期待される所が多い。

【今後】今期も前期に續き成績がよいやうだ。早晚増資もしなければならぬので、今期に更に一分増配を行ふかも知れぬ。然し理想を言へば一期自重して、目下の物價政策の動向を見るべきであらう。

【設立】大正八年八月
【決算期】一月、七月
【事業】百貨店列販賣業
【資本金】百萬元
【株数】新(400) 100,000
舊(500) 120,000
【役員】社長 飯田新七
専務 飯田直次郎
取締役 飯田直次郎 飯田直次郎
飯田直次郎 飯田直次郎
飯田直次郎 飯田直次郎
飯田直次郎 飯田直次郎

【資産負債】
株主資本 七十四年 七十四年
外債 七十四年 七十四年
固定資産 七十四年 七十四年
流動資産 七十四年 七十四年
現金預金 七十四年 七十四年
使用總資本 七十四年 七十四年
負債 七十四年 七十四年
借入金 七十四年 七十四年
借入金 七十四年 七十四年

【事業規模】本店 京都市島丸通
支店 京都市丸太町 大阪難波
出張所 六ヶ所
【事業成績】十三年上 十三年下 十四年上
推定売上千圓 三七七・七 三三〇・三 三三〇・三
商品回轉率 二・八 三・三 三・三
【資本異動】十年五月開張後拾壹年
四月、七月三回拂込徴收

【設立】大正八年二月
【決算期】一月、七月
【事業】百貨店列販賣業、代理及輸出
入業、海運及飲食物營業、醫藥及工業
用品の製造販賣、賣場計器及興行
【資本金】百萬元
【株数】新(400) 100,000
舊(500) 120,000
【役員】社長 山田 忍三
常務 岡 清藏 取締役 片岡 隆起
飯田 俊季 飯田 虎雄
飯田 三三 飯田 東一
飯田 共會 飯田 平松 飯田 莊一

【資産負債】
株主資本 七十四年 七十四年
外債 七十四年 七十四年
固定資産 七十四年 七十四年
流動資産 七十四年 七十四年
現金預金 七十四年 七十四年
使用總資本 七十四年 七十四年
負債 七十四年 七十四年
借入金 七十四年 七十四年
借入金 七十四年 七十四年

### 松竹株式會社

(本社) 東京市京橋區新富町三ノ五(電報掛 四三二八)  
(支店) 大阪市南區久左衛門町八(電報六五三一六)

【増益顯著】八月末を以て締切られた上期は近年にない増益を挙げた模様である。十月中頃の重役會迄は確たる事は判らないが、利益は約三百萬圓と見られるから、對前期七十三萬圓程の増加となる。増益率二割三分だ。併し實際に計上する金額は相當内論なものである。配當や償却其他に關聯するからである。

【増配か否か】株價は一、二分増配を織込んでゐるが、當局者は未だ何れとも決定してゐないといふ。一頃一分増配に傾いてゐるが、據置自重論もあるからだ。内容の充實は、なし得る時に行ふのが經營の常道だとの立前なら、當社のためにはそれはよいことだ。

【日活問題】周知の如く東寶と競争して日活株を、社長其他の重役出資で買ひ進んだが、この相當に上る投資を當社資産に振替へるかどうかが問題だ。重役の個人投資にしてから、利廻無視の高値の買株もあり、當の日活が無配なのだから、全然睡眠資産だ。況や之を假に松竹名義の有價證券に振替へるとすれば、その評價をうんと切下げなければ、松竹の資産内容は悪化する。勿論松竹が日活を支配すれば間接的の利益はあるが、それも東寶が控へてゐる以上しかと判らぬ。かうした點に當社の増配の可否がひそんでゐるのではあるまいか。さうとすれば當社株は警戒だ。

| 設立  |              | 大正九年十一月 |              |
|-----|--------------|---------|--------------|
| 株主數 | 二、七〇〇        | 株主數     | 二、七〇〇        |
| 資本金 | 一、〇〇〇        | 資本金     | 一、〇〇〇        |
| 決算期 | 七月、一月        | 決算期     | 七月、一月        |
| 事務所 | 東京市京橋區新富町三ノ五 | 事務所     | 東京市京橋區新富町三ノ五 |
| 支店  | 大阪市南區久左衛門町八  | 支店      | 大阪市南區久左衛門町八  |

  

| 【株主數】 |       | 【事業成績】 |       |
|-------|-------|--------|-------|
| 二十二年下 | 二、七〇〇 | 二十二年下  | 一、〇〇〇 |
| 二十二年上 | 二、七〇〇 | 二十二年上  | 一、〇〇〇 |
| 二十三年下 | 二、七〇〇 | 二十三年下  | 一、〇〇〇 |
| 二十三年上 | 二、七〇〇 | 二十三年上  | 一、〇〇〇 |
| 二十四年下 | 二、七〇〇 | 二十四年下  | 一、〇〇〇 |
| 二十四年上 | 二、七〇〇 | 二十四年上  | 一、〇〇〇 |

  

| 【資産負債】 |       | 【株價】 |       |
|--------|-------|------|-------|
| 二十二年   | 一、〇〇〇 | 二十二年 | 一、〇〇〇 |
| 二十三年   | 一、〇〇〇 | 二十三年 | 一、〇〇〇 |
| 二十四年   | 一、〇〇〇 | 二十四年 | 一、〇〇〇 |

### 東京寶塚劇場

(本社) 東京市豊町區有樂町一ノ二(電報掛 六六六)  
(事務所) 東京市豊町區有樂町一ノ二(電報掛 六六六)

【七月期二分減配と決定】當社は去る一月期に於て二分増の二割二分増配を行つたが、例の第十一條に基く配當制限令に依つて、七月決算には前料に記者の豫想せる如く、二分の減配を行ひ配當は一割と決定した。業績は一月期より稍や向上したのであるから、業績自體からは減配の必要はなかつた。強制である。

【今後】然し乍ら、この減配は當社自身の爲にも喜ばしいことだと思ふ。當社の一割二分配當は必ずしも餘裕ある決算とは稱し難かつたからだ。だが、一割配當なら持続性も認められ、此の爲資産内容には弾力性が附くから株主としても永い眼で見れば悪くはない。

| 【株主數】 |       | 【事業成績】 |       |
|-------|-------|--------|-------|
| 二十二年下 | 一、〇〇〇 | 二十二年下  | 一、〇〇〇 |
| 二十二年上 | 一、〇〇〇 | 二十二年上  | 一、〇〇〇 |
| 二十三年下 | 一、〇〇〇 | 二十三年下  | 一、〇〇〇 |
| 二十三年上 | 一、〇〇〇 | 二十三年上  | 一、〇〇〇 |
| 二十四年下 | 一、〇〇〇 | 二十四年下  | 一、〇〇〇 |
| 二十四年上 | 一、〇〇〇 | 二十四年上  | 一、〇〇〇 |

### 東寶映畫

(本社) 東京市京橋區銀座西五丁目三(電報掛 六六一)

【前期業績】當社は創立第一回決算から八分配當を付けて來たが、最近に至つて漸く餘裕が生ずる様になつた。即ち、去る七月決算を一瞥するに利益金四十四萬二千圓、同利益率一割九分六厘を擧げて居るが、これを前期決算と比較すると利益金に於て六萬圓、利益率に於て二分六厘の各向上を示した。八分配當の據置は無難だ。

【軌道に乗る】かくて、當社も漸く軌道に乗り得たと認められるのであるが、今後増益する様な場合でも出来るだけ配當は据置き、資産内容に弾力性を付けることが肝要だ。即ち、映畫法の實施並びに日活事件による餘波に備へることが必要だからである。

| 【株主數】 |       | 【事業成績】 |       |
|-------|-------|--------|-------|
| 二十二年下 | 一、〇〇〇 | 二十二年下  | 一、〇〇〇 |
| 二十二年上 | 一、〇〇〇 | 二十二年上  | 一、〇〇〇 |
| 二十三年下 | 一、〇〇〇 | 二十三年下  | 一、〇〇〇 |
| 二十三年上 | 一、〇〇〇 | 二十三年上  | 一、〇〇〇 |
| 二十四年下 | 一、〇〇〇 | 二十四年下  | 一、〇〇〇 |
| 二十四年上 | 一、〇〇〇 | 二十四年上  | 一、〇〇〇 |

【映畫事業】

### 日本活動寫眞

【設立】大正元年九月  
【決算期】一月、七月  
(本社) 東京市京橋區京橋三ノ一(電報掛三三三三)

【紛争續く】當社を中心とする東寶系と松竹系の株式争奪は一先づ納まつたが、重役改選—支配權獲得を繞り、兩系統ともあの手この手と紛争に導くばかりだ。東寶系の通告による八月廿九日の臨時總會も、松竹系の目論んだ九月十八日の臨時總會も、共に事前に裁判所から開催不許可となつた。紛争は撮影所に及ぶ懸念さへある。

【行く手如何】今後の當社の行方は豫断を許さぬが、十月一日から愈々映畫法も施行されるので、何時迄もゴタ／＼してをれば日活そのものゝ爲には不利となるばかりだ。營業成績のよいのが唯一の取柄だから、兩系統の眞の代表者が胸襟を開いて歩みよるべきだ。

|                                                                                            |                                                                                  |                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 1,000,000 拂込 777,500                                                               | 【株数】普通 (100) 10,000 優先 (100) 10,000                                              | 【事業成績】十二年下 十三年上 十三年下<br>興業収入(千圓) 2,211 1,075 2,296<br>【業績】利益率 無配 無配 無配<br>【株價】(高値) 株 株 株<br>【時價】(新) 0.0 0.0 0.0 |
| 【大株主】大谷竹次郎 1,000 株 高橋 株 高橋 株<br>白井信太郎 1,000 株 白井松次郎 1,000 株<br>大谷竹次郎 1,000 株 大谷竹次郎 1,000 株 | 【役員】社長 白井信太郎 取締役 野村新<br>副社長 宮川幸三郎 監査 水田正<br>常務 高橋 友三郎 相談 小笠原花末<br>大谷竹次郎 相談 大谷竹次郎 | 【事業成績】十二年下 十三年上 十三年下<br>興業収入(千圓) 2,211 1,075 2,296<br>【業績】利益率 無配 無配 無配<br>【株價】(高値) 株 株 株<br>【時價】(新) 0.0 0.0 0.0 |

### 新興キネマ

【設立】昭和六年九月  
【決算期】一月、七月  
(本社) 東京市京橋區八丁堀二ノ三(電報掛三七七三)

【七月期決算】去る七月締切の決算は内定した模様だ。それに依ると収入三百八十九萬七千圓、支出三百三十九萬一千圓で、差引利益金は五十萬六千圓に上る。この利益率は二割三分にも達するが、五十萬圓を資産償却に振向け、依然無配を繼續する模様だ。手堅い決算振と云はねばならぬ。

【今期配當復活か】だが、來年一月初の配當復活は期待出來さうだ。現在の見透しでは六十萬圓の利益金は充分である。とすれば、七月期同様五十萬圓見當を資産償却に振向けても、五、六分の配當は樂に出来る。配當復活は間違ひあるまい。

|                                                                                            |                                                                                  |                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 1,000,000 拂込 777,500                                                               | 【株数】普通 (100) 10,000 優先 (100) 10,000                                              | 【事業成績】十二年下 十三年上 十三年下<br>興業収入(千圓) 2,211 1,075 2,296<br>【業績】利益率 無配 無配 無配<br>【株價】(高値) 株 株 株<br>【時價】(新) 0.0 0.0 0.0 |
| 【大株主】大谷竹次郎 1,000 株 高橋 株 高橋 株<br>白井信太郎 1,000 株 白井松次郎 1,000 株<br>大谷竹次郎 1,000 株 大谷竹次郎 1,000 株 | 【役員】社長 白井信太郎 取締役 野村新<br>副社長 宮川幸三郎 監査 水田正<br>常務 高橋 友三郎 相談 小笠原花末<br>大谷竹次郎 相談 大谷竹次郎 | 【事業成績】十二年下 十三年上 十三年下<br>興業収入(千圓) 2,211 1,075 2,296<br>【業績】利益率 無配 無配 無配<br>【株價】(高値) 株 株 株<br>【時價】(新) 0.0 0.0 0.0 |

### 東京建物株式會社

(本社) 東京市日本橋區吳服橋通ビル六(電日本橋三六二五)  
(支社) 横濱市中區尾上町五ノ六六

【上期業績】資金調整法の強化で當社の活動は益々制約されることとなつたが、外地に於ける支店の活躍で業績は、比較的順調であつた。特に天津支店京城支店の活躍に負ふ部分が多い。計上利益は五十八萬七千圓に上り、利益率は一割三分九厘に達した。昨年同期に比しては、利益金で三萬六千圓、利益率で八厘の向上となる。配當は勿論八分を据置いた。

【天津水害】當社の賣庫は天津支店である。當社は此處に三百八十三棟二萬一千四百四十八坪の家屋を持つてゐる。周知の如く事變勃發以來邦人の來り住む者が激増し、爲に著しく家屋は拂底してゐるのだから、當社が惠まれるのは當然だ。ところが去る八月下旬天津は未曾有の洪水に見舞はれ、當社所有の全家屋は悉く水浸しとなつた。この爲建物に損傷し汚染して、相當の修理を施さねばならぬこととなつた。家賃も、或程度割引かねばならぬものゝやうだ。

【下期業績】然し今期は、新築の三棟が期初から利益を稼いで居り而も、此の三棟は何れも大きなビルであるから利益は相當大きい。五、六萬圓程度の増収とならう。これなら水害に依る損失を差引いても尙ほ一、二萬圓の増益となる筈だ。現行配當には不安はない。

【土庫増設】

|                                                                                           |                                                                              |                                                                                                                 |                                     |                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】明治二十九年八月                                                                              | 【決算期】六月、十二月                                                                  | 【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000                                                                                  | 【株数】普通 (100) 10,000 優先 (100) 10,000 | 【事業成績】十二年下 十三年上 十三年下<br>興業収入(千圓) 2,211 1,075 2,296<br>【業績】利益率 無配 無配 無配<br>【株價】(高値) 株 株 株<br>【時價】(新) 0.0 0.0 0.0 |
| 【大株主】安田保壽社 1,000 株 山二株式 1,000 株<br>安田生命 1,000 株 東京火災 1,000 株<br>大橋本店 1,000 株 大橋本店 1,000 株 | 【役員】社長 川崎 清男 取締役 大泉 重<br>常務 石橋 光治 監査 池田 和重<br>取替 安田善五郎 大倉 榮三郎<br>大橋新太郎 安田善八郎 | 【事業成績】十二年下 十三年上 十三年下<br>興業収入(千圓) 2,211 1,075 2,296<br>【業績】利益率 無配 無配 無配<br>【株價】(高値) 株 株 株<br>【時價】(新) 0.0 0.0 0.0 |                                     |                                                                                                                 |

### 市岡土地

【設立】大正五年六月  
【決算期】五月、十一月  
(本社)大阪府港區西市岡町二ノ一〇(電話 四六〇)

【上期成績】當社の五上期成績は利益金十三萬二千圓で拂込資本に對する利益率は一割二分一厘を示した。之を前期に比較すると利益金は一萬一千圓の増加であり利益率は八厘の向上に當る。配當は八分を据置きとした。

【前途】主力を工場用地の賣買並賃貸に置く。時局以來生産力擴充の爲め工場建設はかなり急で且つ大々的に強行されつつあるようだが自然當社の仕事も繁忙を呈しつつあることは想像に難くない。生産力擴充はまだ繼續される筋合だから、従つて當社の成績も漸次向上を辿るものと期待して大過なからう。

|        |         |                                             |
|--------|---------|---------------------------------------------|
| 【資本金】  | 公稱      | 1,000,000                                   |
| 【株数】   | 株式      | 10,000                                      |
| 【役員】   | 社長      | 竹中 源助                                       |
|        | 取締役     | 岡崎 忠三郎、中山 源吉、山本 清吉、中西 兵衛、鈴木 善兵衛、山本 清吉、山本 清吉 |
| 【大株主】  | 十四年五上期  | 山本 清吉 50,000、山本 清吉 50,000、山本 清吉 50,000      |
| 【事業成績】 | 十五年上    | 利益 1,320,000                                |
|        | 十五年下    | 利益 1,320,000                                |
| 【時價】   | 十四年十一月期 | 八分(八分)                                      |
| 【利息】   | 十五年上    | 五分九厘                                        |

### 大阪土地建物

【設立】明治四十四年七月  
【決算期】五月、十一月  
(本社)大阪府住吉區山王町四ノ五(電話 六七〇)

【上期成績】當社の上期は利益金三十六萬三千圓で拂込資本に對する利益率は一割一分一厘であつた。前期に比べると利益金は七萬一千圓の増加に當り、利益率は二分の向上となる。配當は六分据置きとしたから決算は相當餘裕を加へた譯だ。尙ほ當社は拂込資本七百五十萬圓となつてゐるが、百萬圓の買入を行つてゐるので實際は六百五十萬圓の資本である。

【前途】資本の買入減資は依然として繼續されてゐるから資本負擔は漸次輕減される筋合にある。一方業績もインフレ景氣によつて向上しつつあるから六分配當は急々確實性を加へるだらう。

|        |         |                                                    |
|--------|---------|----------------------------------------------------|
| 【資本金】  | 公稱      | 7,500,000                                          |
| 【株数】   | 株式      | 75,000                                             |
| 【役員】   | 社長      | 古田 西田                                              |
|        | 取締役     | 井田 敏夫、上田 宗三郎、上田 宗三郎、上田 宗三郎                         |
| 【大株主】  | 十四年五上期  | 上田 宗三郎 1,000,000、上田 宗三郎 1,000,000、上田 宗三郎 1,000,000 |
| 【事業成績】 | 十五年上    | 利益 3,630,000                                       |
|        | 十五年下    | 利益 3,630,000                                       |
| 【時價】   | 十四年十一月期 | 六分(六分)                                             |
| 【利息】   | 十五年上    | 六分三厘                                               |

### 名古屋土地

【設立】明治四十四年九月  
【決算期】五月(一年一回)  
(本社)名古屋市中村區下中村町三樹田一

【經營は樂】當社一箇年の經營は利息支拂額二萬四千圓を含めても約六萬圓程だ。平均利率七分六厘の借金も土地代未收金十二萬八千圓が入金したそれだけ整理出来ようから利拂は減る勘定になる。そうなれば家屋収入だけで五萬圓もあるのだから土地賣却に努めなくてもジツクリと土地經營に力を注いで行ける。

【解散價値】地所、家屋、證券が内輪に見ても百八十七萬五千圓で三十一萬四千圓の債務を差引いても、五十圓拂込済株の實價は五十八圓に相當する。土地代未收を考慮すれば六十三圓となり更に有利だ。差當つて解散する模様もないが無配株ながら興味がある。

|        |         |                                     |
|--------|---------|-------------------------------------|
| 【資本金】  | 公稱      | 1,200,000                           |
| 【株数】   | 株式      | 12,000                              |
| 【役員】   | 社長      | 新田 清成                               |
|        | 取締役     | 飯田 猛、竹原 友三郎、飯田 猛、飯田 猛               |
| 【大株主】  | 十四年五上期  | 飯田 猛 50,000、飯田 猛 50,000、飯田 猛 50,000 |
| 【事業成績】 | 十五年上    | 利益 2,400,000                        |
|        | 十五年下    | 利益 2,400,000                        |
| 【時價】   | 十四年十一月期 | 八分(八分)                              |
| 【利息】   | 十五年上    | 六分                                  |

### 名港土地

【設立】明治四十五年五月  
【決算期】五月、十二月  
(本社)名古屋港區本場町六ノ三(電話 四六二)

【資産に含み多し】前期末の決算で所有土地十四萬六千餘坪の評価が百十六萬餘圓となつて居るから坪當り評價は七圓九十三銭だ。當社の所有地は名古屋港附近にあり、工場擴張用地並に、従業員住宅建築用地として重工業繁榮の折柄地價は騰上りに騰貴し最高七十圓から最低二十圓位まで賣買されて居る、假りに平均三十圓と評價すれば一坪に付二十二圓の含みだから三百二十萬圓が評價含みとなる。建造物の資産利廻は年一割五分九厘だから之亦割安である。

【前途は】材木の品がスレで貯木事業部は今後當分の間芳しくあるまい。然し恒例の七分配當がグラつくことは當分ない。

|        |         |                                     |
|--------|---------|-------------------------------------|
| 【資本金】  | 公稱      | 1,200,000                           |
| 【株数】   | 株式      | 12,000                              |
| 【役員】   | 社長      | 飯田 猛                                |
|        | 取締役     | 飯田 猛、飯田 猛、飯田 猛                      |
| 【大株主】  | 十四年五上期  | 飯田 猛 50,000、飯田 猛 50,000、飯田 猛 50,000 |
| 【事業成績】 | 十五年上    | 利益 1,200,000                        |
|        | 十五年下    | 利益 1,200,000                        |
| 【時價】   | 十四年十一月期 | 八分(八分)                              |
| 【利息】   | 十五年上    | 六分二厘                                |

【護謨栽培業】

### 日産農林工業株式会社

(本社) 東京市芝罘田村町一ノ二日産館内(電報掛支店)

【大同燐寸合併】 當社は今回燐寸系の大同燐寸(資本金八百萬圓、拂込七百萬圓)を吸収合併した。合併比率は當社七に對し大同燐寸十で、之に依つて公稱資本金は二千六十萬圓、拂込資本金は一千七百四十萬圓に増加する。大同燐寸は我國最大の燐寸會社だが、木材資源を持たぬので、林業部を持つ當社との合併が成立した譯だ。

【林業部擴充】 昨年末完成した鶴見工場は自動車ボディ製作に進出し、時局柄トラックの増産等に忙殺されてゐる。そこで七月末に同工場の生産能力を倍化する爲總額二百五十萬圓の拂込を徴収した。林業部の擴張は尙ほ續行されるから引續いて拂込が徴収されよう。

【八月期成績】 八月期決算は本稿執筆中には公表されてゐないが、大體豫想される所では、利益金百四十萬圓が見込める。蓋し市價が些か向上した上に、生産量が略其の前期並みであり、林業部も四十五萬圓ばかり利益を挙げたからだ。利益率二割二分六厘となり、二分二厘の増益だが、一割三分配當は勿論據置かれる。

【二月期豫想】 今期護謨豫想生産量は限産率一五%緩和で四百萬封度である。コストを手堅く十三仙、市價を三十仙と押へれば、護謨益だけで百三十六萬圓、擴張後の林業部の本格的な活動で、總利益は二百萬圓に上らう。拂込金は増加するが利益率は大きく變るまい。

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 昭和九年三月                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 【決算期】  | 二月、八月                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 【事業】   | 護謨、椰子栽培、木材伐採                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 【資本金】  | 公稱資本金 2,600,000<br>實收資本金 1,740,000                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 【株主数】  | 1,127名                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 【役員】   | 社長 結川 義介<br>取締役 前田 惟智<br>常務 田中 誠吉<br>監査 山田 敬光<br>副社長 岡部 常太郎<br>植村 俊平<br>大株主 1,127名                                                                                                                                                                                                      |
| 【事業規模】 | 事業地 茨城県北ケルネオ、タワゴ、馬<br>来牛島、ヨコネール、バトバハ<br>農園全面積 3,835英畝<br>護謨(一) 1,127下 1,127上 1,127下<br>植付地 八六八、八六八、八六八、八六八<br>採取地 七三三、七三三、七三三、七三三<br>休耕地 六六六、六六六、六六六、六六六<br>未耕地 六六六、六六六、六六六、六六六<br>生産高(千封度) 七三三、七三三、七三三、七三三<br>コブラ(封度) 一三三、一三三、一三三、一三三<br>木材(石) 六六六、六六六、六六六、六六六<br>木(石) 六六六、六六六、六六六、六六六 |
| 【関係会社】 | 日本農産の子會社                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 【資本異動】 | 十七年八月天災復興増資第一回<br>(二回)全額拂込徴収                                                                                                                                                                                                                                                            |

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 【資産負債】 | 二十二年 八十二<br>二十三年 八十三<br>二十四年 八十四 |
| 株主資本   | 二六八                              |
| 積立金    | 一八八                              |
| 外部負債   | 一八八                              |
| 流動負債   | 一八八                              |
| 流動資産   | 一八八                              |
| 現金預金   | 一八八                              |
| 【收支】   | 二十二年 八十二<br>二十三年 八十三<br>二十四年 八十四 |
| 収入     | 一八八                              |
| 支出     | 一八八                              |
| 【業績】   | 二十二年 八十二<br>二十三年 八十三<br>二十四年 八十四 |
| 【基礎配當】 | 一割三分                             |
| 【豫想配當】 | 十五年二月期 一割三分                      |
| 【時價】   | 一三三                              |
| 【名義書換】 | 十 條【新學文附】三十條                     |

【護謨栽培業】

### スマトラ拓殖株式会社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内二ノ九ビル内(電九ノ内ハ八)

【大戦と護謨界】 今次歐洲戰亂が護謨界に如何に影響するか。之は戰局の擴大範圍に依存するが、現在のごとく樂觀氣分が強い。蓋し護謨に對する軍需の激増に依る値上りと、之に對處しての限産率の緩和(本年第四四半期の限産率二五%)が戰爭直後に斷行されたからだ。極端な樂觀は許されぬが、従前に比して明朗味が益したことは事實である。

【四月期決算】 發表された四月期決算を見ると護謨採取量は六十一萬七千封度で其の前期より六萬六千封度の減産だが、此の間平均相場が四仙弱み向上した爲め、計上利益金は二十八萬七千圓と三萬一千圓の増益だ。利益率は一割一分五厘に該當し、餘り樂な決算とは言へないが、八分配當に幾分餘裕が増加した。

【今期見通し】 本年下半年決算(十月締切)は一段と成績の向上が見込める。蓋し九月、十月は護謨價が相當に昂騰するから平均相場を手堅く二十九仙、コスト十二仙と押へると、今期護謨採取量は七十五萬封度故、護謨益だけで二十五萬五千圓が計上される。之に加へるに子會社極洋捕鯨に對する販賣手数料其他雜益十五萬圓、其の配當収入六萬圓を加へると總利益は四十六萬圓を下るまい。來期も又、引續き樂觀されるから、一分増配は近く實現されよう。

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 大正七年三月                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 【決算期】  | 四月、十月                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 【事業】   | 護謨栽培、採集、燐業水産業                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 【資本金】  | 公稱資本金 800,000<br>實收資本金 800,000                                                                                                                                                                                                                                        |
| 【株主数】  | 1,127名                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 【役員】   | 社長 山田 敬光<br>取締役 前田 惟智<br>常務 田中 誠吉<br>監査 山田 敬光<br>副社長 岡部 常太郎<br>植村 俊平<br>大株主 1,127名                                                                                                                                                                                    |
| 【事業規模】 | 事業地 スマトラ島シムルンゲン<br>所有園(護謨) 1,127上 1,127下 1,127上<br>採取地 1,127上 1,127下 1,127上<br>休耕地 1,127上 1,127下 1,127上<br>未耕地 1,127上 1,127下 1,127上<br>生産高(千封度) 1,127上 1,127下 1,127上<br>平均賣値(他) 1,127上 1,127下 1,127上<br>生産費(他) 1,127上 1,127下 1,127上<br>販賣数量(千封度) 1,127上 1,127下 1,127上 |
| 【投資会社】 | ビルン拓殖、極洋捕鯨                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 【資本異動】 | 十一年十月三回増資三回増資徴収<br>十二年三月三回増資三回増資徴収<br>十二年八月三回増資三回増資徴収                                                                                                                                                                                                                 |

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 【資産負債】 | 二十二年 八十二<br>二十三年 八十三<br>二十四年 八十四 |
| 株主資本   | 二六八                              |
| 積立金    | 一八八                              |
| 外部負債   | 一八八                              |
| 流動負債   | 一八八                              |
| 流動資産   | 一八八                              |
| 現金預金   | 一八八                              |
| 【收支】   | 二十二年 八十二<br>二十三年 八十三<br>二十四年 八十四 |
| 収入     | 一八八                              |
| 支出     | 一八八                              |
| 【業績】   | 二十二年 八十二<br>二十三年 八十三<br>二十四年 八十四 |
| 【基礎配當】 | 一割三分                             |
| 【豫想配當】 | 十五年二月期 一割三分                      |
| 【時價】   | 一三三                              |
| 【名義書換】 | 十 條【新學文附】三十條                     |

〔熱帯産業〕

### 熱帯産業

〔設立〕大正八年五月  
〔決算期〕四月、十月  
〔本社〕東京市日本橋區室町二ノ一(三井三號館内) (電日本橋區三三)

【四上期成績】四上期決算を見ると利益金は十三萬九千圓で其の前期に比し八千圓を増加した。利益率は五分となり、僅か乍ら向上してゐる。当期生産量は八萬四千封度に減少したが、幸ひ市價が四仙弱み上騰したので上記の如き結果となつた譯だ。然し五分の利益率では三分配當は依然窮屈の誹を免れない。  
【十月期】當社の護謨樹は幼樹(七、八年樹)が多く、育成期にある爲、護謨生産量は少いが之は反面から見れば今後の生産増加が期待される所以でもある。今期は限産率緩和と市價の一層の上騰で利益も相當増加し、多少三分配當に餘裕を生じよう。

|                                 |                                                    |
|---------------------------------|----------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 〇〇,〇〇〇 拂込 〇〇,〇〇〇        | 【株数】(株) 〇〇,〇〇〇                                     |
| 【重役】社長 佐藤 太郎 取締役 佐藤 一郎 監査 佐藤 三郎 | 【大株主】十四年四月期 山崎 太郎 〇〇,〇〇〇 山崎 一郎 〇〇,〇〇〇 山崎 三郎 〇〇,〇〇〇 |
| 【事業規模】(單位) 〇〇,〇〇〇               | 【生産高】(千圓) 〇〇,〇〇〇                                   |
| 【平均賣價】(圓) 〇.〇〇                  | 【利益】(千圓) 〇〇,〇〇〇                                    |
| 【時價】(圓) 〇.〇〇                    | 【配當】(圓) 〇.〇〇                                       |

### 昭和護謨

〔設立〕昭和十二年六月  
〔決算期〕三月、九月  
〔本社〕東京市京橋區京橋二ノ八(明治製菓ビル) (電京橋區三三)

【上期業績】上期決算は九月末に締切られる。豫想されるところでは、大體總益金九十一萬圓が見込める。去る六月徴収した拂込を考慮しても利益率二割九分と前期並みであり、一割配當は安泰だ。  
【大戦の影響】今次大戦に依つて當社が蒙る影響は仲々複雑だ。當社で栽培した護謨は現地で販賣されるが、此の方面は軍需増大に依り一應樂觀される。だが最近増設した千住護謨加工場の原料生護謨は南洋方面の輸入に仰いで居り、輸入困難と言ふことも考へられぬではない。然も同工場の擧げる利益は今日總益中約四割を占めてゐるから、今後、此の點に多分の不安を残すものと考へよう。

|                                 |                                                    |
|---------------------------------|----------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 〇〇,〇〇〇 拂込 〇〇,〇〇〇        | 【株数】(株) 〇〇,〇〇〇                                     |
| 【重役】社長 相馬 半治 取締役 相馬 一郎 監査 相馬 三郎 | 【大株主】十四年三月期 山崎 太郎 〇〇,〇〇〇 山崎 一郎 〇〇,〇〇〇 山崎 三郎 〇〇,〇〇〇 |
| 【事業規模】(單位) 〇〇,〇〇〇               | 【生産高】(千圓) 〇〇,〇〇〇                                   |
| 【平均賣價】(圓) 〇.〇〇                  | 【利益】(千圓) 〇〇,〇〇〇                                    |
| 【時價】(圓) 〇.〇〇                    | 【配當】(圓) 〇.〇〇                                       |

### 南洋護謨

〔設立〕明治十四年三月  
〔決算期〕四月、十月  
〔本社〕東京市麹町區丸之内二ノ八(電丸之内〇八)

【前期業績】四上期決算を見ると利益金十七萬圓、利益率一割二分四厘で、其の前期に比し前者一萬七千圓、後者一分三厘をそれぞれ増加した。然しまだ八分配當は樂でない。当期の生産量は十三萬三千封度減少したのだが市價が約四仙向上したので右の増益となつた。  
【今期豫想】今期生産量は限産率緩和で七十五萬封度が見込める。市價を三十仙と押へると護謨益だけで二十二萬五千圓が擧げられよう。當社は時局産業進出を試み、昨年末赤坂鐵工所へ投資したが、なほ現金三十一萬圓を擁するので他の投資物を物色中だ。クルアンの本年度新規植付地は極めて良適で、今後大いに活動する筈。

|                                 |                                                    |
|---------------------------------|----------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 〇〇,〇〇〇 拂込 〇〇,〇〇〇        | 【株数】(株) 〇〇,〇〇〇                                     |
| 【重役】社長 佐藤 太郎 取締役 佐藤 一郎 監査 佐藤 三郎 | 【大株主】十四年四月期 山崎 太郎 〇〇,〇〇〇 山崎 一郎 〇〇,〇〇〇 山崎 三郎 〇〇,〇〇〇 |
| 【事業規模】(單位) 〇〇,〇〇〇               | 【生産高】(千圓) 〇〇,〇〇〇                                   |
| 【平均賣價】(圓) 〇.〇〇                  | 【利益】(千圓) 〇〇,〇〇〇                                    |
| 【時價】(圓) 〇.〇〇                    | 【配當】(圓) 〇.〇〇                                       |

### 馬來護謨公司

〔設立〕大正元年十月  
〔決算期〕三月、九月  
〔本社〕東京市麹町區大手町日清生命館(電丸之内三六)

【三月期成績】當社は三月期決算で其の前期に比し二萬圓ちかい増益を擧げ、利益率は九分五厘となり、一分増配が期待されたが、四分増配を据置き、内部保留を厚くした。  
【九月期は増配】だが今九月決算に當局者は一分増配を行ひたい意嚮を持つてゐる。蓋し今期豫想生産量は八十五萬封度と前期より約二萬封度の増産である上に、市價も向上し、利益金二十二萬圓、利益率一割二分が見込めるからだ。只當社は、従来の銷却が不充分であるから、此の際一層の自重が望ましいのであるが、他社との振合上、一般の増配期待を充たすことゝした譯である。

|                                 |                                                    |
|---------------------------------|----------------------------------------------------|
| 【資本金】公稱 〇〇,〇〇〇 拂込 〇〇,〇〇〇        | 【株数】(株) 〇〇,〇〇〇                                     |
| 【重役】社長 佐藤 太郎 取締役 佐藤 一郎 監査 佐藤 三郎 | 【大株主】十四年三月期 山崎 太郎 〇〇,〇〇〇 山崎 一郎 〇〇,〇〇〇 山崎 三郎 〇〇,〇〇〇 |
| 【事業規模】(單位) 〇〇,〇〇〇               | 【生産高】(千圓) 〇〇,〇〇〇                                   |
| 【平均賣價】(圓) 〇.〇〇                  | 【利益】(千圓) 〇〇,〇〇〇                                    |
| 【時價】(圓) 〇.〇〇                    | 【配當】(圓) 〇.〇〇                                       |

〔護謨栽培業〕

〔護謨栽培業〕

ボルネオ護謨

〔設立〕大正六年十二月
〔決算期〕三月・九月
(本社) 東京市町區丸の内三ノ六(電九之内六)

〔九月期決算〕當社の三月期決算は意外に成績がよく三分の複配を行つたが、之は其の前期に蘭印政府より課せられた三萬二千圓と言ふ莫大な所得税が計上されなかつたからである。ところで今期は再び税金の課せられる年度であり、この如何に依つてコストが大きく左右されるが、年初來、蘭印政府當局と折衝を重ねて來たから、恐らく半減される見込みだ。今期は先づ八萬圓位の利益は擧げられよう。
【増配氣運】とすれば利益率八分となり、同業會社との振合上一分増配も考へられる。だが當社の一エーカー當り固定資産は可成り割高だから、此の際自重して來期に増配を延ばす方が望ましい。

Table with financial data for Borneo Rubber, including columns for '資本金', '株数', '役員', '専務', '取締役', '監査', '大株主', '事業規模', and '時價'.

南國産業

〔設立〕大正六年九月
〔決算期〕六月、十二月
(本社) 東京市町區丸の内三ノ四有樂館内(電九之内三)

〔六月期據置か〕當社の六月期決算は未だ發表されませんが、十八萬八千圓の利益金が見込まれる。之は前期に比し約五萬圓の増益に當る譯だ。利益率にして一割二分五厘となり、六分増配は餘裕含みだ。然し當社は一昨年減増資の大整理に依つて借金返済に努めた上、昨年は一分減の六分増配を辛じて行つて來たことではあり、勿論六月期も増配據置で、内容充實に進む筈だ。
【次期豫想】大戦は今のところ護謨界に樂觀材料で、若しこれが作用するとなれば、來る十二月期の成績は向上するだらう。たゞ兼業の茶、規那、珈琲等は、いづれも市況不振で大きな期待は出來ぬ。

Table with financial data for Nankoku Sanjiyo, including columns for '資本金', '株数', '役員', '専務', '取締役', '監査', '大株主', '事業規模', and '時價'.

日魯漁業株式會社

(本社) 東京市町區丸の内九ノ四(電九之内二五六)

【漁獲高は不漁】本年度の漁獲成績は不漁に終始し、遂に昭和十年來の減収となつた。九月四日調に依る罐詰製造函数は百十六萬九千七百函である。この限り前年度実績よりは十一萬三千函の減少に過ぎないが、肝腎の紅鮭罐詰は前年の四十四萬函から二十七萬三千函に減少した。即ち十六萬七千函、割合にして三割七分の減となつたことが痛手である。時化に遭遇したのも一因ながら根本原因はソ聯の壓迫に依る出漁遲延にあると云はれてゐる。
【成績は寧ろ向上】然し、漁獲の不漁に反して本年度の成績は寧ろ向上を期待せしむる情勢にある。紅鮭罐詰を始め、現に、現部が對英向に輸出され、其他の罐詰も大半が輸出向だ。然るに、現地作業の終りと時を同じうして歐洲戰亂の勃發となり、輸出罐詰界は頗る好勢を示して來た。殊に今年度の紅鮭はアラスカ、カナダ共に二割半の減少が傳へられ、戦時需要の増大と相俟つて賣値の高騰は必然の勢となつた。減収は痛手ながら値上りでカバー出來よう。内地向の罐詰及び鹽魚類は賣行の激増に惠まれて既に八月末迄に全部が賣却された。而も賣値は三割高の高値であつて、鹽魚の賣らす利益は意外の多額に達する模様である。斯うした内外兩市場の好調に惠まれて一割配當の持續は寧ろ榮幸となつた。

Table with financial data for Nihon Ryo Ryo, including columns for '設立', '決算期', '資本金', '株数', '役員', '専務', '取締役', '監査', '大株主', '事業規模', '時價', and '名義書換'.





### 東亞烟草株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内(丸ビル内) (電九ノ内三六二丁)

【經營形態の特異性】當社の直營地域は關東州と中支だけで、滿洲國と北支は二つの子會社を運営してそれにやらせてゐる。つまり一種の持株會社だ。滿洲は資本金二千五百萬圓拂込済の滿洲東亞、北支は資本金五千萬圓、拂込千二百五十萬圓の華北東亞がその二つの子會社である。そして滿洲東亞の株式の大部分を華北東亞でもち、華北東亞の株式の全部を當社で所有する云はゞ芋蔓式操作によつて、巧に兩子會社を統制してゐるのだ。

【北支の増産】去る五月一日當社が三千萬圓に増資したのは、右の華北東亞を通してやる北支の大増産計畫を實施するためであつた。先づ在來の天津工場を増設と太原管理工場の擴充を行ひ、更に秦皇島を始め、青島、濟南及び徐州夫々に工場を建設する計畫だ。既に秦皇島工場は操業を開始したやうだし、續いて年産三十億本の生産を目指す青島工場も、愈々工場建設にとりかゝる模様である。

【一割配當安泰】以上が北支増産計畫だが、當社は更に自ら中南支方面へ積極的進出を行つてゐる。上海に於ける支那人工場二ヶ所の買収操業と南支の販賣網の擴充がそれだ。かやうに相繼ぐ擴充發展策を進めてゐるので、資金調達の意味から選からず拂込問題も起つて來よう。煙草需要は依然旺盛だから、一割配當は動かぬ。

### 滿洲烟草株式會社

(本社) 滿洲國新京特別市臨河街二、一〇一號(電話、二六六一) (出張所) 東京市麹町區丸の内丸ビル内(電九ノ内三六二丁)

【北支煙草の配當】下表に見る通り、當社の成績の伸び方は大幅且つ急テンポである。大陸に於ける煙草事業の有望性を物語るに充分だが、それ故に又事業的發展も目覚ましい。五月末北京に創立された子會社北支煙草(資本金一千萬圓、拂込四分の一)はその例だが、この會社は創立第一期から、六分程度の配當が行へる。

【有望な子會社】創立當初から配當開始出来るのは、北支煙草が操業中の天津カラザス工場を買収して設立されたからだ。従つて第一期配當は、専らこのカラザス工場の収益によるのである。北支煙草の事業計畫によると、北京本工場の方は年内に年産十五億本生産設備を完成し、逐次二十五億本まで擴大し、天津工場は今の八億本を十五億本にするのだ。當局者の言によると、遅くも來年早々には、北京、天津合せて年産二十五億本の生産は可能で、この利益を七十六萬圓と見積つてゐる。北支煙草拂込二百五十萬圓に對し、一割配當所要金は僅々廿五萬圓だから、著しく有望な子會社と云へる。

【拂込徴收】一方、滿洲國の方も悪くない。只需要激増せるに拘らず、設備擴張の認許が容易に得られぬ憾みはあるが、幸ひ當社は過般新京工場の増設を許可されたので、之が又今後の増益に寄與する。事業規模の擴張と共に近々拂込も徴收されん。一割配當安泰。

|        |                                                                                       |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 明治三十九年十月                                                                              |
| 【決算期】  | 五月、十一月                                                                                |
| 【事業】   | 煙草、葉巻煙草                                                                               |
| 【資本金】  | 公稱 25,000,000 拂込 12,121,000                                                           |
| 【株主】   | 新(11)名 10,000,000 舊(1)名 2,121,000                                                     |
| 【重役】   | 社長 金光 甫夫 取締役 井上 健彦 常務 松尾 晴見 監査 金光 義邦 川村 桃吾 山本節次郎                                      |
| 【株主数】  | 支年上 支年下 十四年上 十四年下                                                                     |
| 【大株主】  | 谷村 直雄 三三六六 阿部 民次 一八三六 岩波 三郎 三〇〇〇 日本生命 二八〇〇 大正生命 二八〇〇 太陽生命 二八〇〇 毛利 幸生 三〇〇〇 森田 久治 一〇〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 工場所在地及製品                                                                              |
| 【生産能力】 | 天津工場(兩切) 奉天工場(兩切) 營口工場(口付、兩切、兩切) 上海工場(兩切) 太原工場(兩切)                                    |
| 【年産能力】 | 五〇〇〇箱(二五〇〇萬本)                                                                         |
| 【事業成績】 | 支年上 支年下 十四年上 十四年下                                                                     |
| 【資本移動】 | 滿洲東亞煙草、華北東亞煙草 十四年五月、一八萬圓増資第一回三三三三 拂込徴收                                                |

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十四年       |
| 株主資本   | 五三三三 三三三三 三三三三    |
| 積立金    | 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇    |
| 外部負債   | 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇    |
| 流動資産   | 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇    |
| 固定資産   | 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇    |
| 現金預金   | 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇    |
| 【收支勘定】 | 支年上 支年下 十四年上 十四年下 |
| 収入     | 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇    |
| 支出     | 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇    |
| 【業績】   | 利益率 高値 安値 高値 安値   |
| 【準備配當】 | 一割                |
| 【時價】   | 九六六 五分二厘          |
| 【名義書換】 | 十錢 新券交付 三十錢       |

|        |                                                                                                             |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 昭和九年十二月                                                                                                     |
| 【決算期】  | 四月、十月                                                                                                       |
| 【事業】   | 葉煙草栽培並販賣及卷煙草製 造販賣                                                                                           |
| 【資本金】  | 公稱 11,000,000 拂込 8,000,000                                                                                  |
| 【株主】   | 11,000,000 0.000,000 0.000,000 0.000,000                                                                    |
| 【重役】   | 社長 長谷川太郎 取締役 古田 隆三 常務 板谷 幸吉 監査 田畑 守吉 長谷川助 坂梨 繁雄 取締役 窪田 四郎                                                   |
| 【株主数】  | 支年上 支年下 十四年上 十四年下                                                                                           |
| 【大株主】  | 野村 合名 10,000,000 野村信託 10,000,000 板谷 幸吉 六〇〇〇 野上 彦市 六〇〇〇 古田 隆三 一〇〇〇 田畑 守吉 五〇〇〇 長谷川助 三〇〇〇 武橋次郎 三〇〇〇 渡邊善十郎 三〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 工場所在地 滿洲國新京特別市 敦地 五、三三三 工場建坪 九、四四四 工場能力 三、三三三                                                               |
| 【年産能力】 | 三億本                                                                                                         |
| 【資本移動】 | 十三年八月七圓換券徴收                                                                                                 |

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 【資産負債】 | 十二年 十三年 十四年       |
| 株主資本   | 三三三三 三三三三 三三三三    |
| 積立金    | 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇    |
| 外部負債   | 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇    |
| 流動資産   | 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇    |
| 固定資産   | 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇    |
| 現金預金   | 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇    |
| 【收支勘定】 | 支年上 支年下 十四年上 十四年下 |
| 収入     | 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇    |
| 支出     | 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇    |
| 【業績】   | 利益率 高値 安値 高値 安値   |
| 【時價】   | 四八二 四分二厘          |
| 【名義書換】 | 十錢 新券交付 三十錢       |

# 東洋葉煙草株式會社

(本社) 東京市町田區丸の内三ノ二(電丸ノ内一六六九五)

【新工場獲得】中支に於ける邦人煙草事業は、東亞と當社の獨占である。何れも支那人工場の買収乃至借受經營に出發したものであるが、當社は東亞より一步先んじてこれを敢行した。その點何かにつけ有利なやうに見受けられるが、果して過般の南洋兄弟煙草公司の當社への依歸經營に於てそれが明かにされた。南洋兄弟煙草公司は上海に於ける支那人資本による最大煙草工場で、邦人煙草業者の注目の的であつたと云はれる。これを當社に依歸されたわけだが、現在はまだ公用に供せられてゐるので、使用することは出来ない。然し近近使用可能となるので、そうなるに當社は既存の上海第一、第二、第三工場をこゝに集中移駐し、大整備を行ふことになつてゐる。

【配當安泰】當社の現生産能力は上海三十八億本(捲上機三十八臺)、漢口五億本(同五臺)であるが、目下漢口に据付中の捲上機五臺が運轉を開始すると、年産合計四十八億本となる。製品の販路は東亞が専ら軍需向けであるに對し、當社は主に上海、漢口を中心とする中南支民需向けだ。最近北支が水害で品不足を來してゐるので、この方面にも行つてゐるやうだ。原料葉煙草は山東及び許州産だが、昨今許州ものが相當多量に入荷出來るやうになつたので特に心配はない。九月の拂込で資本負擔は増したが、一割は安泰。

【領事事務】

# 株式 東京株式取引所

(本社) 東京市日本橋區兜町一ノ六(電茅場町一五一一六)

【大戦勃發と證券市場】今次大戦はわが國に對しては一大福音であり、神風であると言ふ者がある。もちろん、さう言ふ面もあるが有頂天となるは禁物だ。現下の時局に於て、適當投機は嚴に慎まねばならぬ。去る九月初旬、各市場とも投機株を中心に、人氣の好轉による株價の暴騰を見たが、この程度なれば穩健なる動きであつた。事變勃發以來株式市場が閉鎖を見ず、わが經濟力を世界に表示したことは、市場關係者一同の努力であり、今後とても自肅自戒して、證券市場の健全なる發達を圖るべきである。現實の經濟機構に於ける取引所の機能に付ては事新しく言ふまでもないが、經濟の圓滑なる運行にとつて、缺くべからざるものだ。

【優位株の代用許可】東株市場では來る十二月一日から優位株を以て代用證券とすることを認めた。即ち新東の受渡しに親東を以て差支へないこととなる。これによつて、新東の親不孝相場は漸次解消しよう。そして、新東相場の機能は一段と有意義になると考へるが、その今後の動向こそ注目に値しよう。

【業績は好轉】十一月末締切の本年下期は前半不振に推移したが、後半は活況を呈してゐる。この調子だと、期を通じて手數料收入三百廿萬圓見當に達しようから、七分見當の配當を見込める。

【取引所】

|        |                                                                                                                                      |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 大正八年八月                                                                                                                               |
| 【決算期】  | 五月、十一月                                                                                                                               |
| 【事業】   | 葉煙草輸入及製造販賣、烟草製用諸材料の販賣                                                                                                                |
| 【資本金】  | 公稱 10,000,000 拂込 3,000,000                                                                                                           |
| 【株数】   | 新(三三五) 107,000                                                                                                                       |
| 【重役】   | 會長 原 邦造<br>社長 杉浦 敏一 取締役 加藤 繁之<br>專務 池田 敏六 安藤 恒三郎<br>常務 外山 石英 林 武久<br>宇田 吉一 監査 山田寅太郎<br>取締役 日下三九郎 小岩 信吉<br>石部 泰藏 川村 映吉<br>三谷 勇吉 藤道 文徳 |
| 【株主数】  | 十三年上 七千七百七<br>十三年下 七千七百七<br>十三年上 七千七百七                                                                                               |
| 【大株主】  | 愛國生命 5,000,000 望月軍四郎 10,000,000<br>邦造 6,000,000 千代田生命 5,000,000<br>日本生命 5,000,000 第一生命 5,000,000<br>川崎信託 5,000,000 安田生命 5,000,000    |
| 【事業規模】 | 賃借上海工場 年産能力 10億本<br>獨立工場建設中 年産能力 10億本                                                                                                |
| 【販路】   | 上海に於ける支那烟草製造業者<br>日本製煙、獨立製煙                                                                                                          |
| 【投資會社】 | 日本製煙、獨立製煙                                                                                                                            |
| 【資本負擔】 | 十三年十月九〇〇萬圓増資<br>第一四三圖五拂込徴収                                                                                                           |

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十四年                   |
| 株主資本   | 6,000,000 6,000,000 6,000,000 |
| 積立金    | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 外部負債   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本  | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定資産   | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 流動資産   | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 現金預金   | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 【收支勘定】 | 十三年上 十三年下 十四年上                |
| 收入     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支出     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【業績】   | 十三年上 十三年下 十四年上                |
| 利益     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【株價】   | 高値 安値 高値 安値                   |
| 【基礎配當】 | 一割                            |
| 【理想配當】 | 十四年十一月期 一割                    |
| 【時價】   | 新八七五 【利息】 五分七厘                |
| 【名義書換】 | 十錢 【新券交付】 五十錢                 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 明治十一年五月                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 【決算期】  | 五月、十一月                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 【事業】   | 株式、公社債清算實物取引                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 【資本金】  | 公稱 10,000,000 拂込 10,000,000                                                                                                                                                                                                                                         |
| 【株数】   | 新(三三五) 107,000                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 【重役】   | 理事長 藤島 千八<br>専務 坂 廣 理事 望月軍四郎<br>常務 大串 三夫 藤山 銀一郎<br>理事 松本有樹門 石井 銀彌<br>南波 龍吉 監査 窪田 四郎                                                                                                                                                                                 |
| 【株主總数】 | 十三年上 七千七百七<br>十三年下 七千七百七<br>十三年上 七千七百七                                                                                                                                                                                                                              |
| 【大株主】  | 大日本製煙會社 5,000,000 神取證券 10,000,000<br>大株代行 10,000,000 名古屋株取引 10,000,000<br>京報證券 6,000,000 東株代行 6,000,000<br>廣島株取引 6,000,000 玉塚商店 6,000,000                                                                                                                           |
| 【出来高】  | 十三年上 七千七百七<br>十三年下 七千七百七<br>十三年上 七千七百七                                                                                                                                                                                                                              |
| 【長期取引】 | 株式(全額) 10,000,000<br>内債(半額) 5,000,000<br>外債(半額) 5,000,000<br>株式(半額) 5,000,000<br>内債(半額) 2,500,000<br>外債(半額) 2,500,000<br>地方債(半額) 2,500,000<br>社債(半額) 2,500,000<br>手數料 十三年上 七千七百七<br>長期取引(半額) 1,000,000<br>短期取引(半額) 1,000,000<br>實物取引(半額) 1,000,000<br>合計 10,000,000 |

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 【資産負債】 | 十三年 十三年 十四年                   |
| 株主資本   | 6,000,000 6,000,000 6,000,000 |
| 積立金    | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 外部負債   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本  | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定資産   | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 流動資産   | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 現金預金   | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 【收支勘定】 | 十三年上 十三年下 十四年上                |
| 收入     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支出     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【業績】   | 十三年上 十三年下 十四年上                |
| 利益     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【株價】   | 高値 安値 高値 安値                   |
| 【基礎配當】 | 七分六厘                          |
| 【現行配當】 | 十四年五月期 五分二厘                   |
| 【時價】   | 新二六五 【利息】 一分七厘                |
| 【名義書換】 | 十錢 【新券交付】 三十錢                 |

【取引所】

### 株式 大阪株式取引所

(本社) 大阪市東區北濱一丁目(電北濱 1001)

【今期見透】 期初六月より八月までの前半期に於ける營業概況は、先づ長期では、百三十五萬六千株、短期千四百四十萬六千株、實物百四十一萬二千株合計千七百七十七萬四千株の出來高となつてゐる。之を前年同期に比較すると長期四十萬八千株減、短期百十三萬二千株減、實物六十七萬株増で、結局八十六萬九千株の減少となつてゐる。賣買手数料収入は長期八萬二千圓、短期五十三萬六千圓、實物一萬一千圓、債券五千圓合計六十三萬三千圓となつてをり、前年同期との比較では十一萬三千圓の減收となる。

【前途】 九月から株界は様變りしてゐるので前半期の不振は見事に取り戻すかも知れない。彼の宣戰布告當日の如きは一場で約百二十萬株の商内が出来た。當日は相場限りで相場は休場したが、一場で斯る出來高を示したことは廿二、三年來の記録的成績であつた。昨今は政府の自重要望や戰局の見透し困難で稍々落付いてゐるが、押せば買はんとする人気が強いつから株界の好調は相當續くものと考へられる。とすれば今期の成績向上は必至であり、來期に至つて愈々本格的に立直りを示すことゝ期待される。

【配當】 今期は配當措置の他あるまいとみられるが、來期に至らば多少修正が出来るかも知れない。

【取引所】

### 株式 横濱取引所

(本社) 横濱市中央區本町三ノ三二(電本局 323)

【生絲相場の昂騰】 今次世界大戰の勃發によつて、當然ではあるけれど、生絲相場は昂騰した。即ちその直接の原因は何んと言つても對米爲替の低落だ。英米クロスの下落によつて、磅にリンクしてゐる圓爲替も亦下落するのであるが、大戰の發展性に鑑み磅が更に下落を續ける可能性は強い。それに、生絲需要國たるアメリカは今大戰の進行につれ、相當景気が上昇に向ふ筋合だ。生絲相場に對する思惑買は非常に熾烈とならざるを得ない。

【今期も活況】 かくて、當社の十一月期も前期に續いて活況だ。昨年下半年以降、アメリカの景気が幾分上昇に向つたかに思はれたが、これにつれて生絲取引も活況を極め、本年上期は前輯所報の如く記録的好成績を挙げた。戰時インフレ浸潤による思惑買が手傳つたこと言ふまでもない。しかし、前期は配當制限令の實施で、一分減配して、九分配當を餘儀なくされたのである。今期はもちろん一分増の一分配當を期待せしめる。配當制限令により一割以上の配當は許されぬが、成績は素晴しく、一割配當の持續力は大きい。

【前途】 生絲價格統制の方向もなるべく實情に沿ふであらう。輸出振興の建前から、差支へない價格の上昇は許される。大戰勃發によつて、當所の前途は明るい。樂觀される。

|       |                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】  | 明治十一年六月                                                                                                                                                                                                                                |
| 【決算期】 | 五月、十一月                                                                                                                                                                                                                                 |
| 【事業】  | 株式、公債、清算、實物取引                                                                                                                                                                                                                          |
| 【資本金】 | 公稱 1,000,000 拂込 1,000,000                                                                                                                                                                                                              |
| 【株数】  | 新 300,000 200,000                                                                                                                                                                                                                      |
| 【重役】  | 理事 柴山 繁雄 藤木 龍五郎 大津 善太郎 常務 杉本 政治 濱崎 照道 安宅 彌吉 濱崎 照道                                                                                                                                                                                      |
| 【株主】  | 野村合名 1,000,000 大株代 1,000,000 小川 泰良 1,000,000 廣島 三郎 1,000,000 名古屋 1,000,000 東洋 1,000,000 津田 合資 1,000,000 京都 1,000,000 長 1,000,000 東京 1,000,000 外 1,000,000 大阪 1,000,000 手 1,000,000 短期 1,000,000 長期 1,000,000 實物 1,000,000 債券 1,000,000 |

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 【資産負債】 | 十二年 十三年 十四年                   |
| 株主資本   | 5,333,333 5,333,333 5,333,333 |
| 積立金    | 7,000,000 7,000,000 7,000,000 |
| 外部負債   | 7,000,000 7,000,000 7,000,000 |
| 流動負債   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定負債   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動資産   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 現金預金   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【收支】   | 十二年 十三年 十四年                   |
| 収入     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支出     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【業績】   | 十二年 十三年 十四年                   |
| 利益     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【株主】   | 十二年 十三年 十四年                   |
| 株主     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【時價】   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |

|       |                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】  | 明治二十七年三月                                                                                                                                                                                                                               |
| 【決算期】 | 五月、十一月                                                                                                                                                                                                                                 |
| 【事業】  | 生絲、株式清算、實物取引                                                                                                                                                                                                                           |
| 【資本金】 | 公稱 1,000,000 拂込 1,000,000                                                                                                                                                                                                              |
| 【株数】  | 新 300,000 200,000                                                                                                                                                                                                                      |
| 【重役】  | 理事 柴山 繁雄 藤木 龍五郎 大津 善太郎 常務 杉本 政治 濱崎 照道 安宅 彌吉 濱崎 照道                                                                                                                                                                                      |
| 【株主】  | 野村合名 1,000,000 大株代 1,000,000 小川 泰良 1,000,000 廣島 三郎 1,000,000 名古屋 1,000,000 東洋 1,000,000 津田 合資 1,000,000 京都 1,000,000 長 1,000,000 東京 1,000,000 外 1,000,000 大阪 1,000,000 手 1,000,000 短期 1,000,000 長期 1,000,000 實物 1,000,000 債券 1,000,000 |

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 【資産負債】 | 十二年 十三年 十四年                   |
| 株主資本   | 5,333,333 5,333,333 5,333,333 |
| 積立金    | 7,000,000 7,000,000 7,000,000 |
| 外部負債   | 7,000,000 7,000,000 7,000,000 |
| 流動負債   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定負債   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動資産   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 現金預金   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【收支】   | 十二年 十三年 十四年                   |
| 収入     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支出     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【業績】   | 十二年 十三年 十四年                   |
| 利益     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【株主】   | 十二年 十三年 十四年                   |
| 株主     | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【時價】   | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |

【取引所】

### 日本米穀株式会社

(本社) 東京市日本橋區橋本町一ノ八(電字二六二五)

【營業開始】日本米穀會社は十月一日から營業開始する。今春の第七十四議會を通過した米穀配給統制法に基いて、去る七月二十五日創立總會を開催したが、諸準備も愈々出来たので、市場開設に關する勅令並に施行細則の公布施行によつて、先づ東京、大阪に於て營業を開始した。言ふまでもなく、戦時下に於ける米穀政策の重要性に鑑み、その運営に萬全を期せねばならぬ。獨ソ協定成立、平沼内閣の瓦解、阿部内閣の出現、第二次歐洲大戰の勃發等々内外の政情はこゝ二ヶ月程の間に激變してをるが、わが米穀政策も事變處理の最終段階を迎へて、愈々切實なるものを思はせる。

【東京米商の解散】まだ日本米穀會社による全國取引所の買收價格は決定されぬ。東京米穀商品取引所も第二部の綿糸、人絹市場を残されるが、これのみでの存在は無理である。下掲表に本年五月末考課から解散價值を推定したが、額面以上の株主分配が期待されるやうだ。日本米穀會社株の割當でも一對一となり、六分相當の保證があるから、この解散は株主にとつて不利ではない。

【堂島米穀も解散】大阪堂島米穀取引所は簡單に解散出来る。多少不良資産もあるが、下掲表示の如く解散價值は東京米商より有利のやうである。永い傳統も愈々日本米穀會社に移る譯である。

### 日本米穀株式會社

昭和十四年七月二十五日

【設立】五月、十一月

【決算期】五月、十一月

【事業】一、米穀市場の開設

二、政府委託米穀の買入又は賣出

三、前二號の事業に附帯する事業

四、其他會社目的達成上必要な事業

【資本金】公稱 200,000,000 株 100,000,000

【株数】政府(三三%) 66,000,000

民間(六七%) 134,000,000

【重役】

理事 松村真一郎 參與 千石興太郎

副理事 成田 芳 早川芳太郎

理事 田島 敬治 高橋彦二郎

理事 上田 彌兵衛 内田 重成

理事 安川 彦夫 秋山 芳助

理事 安川 彦夫 鈴木茂兵衛

理事 上田 彌兵衛 梅原 保

理事 谷 隆 鈴木茂兵衛

理事 吉田 嘉四郎 渡邊 誠

### 【財産目録】

十四年五月末現在

固定資産 三、三九〇 株主給付金 六、三三〇

流動資産 四、四一〇 退職積立金 六、九〇〇

有價証券 二、二六六 前期繰越 一、二二〇

現金預金 一、〇〇〇 当期利益 一、三三〇

其他勘定 一、〇〇〇 内仕定積立金 〇、〇〇〇

合計 六、〇〇〇 後期繰越 〇、〇〇〇

大阪堂島米穀取引所

【資本金】公稱 200,000,000 株 100,000,000

【株数】新(三三%) 66,000,000

【重役】理事 安川 彦夫 參與 戸川 巖

理事 須々木 庄平 參與 増山 忠次

理事 田中 喜三治 參與 高武和 三郎

【財産目録】十四年五月末現在

固定資産 三、三九〇 株主給付金 六、三三〇

流動資産 四、四一〇 退職積立金 六、九〇〇

有價証券 二、二六六 前期繰越 一、二二〇

現金預金 一、〇〇〇 当期利益 一、三三〇

其他勘定 一、〇〇〇 内仕定積立金 〇、〇〇〇

合計 六、〇〇〇 後期繰越 〇、〇〇〇

### 名古屋株式取引所

(本社) 名古屋市中區南伊勢町一ノ三(電中局二五一一)

【十一月期業況向上】第二次世界大戰の勃發によつて各市場共に活況を呈した。前期が月平均七萬圓に滿たぬ手数料収入であつたが、今期はこの調子だと九萬圓を越えるかも知れぬ。しかし、この原因が第二次世界大戰に基くだけのものではなく、戦時下インフレの浸潤を基調とせるものと思はれるから、一時的なる現象ではない。尤も、時局柄統制策の強化、進展も考へられようが、市場の運営に自肅自戒を以て當れば、業況の趨勢は上昇線を辿らう。

【見透し】中京市場として東西に比し規模が小さいだけに、時局による打撃もそれほどでなかつた。今後とて悲觀は無用であらう。

### 大阪三品取引所

(本社) 大阪市東區北久太郎町三ノ一五(電給場七六一一)

【情勢一變】第二次歐洲戰爭勃發によつて商品界の情勢は一變しつつある。綿糸、人絹、綿布の輸出増進見越によつて清算市場は久振りに活況を呈してゐる。總ては棉花の取引も増量を示すだらうから當所の營業も漸々繁忙を呈するものと期待される。尙ほ人絹布も上場する方針だから業績向上は必至だ。然し取引の王座を占める綿糸の上場を中止してゐることは何んど云つても痛手であり、従つて成績が向上するにしても大したことは望めない。

【配當】今期の配當は依然五分しか期待出来ないが、來期になると或は多少増配は可能となるかも知れない。

【取引所】

【資本金】公稱 200,000,000 株 100,000,000

【株数】新(三三%) 66,000,000

【重役】理事 下田 義雄 參與 高橋 正彦

理事 後藤 富太郎 參與 山田 茂三

理事 萩原 幸之輔 參與 服部 小十郎

【事業成績】

長期買入高(千圓) 十三年上 十三年下 十三年上

短期買入高(千圓) 十三年上 十三年下 十三年上

受渡高(千圓) 十三年上 十三年下 十三年上

受渡高(千圓) 十三年上 十三年下 十三年上

買入手数料(千圓) 十三年上 十三年下 十三年上

【大株主】十四年五月期 三、三九〇名

【業績】

十三年上 利益 〇、〇〇〇

十三年下 利益 〇、〇〇〇

十四年上 利益 〇、〇〇〇

【時價】新出 〇、〇〇〇

【利息】五分六厘

【資本金】公稱 200,000,000 株 100,000,000

【株数】新(三三%) 66,000,000

【重役】理事 今西 三郎 參與 末雄

理事 岩田 宗太郎 參與 福田 政之助

理事 清家 豊松 參與 田村 竹治郎

【事業成績】

綿糸出来高(千圓) 十三年上 十三年下 十三年上

棉花出来高(千圓) 十三年上 十三年下 十三年上

人絹出来高(千圓) 十三年上 十三年下 十三年上

手数料(千圓) 十三年上 十三年下 十三年上

【大株主】十四年五月期 一、〇〇〇名

【業績】

十三年上 利益 〇、〇〇〇

十三年下 利益 〇、〇〇〇

十四年上 利益 〇、〇〇〇

【時價】新出 〇、〇〇〇

【利息】四分六厘

【取引所】

### 神戸取引所

【設立】明治二十九年九月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 神戸市神戶區浪花町六〇 (電三宮四六〇)

【情勢好轉】歐洲第二次大戰の報に株式、生絲界は異状なる活況を呈し、取引高は急増するに至つた。尤も政府の自重要望によつて最近稍々落着きを見せつつあるが、それでも開戦前の状況に比べれば問題なく好調と云つてよい。

【配當観】今期の成結はまだハッキリ判らぬが、現在の好調があつて三ヶ月続けば今期は無難好成績となるだらう。然し一方に米穀取引部の廢止による手数料収入減を見逃さないから増益するにしても今期はまだ餘り大したことは期待出来ない。配當は据置きとみる所以である。

|                                                                        |                                     |                   |
|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-------------------|
| 【資本金】公稱 2,000,000 拂込 2,225,000                                         | 【大株主】十四年五月期                         | 【時價】新五〇〇          |
| 【株数】(株) 10,000                                                         | 伊藤 三三三 八八名                          | 【利息】四分九厘          |
| 【重役】理事 長 新川 康作<br>副理事 天野 又藏<br>常務 鈴木 治郎 支配人 末正 盛治<br>理事 伊藤 充造 監査 澤野 定七 | 【業績】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%  | 【現行配當】十四年五月期 六分五厘 |
| 【業務】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                     | 【株價】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%  | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |

### 京都取引所

【設立】明治十七年八月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 京都市中京區東洞院通錦小路南入 (電本局二七二)

【情勢好轉】株式界は歐洲第二次大戰によつて最近稀にみる活況を呈した。新東の三十圓高、郵船の四十圓高等に事變以來嘗てなき暴騰であつた。最近は政府の自重要望や戦局の見透し難で稍々落着いてゐるが、依然底意は強調である。

【成績向上】株界の情勢急變によつて當所の成績は早くも今期から立直りが期待されることになつた。尤も當所の米穀部は九月から廢止となるからその手数料減收の影響を見逃す譯には行かない。先行き情勢如何によるが本格的に立直りを示すのは來期からと思はれる。配當も今期は据置きの他なからう。

|                                                                        |                                     |                   |
|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-------------------|
| 【資本金】公稱 2,000,000 拂込 2,225,000                                         | 【大株主】十四年五月期                         | 【時價】新五〇〇          |
| 【株数】(株) 10,000                                                         | 伊藤 三三三 八八名                          | 【利息】四分九厘          |
| 【重役】理事 長 新川 康作<br>副理事 天野 又藏<br>常務 鈴木 治郎 支配人 末正 盛治<br>理事 伊藤 充造 監査 澤野 定七 | 【業績】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%  | 【現行配當】十四年五月期 六分五厘 |
| 【業務】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                     | 【株價】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%  | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |

【取引所】

### 廣島株式取引所

【設立】明治二十六年十二月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 廣島市山崎町一 (電 六五〇一三)

【業況】期初より七月までの業況は短期出来高百四十六萬四千株、長期四千株、實物六萬四千株合計百五十三萬二千株となつてゐる。賣買手数料収入は長、短、實物共で四萬二千圓、前年同期の七萬八千圓に比較すると三萬六千圓の減收に當る。この調子では今期の成績も大したことは期待されぬと思はれたが、九月から情勢が急變したので前途は著しく明さを加へて來た。

【配當観】今期は期の後半から株界が好況に轉じてゐるから業績は相當持直したものと想像されるけれども、配當は二割二分据置きとみる方が妥當であらう。

|                                                                        |                                     |                   |
|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-------------------|
| 【資本金】公稱 2,000,000 拂込 2,225,000                                         | 【大株主】十四年五月期                         | 【時價】新五〇〇          |
| 【株数】(株) 10,000                                                         | 伊藤 三三三 八八名                          | 【利息】四分九厘          |
| 【重役】理事 長 新川 康作<br>副理事 天野 又藏<br>常務 鈴木 治郎 支配人 末正 盛治<br>理事 伊藤 充造 監査 澤野 定七 | 【業績】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%  | 【現行配當】十四年五月期 六分五厘 |
| 【業務】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                     | 【株價】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%  | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |

### 博多株式取引所

【設立】明治二十六年十月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 福岡縣福岡市天神町五五 (電 七五〇〇)

【業況】當所の六―七月に於ける業況は短期出来高二百二十二萬九千株、長期七千株、實物二十一萬八千株合計二百四十五萬四千株となつてゐる。賣買手数料収入は九萬圓で前年同期に比して七千圓の減收に當る。九月以降は株式界の活況を丸々受ける筋合だから出來高の増加、手数料収入の増収は必至と云つてよからう。

【配當観】上期に五分減配の一割五分配當に改めたが、今期は再減配を免れるだらう。先行き情勢がどう變化するか判らぬが、好調が永續するものとすれば一割五分配當は相當裕りを取り戻すものと期待される。

|                                                                        |                                     |                   |
|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-------------------|
| 【資本金】公稱 2,000,000 拂込 2,225,000                                         | 【大株主】十四年五月期                         | 【時價】新五〇〇          |
| 【株数】(株) 10,000                                                         | 伊藤 三三三 八八名                          | 【利息】四分九厘          |
| 【重役】理事 長 新川 康作<br>副理事 天野 又藏<br>常務 鈴木 治郎 支配人 末正 盛治<br>理事 伊藤 充造 監査 澤野 定七 | 【業績】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%  | 【現行配當】十四年五月期 六分五厘 |
| 【業務】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                     | 【株價】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%  | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |
| 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25%                                    | 【買入高】(株) 利益 2,225,000<br>配當率 22.25% | 【時價】新五〇〇          |

### 大連取引所信託

【設立】大正二年六月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】大連市山田町二四（電大連七三三）  
【出張所】東宮市京橋區京橋三丁目福徳生命ビル（東京橋三三三）

【下期續いて好調】前報所報の如く、本年上期は空前の記録的好成績を挙げた。左掲表に見るやうに、素晴らしい業績を示した。「豆信」と言はれる當所のことで、大豆取引の旺盛によつて賣されたのである。續く今期も好調持續だ。現在までの業績を見ると、手數料収入は前年同期に比し倍額以上に達した。一割配當繼續に問題ない。「大豆の專管制度」この成績の良好なのは、まだ大豆の投機取引がゆるされ仕手の活躍が顯著だからである。しかし、来る十一月一日から愈々滿洲國政府は大豆を中心に特産の專管制度を斷行する。とすれば、大豆取引所たる當所は解散を餘儀なくされよう。

【資本金】公稱三〇〇〇、〇〇〇 拂込三〇〇、〇〇〇

【株数】新(三〇、〇〇〇) 舊(三〇、〇〇〇) 三〇、〇〇〇

【大株主】十四年五月初  
田中千吉 理事 相生三郎 長子 長子 長子  
佐藤八郎 監査 小野實雄 監査 小野實雄 監査  
中村長吉 監査 山本太郎 監査 山本太郎 監査  
長谷川長三郎 監査 長谷川長三郎 監査 長谷川長三郎 監査

【業績】利 益 率  
十三年上 一〇・〇  
十三年下 一〇・〇  
十四年上 一〇・〇  
十四年下 一〇・〇

【株價】(買値) 高値 安値 (賣値) 高値 安値

【時價】(買値) 高値 安値 (賣値) 高値 安値

### 大連株式商品取引所

【設立】大正九年二月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】大連市金島町四九(電六八六二)  
【出張所】東宮市京橋區京橋三丁目福徳ビル(東京橋三三三)

【株式部の更生】上掲の「豆信」とは反對に、前報にも述べた如く當所の商品部は萎縮に萎縮を重ねた。時局による經濟統制策の齎せる結果である。それに、事變勃發後は株式部も不振に陥り、當所の収益源は財産収入を賴するのみだが、これ亦過去の放漫經營で、財産の目星しい物は無くなり。大きな収入は期待出来ぬ。處が、最近に至つて、株式部は幾分更生の傾向にある。六月初旬投機株の波瀾を見、更に第二次世界大戰の勃發で人氣が幾分明朗化したからだ。「前途」大連建設期を控へ、大連株の取引の將來性は見込んでよい。先行き必ずしも悲觀しないが、堅實經營こそ好ましい。

【資本金】公稱三〇〇〇、〇〇〇 拂込三〇〇、〇〇〇

【株数】新(一〇、〇〇〇) 舊(一〇、〇〇〇) 一〇、〇〇〇

【大株主】十四年五月初  
田中千吉 理事 相生三郎 長子 長子 長子  
佐藤八郎 監査 小野實雄 監査 小野實雄 監査  
中村長吉 監査 山本太郎 監査 山本太郎 監査  
長谷川長三郎 監査 長谷川長三郎 監査 長谷川長三郎 監査

【業績】利 益 率  
十三年上 一〇・〇  
十三年下 一〇・〇  
十四年上 一〇・〇  
十四年下 一〇・〇

【株價】(買値) 高値 安値 (賣値) 高値 安値

【時價】(買値) 高値 安値 (賣値) 高値 安値

### 鐘淵實業株式会社

(本社) 東京市向島區蒲田町二ノ一六二(電蒲田三九二)

【初配當七分】前報で初配六分と豫想したが誤りで、初配は七分であつた。創立當初の豫定では八分配當とするところだったが、當局の意向は六分で、結局中をとつて七分に決定したもの。基準配當率は六分とされる等、當社の配當率は随分迂回曲折を經たものだ。

【事業内容】當面の事業内容は鐘紡直系の康徳茸バルブ、全南業(朝鮮の無煙炭會社)、棒太探炭、康徳城業(滿洲に於けるマグネサイト、石炭、銅、鐵の採掘)鐘淵曹達の五社の株式を肩替りする外、神島人肥、神島化學、日本合成化學、尼崎製鐵の四社の鐘紡持株分を譲渡されると同時に、直營事業としてフェルト製造工場、新義州バルブ工場を鐘紡より譲り受け、更に朝鮮で二つの金山と鐵山一つを直營するにある。

【第二回拂込徴收】下期早々資金需要は相當旺盛で、少くとも當面六、七百萬圓を必要とするので八月廿五日第二回拂込として四分の一總額一千五百萬圓を徴收した。初配が七分とされたため、拂込徴收期を早めて株主に酬ひる意味もあつたことと思はれる。

【前途】事業は未だ創業間もないものが多く本格的収益期を迎へるのは先の話だが、組織化された發展よりは注目に値する。基準配當率が六分だから今期の配當は結局前記同様七分となる譯だ。

【設立】昭和十三年十一月

【決算期】六月、十二月

【事業】一、各種織造工業、化成材料、食料其他一般工業用品の製造並販賣、化學工業製品其副産物の利用、金属及非金屬の探掘、精練、加工其副産物の利用、機械の製造並販賣、農業、牧畜業を営み其生産品、副産品の加工並販賣

【資本金】公稱三〇〇〇、〇〇〇 拂込三〇〇、〇〇〇

【株数】新(一〇、〇〇〇) 舊(一〇、〇〇〇) 一〇、〇〇〇

【重役】社長 津田 信吾  
常務 城戸 季吉 取締役 高木 隆吉  
三宅 未太 金子 増夫  
中村 嘉三郎 中本 昌吉  
倉地 四郎 田代 昌吉  
水井 得一 監査 野崎 廣太  
宮原 清 名取 和作  
千原 三郎 山下 太郎  
本木 誠三 赤司 初太郎

【大株主】十四年六月初  
鐘紡八〇〇株 第一相 五三、三三〇  
鐘紡八〇〇株 第一相 五三、三三〇  
鐘紡八〇〇株 第一相 五三、三三〇  
鐘紡八〇〇株 第一相 五三、三三〇  
鐘紡八〇〇株 第一相 五三、三三〇  
鐘紡八〇〇株 第一相 五三、三三〇

【收支計算】(一)十二年計(單位千圓)  
總収入金 一、三〇〇  
配當並徴收收入 一、〇〇〇  
營業費 一、一〇〇  
各種費 一、〇〇〇  
各種損却 一、〇〇〇  
本社費 一、〇〇〇  
差引純益金 一、〇〇〇  
【事業規模】直接經營事業  
【工場】東京、静岡(工事中)  
【工場】東京、静岡(工事中)

【資産負債】十四年  
株主資本 六、一〇〇  
社外負債 一、〇〇〇  
使用總資本 七、一〇〇

【固定資産】  
固定資産 一、〇〇〇  
流動資産 六、一〇〇  
流動負債 六、一〇〇  
固定負債 一、〇〇〇

【收支決定】  
支 出 一、〇〇〇  
入 入 一、〇〇〇  
支 出 一、〇〇〇  
入 入 一、〇〇〇

【業績】利 益 率  
十四年上 一三・〇  
十四年下 一三・〇  
十五年度 一三・〇

【主要投資會社】  
康徳茸バルブ 設立昭和十一年十二月  
資本金 公稱一、〇〇〇 拂込二、〇〇〇  
神島化學工業 設立昭和十一年十月  
資本金 公稱一、〇〇〇 拂込二、〇〇〇  
棒太探炭 設立昭和十二年六月  
資本金 公稱一、〇〇〇 拂込二、〇〇〇  
鐘淵曹達 設立昭和十二年五月  
資本金 公稱一、〇〇〇 拂込二、〇〇〇  
尼崎製鐵 設立昭和十二年五月  
資本金 公稱一、〇〇〇 拂込二、〇〇〇

【株價】(買値) 高値 安値 (賣値) 高値 安値

【時價】(買値) 高値 安値 (賣値) 高値 安値

### 日本皮革株式會社

(本社) 東京市足立區千住橋町一六ノ一(電話草八三一二)

【稀有の優良會社】近年時局景氣に惠まれ事業は頗る好調を持續しつつある。而も配當は下表の如く内輪に止め専ら銷却に意を注ぎ來つた爲、資産内容の優秀なること稀に見る所である。上期末現在に於ては拂込資本金五百萬圓に對し諸積立金四百八十八萬圓、現金預金四百二十七萬圓に及び、株主資本は固定資産の六倍強を示してゐる。利拂を要する借金は一文もなく、尙ほ五百萬圓以上の國債を所有してゐるといふほどの餘裕振りで、現行一割配當の恒久性を確信せしめるに充分である。

【大宮工場進捗】副業の高級ゼラチンは靜岡縣大宮町工場で生産される。資材不足で工事は豫定より遅れてゐるが、年内には操業開始の運びとなる模様で、本社千住工場の増産と相俟ち今後業績に寄與する所は少くないであらう。

【前途】軍需品生産で原料配給には懸念はない。單價切下の打撃は免れぬにしても、此の不利も副業増産でカバー出来る。ゼラチンの原料は製革工程中の廢物であり、製品は輸入激減の折柄好値段で賣れるからだ。大陸進出計畫は上海、天津兩地方の治安回復で近く具體化するであらう。副業増産計畫もあるから變て増産も問題化さうが、手許保留金が多いから故一、二期はそれで賄はれる筈だ。

【設立】明治四十年四月

【決算期】三月、九月

【事業】靴底革、紡績用薄皮類、軍用革具、革ベルト、ゼラチン

【資本金】... 1,000,000

【株主数】...

【重役】...

【大株主】...

【事業所】...

【工場所在地】...

【生産品】...

【投資會社】...

【資産負債】十二年 九三年 十四年

株主資本 2,237,000

積立金 4,140,000

外部負債 3,040,000

使用總資本 9,417,000

固定資産 1,810,000

流動資産 7,607,000

現金預金 2,290,000

収入 1,850,000

支出 1,850,000

消却年率 100%

【業績】...

【株價】...

【基準備當】...

【豫想配當】...

【時價】...

【名義書換】...

### 秋田木材株式會社

(本社) 秋田縣山本郡能代町南町二二三(電、三三三) (事務所) 東京市京橋區銀座三三三(電、五二一)

【子會社増資】秋田木材の子會社秋木機械と秋田製鋼は相次いで増資を行った。何れも事業産業で、活潑な活動を續けてゐる。秋木機械の方は資本金百萬圓から四倍の四百萬圓に増資した。第一回拂込は八月一日に一株につき二十五圓總額百五十萬圓を徴收し合計二百五十萬圓拂込みの會社となつた。秋田製鋼は、従来の資本金百萬圓から二倍半の二百五十萬圓に増資し、一株十二圓五十錢、總額三百萬圓の拂込を徴つて拂込資本は百三十萬圓となつた。

【増資期近し】以上の外に子會社岡本工作機械も擴張を計畫中であるから、親會社としての秋木は前記二會社の拂込の外に、尙ほ幾何かの資金を必要とするし、最近では材木の扱高も増加し價格高が之に伴ひ、運轉資金も若干増加してゐるので、當社の増資は必至と見られる。恐らく近く實現しよう。

【配當は安泰】當社は従前から、南洋材、米材等の取扱高は少く、主として内地材を扱つて來たのである。従つて外材の輸入制限は大して響かない。内地材の取扱高は増加し、價格高が之に加はり、當社の利益は前年度以上のものを豫想せしめる。それに子會社秋木機械は一割配當だし、秋田製鋼は一割二分配當をつけてゐるから、秋木が増資して資本負擔が増加しても配當は依然餘裕がある。

【設立】明治四十年三月

【決算期】十一月(一年一回)

【事業】木材關係事業、植林電氣事業、海陸運送業、代理業

【資本金】公稱 8,000,000 拂込 4,000,000

【株主数】...

【重役】...

【大株主】...

【事業所】...

【工場別能力】...

【事業規模】...

【製材能力合計】...

【製材所出力】...

【事業成績】...

【投資會社】...

【資本金】...

【資産負債】十二年 十三年 十四年

株主資本 1,810,000

積立金 1,810,000

外部負債 1,810,000

使用總資本 5,430,000

固定資産 1,810,000

流動資産 3,620,000

現金預金 1,810,000

収入 1,810,000

支出 1,810,000

消却年率 100%

【業績】...

【株價】...

【基準備當】...

【豫想配當】...

【時價】...

【名義書換】...

### 凸版印刷株式會社

(本社) 東京市下谷區二長町一 (電下谷二六一七)

【事業順調推移】印刷界は用紙使用制限の影響で業績不振を想像されてゐるが、事實は必ずしもさうではない。雜誌類の種類は減少したが有力誌は却つて發行部数を増加してゐる事實は、出版界の建在を語るものである。印刷界の一流會社がよく好成绩を持続してゐるのも其のためとみるべきだ。素より用紙使用制限は今後も強化されるべき筋合にあるから尙ほ無條件に樂觀は許されない筈だ。當社は一般印刷の外、銀行券、社債、株券等高級印刷を主とするから却つて時局に恵まれたともいへる状態にある。去る七月に拂込徴収が特に許され、工場の移轉、擴張新設を行つたほどだ。所が最近ではセロフアン印刷に成功し、軍需紙器の増産を遂行せねばならぬ立場ともなり、一層事業は繁忙となつた。

【前途安泰】大阪工場が好成绩を擧げ得るまでになつたのは強味を増すもので、増配も可能な状態にある。然し印刷界に無條件な樂觀が出来ない以上、増配は尙ほ慎しむべきであらう。經營當局者は一割配當を目標にしてゐるが、果して實現するか時局柄許可に疑問はある。但し多少今日より業界が悪化したとて九分配當が搖ぐこと期待されてゐることを附言しよう。

|        |                                                                                                                                     |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 明治三十三年一月                                                                                                                            |
| 【決算期】  | 五月、十一月                                                                                                                              |
| 【事業】   | 印刷、活字鑄造、製版、製本、紙器製造、販賣                                                                                                               |
| 【資本金】  | 10,000,000                                                                                                                          |
| 【株主数】  | 1,000                                                                                                                               |
| 【役員】   | 社長 井上源之丞、常務 米田久能、取締役 三輪竹太郎、山田三郎、高橋正徳、河合勝夫、高島菊次郎、松本信太、相談 三輪信太郎、石川正作、吉田秀人、松本信太                                                        |
| 【大株主】  | 三弘株式會社 1,000,000、日清生命 1,000,000、井上源之丞 1,000,000、三輪竹太郎 1,000,000、岡田三三三 1,000,000、松田 1,000,000、馬場 1,000,000、中内 1,000,000、さだ 1,000,000 |
| 【事業成績】 | 十三年上 十三年下 十四年上                                                                                                                      |
| 【資本異動】 | 十三年三月五回拂込徴収(金額 7,000,000) 十三年七月第一回各三回五回拂込徴収                                                                                         |

|        |                |           |           |
|--------|----------------|-----------|-----------|
| 【資産負債】 | 五三三三           | 五三三三      | 五三三三      |
| 株主資本   | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 外債     | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 借入金    | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 支拂手形   | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 使用資産   | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 固定資産   | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 流動資産   | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 現金預金   | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 【収支勘定】 | 十三年上 十三年下 十四年上 |           |           |
| 【業績】   | 十三年上 十三年下 十四年上 |           |           |
| 【株主配當】 | 九分             | 九分        | 九分        |
| 【時價】   | 新券〇            | 新券〇       | 新券〇       |
| 【名義書換】 | 十銭             | 新券交付      | 廿五銭       |

### 滿洲重工業開發株式會社

(本社) 滿洲國新京特別市大同街三三三號 (電本局五三一七) (支社) 東京市芝區田村町一ノ二日産館 (電銀座六三〇一)

【資金需要續く】今年上期末の關係会社投資額は六億五千萬圓餘で當社が滿洲移駐第一期たる昨上期末に比べると二億二千萬圓の増加だ。投資額の内譯は滿洲關係五七%、日本關係四三%で、右の期間にその地位を轉倒した。詰り當社の在滿活動はそれだけ前進した。下期に入つてからも同和自動車約五倍増資、滿炭の二倍半増資、滿洲鐵山、東邊道開發、日立、其他の拂込徴収、協和鐵山、安東機械の設立等々資金需要は依然續いてゐる。

【外部負債】懸案の増資がまだ實現せぬので、資金計畫の中心を外部負債に置いてゐる。三月と六月に第一回第二回と、社債各三千萬圓(四分三厘)を發行した外、銀行借入金を授用した。増資期迄はかうした繁き方法をとる譯で、子會社株式の賣出しによる資金獲得の方法も以前のやうにはゆかないから止むを得ない。それにしても何時迄も今のやうでは困る譯だ。

【株價延び】さうした事が自然株價へも反映して不牙である。大戦以來滿洲國の經濟建設は、滿獨貿易の不圓滑で内地依存の度を高めて来たが、その建設進捗如何が根幹的に當社に影響する。上期はそれ迄より以上に餘裕含みの決算をしてをり、下期と雖も一割配當は約束されてゐるから、その點懸念を要しない。

|        |                                                                                                                                     |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】   | 大正元年九月                                                                                                                              |
| 【名譽變更】 | 昭和十二年十二月                                                                                                                            |
| 【決算期】  | 五月、十一月                                                                                                                              |
| 【事業】   | 特種會社                                                                                                                                |
| 【資本金】  | 10,000,000                                                                                                                          |
| 【株主数】  | 1,000                                                                                                                               |
| 【役員】   | 社長 結川義介、常務 野村次郎、取締役 山田敬亮、野村次郎、山田敬亮、河合勝夫、高島菊次郎、松本信太、相談 三輪信太郎、石川正作、吉田秀人、松本信太                                                          |
| 【大株主】  | 三弘株式會社 1,000,000、日清生命 1,000,000、井上源之丞 1,000,000、三輪竹太郎 1,000,000、岡田三三三 1,000,000、松田 1,000,000、馬場 1,000,000、中内 1,000,000、さだ 1,000,000 |
| 【事業成績】 | 十三年上 十三年下 十四年上                                                                                                                      |
| 【資本異動】 | 十三年三月五回拂込徴収(金額 7,000,000) 十三年七月第一回各三回五回拂込徴収                                                                                         |

|        |                |           |           |
|--------|----------------|-----------|-----------|
| 【資産負債】 | 五三三三           | 五三三三      | 五三三三      |
| 株主資本   | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 外債     | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 借入金    | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 支拂手形   | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 使用資産   | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 固定資産   | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 流動資産   | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 現金預金   | 1,000,000      | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 【収支勘定】 | 十三年上 十三年下 十四年上 |           |           |
| 【業績】   | 十三年上 十三年下 十四年上 |           |           |
| 【株主配當】 | 九分             | 九分        | 九分        |
| 【時價】   | 新券〇            | 新券〇       | 新券〇       |
| 【名義書換】 | 十銭             | 新券交付      | 廿五銭       |



### 南滿洲鐵道株式會社

(本社) 大連市東公園町三〇  
(支社) 東京市赤坂區南町二(電報二五〇一)

【増資内定】當社の増資は、原則として内定してあるが、内容に就てはまた發表を見ず、而も暫く記述の自由を持たないから、こゝではその點差控へるより外ない。何れ案件は來議會上程され通過した上、明春實行の運びとなるであらう。

【資金増大】増資實現必至は、勿論當社の資金需要の増大に基因する。今十四年度の事業は三億五千九百萬圓の豫算となつてゐるに對し、來十五年度は五億圓にのぼることも傳へられる。社内特別事業費と社外事業費の増加がその中心となるもので、變つた社外投資としては東邊道開發會社との共同出資の特殊鋼會社(資本金二千萬圓)の設立がある。現在資本金の内政府の未拂込金六千三百七十九萬二千圓を残すのみだから、社債發行餘力を動員しても、來年度以降の事業費を充分賄ひ切れぬ。こゝに増資不可避の根據がある。

【成績は向上】十三年度は下表の如く利益は一億一萬圓に達し、多額の償却及除却金を計上した。今年度は今迄の處非常な好調であるが、滿洲貿易の運行不圓滑から、特産の今後の出廻りに懸念がある。それでも年度を通じ八分配當を維持することに不安ない収益を計上するものと思ふ。増配も一部大株主間で問題にしてゐるが、増資を行ふのでその實現性に乏しい。株價も尙多少延びてよい。

|       |                                                                                                                                                               |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】  | 明治三十九年十二月                                                                                                                                                     |
| 【決算期】 | 三月(一年一回)                                                                                                                                                      |
| 【事業】  | 鐵道、旅館、港灣、炭礦、製油、地方行政、滿洲に於ける各種産業への投資及び助成                                                                                                                        |
| 【資本金】 | 公稱 1,000,000,000 拂込 600,000,000                                                                                                                               |
| 【株主】  | 政府 300,000,000 民間 300,000,000                                                                                                                                 |
| 【役員】  | 大村 卓一 理事 平山 復二 副 佐藤 應太郎 大村 研 佐藤 應太郎 大村 研 理事 中西 敬通 監事 大橋 新太郎 久保 幸平 小倉 正恒 伊澤 道雄 森 廣造 平島 敏夫 安宅 福吉                                                                |
| 【株主数】 | 十三年三 六、七〇〇 十三年三 六、七〇〇                                                                                                                                         |
| 【大株主】 | 大藏大臣 1,000,000 朝鮮銀行 300,000 安田銀行 1,000,000 富國鐵道 700,000 日本郵船 300,000 第一鐵兵 200,000 千代田生命 500,000 住友銀行 1,000,000 鐵道資金(千圓) 100,000 港灣(千圓) 100,000 製油(千圓) 100,000 |
| 【資本】  | 十三年十月新株發行 100,000 十三年十月新株發行 100,000 十三年十月新株發行 100,000 十三年十月新株發行 100,000                                                                                       |

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 【資産負債】 | 十三年 十三年                     |
| 株主資本   | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 外部負債   | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 支拂手形   | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 流動資産   | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 現金預金   | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 【業績】   | 十三年上 十三年下                   |
| 収入     | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 支出     | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 利益     | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 【時價】   | 新株 五、五分五厘                   |
| 【名義書換】 | 五、五分五厘                      |

### 東洋拓殖株式會社

(本社) 東京市麹町區内幸町一ノ二東拓ビル(電報五五六一)

【上期一部増配】去る六月末締切の本年上期決算は、前報所報の如く、一分増の七分増配を附した。總收入千八百六十二萬八千圓、支出千六百七十六萬二千圓で、差引利益金は四百八十六萬六千圓だ。利益率二割七分八厘を示し、七分増配としたのだから、充分に餘裕含みの決算である。前期に引續いて、二百七十萬圓からの諸償却金を計上したから、資産内容も見直して來た。鮮内の好況を反映し、更に米作、米價高等に恵まれたのである。

【大戦勃發と爲替の低落】第二次世界大戦の勃發で、英米クロスの下落につれ、對米圓爲替も低落した。當社はいまなほ二千五百萬弗近い米貨債の償還残を持つてゐる。これがため半期の利拂に七十萬弗、元金返済に三十萬弗、合計百萬弗の弗資金を要する。現に對米二十七萬圓の圓爲替相場にて、半期百五十萬圓の爲替差損を生じてゐるが、圓爲替一弗の下落は半期十萬圓見當の差損に相當する。今回の爲替下落により半期五十萬乃至百萬圓の損失となる譯だ。

【朝鮮旱魃と颱風被害】それに本年は朝鮮の旱魃で米作は不良である。また颱風によつて關東州鹽田も外掘を破潰された。いろ／＼嫌な材料が山積してゐる。新主眼部による經營手腕が俟たれるが、現行七分増配は、何んとか、持續するだらう。悲觀は無用だ。

|       |                                                                                                                                                               |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【設立】  | 明治四十二年十二月                                                                                                                                                     |
| 【決算期】 | 六月(一年一回)                                                                                                                                                      |
| 【事業】  | 拓殖資金貸付、拓殖事業經營                                                                                                                                                 |
| 【資本金】 | 公稱 1,000,000,000 拂込 1,000,000,000                                                                                                                             |
| 【株主】  | 政府 300,000,000 民間 700,000,000                                                                                                                                 |
| 【役員】  | 大村 卓一 理事 平山 復二 副 佐藤 應太郎 大村 研 佐藤 應太郎 大村 研 理事 中西 敬通 監事 大橋 新太郎 久保 幸平 小倉 正恒 伊澤 道雄 森 廣造 平島 敏夫 安宅 福吉                                                                |
| 【株主数】 | 十三年三 六、七〇〇 十三年三 六、七〇〇                                                                                                                                         |
| 【大株主】 | 大藏大臣 1,000,000 朝鮮銀行 300,000 安田銀行 1,000,000 富國鐵道 700,000 日本郵船 300,000 第一鐵兵 200,000 千代田生命 500,000 住友銀行 1,000,000 鐵道資金(千圓) 100,000 港灣(千圓) 100,000 製油(千圓) 100,000 |
| 【資本】  | 十三年十月新株發行 100,000 十三年十月新株發行 100,000 十三年十月新株發行 100,000 十三年十月新株發行 100,000                                                                                       |

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 【資産負債】 | 十三年 十三年                     |
| 株主資本   | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 外部負債   | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 支拂手形   | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 流動資産   | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 現金預金   | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 【業績】   | 十三年上 十三年下                   |
| 収入     | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 支出     | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 利益     | 1,000,000,000 1,000,000,000 |
| 【時價】   | 新株 五、五分五厘                   |
| 【名義書換】 | 五、五分五厘                      |

### 南洋拓殖株式會社

(本社) 南洋群島ハラココロル島  
(支店) 東京市麹町區丸の内一ノ八興業銀行ビル(電九ノ内野三)

【六月期好調】當社の現在主とする事業は燐礦石の採掘販賣事業だが、アンガウル島並にフアイス島に於ける増産計畫は、着々實行され上期は十萬圓の出荷を示した。造船其他各種事業からの収入八萬圓を加えて約百十五萬圓の収益を挙げた模様である。前年同期に比し廿五萬圓の増益だ。是は、燐礦石の増産と氣候に恵まれ、上期の海上運輸が極めて好調を過つたことである。それに、下期も亦大戦に依る燐礦石輸入の杜絶から相變らず好調を持するものと豫想される。燐礦石八萬圓の産出は確實と言つてよい。

【一分増配】六月期は利益率三割を越え、一分増の七分増配を斷行した。擴張資金を賄ふ爲に本年三月一日千萬圓の社債を發行し、更に今年下期の關係會社への投資金約五百萬圓を興銀、第一銀行等より借入れてゐるから、利拂負擔は増加する。更に燐礦石を採掘することになつたしソソル、エボル兩島、ボーキサイト増産、水産業の擴充等で事業資金は多く要る。來年上期には拂込徴収を敢行し、次に増産が問題となる。増産する前に配當を八分に引上げるかどうかは今のところ疑問と言はざるを得ない。監督官廳の許可が得られるかどうか、疑問だからだ。併し増産するから行くは八分増配は實現せん。

【設立】昭和十一年十一月

【決算期】六月、十二月

【事業】南洋に於ける燐礦採掘事業、造船、製氷、市街事業、海運事業、金融事業、農業土地經營其他各種事業

【資本】公稱10,000,000円  
【株主】南洋拓殖株式會社

【役員】社長 藤田 大谷  
理事 北岡 春雄 船田 一雄  
下田 文一 船田 一雄  
杉田 芳郎 船田 一雄  
田中 東 船田 一雄  
田中 東 船田 一雄

【株主】南洋拓殖株式會社

【大株主】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【資本金】十二、六三〇、〇〇〇円

【株主】南洋拓殖株式會社

【大株主】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

### 臺灣拓殖株式會社

(本社) 臺北新街三丁目一番地  
(出張所) 東京市麹町區丸の内一ノ八(電九ノ内野三)

【各種事業漸く本格的】各種事業への進出は未だ本格化して居なかつたが、最近ポツ／＼始まる様だ。子會社南日本鹽業も十六年度に二十六萬の産鹽能力を目論見、本年度は一萬圓は期待される。更に臺拓、大日本鹽業、日青三社提携に依る金屬マダネシウム工業を目標す南日本化學工業設立が間近になつてゐる。資本金は千五百萬圓だ。當初三千萬圓を申請したが半減されたのだ。然し豫定計畫の實現には支障はない。臺銀との間に金融に關する諒解がついてゐるからだ。南支方面の經濟開發も事務處理方策の確立に従進捗しようし、南支那海經濟發展の波にも乗らうから各種事業の本格化も近き將來充分期待出来るであらう。

【島内好況依然續く】現在の所、政府現物出資に基く社有地の貸付収入が主なものとなつて居る。島内の好況に依り是方面は好調が豫想される。更に傍系乃至投資關係會社は續々成立して居るから、事業の進捗と共に是らの収益も順次入らう。島内活況に恵まれて前途は頗る有望だ。従つて事業資金需要も相當巨額に上る譯だ。此の爲興銀引受けで第一回、臺灣拓殖債券一千萬圓を發行し、既に九月五日に應募満額となり拂込も終了した。一應これで資金の心配はいらなくなつた。

【設立】昭和十一年六月

【決算期】三月(第一回)

【事業】資源の開發、土地經營、手拓、開墾、農林、農産、農産、農産

【資本】公稱10,000,000円

【株主】南洋拓殖株式會社

【役員】社長 加藤 恭平 理事 井坂 孝  
理事 久宗 兼 原 邦造  
理事 山下 辰太 赤司初太郎  
理事 高田 三平 藤村佐一郎  
理事 大島 一三 藤山愛一郎

【大株主】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【資本金】十二、六三〇、〇〇〇円

【株主】南洋拓殖株式會社

【大株主】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社

【事業成績】南洋拓殖株式會社





株式税引利廻表(一)

Table with columns: 所得ノ区分, 配當率, 四分, 五分, 六分, 七分, 八分, 九分, 一割, 一割一分, 一割二分. Rows include categories like 千二百圓以下, 千二百圓以上, etc.

附錄統計

株式税引利廻表(二)

Table with columns: 所得ノ区分, 配當率, 一割三分, 一割四分, 一割五分, 一割六分, 一割七分, 一割八分, 一割九分, 二割, 二割五分. Rows include categories like 千二百圓以下, 千二百圓以上, etc.

株式配當金手取額表(1) (利益配當税別)

Table with columns: 配當率, 0圓繰上, 37圓50銭繰上. Sub-columns: 配當金額, 利益配當税, 税引手取額. Rows include categories like 三分, 四十分, etc.

株式配當金手取額表(2)

Table with columns: 配當率, 25圓繰上, 12圓50銭繰上. Sub-columns: 配當金額, 利益配當税, 税引手取額. Rows include categories like 三分, 四十分, etc.





表金據證本託委引取期長株大

所引取式株大

Table with multiple columns listing company names and their corresponding stock codes. Includes a vertical label '附錄統計' on the left side.

表金據證本託委引取期短株大

所引取式株大

Table with multiple columns listing company names and their corresponding stock codes.

表金據證本託委引取期長株東

所引取式株東

Table with multiple columns listing company names and their corresponding stock codes. Includes a vertical label '附錄統計' on the right side.

表金據證本託委引取期短株東

所引取式株東

Table with multiple columns listing company names and their corresponding stock codes.



表料數手託委株東

查詢所引取式株東  
(分正改日一月四年三十和明)

336

| 社地<br>方 | 債<br>債 | 債收標準   |        | 債<br>債 | 債<br>債 | 債<br>債 | 債<br>債 | 債<br>債 | 債<br>債 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|         |        | 債<br>債 | 債<br>債 |        |        |        |        |        |        |
| 東京      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 神戶      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 大阪      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 名古屋     | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 京都      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 福岡      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 横濱      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 札幌      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 仙台      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 青森      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 岩手      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 秋田      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 山形      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 宮城      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 福島      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 茨城      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 栃木      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 群馬      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 埼玉      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 千葉      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 東京      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |

【附錄統計】

表料數手託委株大

查詢所引取式株大  
(分正改日一月四年三十和明)

| 社地<br>方 | 債<br>債 | 債收標準   |        | 債<br>債 | 債<br>債 | 債<br>債 | 債<br>債 | 債<br>債 | 債<br>債 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|         |        | 債<br>債 | 債<br>債 |        |        |        |        |        |        |
| 東京      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 神戶      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 大阪      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 名古屋     | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 京都      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 福岡      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 横濱      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 札幌      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 仙台      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 青森      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 岩手      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 秋田      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 山形      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 宮城      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 福島      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 茨城      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 栃木      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 群馬      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 埼玉      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 千葉      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |
| 東京      | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    | 債債債    |

編輯後記

本輯は當然の事乍ら歐洲戰爭の影響を中心として各社の前途を檢討した。各社それらの特殊事狀を充分考慮して、機械的、劃一的判斷から來る誤謬に陥らぬよう努力したつもりである。激變期の投資指針として御期待に添ひ得るものたることを確信する。

次輯は十二月初旬發行の豫定であるが、新工夫を施し採録會社も一層の増加を計るつもりである。

報季四社

輯四第年四十和昭

〔錢拾五價定〕

(錢六料送)

(送郵)圓貳金前年ヶ一

共料

本納日 六 月十年四十和昭  
行發日 十 月十年四十和昭

發行所 東京日本橋區本石町三ノ二  
東洋經濟新報社

編輯印刷 原 周  
發行所 東京日本橋區本石町三ノ二  
印刷株式會社  
東京市芝區芝浦一ノ二三

大坂市北區堂島濱通一ノ一(堂ビル七階)  
名古屋市中區榮町三丁目(安田信託ビル)  
神戸市神戶區  
京 町 六 七  
京都市下京區四條橋  
關東市片土居町(十五ビル)  
京 城 府 明 治 四 町  
横濱市中區本町三ノ三(三三樓取引所)

東京日本橋區本石町三ノ二  
電話東京六五二一八番  
日本橋(24)一八八七・二七八五  
關 西 支 局  
新大坂二九八六番  
電話北區(2)五八九〇・一八九  
名古屋支局  
電話名古屋四〇七二四番  
電話中(3)四四八一番  
神 戸 支 局  
電話三宮(3)一八〇二番  
京 都 支 局  
電話本局(3)二八三六番  
九 州 支 局  
電話東區四七二六番  
京 城 支 局  
電話本局(3)四二〇七番  
横 濱 支 局  
電話本局(2)四七九七番

14.5  
817

公債  
社債

引受・募集 賣買  
金融・手形ノ仲介  
保管・元利金取立

# 日興證券株式會社

東京市丸ノ内日本興業銀行四階  
電話丸ノ内代表二四一四一長二四一九

支店 大阪・名古屋・福岡・廣島  
岡山・京都・神戸・新潟

資本金壹千萬圓

¥. 50

終